上智短期大学

履修要覧・講義内容（シラバス）

2011年度

目　　次

校歌・学生歌 …… 4
学事日程 …… 5
年間予定表 …… 6

１．上智短期大学について

１．教育の理念 …… 11
２．校名と校章の由来 …… 11
３．沿革と年譜 …… 11
４．Campus Ministry …… 12
５．イエズス会 …… 12
６．サービスラーニング …… 13
７．役職者・教員組織 …… 15
８．本学の施設 …… 17

２．学年のはじめに

１．オリエンテーション，ガイダンス，年間行事　等 …… 25
２．アドバイザーについて …… 26
３．大学から学生への連絡・通知（学内掲示板） …… 27
４．学生から教員への連絡について …… 27
５．事務センター窓口について …… 28

３．学籍について

１．学生証と学生番号 …… 33
２．学籍について …… 33
３．学費の納入 …… 34
４．個人情報の取扱について …… 35

４．履修について

１．履修の基本 …… 39
２．授業 …… 39
３．履修登録 …… 41
４．試験 …… 43
５．評価 …… 45
６．単位の認定 …… 46
７．英語学習支援プログラムとTOEIC-IP試験スケジュール …… 47
８．卒業 …… 48

５．カリキュラムについて

１．英語科　カリキュラムの特徴 …… 51
２．授業科目の構成 …… 52
３．卒業に必要な科目・最低単位数 …… 52
４．標準配当表 …… 53
５．履修上の注意 …… 54
６．基礎科目／専門科目のコース制度 …… 55
７．サービスラーニングとカリキュラムとの関連 …… 59
８．インデペンデント・スタディ …… 59
９．開講科目表 …… 60

６．講義内容（シラバス） …… 69

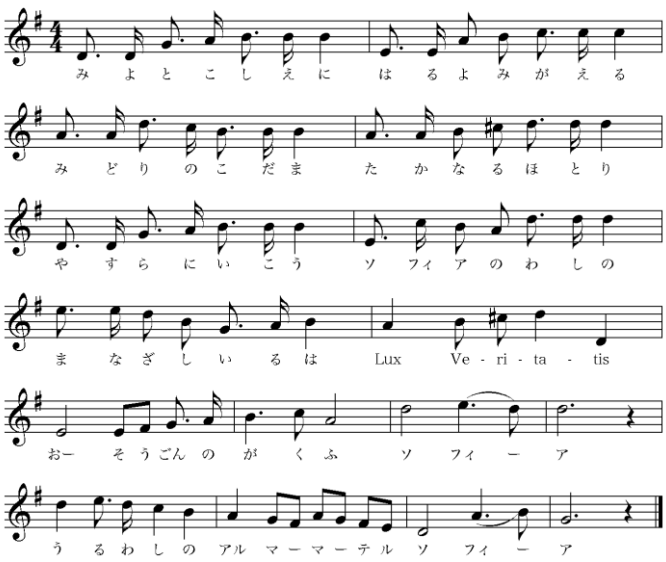
７．学則

１．上智短期大学学則 …… 201

上智学院所在地 …… 210

校　歌

作詞　逸見貞男
作曲　山本直忠



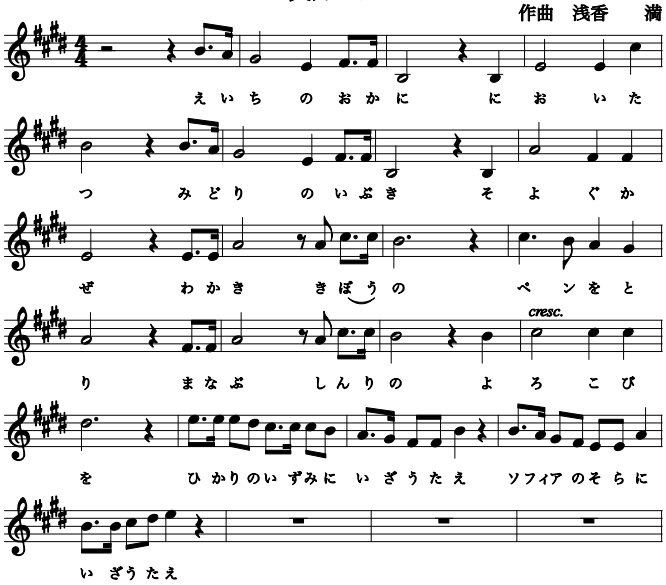
1　見よ　永遠に　春 甦 る
緑 の樹響　高鳴るほとり
やすらに憩う　ソフィアの鷲の
まなざし射るはLux Veritatis
　　おお荘厳の学府　ソフィア
　　うるわしの　アルマ・マーテル
　　ソフィア

2　聞け黎明の　天翔けりゆく
鷲の 翼 の　空打つひびき
はがいに集う　生命の群の
目指す行手はLux Veritatis

3　行け　混濁の　闇討ち啓き
鷲のみちびく　輝 く方へ
燃ゆる 心 に　固く結びて
叫べとどろにLux Veritatis

上智短期大学学生歌
英知の丘

作詞　高橋明日香
作曲　浅香　満



1　英知の丘に　匂いたつ
緑の息吹　そよぐ風
若き希望のペンをとり
学ぶ真理のよろこびを
ひかりの泉にいざ歌え
ソフィアの空にいざ歌え

2　生命は　真に輝きて
描く理想も清らかに
凛々しく歩め　夢いだき
久遠に光る　友愛を
花より気高く咲き誇れ
ソフィアの丘に咲き誇れ

上　智　短　期　大　学
2011年度（平成23年度）学事日程

〈春学期〉

ガイダンス・人数制限科目履修手続（在学生）	３月24日（木）
履修相談（在学生）	３月25日（金）・ ３月28日（月）
第１回英語力テスト（新入生）	４月１日（金）
入学式	４月２日（土）
定期健康診断（全学生）	４月４日（月）
ガイダンス（新入生）	４月５日（火）
人数制限科目履修手続（新入生）	４月６日（水）
オリエンテーション・キャンプ	４月８日（金）・ ４月９日（土）
履修相談（新入生）	４月11日（月）・ ４月12日（火）
履修登録	４月11日（月）・ ４月12日（火）
授業	４月13日（水）～ ７月19日（火）
修正登録期間	４月20日（水）～ ４月22日（金）
履修中止期間	６月20日（月）～ ６月29日（水）
補講期間	７月20日（水）～ ７月22日（金）
補講及び定期試験期間	７月25日（月）～ ７月29日（金）

＜付記＞　＊４月29日（金）昭和の日　授業実施
＊６月１日（水）スポーツディ（午前授業有　午後休講）
＊７月18日（月）海の日　授業実施

〈秋学期〉

人数制限科目履修手続	９月６日（火）
履修相談・履修登録	９月７日（水）・ ９月８日（木）
授業	９月９日（金）～ 12月22日（木）
修正登録期間	９月26日（月）～ ９月28日（水）
履修中止期間	11月28日（月）～ 12月７日（水）
第２回英語力テスト	12月７日（水）
Reflection Time	１月11日（水）
補講期間	１月10日（火）～ １月13日（金）
補講及び定期試験期間	１月16日（月）～ １月20日（金）
卒業式・学位授与式	３月17日（土）

＜付記＞　＊９月23日（金）秋分の日　授業実施
*10月10日（月）体育の日　授業実施
*10月21日（金）・24日（月）臨時休講日
*11月１日（火）休講日（創立記念日）
*11月２日（水）休講日（先哲祭）
*11月25日（金）All English Day（授業は終日休講）
*12月３日（土）ザビエル祭
*12月14日（水）クリスマス会（午前授業有　午後休講）

１．上智大学短期大学部について

１．教育の理念

上智短期大学の教育はキリスト教ヒューマニズムに基づいています。その基礎の上に立って，専門分野の学問・研究を行うと共に，カトリシズムの精神を生かした人間形成を目指し，豊かな教養と円満な人格を兼ねそなえた女性の育成を第一の目標とします。

また，姉妹校上智大学と同様，東西の文化をつなぐ役割を第二の目標としています。そのため本学も国際色あふれた教授陣を用意しており，学生は，この雰囲気のなかで，おのずから広い視野と国際感覚とを身につけることができるでしょう。

英語科は，国際語である英語の高度な運用能力を身につけ，それを基盤として幅広い教養と柔軟かつ複眼的な判断力と思考力を持ち，異文化を理解し，多様化した現代社会において責任ある地球市民として活躍できる社会人基礎力を具えた人材を育成すると共に，自律した学習者を育て，高度な専門分野の基盤を築くことを目的とします。

学生は，英語を学びながら，languageのspirit（言霊）を把握するよう努力することが求められています。その努力を通じて学生のひとりひとりが自己を発見し，人間性をいっそう豊かにすることができるでしょう。

２．校名と校章の由来

校章の鷲は真理の光を目ざして力強くはばたく鷲をかたどったもので，その姿は上智の本質と理想とを表しています。中央にしるされた文字は本学の標語「真理の光」Lux Veritatisの頭文字です。

上智は海外では早くから，ソフィアの名で親しまれてきましたが，このソフィアは，ギリシャ語のΣＯΦＩＡからとったものであり，その意味は「人を望ましい人間へと高める最上の叡智」です。この叡智こそ，本学が学生に与えようとする究極のものであり，本学の名称“上智”(SOPHIA) にほかなりません。

３．沿革と年譜

１．沿　　革

上智短期大学は，1973年（昭和48年），学校法人上智学院秦野キャンパスに，上智大学の姉妹校として設立されました。

本学創立の源は，遠く東洋伝道の先駆者聖フランシスコ・ザビエルの宿願に基づいています。東洋にはじめてキリスト教を伝えた，ローマ・カトリック教会の修道会のひとつであるイエズス会の会員のひとりであるザビエルは，1549年（天文18年）に日本に上陸し，日本人の向学心を目のあたりにして都に大学を設立する計画をたてましたが，わずか２年余りの滞日（1549年～1551年）では，実現には至りませんでした。それから約360年を経た1906年（明治39年），時のローマ教皇ピオ十世が，日本における大学設立の事業を，ザビエルの属したイエズス会に委託したことによって，その念願が実現の緒につきました。こうして，1911年（明治44年）財団法人上智学院が，イエズス会によって，イギリス人・フランス人・ドイツ人会員の派遣をもって創立されました。つづいて1913年（大正２年），財団法人上智学院は，神と人間を尊ぶキリスト教ヒューマニズムを基底とし，永遠の真理を求めて人間形成に献身する，教員・職員・学生の共同体を教育理念とする，上智大学を設立しました。

1957年（昭和32年）には，社会の要請により，女子学生を迎え入れて，男女共学としました。それ以来，上智大学の女子教育への関心が高まると同時に，女子学生の卒業後の活躍ぶりが社会から高く評価されたことと相まって，1972年（昭和47年），かねてから神奈川県秦野市に用意されていた校地にイエズス会の会憲の精神に基づいて創立されている聖マリア修道女会の協力を得て，短期大学を設立することとなりました。ジェラルド・バリー師を初代学長に上智短期大学は1973年（昭和48年）４月に開学。第２代学長にダニエル・コリンズ師，第３代学長にハイメ・カスタニエダ師，第４代学長に髙祖敏明師が就任し，2009年４月より第５代学長としてフランク・スコット・ハウエル師が就任しています。

上智短期大学も上智大学も，校名「ソフィア」が表している「永遠の真理を知り，真の愛に生きる知恵」をもって，「他の人々のために生きたキリスト」を模範として，国籍や人種を超えて人類社会に貢献する人間形成を目指す，同じ建学精神を有しています。

２．年　　譜

1911年	（明治44年）	財団法人上智学院設立。
1913年	（大正２年）	専門学校令による上智大学設立。
1928年	（昭和３年）	大学令による上智大学（文学部，商学部）開設。
1932年	（昭和７年）	専門部開設。
1948年	（昭和23年）	新制大学文学部，経済学部を開設。
1951年	（昭和26年）	私立学校法による学校法人上智学院設立。
		新制大学院修士課程開設。
1955年	（昭和30年）	大学院に博士課程開設。
1957年	（昭和32年）	法学部増設。
1958年	（昭和33年）	神学部，外国語学部増設。
1962年	（昭和37年）	理工学部増設。
1963年	（昭和39年）	上智社会福祉専門学校を設立。
1973年	**（昭和48年）**	**上智短期大学を設立。**
1976年	（昭和51年）	大学院学則を改正し，博士前期・後期課程に変更。
1987年	（昭和62年）	比較文化学部増設。
2005年	（平成17年）	総合人間科学部増設。
2006年	（平成18年）	比較文化学部を改組し，国際教養学部を開設。
2008年	（平成20年）	理工学部を改組。

４．Campus Ministry

キャンパスミニストリーは，上智短期大学の建学の精神であるキリスト教的な人間形成の理解と実践を目指して，学生や教職員が行うキャンパスでのカトリック活動をサポートします。

カトリック活動

キャンパスミニストリーは年間を通じて次のような活動を行っています。詳しくはキャンパスミニストリーのホームページを参照してください。

◎　大学の儀式（入学ミサ，卒業ミサ，先哲祭ミサ，クリスマス会など）
◎　誕生ミサ（毎月一回）
◎　祈りの集い
◎　バイブルスタディズ
◎　講演会や黙想会の案内
◎　宗教に対する質問や相談
◎　宗教学，人間学関係の図書の貸出し

キャンパスミニストリーのオフィスは，研究棟２階の4219室にあります。

また，誕生ミサの行われる「聖堂」は３号館３階に位置し，正面に雄大な富士山を眺望する美しい祈りの場です。

５．イエズス会

学校法人上智学院の経営母体であるイエズス会（Societas Jesu，英語名　Society of Jesus　略称S.J.）は，日本にキリスト教を伝えた聖フランシスコ･ザビエル（1506－1552）らとともに聖イグナチオ・デ・ロヨラ（1491－1556）によって1540年に設立されました。現在全世界に約18,000人の会員を擁し，使徒的修道会として世界各地で800余校の中高校・大学及び研究，教会司牧，黙想指導，著述，出版をはじめとする様々な活動に携わり，現代世界に福音をもたらそうとつとめています。

聖イグナチオは，自分の受けた霊的体験を「霊操」と書物にまとめ，それを土台としてイエズス会を創立しましたが，「霊操」の中で次のような“原理と基礎”を述べています。

《もっとも大切な原理と基礎》

私たちの人生の目的は神と共に永遠にいきること
神は私たちを愛して，私たちに命を与えられた。
私たちが神の愛に応えるならば，神の命が限りなく私たちに流れ込む。

この世界の全てのものは神からの贈り物。
神がもっとよくわかるように，神をもっとよく愛しかえすように，
神がこの贈り物を私たちに示された。

だから，神の贈り物全てを，もし，それが人びとを愛する助けとなるなら，
私たちは大切にして使う。
でも，神のどんな贈り物であれ，それが私たちの人生の中心となるなら，
それが神にとってかわり，私たちが目的にむかって成長するのを妨げる。

だから，毎日の生活において，神が創られた全ての贈り物を前にして，選ぶことができ，義務に拘束されていない限り，心の均衡を保たなければならない。
健康か病気か，裕福か貧乏か，成功か失敗か，長生きか早死にか，どちらかにこだわるべきではない。
なぜなら，全てのものが，神の内にある私たちの命にもっと深く応えるように私たちを呼び起こす力を秘めている。

私たちの唯一の望み，私たちの唯一の選びはこれであるべきだ。
私は求め，私は選ぶ。私の内にある神の命を深めるようよりよく導くものを。
（聖イグナチオ・デ・ロヨラの「霊操」から）

６．サービスラーニング

サービスラーニングとは「社会参加，実践を通した学外での学びと，授業などの学内での学びの融合」を意味します。ボランティア活動などの社会奉仕活動（サービス）を通して社会参加を行い，そこで得られる学びと授業を通して得られる学びを効果的に結びつけて，「社会の知恵」と「教室の知識」を融合する試みです。本学のサービスラーニング活動は上智短期大学の教育理念の三つの柱，即ちキリスト教ヒューマニズム，国際性，言語教育と密接に結びついています。キリスト教ヒューマニズムに則った他者への奉仕，国際性を培い言語教育の実践である地域の外国籍市民を対象とした日本語支援や教科学習支援，そして地域の教育機関で行う英語教育支援及び日本語教育支援ボランティアは，本学におけるサービスラーニング活動の中核を成します。地域社会における異文化間・異世代間のコミュニケーションは，学生にとって自分自身を見つめ直し，自己形成を行うための貴重な機会となります。「他者のために」“for others”そして「他者と共に」“with others”の精神を体現・実践するそれらの活動を通して学生は社会人基礎力と人間力を成長させてゆきます。そのことは共同体と社会の主体的な構成員として，自らの意思によって積極的に共同体と社会を形成し育むと同時に，確かな責任を担うことのできる女性への成長と繋がるのです。

以上のような学生の活動を支援するために，本学は2008年にサービスラーニングセンターを学内に設置しました。サービスラーニングセンターは，地域社会への窓口となり，地域の教育機関，公的機関，団体，及び家庭と連携し，本学学生が行う様々なボランティア活動を支援します。そのために，センターには専任教職員を中心に構成されるコーディネーター及びチューターと呼ばれるスタッフが配属されています。コーディネーターとチューターは，ボランティア学生と派遣先を繋ぐだけでなく，教材選び，レッスンプランの作成，教授法などのへの支援も行います。また人間関係上の精神的な支援も行います。本学のサービスラーニングに対する総合的な試みは，2008年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(GP)」に採択され，今後もさらなる活動の充実を目指しています。サービスラーニングセンターは２号館・ソフィアホール２階に位置しています。

【サービスラーニングセンター開館時間】

平日9:00～18:00（窓口取扱時間は9:00～11:30，12:30～17:00）

※夏・冬の一斉休暇，特別な場合の開館時間・窓口取扱時間は，その都度掲示します。

１．日本語・教科支援ボランティア活動

1988年に本学学生と教職員によって外国籍市民宅でスタートしたボランティア活動では，日本語や教科の学習支援と日常的な生活支援を行ってきました。ボランティア学生は，外国籍市民に日本語や教科を教えることにより異文化や語学教育への理解を深め，主体的な奉仕の精神を体験的に学ぶと同時に，秦野市近隣地域に社会人として参加する機会も得ています。この取り組みは2004年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(GP)」に採択され，学外からも注目され高い評価を得ています。

2008年度には，秦野市の教育機関との連携のもとに，市内の小中学校へ本学学生が赴いて日本語教育支援を行うボランティア活動も始まりました。地域の学校内の「国際教室」では，日本語学習支援の必要な外国籍児童の取り出し授業が行われていますが，そこへ本学の学生が行き，国際教室の先生の指導のもとで日本語支援を行なっています。また，通常の教室内の授業に入り，外国籍児童に寄り添う形で授業に参加したり，児童ホームや公民館など，教育機関以外にも連携の幅を広めて活動しています。

２．英語教育ボランティア活動

学習指導要領の改訂によって，2002年度より小学校の教育課程に「総合的な学習の時間」が導入され，その一環として「国際理解教育」の名のもとに英語（英会話）を教えてもよいこととなりました。上智短期大学の英語科として，特に地域の学校に対して，何か貢献できることはないだろうかと考えていたところに，実際に地元の小学校からの要請があり，2002年度末に発足したのがこの英語教育ボランティアです。現在は秦野市を中心に公立の幼稚園や小学校でボランティア授業を行っており，活発なサービスラーニング活動を展開しています。

７．役職者・教員組織

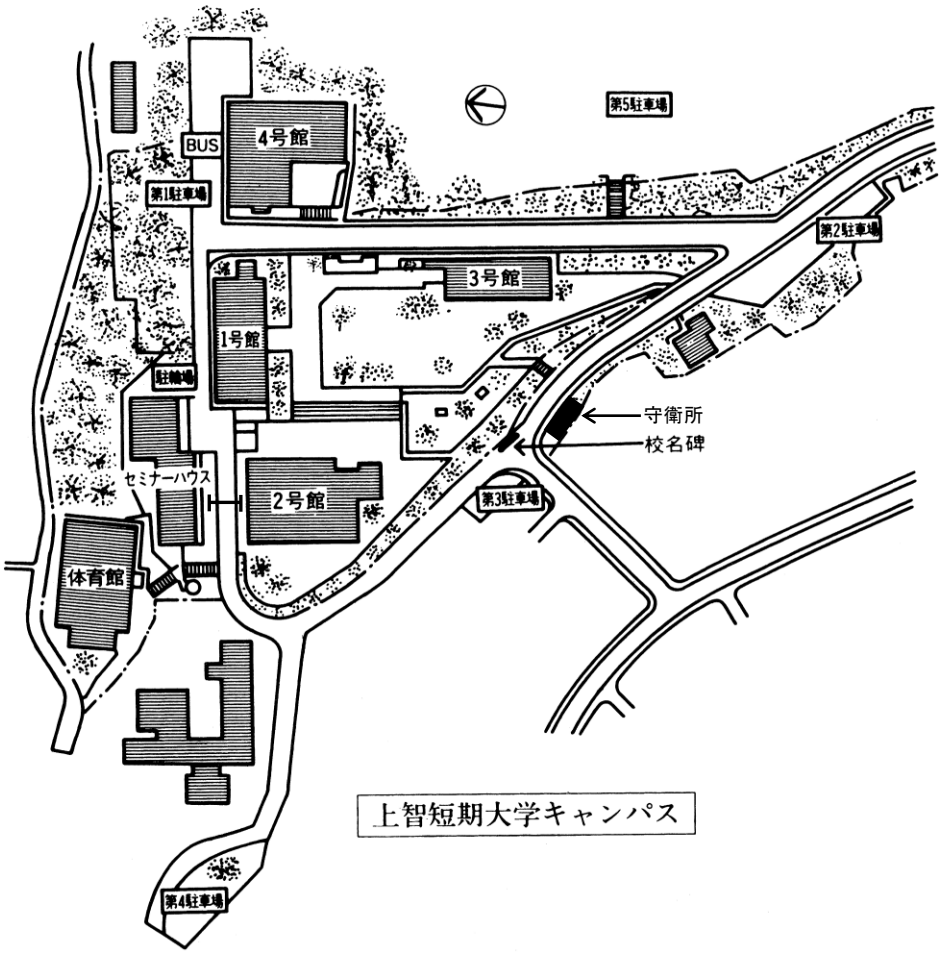
理事長　髙祖　敏明
学　長　Frank Scott Howell
科　長　髙野　敏樹

１．英語科

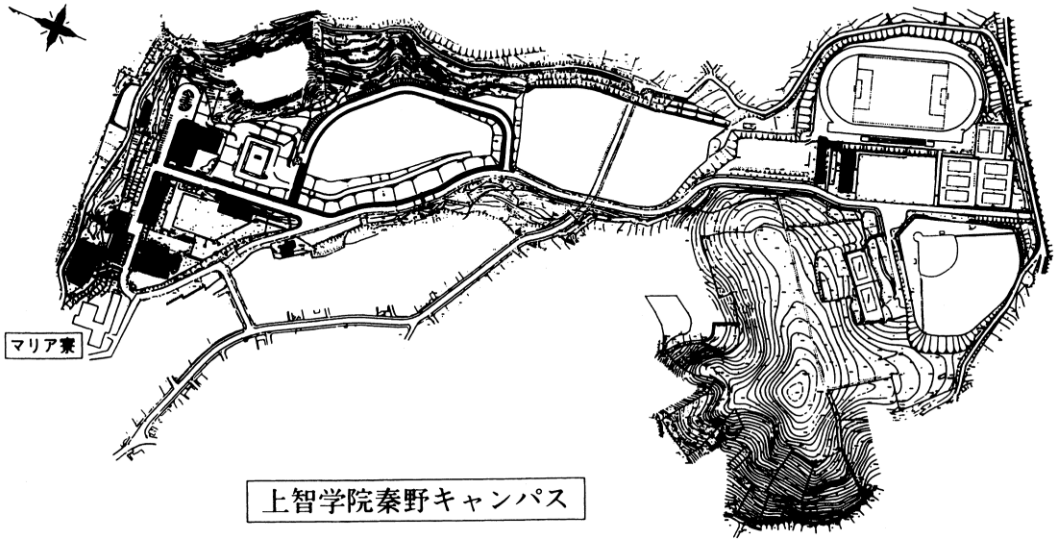
職名	教員名	2011年度担当科目
学長 (上智大学教授)	Scott Howell	標準英語ｽｷﾙｽﾞ(ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ)，標準英語ｽｷﾙｽﾞ(ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ)， 上級英語ｽｷﾙｽﾞ(ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ)，上級英語ｽｷﾙｽﾞ(ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)
教授	髙野 敏樹	日本国憲法，法学，比較政治制度論，国際関係論， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
教授	Melvin Andrade	英語Ⅰ，言語とリテラシー教育 （2011年度秋学期　サバティカル）
教授	平野 幸治	英語Ⅱ，上級英語ｽｷﾙｽﾞ(編入対策)，プレ・ゼミナール，英語史 （2011年度春学期　サバティカル）
教授	Kenneth Williams	英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，ビジュアル・レトリック，ゼミナールⅠ， ゼミナールⅡ
准教授	飯田 純也	英語Ⅰ，英語Ⅱ，留学準備，演劇研究，英文学概論， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	近藤 佐智子	言語学概論，語用論，プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ， ゼミナールⅡ
准教授	森下 園	歴史学，英米史，比較社会史，日本文化，基礎ゼミナール， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	永野 良博	英語Ⅰ，英語Ⅱ，アメリカ文学史，翻訳演習，基礎ゼミナール， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	神谷 雅仁	英語Ⅰ，英語Ⅱ，社会言語学，留学準備，言語学概論， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	Timothy Gould	英語Ⅰ，英語Ⅱ，児童英語教育演習，第二言語習得， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	宮崎 幸江	日本語教育概論，バイリンガル教育，日本語学，日本語教育演習， 基礎ゼミナール，プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	Chris Oliver	英語Ⅰ，英語Ⅱ，異文化間コミュニケーション，文化人類学， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
准教授	杉村 美佳	比較・国際教育学，初等教育，基礎ゼミナール，プレ・ゼミナール， ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
助教	岩崎 明子	英語Ⅰ,人間学Ⅰ,人間学Ⅱ,児童英語教育概論,キャリアプランニング(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ), 基礎ゼミナール,基礎ゼミナール(再),プレ・ゼミナール,ゼミナールⅠ,ゼミナールⅡ
助教	小林 宏子	人間学Ⅰ，人間学Ⅱ，宗教学，キリスト教文化入門(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ), 基礎ゼミナール，プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
助教	狩野 晶子	英語Ⅰ，英語Ⅱ，児童英語教育概論，児童英語教材論， プレ・ゼミナール，ゼミナールⅠ，ゼミナールⅡ
非常勤講師	阿部 善彦	人間学Ⅰ，人間学Ⅱ
非常勤講師	秋庭 大悟	基礎英語ｽｷﾙｽﾞ(ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ)，標準英語ｽｷﾙｽﾞ(TOEIC対策)
非常勤講師	裵 哲求	英語Ⅲ，英語Ⅳ，標準英語ｽｷﾙｽﾞ(TOEIC対策)， 上級英語ｽｷﾙｽﾞ(職場の英語)
非常勤講師	Richard Burton	英語Ⅲ，英語Ⅳ，上級英語ｽｷﾙｽﾞ(学術論文作法)
非常勤講師	Jennifer Dizon	英語Ⅲ，英語Ⅳ，標準英語ｽｷﾙｽﾞ(ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)
非常勤講師	Gregory Freddes	英語Ⅲ，英語Ⅳ，標準英語ｽｷﾙｽﾞ(ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘｽﾆﾝｸﾞ)，現代美術
非常勤講師	深澤 英美	英語Ⅲ，英語Ⅳ
非常勤講師	神門 しのぶ	教育学

非常勤講師	服部 通子	標準英語ｽｷﾙｽﾞ（旅行の英語），標準英語ｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）， 標準英語ｽｷﾙｽﾞ（文法・語彙）
非常勤講師	林 百合	心理学，児童心理学
非常勤講師	樋口 万喜子	日本語表現法
非常勤講師	Jadwiga Hirai	英語Ⅲ，英語Ⅳ，標準英語ｽｷﾙｽﾞ（職場の英語）， 標準英語ｽｷﾙｽﾞ（ﾒﾃﾞｨｱの英語）
非常勤講師	廣重 聖佐子	中国語Ⅰ，中国語Ⅱ
非常勤講師	石原 久子	基礎英語ｽｷﾙｽﾞ（文法・語彙），基礎英語ｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）， 基礎英語ｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ），標準英語ｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）
非常勤講師	石川 旺	マスメディア論
非常勤講師	加藤 誠	数学，情報リテラシー演習
非常勤講師	河北 祐子	日本語表現法
非常勤講師	木皿 久美子	体育理論・実技１
非常勤講師	北村 さおり	音楽
非常勤講師	國分 有穂	英語Ⅲ，英語Ⅳ，標準英語ｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）
非常勤講師	工藤 花野	ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ
非常勤講師	桝田 絢子	人間学Ⅰ，人間学Ⅱ
非常勤講師	森澤 陽子	社会福祉入門
非常勤講師	鍋谷 郁太郎	ヨーロッパ社会史，ヨーロッパ現代史
非常勤講師	Maria Nepomuceno	英語Ⅲ，英語Ⅳ，基礎英語ｽｷﾙｽﾞ（生活の英語）， 標準英語ｽｷﾙｽﾞ（職場の英語）
非常勤講師	小澤 共子	体育理論・実技２，体育理論・実技３
非常勤講師	白井 雅人	哲学
非常勤講師	白瀬 宗範	経済学
非常勤講師	鈴木 薫	社会学
非常勤講師	田畑 幸嗣	東洋研究Ａ，東洋研究Ｂ
非常勤講師	高橋 絹子	上級英語ｽｷﾙｽﾞ（多読速読），音声学
非常勤講師	田村 和子	人間学Ⅰ，人間学Ⅱ
非常勤講師	Satish Tandon	英語Ⅲ，英語Ⅳ，標準英語ｽｷﾙｽﾞ（生活の英語）
非常勤講師	田内 千里	女性と哲学
非常勤講師	戸田 里和	マスメディア論
非常勤講師	Alicia Yáñez	スペイン語Ⅰ，スペイン語Ⅱ
非常勤講師	横田 千晶	フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱ

８．本学の施設



上智短期大学キャンパス



上智学院秦野キャンパス

施設一覧

建　物		教室番号	面積(㎡)	３人机	１人机	椅　子	教卓,椅子	教　壇	備品等	備　考
1号館校舎棟	1F	111	156	54		162	1	2	VTR暗幕，DVD	PCプロジェクター，スクリーン，ホワイトボード
		112	37	6		18	1			
		113	63	12		36	1			PC37台，スクリーン
		116	63		50	50	1	2	VTR暗幕	ホワイトボード
		117	63		50	50	1		VTR，DVD	スクリーン
		118	63	15		45	1	2	VTR，DVD	スクリーン，ホワイトボード
		119	63	15		45	1		VTR，DVD	スクリーン，ホワイトボード
		講師控室	25	テーブル・４席						
	2F	121A	44		21	21	1		VTR，DVD	スクリーン
		121B	48		21	21	1		VTR，DVD	スクリーン
		121C	44		21	21	1		VTR，DVD	スクリーン
		122	63		50	50	1	2	VTR暗幕，DVD	スクリーン，ピアノ
		123	63	17		51	1	2	VTR，DVD	スクリーン
		125	63	17		51	1	2	VTR，DVD	スクリーン
		126	63	17		51	1	2	VTR，DVD	スクリーン
		127	63	17		51	1	2	VTR，DVD	スクリーン
		128	63		50	50	1		VTR，DVD	スクリーン
		129	63		48	48	1		VTR，DVD	スクリーン
	3F	131A	44		28	28	1		VTR，DVD	スクリーン
		131B	48		27	27	1		VTR，DVD	スクリーン
		131C	44		27	27	1		VTR，DVD	スクリーン
		132	63	18		54	1	2	VTR，DVD	スクリーン
		133	63	17		51	1	2	VTR，DVD	スクリーン
		135	63	17		51	1		VTR，DVD	スクリーン
		136	37							倉庫
		137	37							SJ祭準備室
		138	91	24		72	1	2	VTR，DVD	PCプロジェクター，スクリーン，ホワイトボード
		139	91	24		72	1	2	VTR，DVD	PCプロジェクター，スクリーン，ホワイトボード

建　物		教室番号	面積(㎡)	３人机	１人机	椅　子	備品等	備　考
2号館食堂棟	1F	ロビー	56			12	ロビーチェア（30席）	自販機コーナー
		カフェテリア	620	（６人用）73		438		食堂
	2F	2201	26			O	座卓（×１），座布団（×10）	和室（12.5畳），水屋付
		2202	11			O	スチール書庫	サークル室
		2203	11			O	スチール書庫	サークル室
		2204	11			O	スチール書庫	サークル室
		2205	11			O	スチール書庫	サークル室
		2206	11			O	スチール書庫	サークル室
		2207	11			O	スチール書庫	サークル室
		2208	79	（４人用）10		40	ホワイトボード（×２），コートハンガー，PC３台（プロジェクター・スクリーン）	サービスラーニングセンター（ラウンジ）
		2210	65	（２人用）４ （６人用）１		14	ホワイトボード，書架	サービスラーニングセンター(リソースルーム,センター事務室)

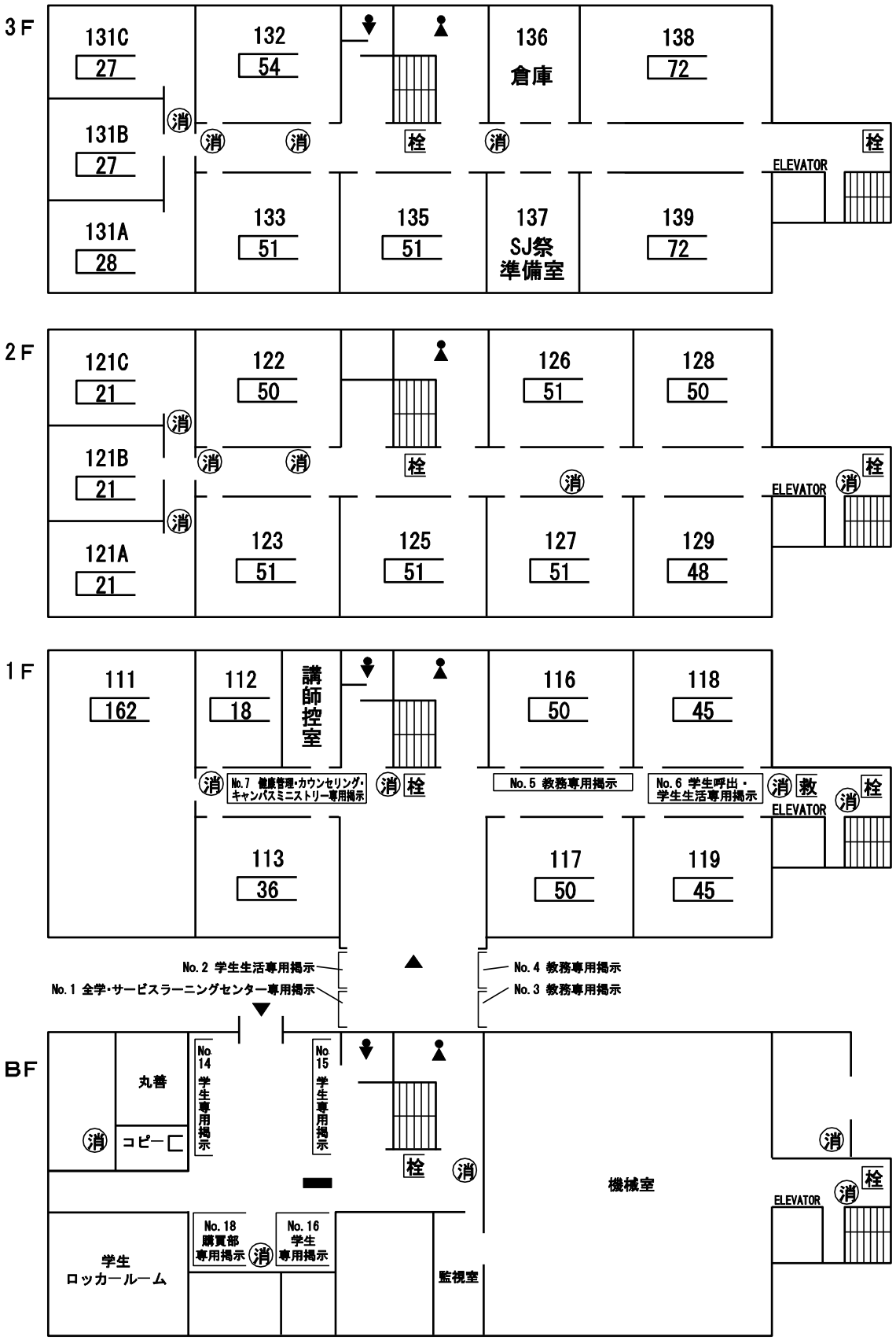
3号館管理棟	1F	印刷事務室	41	
		印刷室	49	
		倉庫	57	
		進路資料室	37	テーブル（×２）・16席・PC６台
		健康管理室	90	５ベッド
		ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞｵﾌｨｽ	17	
	2F	短大事務センター	115	
		学長室	37	
		第１会議室	50	テーブル（×７）・14席
		第１応接室	17	５席
		第２応接室	17	５席
		放送室	9	時報
	3F	聖堂	60	60席　ルーフガーデン
		ｷｬﾝﾊﾟｽﾐﾆｽﾄﾘｰ	22	

4号館研究棟	1F	411	185	68		207	1	2	プロジェクション	
		412	185	64		213	1	2	システム	ピアノ
		（大教室）	(420)	(104)		(312)	演台		VTR，DVD	講演会形式
				(O)		312折288	脇台		AUDIO	セレモニー形式
		413	613	集密書架（単×１・複×11）書架（複式５連×14）閲覧席82，A-V視聴席３						図書館
		414	170	PC49台（メインルーム37，オープンルーム16）						PC教室（２重床）
	2F	第２会議室	73	テーブル（×12）・24席　ホワイトボード　電話台　その他　付属倉庫用物品棚						
		第３会議室	21	テーブル（×４）・10席　ホワイトボード　電話台　その他						
		教材準備室	45	作業用テーブル（×２）・椅子（×４）・PC２台　プリンター１台　シュレッダー　リソグラフ　VTR　DVD						
		英語科学習支援室	45	机・椅子						
		講師室	45	テーブル（×２）・ソファーセット一式・個人ロッカーその他						
		相談室	23	事務用デスク・椅子　テーブル・椅子　コートハンガーその他						
		史資料室,同窓会室	22	デスク・椅子						
		ｷｬﾝﾊﾟｽﾐﾆｽﾄﾘｰ	22	デスク・椅子						
		研究室×16	22×16	デスク・椅子　作業用テーブル・椅子（×４）　書架（５連）・ロッカー						
		コピー室	4	コピー機・シュレッダー						
		湯沸室	4	冷蔵庫						

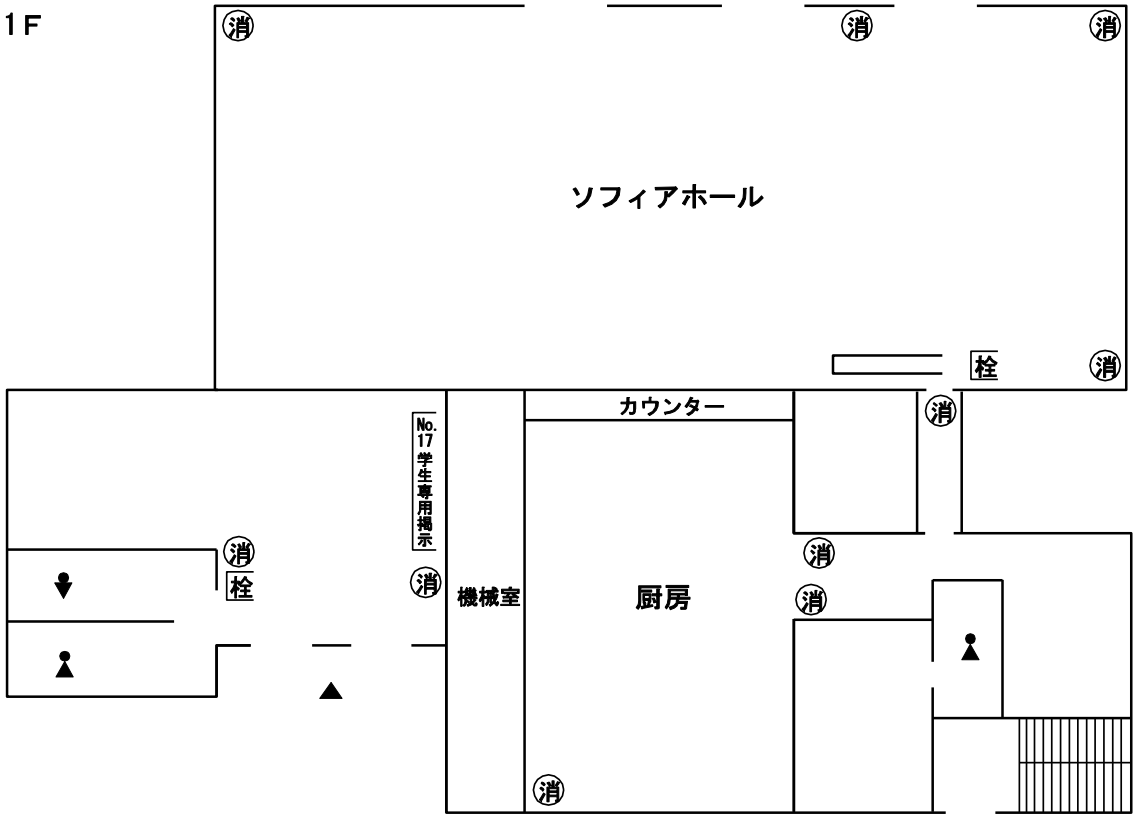
体育館	（コート面）	441			（折）600	バスケット×１orバレー×１orバレー×２	

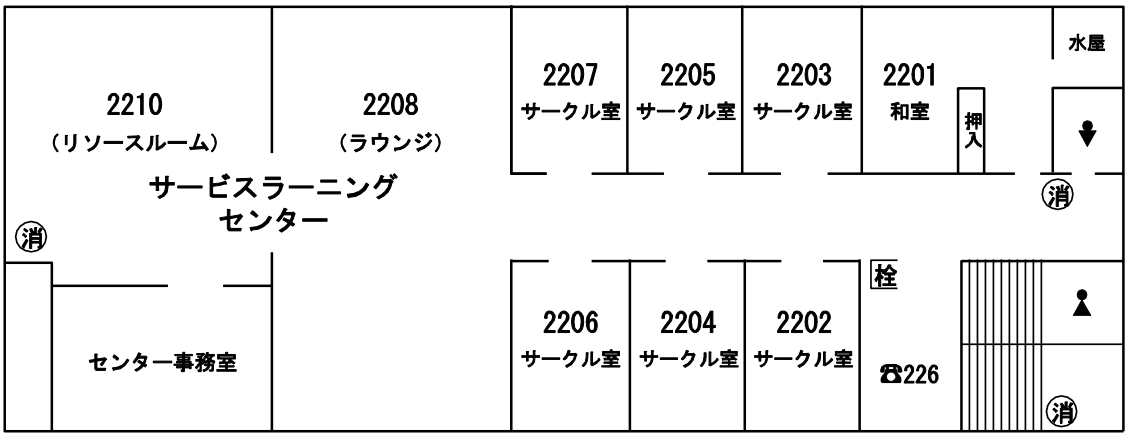
１号館（校舎棟）

※消 消火器　※ 栓 消火栓　※ 救 救急用担架



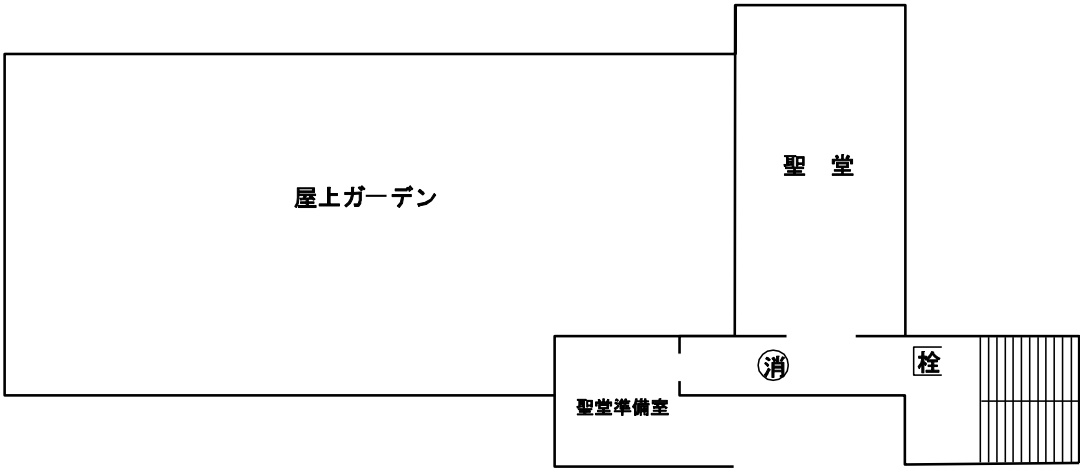
２号館（ソフィアホール・課外活動共同利用施設）



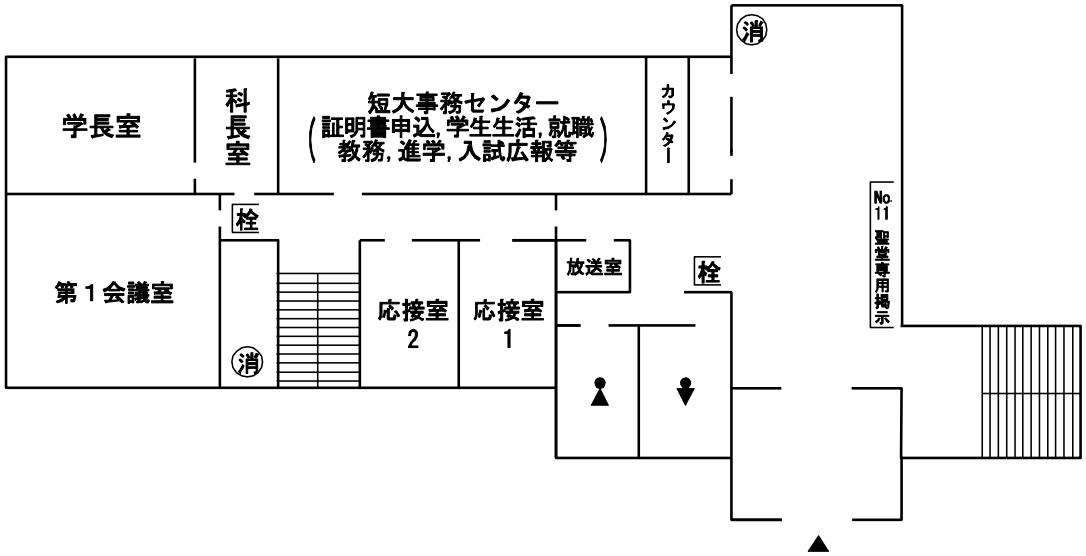


３号館（管理棟）

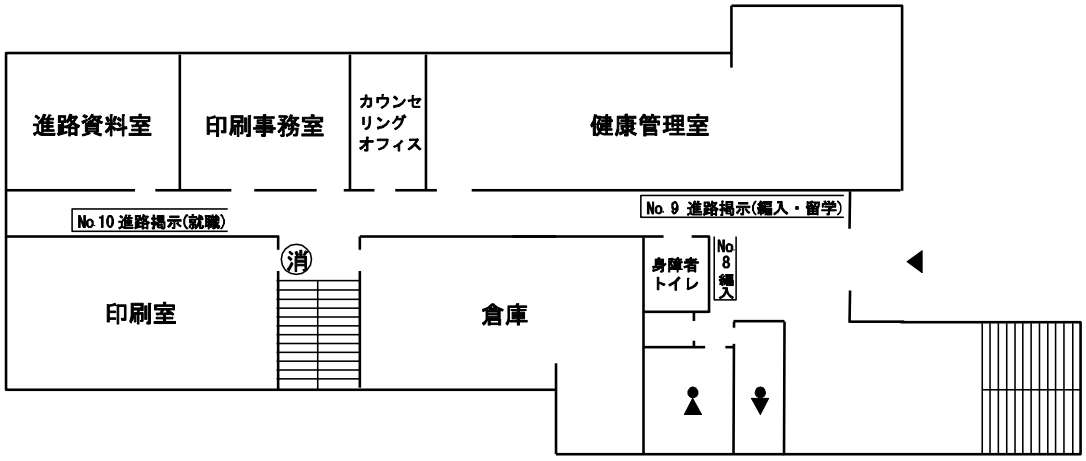
3Ｆ



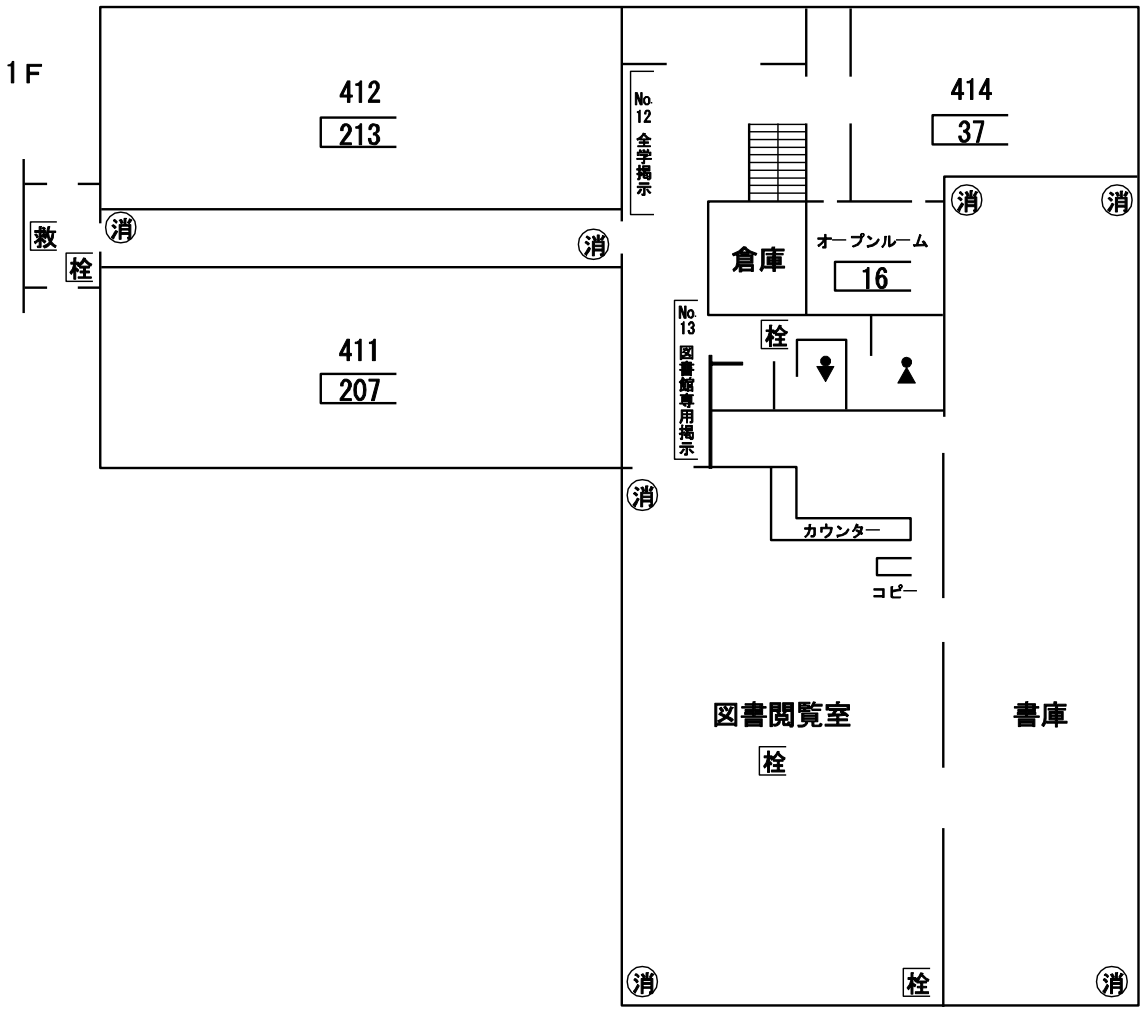
2Ｆ

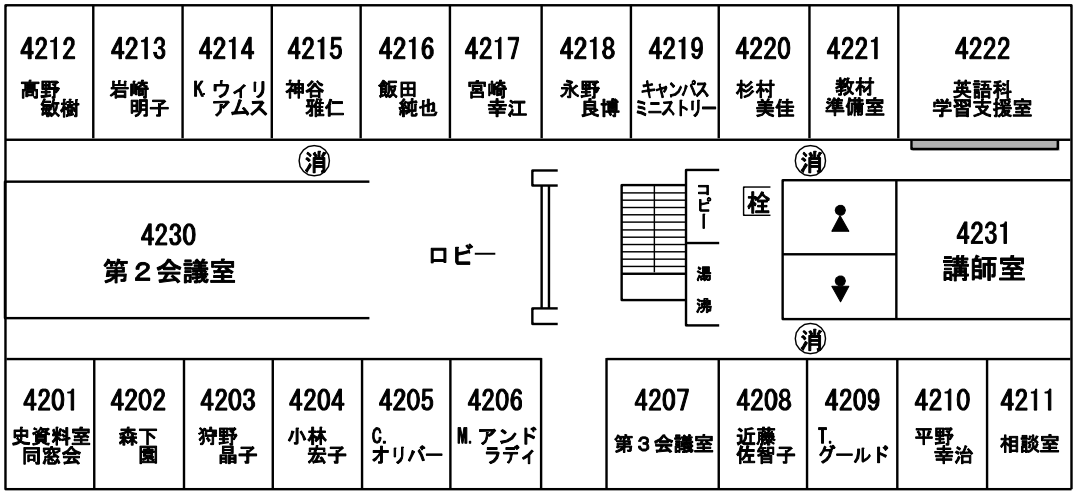


1Ｆ



４号館（研究棟）





（体育館）　体育研究室－小澤・木皿

２．学年のはじめに

１．オリエンテーション，ガイダンス，年間行事　等

年度の初めには，オリエンテーションやガイダンスプログラムを設けて，一人ひとりが大学での勉学や学生生活を円滑に送ることができるよう支援しています。また，年間を通じて，様々な大学行事や英語学習活動，キャリア講座等のプログラムが開催されています。

１．新入生オリエンテーション・キャンプ

新入生が一日も早く大学生活になじめるように，静かな環境のもとでに行われる一泊二日のキャンプです。新入生同士の親睦を図るとともに，先生方や先輩学生からのアドバイスは，豊かな大学生活の一歩となるでしょう。2011年度は伊豆の天城山荘で行われます。

２．新学期ガイダンス（学科，履修，サービスラーニング等）

英語科のカリキュラム，特色，履修の方法，サービスラーニング活動などそれぞれの学年で学生生活を送るにあたっての必須事項を新入生，在校生別に，詳細に説明指導します。

３．英語力テスト

入学時（４月），１年次秋学期末（12月），２年次秋学期末（12月）の３回，全員が受験するTOEIC-IPテストです。４月に新入生，12月に１・２年生全員を対象に行います。テスト結果は，必修英語のクラス分けに使用され，また，選択必修英語クラスのレベルを選択する目安になります。定められた目標値に加え，各自がTOEIC目標値を設定して努力し，それが達成できるよう目指します。

全員対象のテストとは別に，海外短期語学講座に参加する学生や，希望者を対象に年に２回TOEIC-IPを行っています（４月，８月，９月：2,990円)。

４．English in Action（授業外英語活動）

積極的に英語に触れる活動の一環として，E-learningによる学習支援，English Café Luncheonの開催，English in Actionホームページ，各英語クラスで作成するEnglish Poster Projectsなどを設けています。11月末のAll English Dayでは，全員が英語を使う活動に参加します。

５．スポーツデイ

６月に行われるスポーツを通じて親睦を深めるための行事です。必修クラスや各ゼミ別に対抗戦で，全員が大綱引きを競います。

６．ソフィアジュニア祭

学生実行委員会が主催する２日間の学園祭です。

７．ハロウィン

秦野市と協力してハロウィンを行っています。

８．クリスマス会

キャンパスミニストリー主催で12月の最終水曜日に行います。本物のクリスマスの雰囲気が味わえます。

９．リフレクションタイム

アドバイザー教員とともに１年間の学習成果，学生生活を振返り，２年次生から１年次生に様々なアドバイスを伝える活動を，各ゼミ単位で，１・２年次合同で行います。

10．キャリア講座

年間を通じて行われる就職・進学支援のプログラムで，主に水曜日午後のアセンブリーアワーや一部は土曜日等に，各種のセミナーやガイダンスが開催されています。ホームページや掲示版で予定を確認し，積極的に参加してください。

11．各種ガイダンス

その他年間を通じて，奨学金ガイダンス，PC講習会，図書館ガイダンス等，各種ガイダンスが行われて

います。ホームページや掲示板で予定を確認し，積極的に参加してください。

２．アドバイザーについて

１．アドバイザー

専任教員が学生の皆さん一人ひとりにアドバイザーとしてつきます。勉学や学生生活のこと（履修登録時の面談，学習の進め方に関する相談，休学・退学に関する相談，学生生活の相談，進路に関する相談）について助言や指導を行い，皆さんの大学生活を支援します。１年次生のアドバイザーは主に必修クラスを担当する教員になり，プレ・ゼミナールが決定してからはプレ・ゼミナール担当教員になります。２年次生のアドバイザーは各ゼミ担当教員になります。

２．オフィスアワー

アドバイザーの専任教員は質問・相談の時間としてオフィスアワーを設けています。下記のほか、研究室前にも教員のスケジュール詳細が掲示されていますのでご確認ください。

教員名	研究室番号 （４号館２Ｆ）	オフィスアワー
髙野 敏樹	4212	月４限，水３限，木４限
M.Andrade	4206	（春学期）月４限，水５限，金２・５限 (2011年度秋学期サバティカルのためオフィスアワーなし)
平野 幸治	4210	(2011年度春学期サバティカルのためオフィスアワーなし) （秋学期）水１～２限，木１・３～４限
K.Williams	4214	火２限，水３限，木３限，金２限
飯田 純也	4216	火３～５限，水２～３限
近藤 佐智子	4208	火３～４限，水３限
森下 園	4202	月５限，火３限，水２限
永野 良博	4218	（春学期）月４限，火５限，木４限 （秋学期）月５限，火５限，木５限
神谷 雅仁	4215	火３限，水２限
T.Gould	4209	（春学期）月２限，水14:30～15:30，木２限 （秋学期）火５限，水14:30～15:30，金５限
宮崎 幸江	4217	月３限，火３限
C.Oliver	4205	（春学期）火13:00～14:15，水14:00～15:00 （秋学期）月16:30～17:00，水14:00～15:00，木16:30～17:00
杉村 美佳	4220	火４限，水３限，金４限
岩崎 明子	4213	（春学期）月４限，木４限 （秋学期）火３限，木３限
小林 宏子	4204	（春学期）火３限，木３限，金３限 （秋学期）木２～３限，金２限
狩野 晶子	4203	水２限

３．大学から学生への連絡・通知（学内掲示板）

大学から学生への通知や連絡は，基本的に掲示をもって行われます。登校したら，必ず掲示板を見る習慣を身につけてください。また，補助的にですがホームページでも各種のお知らせをしていますので参考にしてください。掲示を見なかったために，後になって支障をきたし不利益を招くことのないように，十分注意してください。

No.	表　示	位　置	掲示の範囲
1	全学／ サービスラーニングセンター	１号館（校舎棟）入口前	①全学向けの重要な掲示 ②サービスラーニングセンター
2	学生生活	１号館（校舎棟）入口前	学生生活，課外活動
3	教務	１号館（校舎棟）入口前	履修，休講，教室変更
4	教務	１号館（校舎棟）入口前	履修
5	教務	１号館（校舎棟）116室前	試験，留学
6	学生呼び出し／学生生活	１号館（校舎棟）118室前	①学生呼び出し専用②奨学金
7	健康管理，カウンセリング／ キャンパス・ミニストリー	１号館（校舎棟）112室前	①健康管理，カウンセリング ②キャンパス・ミニストリー
8	編入	３号館（管理棟）１階	上智大学特別編入， 指定校推薦編入学
9	編入，留学	３号館（管理棟）１階	一般編入学，留学
10	就職	３号館（管理棟）１階	就職
11	キャンパス・ミニストリー	３号館（管理棟）２階	キャンパス・ミニストリー
12	全学	４号館（研究棟）１階	全学向けの重要な掲示
13	図書館	図書館入口前	図書館のお知らせ
14	学生専用	１号館（校舎棟）地下１階	学生用
15	学生専用	１号館（校舎棟）地下１階	学生用
16	学生専用	１号館（校舎棟）地下１階	学生用
17	学生専用	２号館（食堂棟）１階	学生用
18	購買部専用	１号館（校舎棟）地下１階	購買部（丸善）のお知らせ

４．学生から教員への連絡について

上智短期大学の専任教員は，個人研究室を持っています。オフィスアワー時間を参照し，その他各アドバイザーとは面談時に連絡方法を確認してください。

非常勤教員は，個人研究室がありませんので，連絡をとりたい場合は，基本的に授業の前後で連絡をとってください。なお，４号館２Ｆの講師室，１号館１Ｆの講師控室に学生は入室できませんので部屋の外から声をかけてください。メールアドレスを公開している教員については事務センターで確認ください。

５．事務センター窓口について

１．窓口時間

短期大学事務センターは３号館（管理棟）２Ｆにあります。質問・相談等，各担当に申し出てください。

各種証明書申込み，学割証申込み
学生生活関係（課外活動，奨学金，遺失物　等）
進路関係（就職・編入学）
学籍関係（住所変更・保証人変更，休・退学等）
教務関係（履修，海外短期語学講座　等）
学費，入試広報等
その他
※コミュニティカレッジ（公開講座）は，２号館２Ｆサービスラーニング事務室へ

取扱時間は，次の通りです。土・日・祝祭日は除きます。

	午　前	午　後
月曜日から金曜日	9:00～11:30	12:30～16:45

＊夏・冬の一斉休暇，諸行事等，特別な場合の窓口取扱時間はその都度掲示します。

２．各種証明書の申し込み手続方法

証明書を申し込むには，まず事務センター前のロビー（３号館２Ｆ）に備えてある所定の「証明書申込票」に必要事項を記入のうえ，学生証と手数料を添えて窓口に提出し，領収印を受けます。その際，申込証明書受領に必要とする控（領収票）が発行されます。受取時にはこの控を提示してください。なお，申し込んだ証明書が３ヵ月にわたり受領されない場合には，処分されます。

３．証明書一覧と作成日数

本学で発行する証明書とその手数料（1通につき）および作成日数は，次の通りです。

種　　類	手数料	作成日数
在学証明書	100円	原則として在学生は申込日の翌日午後発行。 ※ただし， ・調査書（進学用） ・健康診断証明書（指定用紙） ・英文健康診断証明書 を除く（要数日）
成績証明書［在学生］	200円	
成績証明書［卒業生等（在学生以外）］	300円	
卒業見込証明書	100円	
卒業証明書	300円	
在籍証明書［退学者等（在学生以外）］	300円	
調査書（進学用：所定用紙を提出のこと）	500円	
推薦書（就職用）	100円	
健康診断証明書	300円	
健康診断証明書（指定用紙）	800円	
英文在学証明書	300円	
英文成績証明書	500円	
英文卒業見込証明書	300円	
英文卒業証明書	300円	
英文在籍証明書［退学者等（在学生以外）］	300円	
英文健康診断証明書	500円	
学生証再発行	2,100円	１週間（仮学生証当日発行）
（注１）学校学生生徒旅客運賃割引証（学割）	無料	当日
（注２）団体学割証	無料	１週間（事前に相談してください）
（注３）通学証明書	無料	当日

（注１）**学割**

JR各線で片道100kmを越えて乗車するとき，普通運賃が２割引になります。１人につき１回の発行を４枚までとし，有効期限３ヵ月間。事務センター窓口（３号館２Ｆ）に備えてある「学割証交付願」に必要事項を記入し，学生証を添えて申込んでください。（代理人申請不可）

・学割証は学割証記載の本人以外は使用できません。

・学割証の貸借は絶対してはいけません。万一，不正が発覚した場合，正規の運賃の３倍の追徴金が課せられるほか，本学学生に対して学割証の発行が停止されることになるので，使用に関しては十分注意してください。

（注２）**団体学割証**

専任教職員の引率で，15人以上で旅行する場合に発行されます。６ヵ月前から３週間前までに申込んでください。申込みは駅・旅行センター・旅行代理店にある所定の用紙に，大学から証明を得て行ってください。

（注３）**通学証明書**

バスの通学定期券，または異なる鉄道（JR，私鉄，地下鉄）の４路線以上を利用する場合の通学定期券購入に必要になります。有効期限１ヵ月間です。事務センターに学生証を添えて申込んでください。

４．各種届・願一覧

各種の届・願は，各事務室窓口にそなえてある所定用紙を使用してください。

種別	届出書類
身上変更	住所変更届
	氏名変更届
	保証人変更届
学籍	休学願
	復学願
	退学願
教務	履修中止届
	追試験願
	修得単位換算願
	英語科目免除・単位認定願
	専門科目コース修了証発行申請願
	成績評価確認願
	長期欠席届
学生生活	鍵（ロッカー）使用申込書
	団体創設届
	活動計画書
	活動報告書
	課外活動助成金申請書
	学外課外活動届
	規定時間外課外活動許可願
	開催・配布許可願
	教室・体育館使用願
	物品借用願
	秦野施設仮申込書
	印刷依頼書
	スクールバス臨時運行願
	構内駐車場使用申請書
進路	進路調査書
	進路決定届

３．学籍について

１．学生証と学生番号

学生証は，本学学生であることを証明するものです。**常に携帯**してください。

（１）入学と同時に各人に与えられる学生番号は，本学における固有番号です。

例：１１－３０１
入学年度　個人番号

（２）学生証は，入学時所定の手続きを経て，交付されます。

① 有効期間は２年間。
② 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
③ 有効期間を過ぎた学生証は各人において処分してください。
④ 退学等，期中において学籍を離れる場合，本学に返却してください。

（３）学生証が必要なときは主に以下の通りです。

① 履修登録をするとき
② 試験を受けるとき
③ 証明書や学割証を申し込みするとき
④ 図書館で図書の貸し出しを受けるとき
⑤ ノートPCの貸し出しを受けるとき
⑥ 通学定期券を購入するとき
⑦ 通学定期券や学割で乗車船し，係員の要求があったとき
⑧ その他，本学教職員から提示を求められたとき

（４）学生証の記載事項に変更が生じた場合，直ちに事務センターに届け出て，訂正してください。

（５）学生証を紛失した場合，直ちに事務センターに届け出てください。

２．学籍について

修業年限　＜学則第５条＞
本学の教育課程終了に必要な期間のことで，２年（４学期）です。休学期間は除きます。

在学期間　＜学則第５条＞
学生として在籍していられる期間のことで，４年（８学期）です。休学期間は除きます。

卒業　＜学則第40条，第41条＞
卒業の要件は次のとおりです

① 修業年限（２年）を満たすこと。
② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）66単位以上を修得すること。

休学　＜学則第17条，第18条＞

病気，留学，その他の理由により休学しようとするものは，１）アドバイザーと相談し，２）「休学願」（所定用紙）に理由を詳しく記入した上で提出し，許可を受けなければなりません。なお，病気による休学の場合は医師の診断書を添えてください。

① 休学の期間は１学期を区分とします。休学できる期間は通算して２年までです。
② 休学願の提出期限は次のとおりです。

	期間	提出期限
春・秋学期連続休学	４月１日～翌年３月31日	６月17日（金）
春学期休学	４月１日～９月９日	６月17日（金）
秋学期休学	９月10日～翌年３月31日	11月18日（金）

休学期間は修業年限，在学期間に含まれません。なお休学期間中は授業料等学費に対する減額制度があります。

復学　＜学則第19条＞

休学期間が満了した場合は，自動的に復学となります。復学を届出る必要はありません。ただし，病気により休学の許可を受けた者は，医師の診断書を添え「復学願」を提出してください。

退学　＜学則第20条，第21条＞

病気その他やむを得ない理由により自主退学を希望する場合は１）アドバイザーと相談し，２）「退学願」（所定用紙）に理由を詳しく記入した上，学生証を添付して提出し，許可を受けなければなりません。「退学願」を提出するときはその時期までの授業料が納入済でなければなりません。

なお，次に該当するものは退学を命じられます＜学則第21条＞

連続する２ヵ年において修得した単位数が24単位に満たないものは，退学させる。

除籍　＜学則第22条＞

次のいずれかに該当する場合は除籍されることがあります。

① 在学年限を超えた者
② 許可された休学の期間を超えて，なお修学できない者
③ 授業料等の納付を怠り，督促してもなお納付しない者
④ 長期にわたり行方不明の者
⑤ その他

再入学

本学を退学したもの，又は除籍を受けたものは再入学を願い出ることができます。
出願の詳細については事務センターにお問い合わせください。

住所の変更，氏名の変更，保証人の変更

本人・保証人の住所や電話番号の変更があった場合，所定用紙にて事務センターに届け出てください。本人氏名や保証人の変更があった場合も，所定用紙にて事務センターに届け出てください。（本人氏名変更の場合は，住民票記載事項証明書を添付してください）。

３．学費の納入

１．一括納入方式と分割納入方式

学費は，原則として１年間分を学年初めに一括して完納することになっています（一括納入方式）。ただし，都合により全額を一括完納することができない場合には，年間授業料の２分の１（半額）を，秋に分納することができます（分割納入方式）。

２．納入方法

本学から保証人宛に学費納入の案内とともに送付する振込依頼書を使用して，銀行から振込んでください。金融機関で発行する領収書は，本学の領収書に代るものなので，大切に保管してください。

３．学費請求の送付日と納入期限

学費請求の送付日および納入期限は次のとおりです。学費未納者は学則により，在籍上重大な支障となるので，必ず納入期限を厳守してください（学則第22条，第35条を参照のこと）。

		納入方法	学費請求日	納入期限
第１回	完納又は分納（一期分）	完納または分納いずれかを選択	４月１日（金）	４月15日（金）
第２回	分納（二期分）	第１回に分納を選択した場合のみ	９月９日（金）	９月26日（月）

４．休学者に対する授業料等減額取扱手続

「休学願」（所定用紙）を当該年度の，春学期及び春・秋学期連続休学は６月17日まで，秋学期は11月18日までに提出し許可された者には，当該年度の学費を減額します（新入生も含みます。なお，入学の際のみ必要として徴収した費目は減額の対象とはなりません）。詳細は事務センター学費担当までお問い合わせください。

４．個人情報の取扱について

上智短期大学では個人情報保護に以下の通り取り組んでいます。
上智学院個人情報保護への取り組みの詳細は下記URLもご参照ください。
http://www.sophia.ac.jp/J/sogo.nsf/Content/kojinjoho

上智短期大学

個人情報の取扱いについて

入学手続書類に記載された入学手続者本人および保証人の氏名，住所，生年月日，その他の個人情報は，本学の諸部門において，次のとおり学生の在籍管理，教育，学生生活指導・支援等の業務並びに当該業務に付随する学生・保証人への連絡・通知など，本学の教育事業運営に必要な範囲でのみ使用します。

1) 入学時の学籍データ生成
2) 学籍管理および教務
3) 課外活動，福利厚生，経済援助等，学生生活全般の支援
4) 学費に関する案内
5) 学内施設設備利用管理
6) 上智短期大学後援会（父母会）および上智短期大学ソフィア会（同窓会）の運営
7) 寄付金等の募集案内
8) 本人および保証人への事務連絡通知

上記の業務を行う際，本学が入手した個人情報の漏洩，流出，不正使用等が生じないよう，必要な措置を講じます。また，個人情報を取り扱う業務を学外に委託するときは，委託業者との間で覚書等をかわし，委託先に必要かつ適切な管理を義務づけます。

なお，本学では学生への教育・指導をより適切に行うために，保証人の皆様にご理解とご協力をお願いしております。したがって，教育的配慮の必要性から保証人に対して学業成績，出席状況等を開示することや，修業，履修状況等について相談を行う場合があります。特別な事情により，保証人へ学業成績等を開示することに不都合がある場合は，短期大学事務センターにその旨を申し出てください。

注．学生が未成年者である場合には，本人の諾否にかかわらず保証人にこれらの通知を行う場合があります。

４．履修について

１．履修の基本

> 学則第25条
> 授業科目を履修する場合，その授業に出席し，かつ試験に合格した者には，
> その授業科目所定の単位を与える。

１．履修とは

大学では学生が自分自身の意志で受講したい科目を選んで履修計画を立て，登録を行い，卒業に必要な単位を修得していきます。この登録から単位の修得までの流れを「履修」と呼びます。

２．単位とは

すべての科目には一定の単位が定められています。これら科目を履修して試験などに合格すれば単位が修得できます。単位数の計算方法は科目の種類によって異なります。

短期大学設置基準および学則第26条に「授業科目の単位数は，１単位履修に45時間の学習を要することを標準とし」と定められており，単位を修得するために，授業時間以外にも学習のための時間が要求されます。

単位制とは，修業年限（２年）に所定の科目を履修し，単位を修得することによって卒業できるという制度です。卒業に最低必要な単位を「卒業要件単位」と呼びます。

３．試験とは

試験とは学生の学習効果を問う一つの方法であり，大学における最も重要な履修上の活動の一つです。試験に合格して，はじめてその科目の単位が与えられることになります。

４．卒業の要件とは

卒業の要件とは学則第40条に定められている通り，本学を卒業するための定められた条件です。

① 修業年限（２年）を満たすこと。
② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）66単位以上を取得すること。

２．授業

１．学期と授業期間

授業は，一年度を春学期と秋学期の２学期にわけて実施されます。授業はセメスター制により，春・秋各学期15週で完結します。授業は週２回行われる科目が中心ですが，一部の授業は週１回で行われます。

２．授業時間

＜月・火・木・金＞

１時限	９：20	～	10：50	２時限	11：00	～	12：30
３時限	13：20	～	14：50	４時限	15：00	～	16：30
５時限	16：40	～	18：10				

＜水＞

１時限	９：20	～	10：50	２時限	11：00	～	12：30
３時限	13：20	～	15：20	４時限	15：30	～	17：00

水曜日の３時限はAssembly Hourであり，合同授業，各種行事，キャリア講座，各種ガイダンスなどの多目的に利用される時間帯です。

３．授業の出欠席

大学の単位認定は，授業時間数が基礎になっています。やむを得ない場合を除き，毎時間の授業への参加を重視します。

・授業への遅刻は厳に慎んでください。遅刻者の入室を拒否する場合もあります。
・単位修得の場合には，各授業科目とも授業時間数の３分の２以上の出席が必要です。３分の２以上の出席とは，不可抗力による欠席の可能性を考慮してのことですので，３分の１まで欠席してよいということではありません。
・欠席時間数が授業時間数の３分の１を超える者は，原則定期試験の受験資格を失います。ただし授業方針によっては，その比率に関係なく受験資格を失うことがあります。
・授業に欠席する者は，各担当教員に欠席の理由を報告してください。なお，個々の授業科目担当教員に医師の診断書を提出する必要はありません。
・病気等により欠席が２週間を超えるときは，医師の診断書１通を添え，長期欠席届（所定用紙）を事務センターに提出してください。
・引き続き３ヶ月以上欠席するときは，休学願（所定用紙）を提出し許可を受けることが必要です。

４．教室

授業は，基本的に時間割に示されている教室で行われます。ただし，履修登録後の受講者数によって教室が変更になる場合もあります。この場合は，掲示板でお知らせしますので，各学期の始めは特に注意してください。授業期間中に，設備等の都合で一時的に教室が変更となる場合も，掲示板で「臨時教室変更」によりお知らせします。

５．休講

担当教員が公務，出張，学会，病気などによってやむを得ず授業を休む場合には掲示板でお知らせします。万一連絡がなく，授業開始より20分を経過した場合には事務センターの指示を受けてください。

６．　補講

各学期授業期間終了後に，補講期間を設けています。補講期間中の時間割の発表についてはP. 43を参照してください。

７．祝日の授業日，他の曜日の時間割での授業実施，臨時休講日

授業日数や定期試験日数の調整のため，特定の祝日にも授業を行うことがあります。また他の曜日の時間割で授業を行う場合や，臨時休講日を定めることがあります。2011年度は下記の通りです。

【春学期】	４月29日（金）	昭和の日
	７月18日（月）	海の日　授業実施日
	９月23日（金）	秋分の日　授業実施日
【秋学期】	10月10日（月）	体育の日　授業実施日
	10月21日（金）	臨時休講日
	10月24日（月）	臨時休講日

８．交通機関不通の場合の授業

交通ストライキに伴う休講措置は次のとおりです。

(a) 小田急線または首都圏のJR線がストライキのとき，午前６時の時点で未解決の場合は全学休講とする。
(b) 私鉄のみ（小田急線を除く）がストライキのときは，授業は平常どおり行う。

３．履修登録

（別途配付される「履修登録の手引き」も熟読してください。）

１．履修登録の基本

> 学則第32条
> 履修しようとする科目は，毎学期所定の期間に登録しなければならない。

＊春学期開講科目は春学期に，秋学期開講科目は秋学期に登録します。
＊所定期日までに登録を怠れば，その年度の履修権利を放棄したことになります。
＊登録していない科目の授業や試験を受けても単位認定されません。登録は慎重に行いましょう。

２．履修登録関連日程

	春学期	秋学期
必修クラス発表	２年次：３月14日（月） １年次：４月５日（火）	
新学期ガイダンス 人数制限科目の履修手続き	２年次：３月24日（木） １年次：４月５日（火）ガイダンス ４月６日（水）履修手続	全学生：９月６日（火）
人数制限科目の手続結果発表	全学生：４月11日（月） 【場所】４号館１Ｆ掲示	全学生：９月７日（水） 【場所】４号館１Ｆ掲示
履修・進路相談 （アドバイザー）	２年次：３月25日（金） 28日（月） １年次：４月11日（月） 12日（火）	全学生：９月７日（水） ８日（木）
履修登録	全学生：４月11日（月） 12日（火）	全学生：９月７日（水） ８日（木）
授業開始	４月13日（水）	９月９日（金）
履修登録確認表配布・修正登録	４月20日（水） 21日（木） 22日（金）	９月26日（月） 27日（火） 28日（水）
修正登録確認表配布	４月26日（火）	９月30日（金）

＊人数制限のある科目は履修登録前に仮登録手続きを行い，受講希望者多数の場合抽選を行います。
対象科目はP.59～P.61，詳細は「履修登録の手引き」をご確認ください。

３．履修計画

P.51から始まる「５．カリキュラムについて」を熟読し，２年間で何をどのように学びたいか方向を定め，卒業要件単位，履修上の注意，シラバス，時間割（必修科目の時間帯の確認），ガイダンスでの説明等を参考にし，それぞれの学期の履修計画をしっかりと立ててください。

＊卒業に必要な単位数およびその内容に関する定めは厳格なものであり，１科目・１単位の不足があっても卒業資格は与えられません。卒業要件単位については十分に注意し，選択の仕方を考えて無理のない計画を立て，自分自身の時間割を作成してください。

４．履修・進路相談（アドバイザー履修計画票確認）

履修登録をする前に，アドバイザーと面談し，履修計画表にサインを受けてください。

アドバイザーとの面談日は定められた相談期間内に，各自で確認をとってください。履修で不明なことは必ず，アドバイザー，事務センター教務担当まで尋ねるようにしてください。うわさや思い込みに惑わされることなく，わからないことは必ず確認してください。

５．履修登録

時間割が定まったら，アドバイザーのチェックを受けた「履修計画表」と「履修登録票（OMR用紙)」を定められた履修登録期間に事務センターに提出してください。

６．登録確認表の受取り

登録した授業科目・担当教員がすべて正しく登録されているか，自らの責任において必ず確認してください。**登録確認表で確認をせず，登録ミスがあった場合，卒業にも重大な支障を生じる場合がありますので確認表の受取･確認は必ず行ってください。**

７．修正登録

履修計画の変更や登録の間違いがあった場合，修正登録期間に登録の修正（追加・取消）ができます。**抽選で当選した科目は原則的に取消しできません。**修正登録で新たに科目を登録しようとする場合は，修正登録期間前でも担当教員の了解を得た上，授業に出席してください。修正登録をした学生には，新たに**修正登録確認票を配布します。こちらも必ず受け取り内容を確認してください。**なお，修正登録後の追加・変更はできません。（９．の「履修中止」のみ可能。）

８．履修登録の上限

各学期に履修できる単位数の上限は以下の通りです。

春学期	秋学期
24単位	24単位

９．履修中止

履修登録を完了し，実際に授業に出席したものの，授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた，授業のスピードについていけるだけの知識が不足していた，健康上の理由から履修科目数を減らしたい，といった理由から学期の途中で履修を中止できる制度です。

履修中止期間	
春学期	2011年６月20日（月）～６月29日（水）
秋学期	2011年11月28日（月）～12月７日（水）

（注意事項）

① 必修科目は履修中止できません。

② 履修中止届（所定用紙）に記入し期間内に事務センターに提出してください。期間を過ぎたものは受付られないので注意すること。また，一度提出した履修中止届を取り下げることはできません。

③ 履修中止をした科目は成績表に「W」で表示されます。成績証明書には記載されません。「W」はG.P.A（→P.45参照）の計算に含まれません。

④ 履修中止をせずに，教員から指示された試験やレポートなど，必要な課題をこなさなかった場合は，その科目は成績表および成績証明書に「Ｆ」（不合格）として記載されます。「Ｆ」はG.P.Aの計算に含まれます。

４．試験

１．試験

履修科目の成績を評価する方法として，筆記試験，レポート，口頭試験，実技テスト等があります。試験に合格し，その科目の単位が与えられたときは，「成績表」に「評価」を記入して，各自に交付します。

履修登録をしていながら受験しない科目は不合格となります。履修登録をしていない科目は受験できません。授業料未納者は，試験を受けることができません。

本学で行う試験には，定期試験・臨時試験と追試験があります。

２．定期試験

各学期の授業期間終了後，試験期間を設けて実施します。試験時間は原則として60分。試験時間割表は，補講期間の時間割とあわせて、補講・定期試験期間開始の２週間前に掲示します。

	補講・定期試験日程掲示日	補講及び定期試験期間
春学期	2011年７月６日（水）	補講期間： 2011年７月20日（水）～７月22日（金） 定期試験期間（補講含む）： 2011年７月25日（月）～７月29日（金）
秋学期	2011年12月13日（火）	補講期間： 2012年１月10日（火）～１月13日（金） 定期試験期間（補講含む）： 2012年１月16日（月）～１月20日（金）

＜定期試験受験上の注意＞

試験は，いずれの試験の場合も，厳正に実施されます。学生は次の心得を守ってください。

（１）試験に欠席する場合は，試験開始時刻に先立って事務センターに連絡してください。
（２）携帯電話の電源を切り，かばんの中にしまってください。
（３）試験開始後20分以上の遅刻者は，特別の場合を除き，受験できません。
（４）試験開始後30分を過ぎるまでは退場できません。
（５）答案を提出せずに退場することはできません。
（６）試験場においては，監督者の指示に従ってください。
（７）監督者の指示または注意に直ちに従わない場合は不正行為と見なされ，退場させられます。

＜不正行為について＞

（１）試験における不正行為は，学則第57条によって処分されます。
（２）不正行為をおこなった場合，その学期に履修した科目全ての評価が「Ｆ」（不合格）となります。
（３）停学処分をうけた場合には，停学期間は修業年限に算入されないので，卒業時期は延期となります。

> 学則第57条
> 本学学生に対してその本分にもとる行為があったと認められるときは，その軽重にしたがい，譴責，停学又は退学処分とする。

３．臨時試験（授業内試験）

担当教員が随時授業時間中に行う試験のことです。この場合，試験日時は掲示でなく，主に教室において口頭で伝達されますので確認してください。

４．追試験

追試験とは，病気・忌引・編入学試験等のやむを得ない事由で定期試験を欠席する場合に限り，定期試験に代えて受けることができる試験です。原則として授業内に行なわれる試験は追試験の対象となりません。申請は，該当の科目の試験終了後から試験期間終了後３日以内に，その理由を詳記し，かつ診断書，その他その事由を証明する書類を添えて「追試験願（所定用紙）」を事務センターに提出してください。許可された場合は，所定の手数料（１科目2,000円）を納入したうえで，追試験を受けることができます。追試験の成績の評価は，原則として得点の80％を限度とします。（ただし学校保健法による場合は例外とします。）

詳細は「追試験細則」を参照のこと。

＜追試験細則＞

（１）目　的

定期試験を受験する資格（履修登録していること。欠席が１／３以上を越えていないこと）を有する者で，下記の理由により未受験で，所定の手続きを済ませた者に対して一定期間を設けて施行する試験のことをいいます。

（２）日　時

追試験日程及び時間割は別に知らせます。

（３）成　績

追試験の成績の評価は，原則として得点の80％を限度とします。（ただし，学校保健法による場合は例外とします。）

（４）受験資格を得るための必要書類

１．就職試験（説明会を含む）

当日，会場で担当者の署名，捺印した受験参加証明書（間違いなく受験参加した旨の文章が記載されていること）

２．編入試験

受験票のコピー

３．忌　引（原則３親等以内の通夜・告別式に限る）

葬儀日程のわかる印刷物

４．交通事故

交通事故証明書（警察署発行のもの）

５．病　気

医療機関の診断書（初診日及び安静期間が記載されているもの）

６．その他

公的機関の発行した以下の項目が明記された文書

（ａ）該当日時　　（ｂ）受験できなかった理由を説明する文章

（ｃ）機関名と作成者氏名　（ｄ）問い合わせ先の電話番号

（５）申し込み

試験申し込みは，自分が該当する理由に応じて，必要書類と追試験願及び追試験受験料（１科目2,000円）を提出・納入してください。

５．評価

１．評価基準

学力の評価は，担当教員の授業方針ならびに評価方針により，試験（定期試験及び随時の試験を含む），レポート，授業参加など学生の学力表示の実績に基づき，短期大学の水準に照らして次の基準で行われます。

		評価		評点	内　　容
判定	合　格	A	100～90点	4.0	特に優れた成績を示したもの
		B	89～80点	3.0	優れた成績を示したもの
		C	79～70点	2.0	妥当と認められる成績を示したもの
		D	69～60点	1.0	合格と認められるための最低限度の成績を示したもの
	不合格	F	59点以下	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの
無判定	履修中止	W			所定の期日までに履修中止の手続をしたもの
	認定科目	N	―――		修得単位として認定されたもの

２．G.P.A（Grade Point Average）

各科目の成績評価の「評点」値にその科目の単位数を掛け算し，その値の総合計を総単位数で割ったものがG.P.Aとなります。

不合格科目（Ｆ）の単位数は計算式の分母に含まれます。所定の期間に履修中止した科目（W）や，単位認定を受けた科目（N）は計算式に含まれません。

＜G.P.Aの計算式＞

$$\frac{4.0\times\text{Ａの修得単位数}+3.0\times\text{Ｂの修得単位数}+2.0\times\text{Ｃの修得単位数}+1.0\times\text{Ｄの総修得単位数}}{\text{総単位数（Ｆ＝（不合格）を含む　＊Ｗ（履修中止），Ｎ（認定）は含みません）}}$$

３．成績表

春学期の成績表は９月に，秋学期の成績は３月に通知します。G.P.Aは成績表に記載してお知らせします。成績表の配布の方法，期間，場所については別に掲示します。

なお，成績表は各学期の初めに，アドバイザーから履修のアドバイスを受ける際にも必要ですので大切に保管してください。

４．評価の確認

評価について疑問のある場合は，「成績評価確認願」（所定用紙）を下記の提出期限までに事務センターへ提出することができます。その際，必ず成績表を持参してください。期日を過ぎた場合の願い出は一切受け付けられません。

「成績評価確認願」提出締切日	
2010年度秋学期科目	４月７日（木）まで
2011年度春学期科目	９月６日（火）まで

なお，特別の事由なく，単に再評価・再検討を願い出るもの，担当教員の情状を求めるものや，他の学生との比較上の不満のみ訴えるもの，その他，確認をする根拠に乏しい成績評価確認願は受け付けられません。

５．再履修

必修科目の単位未修得者は当該科目を次学期もしくは次年度に再履修しなければなりません。再履修者は科目ごとに履修登録前に手続きを行います。手続きの方法は掲示等によりお知らせします。

６．単位の認定

単位の認定には次の種類があります。

１．入学前に他大学等で修得した単位の認定

本学が教育上有益と認めるときは，本学の学生が入学前に，他大学において授業科目を修得している単位がある場合，15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができます。該当者は入学年の履修登録前までに事務センターに申し出てください。

必要書類：単位を修得した大学が発行する単位修得証明書（オリジナル）
単位を修得した大学の講義内容
修得単位換算願（所定用紙）

２．海外短期語学講座による単位認定

本学が認定した海外短期語学講座のプログラムに参加し，単位認定を受ける制度です。下記の３つの条件を満たした場合，審査のうえ，専門科目として２単位が認定されます。

１．本学が認定した下記の海外短期語学講座のプログラムをPass（合格）で修了
２．プログラムの準備教育として定められた必履修科目の単位を修得
３．帰国後，レポートを提出

2011年度の予定プログラムは次のとおりです。

＜夏の海外短期語学講座プログラム＞

Ａ．University of Pennsylvania（米国）
Ｂ．Portland State University（米国）
Ｃ．McGill University（カナダ）
Ｄ．The University of Edinburgh（英国）

実施時期（授業期間）	2011年８月，９月
申込時期	2011年４月 定員以上の応募があった場合は抽選。

＜春の海外短期語学講座プログラム＞

Ｅ．Monash University（オーストラリア）
Ｆ．University of Auckland（ニュージーランド）

実施時期（授業期間）	2012年２月，３月
申込時期	2011年10月 定員以上の応募があった場合は抽選。

＊申し込みの詳細は留学ガイダンス及び掲示によりお知らせします。
＊Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄのプログラムは，春学期の「留学準備」，Ｅ，Ｆのプログラムは，秋学期の「留学準備」が必履修科目となります。
＊在学中に複数回、海外短期語学講座に参加することは可能ですが，単位の認定は１回限りです。また抽選になる場合は初回応募の学生が優先となります。
＊プログラム参加者は、出発前と帰国後にTOEIC-IP（有料）を必ず受検する必要があります。
＊夏の短期語学講座プログラムを参加希望の学生はパスポートの取得を急ぐこと。
University of Pennsylvaniaは４月22日（金）までにパスポートを所持していない場合は参加できなくなります。

３．技能審査（英検，TOEIC等）による単位認定

入学前もしくは在学中に，下記のような検定試験のレベルをクリアした場合は，その資格をもって英語科目に認定，または他の専門科目での履修を認めます。入学年次によって制度が異なりますので，注意してください。

実用英検	*TOEIC	TOEFL(Computer-Based) TOEFL(Internet-Based)	**TOEFL(Paper-Based)	IELTS
準１級以上	700以上	190以上／68以上	520以上	5.5以上

*TOEICは公開テスト，および学内で実施されるIPテスト（英語力テスト）のスコアを含みます。
**TOEFL(Paper-Based)は公開テスト，および上智大学四谷キャンパスで実施されるITPテストを含みます。

【09年次生以前】

英語選択必修科目（英語スキルズ科目）を最高６単位まで認定します。単位認定を希望する学生は，所定の「英語科目の履修免除・単位認定願」に記入のうえ，上記のレベルをクリアした認定証（原本）を提示してください。申請時期は各学期の履修登録前になりますが，詳細は掲示でお知らせします。

ただし上記レベルをクリアしていても，英語選択必修科目の履修を希望する場合は，それを妨げません。

【10年次生以降】

下記（１），（２）のうちいずれかの履修方法を選択できます。

（２）を選択した場合は，所定用紙に記入し，上記レベルをクリアした認定証（原本）を提示してください。

（１）英語選択必修科目(英語スキルズ科目)を３科目６単位履修します(各学期に履修できるのは１科目まで)。
ただし，上記の検定レベルをクリアした後に履修するスキルズ科目は，上級であることが望ましい。

（２）英語選択必修科目１科目２単位と，指定された英語で行われる専門選択科目１科目４単位を履修します。
これらの単位を修得することによって，英語選択必修科目の６単位を満たすことができます。
2011年度の指定科目は，「言語とリテラシー教育」(M.Andrade) です。
なお，指定科目を専門科目として単位を修得した場合は，その後検定試験のレベルをクリアしても英語選択必修科目の単位として振り替えることはできません。同様に英語選択必修科目として単位を修得した場合，専門科目として単位を振り替えることはできません。

７．英語学習支援プログラムとTOEIC-IP試験スケジュール

【英語学習支援プログラム】

本学では，学生の将来のキャリア形成など英語に関わる様々な目標に向け，在学中にすべての学生が将来にわたり継続できる自律的な英語の学習習慣を形成し，着実に英語力を伸ばすことが重要であると考えています。本学の英語学習支援プログラムでは個々の学生の自律的学習を，学習習慣が確実に身に着くよう後押しします。この趣旨に添って2011年度より英語学習支援プログラムへの参加は任意となります。（前年度まで実施されていたTOEIC目標値の公式設定は行われず，また英語学習支援プログラムへの参加は英語必修科目の単位付与のための評価条件とは連動しません。）

実施時期は2011年夏（春学期授業終了後・秋学期授業開始までの期間）となります。

2011年度の英語学習支援プログラムの詳細とスケジュールに関しては後日掲示等にてお知らせします。

【学内で行われるTOEIC-IP試験スケジュール】
2011年度

日程	対象者	申込	申込時期（詳細は掲示）
2011年 ４月１日（金）	新入生全員【新入生英語力テスト】	不要	
	①春期海外短期語学講座帰国者（英語圏） ②その他希望者	必要	２月～３月
８月１日（月）	①夏期海外短期語学講座出発者 ②その他希望者	必要	６月
９月８日（木）	①夏期海外短期語学講座帰国者 ②その他希望者	必要	７月
12月７日（水）	全学生【全学生英語力テスト】	不要	

その他，詳細は掲示で発表する。

８．卒業

１．卒業要件

卒業要件は次のとおりです　＜学則第40条＞

① 修業年限（２年）を満たすこと。

② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）66単位以上を取得すること。

２．卒業要件を満たすには

① 履修要覧の「卒業に必要な科目・最低単位数」「履修上の注意」（P.52～参照）を熟読してください。

② ２年間（４学期）の履修計画をよく検討し，卒業要件を満たす登録ができるよう心がけてください。

③ 正しく履修登録をし，試験等を受け，単位を修得してください。
履修登録をしたら，必ず登録確認表を受け取り自己の責任において正しく履修登録がなされているか確認をしてください。

④ 各学期の成績表を受け取ったら，修得科目・単位数，不足単位数をその都度よく確認してください。

３．９月卒業

年度末に卒業資格を得られなかった学生が，次年度春学期終了時に卒業要件を満たした場合，９月卒業が可能です。９月卒業を希望する学生は学科長の承認を得た上で，春学期の登録前までに事前申請を行ってください。

４．成業の見込みのない者の取扱い

連続する２ヵ年において（ただし，休学期間を除く）修得した単位が24単位に満たない者は退学となります。＜学則第21条＞

５．カリキュラムについて

１．英語科　カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムの科目群は，英語科目，教養科目，基礎科目，専門科目で構成されています。

「英語科に入ったのだから，英語の勉強だけをするものだと思っていた」等の声を新入生から聞くことがあります。それでは，「英語を学ぶ」とはどういうことなのでしょうか。

言葉というものは，相手に何かを伝える，あるいは相手の言いたいことを理解するために使われます。「英語を学ぶ」と言っても，学んだ英語で相手に「何を伝えるのか」「何を理解しようとするのか」という中身がなくては，本当の意味での「英語を使える」人間にはなれません。しかも，母語とは異なる言語を使う相手に，何かを伝えて理解してもらうこと，逆に相手のいうことを理解することは，とても大変なことなのです。単に文法や語彙が違うから，という問題ではありません。「異文化コミュニケーション」という言葉が示すように，異なる言語の使い手，つまり異なる文化の人々とコミュニケーションを行うためには，相手の文化や社会についても知る必要があります。

入学後，まず教養科目を履修することで視野を広げ，体系だった学問に触れながら論理的なもののとらえ方を身につけていきます。皆さんの多くにとっての母語は日本語でしょう。まず日本語でものを論理的に考え，説明する力を養うことが，英語を使いこなすためにも不可欠なのです。そのため，日本語で必要な情報を集め，論理的に整理して口頭で発表したり小論文を書いたりするためのアカデミック・スキルズを身につける「基礎ゼミナール」を2010年度より必修科目として新たに開講しました。同じく１年次の必修科目である「人間学」では，本学の教育理念であるWomen for Others, with Others（他者のために，他者とともに）を実現するための学びがあります。

こうしてしっかりと基礎となる土台を作りながら，英語を学びます。英語の授業の時間が大切なことは言うまでもありませんし，英語だけでなくすべての授業は無遅刻・無欠席が当たり前です。しかし，英語力は授業だけでは決して身に付きません。各授業の予習・復習，課題などをしっかりこなす自宅学習が必須です。さらに学内ではパソコンを使ったe-learningシステムやEnglish Café Luncheon等，授業外で英語を学ぶさまざまな機会が提供されています。また，学生の皆さんはTOEICの目標値を決めてその達成に努め，教員もそれを支援していきます。英語力を身に付けるためには，こつこつと積み重ねる毎日の努力と，英語を使い英語により多く触れる自主性が鍵となります。

また，本学では英語力を身につける授業は英語科目に限定されているわけではありません。いくつかの専門科目やゼミナールは英語で行われています。それらの授業では，講義を英語で聞き，英語のテキストや資料を読み，英語で議論して，英語でレポートを書く，というように実際に英語を使って専門的なことを学んでいきます。泳ぎ方をいくら言葉で教わっても，実際に水に入ってみなければ泳げるようにはならないのと同様に，英語についていくら学んでいても，自分が持っている知識をフル活用しながら実際に英語を使ってみなければ，英語が使いこなせるようにはなりません。英語で授業を行う科目が専門科目として提供されている理由はここにあります。

専門科目は，「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育（08年度以前は児童英語教育）」というカテゴリーに括られており，それぞれの分野の入門的な「概論」と「各論」にあたる個々の講義が提供されています。全体像をまず把握してから個別のテーマを扱う「各論」に入るほうがしっかり理解できるので，「概論」は第二外国語などとともに，専門科目のなかの基礎科目として位置付けられています。あるカテゴリーに興味がある場合は，そのカテゴリーの科目を集中して履修して卒業時に「コース修了証」を得ることもできますし，カテゴリーにこだわらずに自分の関心にしたがっていろいろな分野の科目を履修することもできます。

こうした学内での学びを，児童英語教育ボランティアや日本語教育支援ボランティアなどの地域活動に活かし，学外でのこうしたボランティア体験をさらに学びにフィードバックする活動が活発に行われています。こうした奉仕の体験を学びに活かす活動を，サービス・ラーニング活動といいます。サービス・ラーニング活動を通して，学生の皆さんは学んだことを実践し，他者とともに生きる市民社会の一員として成長する機会を地域社会からいただいているのです。

本学のカリキュラムの内容や目的をどうぞよく理解したうえで，バランスよく科目を履修し，ボランティア活動やさまざまな課外活動にも積極的に参加しながら，将来必要となる英語力や社会人力をどうぞ養ってください。

科目履修やプログラム，ボランティア活動などについてわからないこともあるでしょう。アドバイザーとよく相談して，長期的な視野にたった履修計画を立てましょう。

２．授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

（１）英語科目 ─┬─ 必修科目
　　└─ 選択必修科目

（２）教養科目 ─┬─ 必修科目（人間学）
　　└─ 選択科目

（３）基礎科目 ─── 選択科目

（４）専門科目 ─┬─ 必修科目（プレ・ゼミナール，ゼミナール）（基礎ゼミナール－2010年次生より）
　　└─ 選択科目

必修科目‥‥‥‥必ず履修しなければいけない科目
選択必修科目‥‥指定された科目の中から選択して，所定の単位を必ず履修しなければならない科目
選択科目‥‥‥‥自由に選択して履修できる科目

３．卒業に必要な科目・最低単位数

２年の修業年限を満たし，次の条件を満たすことにより，本学を卒業する資格が与えられます。
（１年次で30単位以上修得できない場合は，卒業見込証明書が発行されない場合があります。）

【08年次生以前】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	4	32	66
合計	14		16		36		

【09年次生】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	6	30	66
合計	14		16		36		

【10年次生以降】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	8	28	66
合計	14		16		36		

４．標準配当表

【08年次生以前】

区分		１年次・春学期 第１セメスター （準備期）		１年次・秋学期 第２セメスター （発展期）		２年次・春学期 第３セメスター （応用期）		２年次・秋学期 第４セメスター （完成期）	
英語科目	必　修 （８単位）	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 （６単位）	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必　修 （４単位）	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選　択 (12単位)	選択科目（12）							
基礎／専門科目	必　修 （４単位）					ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選　択 (32単位)	選択科目（32）							

【09年次生】

区分		１年次・春学期 第１セメスター （準備期）		１年次・秋学期 第２セメスター （発展期）		２年次・春学期 第３セメスター （応用期）		２年次・秋学期 第４セメスター （完成期）	
英語科目	必　修 （８単位）	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 （６単位）	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必　修 （４単位）	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選　択 (12単位)	選択科目（12）							
基礎／専門科目	必　修 （６単位）			プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選　択 (30単位)	選択科目（30）							

【10年次生以降】

区分		１年次・春学期 第１セメスター （準備期）		１年次・秋学期 第２セメスター （発展期）		２年次・春学期 第３セメスター （応用期）		２年次・秋学期 第４セメスター （完成期）	
英語科目	必　修 （８単位）	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 （６単位）	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必　修 （４単位）	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選　択 (12単位)	選択科目（12）							
基礎／専門科目	必　修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選　択 (28単位)	選択科目（28）							

５．履修上の注意

（１）履修登録の上限

履修できる単位数の上限は１学期につき**２４単位**です。

（２）同一科目の重複履修

同一の授業科目は重複して履修することはできません。担当者が異なっていても同じ科目名であれば，同一科目とみなされます。ただし，履修した科目が不合格で単位が修得できなかった場合は，もう一度履修することができます。

（例）「基礎英語スキルズ（リーディング）」の授業は春学期と秋学期で違う担当者 → 同じ科目名なので同一科目 → 春学期に単位が修得できた場合，秋学期は履修できない。

■ 下記の科目は科目名が異なりますが，同一科目とみなされます。すでに単位を修得済みの場合，重複履修はできませんので注意すること。

【10年次生以前】

2010年度以前開講科目名	2011年度開講科目名
情報概論	情報リテラシー演習
世界の教育	比較・国際教育学

【09年次生以前】

2009年度以前開講科目名	2010年度以降開講科目名
映画に見る文化	ビジュアル・レトリック
基礎英語スキルズ（文法）	基礎英語スキルズ（文法・語彙）
基礎英語スキルズ（語彙）	基礎英語スキルズ（文法・語彙）

（３）受講者数制限科目

人数制限のある科目（P.59～P.64の開講科目表の**備考欄に〔人〕**とある科目）は履修登録前に仮登録を行い，受講希望者多数の場合抽選を行います（詳細は「履修登録の手引き」を参照のこと）。その他の科目についても原則的には人数制限しませんが，初回の授業の受講希望状況によっては制限を行う場合もあります。第１～２回目の授業，その他掲示等に注意してください。

（４）必修科目のクラス指定，ゼミ

必修科目は指定されたクラスを履修してください。１年次秋学期必修のプレ・ゼミナールとともに，２年次必修のゼミの選択・登録については１年次中に始まりますので掲示等に注意してください。

（５）英語スキルズ科目

原則として各学期に１科目までとします。

（６）教養科目の「体育理論・実技」は卒業要件単位として４単位まで算入されます。ただし，同一科目の重複履修はできません。（例）春学期に「体育理論・実技２」の単位を修得済み→秋学期の「体育理論・実技２」は履修できません（体育理論・実技１か３は履修可能）。

（７）基礎科目の「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」は卒業要件単位として４単位まで算入されます。

（８）他の科目の履修が前提となる科目

児童英語教育演習･･･ 履修するには，児童英語教育概論の単位を修得済であることが必要です。

日本語教育演習･････ 履修するには，日本語教育概論の単位を修得済であることが必要です。

（９）履修希望者が極めて少数の場合，開講を取り消すこともあります。

６．基礎科目／専門科目のコース制度

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育（09年次生以降）」（08年次生以前は「児童英語教育」）の４つの領域に分類されています。ある領域を集中してコースとして学ぶことも可能ですし，それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれのコースの基礎科目（異文化理解：キリスト教文化入門又は異文化間コミュニケーション，英米文学研究：英文学概論，言語研究：言語学概論，言語教育：児童英語教育概論又は日本語教育概論（08年次生以前は児童英語教育：児童英語教育概論））４単位＋そのコースの関連科目を16単位以上，合計20単位以上修得した場合は，申請に基づき「コース修了証」を発行し，修了コース名を成績証明書に記載します。希望者は，２年次の秋学期の履修登録時に申請を行います（所定用紙）。

（注）【P. 61～P. 64の開講科目表を参考】

２つのコースどちらにでも算入できる科目は，１つのコース分にしか数えられません。２つのコースどちらにでも算入できる科目を，１回しか数えなくても２コース分の修了証が申請可能な場合は，申請書を２枚提出してください。

＜各コースの概要＞

異文化理解コース	英米文学研究コース	言語研究コース	言語教育コース	児童英語教育コース（08年次生以前）
さまざまな国の文化や社会，歴史，考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方，バリエーションなどについて学びます。	子供たちへの英語の教え方や外国籍の方への日本語の教え方を，理論と実践の両面から学びます。	子供たちへの英語の教え方を，理論と実践の両面から学びます。

＊次ページに各年次生の各セメスターでの履修例を示します。あくまでも一例ですので，自己の目的や興味関心に従って個人の学習計画を立ててください。なお，開講学期や時間割は年度によってかわります。

＊履修例はあくまでも一例であり，毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【08年次生以前】

＜異文化理解コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	文化人類学	4
歴史学	4	情報概論	4	東洋研究Ａ	4	現代美術	4
マスメディア論	4	スペイン語Ⅰ	2	国際関係論	4	言語とリテラシー教育	4
キリスト教文化入門	4	異文化間コミュニケーション	4	映画に見る文化	4		
		日本文化	4				
合計　18　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　10					

２年間　計72単位

＜英米文学研究コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語史	4
日本国憲法	4	哲学	4	体育理論実技３	2	日本文化	4
体育理論実技２	2	フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2	ヨーロッパ現代史	4
英文学概論	4	演劇研究	4	小説研究	4		
		アメリカ文学史	4	映画と文学	4		
合計　16　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　8		教養　6		教養　2		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　10		基礎/専門　12			

２年間　計70単位

＜言語研究コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
社会学	4	法学	4	音声学	4	英語史	4
心理学	4	言語学概論	4	社会言語学	4	言語とリテラシー教育	4
ドイツ語Ⅰ	2	異文化間コミュニケーション	4	日本語学	4		
合計　16　単位		合計　18　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　2		基礎/専門　8					

２年間　計68単位

＜児童英語教育コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	初等教育	4
教育学	4	音楽	4	児童英語教育演習	4	児童心理学	4
社会福祉入門	4	児童英語教育概論	4	世界の教育	4	第二言語習得	4
日本語表現法	4	キャリアプランニング	4				
		児童英語教材論	4				
合計　18　単位		合計　22　単位		合計　14　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　10		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　12					

２年間　計70単位

＊履修例はあくまでも一例であり，毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【09年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
		プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	文化人類学	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	東洋研究Ａ	4	比較政治制度論	4
経済学	4	情報概論	4	国際関係論	4	社会正義のグローバルリテラシー	4
マスメディア論	4	異文化間コミュニケーション	4	ビジュアル・レトリック	4		
キリスト教文化入門	4	ヨーロッパ現代史	4				
合計　18　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　10					

２年間　計72単位

＜英米文学研究コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
		プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	英語史	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論実技３	2	西洋研究	4
教育学	4	社会学	4	フランス語Ⅱ	2	ヨーロッパ現代史	4
体育理論実技２	2	フランス語Ⅰ	2	小説研究	4		
英文学概論	4	演劇研究	4	映画と文学	4		
		アメリカ文学史	4				
合計　16　単位		合計　22　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　8		教養　6		教養　2		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　12		基礎/専門　12			

２年間　計72単位

＜言語研究コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
		プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	音声学	4	英語史	4
社会学	4	法学	4	異文化間コミュニケーション	4	社会言語学	4
心理学	4	言語学概論	4	日本語学	4		
ドイツ語Ⅰ	2	言語とリテラシー教育	4				
合計　16　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　2		基礎/専門　10					

２年間　計70単位

＜言語教育コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
		プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	児童心理学	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	児童英語教育演習	4	第二言語習得	4
心理学	4	音楽	4	世界の教育	4	児童英語教材論	4
歴史学	4	児童英語教育概論	4	音声学	4		
日本語表現法	4	キャリアプランニング	4				
合計　18　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　10					

２年間　計72単位

＊履修例はあくまでも一例であり，毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【10年次生以降】

＜異文化理解コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	東洋研究Ｂ	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	国際関係論	4	文化人類学	4
経済学	4	情報概論	4	ビジュアル・レトリック	4	比較政治制度論	4
異文化間コミュニケーション	4	マスメディア論	4	言語とリテラシー教育	4		
		ヨーロッパ現代史	4				
合計　16　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　6		教養　10		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　6		基礎/専門　6					

２年間　計70単位

＜英米文学研究コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	英語史	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論実技３	2	西洋研究	4
教育学	4	フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2	翻訳演習	4
体育理論実技２	2	演劇研究	4	小説研究	4		
歴史学	4	英文学概論	4	映画と文学	4		
合計　18　単位		合計　18　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　12		教養　2		教養　2		基礎/専門　14	
基礎/専門　2		基礎/専門　12		基礎/専門　12			

２年間　計70単位

＜言語研究コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	音声学	4	英語史	4
社会学	4	法学	4	異文化間コミュニケーション	4	社会言語学	4
心理学	4	言語学概論	4	日本語学	4		
ドイツ語Ⅰ	2	バイリンガル教育	4				
合計　18　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　10		教養　6		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　4		基礎/専門　10					

２年間　計72単位

＜言語教育コース（例）＞

１年次・春学期 第１セメスター		１年次・秋学期 第２セメスター		２年次・春学期 第３セメスター		２年次・秋学期 第４セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	児童心理学	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	児童英語教育演習	4	第二言語習得	4
歴史学	4	音楽	4	日本語教育演習	4	児童英語教材論	4
日本語表現法	4	児童英語教育概論	4	音声学	4		
		法学	4				
合計　16　単位		合計　20　単位		合計　18　単位		合計　16　単位	
英語　4		英語　4		英語　4		英語　2	
教養　6		教養　10		基礎/専門　14		基礎/専門　14	
基礎/専門　6		基礎/専門　6					

２年間　計70単位

７．サービスラーニングとカリキュラムとの関連

学科の中には言語教育コースが設置され，その中に日本語教育と児童英語教育の科目群が置かれています（08年次生以前は児童英語教育コースおよび言語研究コース内にこれらの科目群を設置）。外国籍市民を対象とした日本語・教科支援ボランティアに参加する学生のために，「日本語学」，「日本語教育概論」，「日本語教育演習」などの授業が用意され，また英語教育ボランティアに参加する学生のためには，「児童英語教育概論」，「児童英語教材論」，「児童英語教育演習」，「第二言語習得」などの授業が用意されています。これらの科目を履修することで，理論と実践の上で学問的な裏付けを持って，地域社会における教育支援活動に臨むことが可能です。「児童英語教育概論」と「児童英語教育演習」の履修に加え，通信講座とワークショップを受講することで，小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）による「小学校英語指導者資格」の取得へも繋がります。

「小学校英語指導者資格」を取得するには

「児童英語教育概論」，「児童英語教育演習」を履修，単位を修得する。

１．アルク児童英語教師養成コース(受講料：63,000円（税込）上智短期大学特別価格 2009年９月時点)の修了・成績基準をクリア

２．J-SHINE またはアルク主催の「小学校英語指導者資格取得研修講座」に参加
（２日間集中，受講料：36,000円（税込）2010年３月時点）

３．J-SHINEの資格認定の申請を行い，「小学校英語準認定指導者資格」取得

４．さらに資格申請時に幼児および小学生を対象とした50時間の指導経験がある場合，「小学校英語指導者資格」の取得申請が可能

また，本学の時間割にはこれら活動を支援するため，サービスラーニング枠が設けられており，その時間を活用して学生は地域社会でのサービスラーニング活動を行うことが奨励されています。

なお，次ページ以降の９．開講科目表の「サービスラーニング関連度」項目欄には，これらコース内のサービスラーニング関連科目と，コース外でもサービスラーニングに関連する内容を授業の一部に取り入れている科目には，その度合いによってＡ（非常に関連），Ｂ（ある程度関連），Ｃ（少々関連）を表示していますので，履修の参考にしてください。

８．インデペンデント・スタディ

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため，あるいは現在開講されていない科目のテーマについて自ら学ぶため，学生が主体的に指導教員のもとで研究し，研究報告書として成果をまとめ，評価を受けることにより，専門科目として２単位を付与する制度です。

登録を希望する学生は自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び，登録前に承諾を受けます。登録は在学中に１回限りとします。研究テーマについては，登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお，各学期につき一人の教員が指導する学生は原則２名以内です。

＜登録までの手続き＞

① 登録を希望する学期までに研究テーマを決め，指導教員を決定します。

② 「研究計画書」を作成し，指導教員へ提出します。指導教員は教務委員長，学科長とともにその計画書を審査します。
＊研究テーマは指導教員と相談の上決定します。

③ 指導教員と教務委員長及び学科長の許可を受けた上で，春学期あるいは秋学期の履修登録期間に登録を行います。

＜履修～評価＞

① 学生は登録した学期の期間中，定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し，指導をうけてください。

② 学生は登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出してください。最終的な研究報告書は十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（秋学期登録者は１月，春学期登録者は７月）に開催される「公開研究発表会」で研究成果を教員・学生の前でプレゼンテーションした上，評価を受けます。

③ 履修を中止する場合は，登録した学期の履修中止期間に行ってください。

９．開講科目表

英語科目

	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1,2限連続		サービスラーニング関連度※	※A 非常に，B ある程度，C 少々		
授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
英語Ⅰ	2			◎			1年次	M.Andrade, T.Gould, K.Williams,C.Oliver, 飯田, 永野, 神谷, 岩崎, 狩野	クラス指定
英語Ⅱ	2				◎		1年次	K.Williams, T.Gould, C.Oliver, 平野, 飯田, 永野, 神谷, 狩野	クラス指定
英語Ⅲ	2			◎			2年次	K.Williams, J.Hirai, G.Freddes, J.Dizon, M.Nepomuceno, R.Burton, S.Tandon, 深澤, 國分, 裵	クラス指定
英語Ⅳ	2				◎		2年次	R.Burton, G.Freddes, J.Hirai, J.Dizon, M.Nepomuceno,S.Tandon, 深澤, 國分, 裵	クラス指定
基礎英語スキルズ（生活の英語）		2			◎		1・2年次	M.Nepomuceno	[人]35名
基礎英語スキルズ（ライティング）		2		◎			1・2年次	石原	[人]35名
基礎英語スキルズ（リーディング）		2		◎	◎		1・2年次	(春)秋庭 (秋)石原	[人]各60名
基礎英語スキルズ（文法・語彙）		2		◎			1・2年次	石原	[人]60名
標準英語スキルズ（生活の英語）		2			◎		1・2年次	S.Tandon	[人]35名
標準英語スキルズ（旅行の英語）		2			◎		1・2年次	服部	[人]35名
標準英語スキルズ（職場の英語）		2		◎	◎		1・2年次	(春)M.Nepomuceno (秋)J.Hirai	[人]各35名
標準英語スキルズ（メディアの英語）		2		◎			1・2年次	J.Hirai	[人]60名
標準英語スキルズ（文法・語彙）		2		◎	◎		1・2年次	服部	[人]各60名
標準英語スキルズ（ライティング）		2		◎	◎		1・2年次	J.Dizon	[人]各35名
標準英語スキルズ（リーディング）		2		◎	◎		1・2年次	(春)服部, 國分 (秋)石原	[人]各60名
標準英語スキルズ（パブリックスピーキング）		2		◎			1・2年次	S.Howell	[人]35名
標準英語スキルズ（ディスカッション）		2			◎		1・2年次	S.Howell	[人]35名
標準英語スキルズ（アカデミックリスニング）		2		◎			1・2年次	G.Freddes	[人]60名
標準英語スキルズ（TOEIC対策）		2		◎	◎		1・2年次	(春)裵 (秋)秋庭	[人]各60名
上級英語スキルズ（職場の英語）		2		◎			1・2年次	裵	[人]35名
上級英語スキルズ（ライティング）		2		◎			1・2年次	S.Howell	[人]35名
上級英語スキルズ（ディベート）		2			◎		1・2年次	S.Howell	[人]35名
上級英語スキルズ（学術論文作法）		2			◎		1・2年次	R.Burton	[人]35名
上級英語スキルズ（多読速読）		2		◎			1・2年次	高橋	[人]60名
上級英語スキルズ（編入対策）		2			◎		1・2年次	平野	[人]60名
（言語とリテラシー教育）		4		◎		B	1・2年次	M.Andrade	注１

注1 技能審査で一定のレベルをクリアした場合のみ，英語科目選択必修として履修可 P.47参照

教養科目

	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1,2限連続		サービスラーニング関連度※	※A 非常に，B ある程度，C 少々		
授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
人間学Ⅰ	2			○		A	1年次	岩崎，小林，桝田，田村，阿部	クラス指定
人間学Ⅱ	2				○	A	1年次	岩崎，小林，桝田，田村，阿部	クラス指定
歴史学			4	◎			1・2年次	森下	注 P.54参照
哲学			4	◎			1・2年次	白井	
女性と哲学			4		◎	B	1・2年次	田内	
宗教学			4	◎	◎	B	1・2年次	小林	
音楽			4		◎		1・2年次	北村	
女性学			4					2011年度休講	
社会学			4	◎	◎		1・2年次	鈴木	
日本国憲法			4	◎		A	1・2年次	髙野	
法学			4		◎		1・2年次	髙野	
教育学			4	◎	◎	B	1・2年次	神門	
政治学			4					2011年度休講	
経済学			4	◎	◎		1・2年次	白瀬	
社会福祉入門			4		◎		1・2年次	森澤	
マスメディア論			4	◎	◎		1・2年次	小寺	
情報リテラシー演習			4		◎		1・2年次	加藤	
自然科学入門			4					2011年度休講	
数学			4	◎			1・2年次	加藤	
心理学			4	◎		B	1・2年次	林	
体育理論・実技１			2	○	○		1・2年次	木皿	[人]各36名
体育理論・実技２			2	○	○		1・2年次	小澤	[人]各36名
体育理論・実技３			2	○	○		1・2年次	小澤	[人]各36名

基礎科目

	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サービスラーニング関連度※	※A 非常に，B ある程度，C 少々		
授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
異文化理解コース関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
キリスト教文化入門			4		◎	B	1・2年次	輪講(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：小林)	
異文化間コミュニケーション			4	◎		C	1・2年次	C.Oliver	＊言語研究ｺｰｽにも算入可
英米文学研究コース関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
英文学概論			4		◎		1・2年次	飯田	
言語研究コース関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
言語学概論			4	◎	◎	C	1・2年次	(春)神谷 (秋)近藤	
言語教育コース（09・10年次生）関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
児童英語教育概論			4	◎	◎	A	1・2年次	(春)狩野 (秋)岩崎	
日本語教育概論			4		◎	A	1・2年次	宮崎	**08年次生以前も履修可。 但し，注P.54を参照。**
児童英語教育コース（08年次生以前）関連科目（基礎科目）							各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
（児童英語教育概論）			4	◎	◎	A	1・2年次	(春)狩野 (秋)岩崎	
ドイツ語Ⅰ			2	◎	◎		1・2年次	工藤	[人]各35名
ドイツ語Ⅱ			2	◎			1・2年次	工藤	[人]35名，ドイツ語Ⅰ既習者か，それに相当する者
フランス語Ⅰ			2	◎	◎	C	1・2年次	横田	[人]各35名
フランス語Ⅱ			2	◎		C	1・2年次	横田	[人]35名，フランス語Ⅰ既習者か，それに相当する者
スペイン語Ⅰ			2	◎	◎		1・2年次	A.Yáñez	[人]各35名
スペイン語Ⅱ			2	◎			1・2年次	A.Yáñez	[人]35名，スペイン語Ⅰ既習者か，それに相当する者
中国語Ⅰ			2	◎	◎		1・2年次	廣重	[人]各35名
中国語Ⅱ			2	◎			1・2年次	廣重	[人]35名，中国語Ⅰ既習者か，それに相当する者
日本語表現法			4	◎	◎	C	1・2年次	(春)樋口 (秋)河北	[人]各35名 注　P.54参照
キャリア・プランニング			4		◎		1・2年次	輪講(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：岩崎)	同窓会寄附講座
留学準備			2	◎			1・2年次	神谷	夏の短期語学講座申込者のみ
留学準備			2		◎		1・2年次	飯田	春の短期語学講座申込者,他

専門科目

	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サービスラーニング関連度※	※A 非常に，B ある程度，C 少々		
授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
基礎ゼミナール	2			○			1年次	森下，永野，宮崎，杉村，岩崎，小林	
プレ・ゼミナール	2				○	近藤B 宮崎A 狩野A	1年次	髙野，平野，飯田，近藤，森下，永野，神谷，T.Gould，宮崎，C.Oliver，杉村，岩崎，小林，狩野	原則として2年次にゼミⅠ・Ⅱ担当教員と同一教員を履修。但し，教員のサバティカルにより同一教員が履修できない場合がある。詳細は6月のゼミナール説明会で説明。
ゼミナール Ⅰ	2			○		近藤B 宮崎A 狩野A	2年次	髙野，K.Williams，飯田，近藤，森下，永野，神谷，T.Gould，宮崎，C.Oliver，杉村，岩崎，小林，狩野	ゼミⅠとゼミⅡは同一教員を履修
ゼミナール Ⅱ	2				○				
異文化理解コース関連科目									
東洋研究Ａ			4	◎			1・2年次	田畑	
東洋研究Ｂ			4		◎		1・2年次	田畑	
西洋研究			4					2011年度休講	【隔年開講】
日本文化			4		◎		1・2年次	森下	
英米史			4		◎		1・2年次	森下	【隔年開講】
ヨーロッパ社会史			4	◎			1・2年次	鍋谷	
ヨーロッパ現代史			4		◎		1・2年次	鍋谷	
比較社会史			4	◎			1・2年次	森下	
国際関係論			4	◎		A	1・2年次	髙野	
文化人類学			4		◎	C	1・2年次	C.Oliver	
現代美術			4		◎		1・2年次	G.Freddes	
ビジュアル・レトリック			4	◎			1・2年次	K.Williams	
比較・国際教育学			4		◎	B	1・2年次	杉村	*言語教育・児童英語教育ｺｰｽにも算入可
社会正義のグローバルリテラシー			4					2011年度休講	【隔年開講】 注２
言語とリテラシー教育			4	◎		B	1・2年次	M.Andrade	*言語研究ｺｰｽにも算入可 【隔年開講】
個人と人権			4					2011年度休講	【隔年開講】
比較政治制度論			4		◎		1・2年次	髙野	【隔年開講】

注2　専門科目4単位として算入する方法と英語選択必修科目4単位として算入する方法があります　P.47参照

専門科目（続き）

	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サービスラーニング関連度※	※A 非常に，B ある程度，C 少々		
授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
英米文学研究コース関連科目									
英語英米文学入門			4					2011年度休講	
アメリカ短編小説研究			4					2011年度休講	
英詩研究			4					2011年度休講	
演劇研究			4	◎			1・2年次	飯田	
小説研究			4					2011年度休講	
アメリカ文学史			4		◎		1・2年次	永野	【隔年開講】
映画と文学			4					2011年度休講	【隔年開講】
翻訳演習			4	◎			1・2年次	永野	
（英語史）			4		◎		1・2年次	平野	
言語研究コース関連科目									
社会言語学			4		◎	C	1・2年次	神谷	
音声学			4	◎			1・2年次	高橋	*言語教育・児童英語教育ｺｰｽにも算入可
日本語学			4	◎		B	1・2年次	宮崎	*言語教育ｺｰｽにも算入可
語用論			4		◎	C	1・2年次	近藤	【隔年開講】
英語史			4		◎		1・2年次	平野	*英米文学研究ｺｰｽにも算入可
通訳演習			4					2011年度休講	【隔年開講】
（異文化間コミュニケーション）			4	◎		C	1・2年次	C.Oliver	
（言語とリテラシー教育）			4	◎		B	1・2年次	M.Andrade	【隔年開講】
（バイリンガル教育）			4		◎	A	1・2年次	宮崎	
（第二言語習得）			4		◎	B	1・2年次	T.Gould	
言語教育コース（09年次生以降）関連科目									
バイリンガル教育			4		◎	A	1・2年次	宮崎	*言語研究・児童英語教育ｺｰｽにも算入可
初等教育			4	◎		A	1・2年次	杉村	*児童英語教育ｺｰｽにも算入可
児童心理学			4		◎	B	1・2年次	林	*児童英語教育ｺｰｽにも算入可
第二言語習得			4		◎	B	1・2年次	T.Gould	*言語研究・児童英語教育ｺｰｽにも算入可
児童英語教材論			4		◎	A	1・2年次	狩野	*児童英語教育ｺｰｽにも算入可

専門科目（続き）

	単位			開講期・授業回数 ◎＝週2回 ●＝週1回		サービスラーニング関連度※	※A 非常に，B ある程度，C 少々		
授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
児童英語教育演習			4	◎		A	2年次	T.Gould	児童英語教育概論の単位修得済が履修の条件 *児童英語教育ｺｰｽにも算入可
日本語教育演習			4	◎		A	2年次	宮崎	日本語教育概論の単位修得済が履修の条件。
（比較・国際教育学）			4		◎	B	1・2年次	杉村	
（音声学）			4	◎			1・2年次	高橋	
（日本語学）			4	◎		B	1・2年次	宮崎	
児童英語教育コース（08年次生以前）関連科目									
（バイリンガル教育）			4		◎	A	1・2年次	宮崎	
（初等教育）			4	◎		A	1・2年次	杉村	
（児童心理学）			4		◎	B	1・2年次	林	
（第二言語習得）			4		◎	B	1・2年次	T.Gould	
（児童英語教材論）			4		◎	A	1・2年次	狩野	
（児童英語教育演習）			4	◎		A	2年次	T.Gould	児童英語教育概論の単位修得済が履修の条件
（比較・国際教育学）			4		◎	B	1・2年次	杉村	
（音声学）			4	◎			1・2年次	高橋	
インデペンデント・スタディ			2				1・2年次	担当教員	詳細はP.59参照
海外短期語学講座			2				1・2年次	短期留学制度	詳細はP.46参照

６．講義内容（シラバス）

英語科目

教養科目

基礎科目

ゼミナール

専門科目

英語科目＜必修＞

科目名	英語 I			担当者名	M. Andrade, K. Williams, T. Gould, C. Oliver, 飯田 純也, 永野 良博, 神谷 雅仁, 岩崎 明子, 狩野 晶子		
開講期	春	分類	必修	単位	2	年次	1 年
授業の目標	・For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of "Women for Others, With Others" ・For students to acquire critical thinking skills ・For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English ・For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English						
授業の概要	**English I. Living with others: exploring relationships and life values** **英語 I　他者と共に生きる：人とのつながりと人生の意味を探究する** This class will cover a variety of topics related to the individual, her direct relations with others, and key aspects of the life process. Students will be expected to participate fully in class activities, and to do assignments and independent learning outside of class in order to develop balanced reading, speaking, writing, and listening skills in English. Examples of possible topics that might be included: ・family, friends, interpersonal relationships; ・love, marriage, children; ・growing up, growing older, growing old; ・school, work, independence, lifestyle changes; ・illness, caring for others; ・service learning; ・ethical challenges faced in life; ・life goals, aspirations, dreams; ・the value of life, the meaning of death. 【教職員間授業公開日：Andrade 6/7（火），Williams 6/10（金），Gould 4/18（月），Oliver 6/23（木），飯田 6/2（木），永野 6/16（木），神谷 5/30（月），岩崎 5/30（月），狩野 4/26（火）】						
準備学習の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	*English Essentials：An Academic Skills Handbook for SJC Students*						

英語科目＜必修＞

科目名	英語Ⅱ			担当者名	K. Williams, T. Gould, C. Oliver, 平野 幸治, 飯田 純也, 永野 良博, 神谷 雅仁, 狩野 晶子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
授業の目標	・For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of "Women for Others, With Others" ・For students to acquire critical thinking skills ・For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English ・For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English						
授業の概要	**English Ⅱ. Crossing cultures: understanding and respecting others** **英語Ⅱ　異文化との遭遇：他者を理解し尊重する** In this class, students will look at various aspects of culture in different countries in the world. Students will be expected to participate fully in class activities, and to do assignments and independent learning outside of class in order to develop balanced reading, speaking, writing, and listening skills in English. Examples of possible topics that might be included: ・cultural traditions, myths, folklore; ・holidays, celebrations, rituals; ・world religions, religious beliefs and customs; ・art, literature, music, popular culture; ・humor in different countries; ・food, clothing, housing, daily life; ・mass media, media language, media images; ・stereotypes, ethnocentrism; ・cultural identity, ethnic identity, national identity. 【教職員間授業公開日：Williams 11/8（火），Gould 9/13（火），Oliver 10/27（木），平野 10/4（火），飯田 12/5（月），永野 11/14（月），神谷 10/17（月），狩野 9/30（金）】						
準備学習の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	*English Essentials：An Academic Skills Handbook for SJC Students*						

英語科目＜必修＞

科目名	英語Ⅲ			担当者名	K. Williams，G. Freddes， J. Hirai，J. Dizon， M. Nepomuceno，R. Burton， S. Tandon，深澤 英美， 國分 有穂，裵 哲求		
開講期	春	分類	必修	単位	2	年次	2 年
授業の目標	・For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of “Women for Others, With Others” ・For students to acquire critical thinking skills ・For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English ・For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English						
授業の概要	**English Ⅲ. Social issues in Japan: toward a better community** **英語Ⅲ　日本における社会問題：より良いコミュニティーを目指して** In this class, students will explore a range of issues that are found locally, regionally, or throughout Japan. While the issues covered are not necessarily unique to Japan, the class will focus on how the issues are manifest in Japan and experienced by people in Japan. Examples of possible topics that might be included: ・Japan's aging population; ・sex-based discrimination; ・crime, youth crime; ・homelessness; ・Japan's high suicide rate; ・victims of natural disasters; ・depopulation of the countryside; ・child abuse, elder abuse, animal abuse; ・volunteerism. 【教職員間授業公開日：Williams　6/10（金），Freddes　5/6（金），Hirai　6/14（火），Dizon　6/23（木），Nepomuceno　4/29（金），Burton　4/22（金），Tandon　4/26（火），深澤　5/27（金），國分　未定，裵　4/29（金）】						
準備学習の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	*English Essentials：An Academic Skills Handbook for SJC Students*						

英語科目＜必修＞

科目名	英語Ⅳ			担当者名	R. Burton，G. Freddes， J. Hirai，J. Dizon， M. Nepomuceno，S. Tandon， 深澤 英美，國分 有穂，裵 哲求		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	2 年
授業の目標	・For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of “Women for Others, With Others” ・For students to acquire critical thinking skills ・For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English ・For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English						
授業の概要	**English IV. Japan and the world: living in an international community** 英語Ⅳ　日本と世界：国際社会で生きる This class will address significant issues confronting the world today. While not every issue covered will have a strong Japan connection, overall the class will allow students to consider the roles of Japan and Japanese with respect to a variety of globally important issues. Examples of possible topics that might be included: ・human rights, animal rights; ・immigration, refugees; ・religious freedom, religious suppression; ・environmental destruction, environmental activism; ・NGOs, NPOs, JICA, the UN; ・international conflicts, terrorism, war, peace; ・overpopulation; ・famine, poverty; ・child labor; ・AIDS. 【教職員間授業公開日：Burton 9/16（金），Freddes 9/27（火），Hirai 11/8（火），Dizon 11/21（月），Nepomuceno 9/30（金），Tandon 10/7（金），深澤 12/9（金），國分 未定，裵 9/27（火）】						
準備学習の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	*English Essentials：An Academic Skills Handbook for SJC Students*						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（生活の英語）				担当者名	M. Nepomuceno	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	1. Students will be able to boost their confidence and be able to speak the language, grammar and the structures with self esteem and determination. 2. Students will be able to explore and relate the daily life of the people in Japan and overseas through presentations using the units' structures and expressions.						
授業の概要	The course will revolve around the textbook topics. From these familiarities or exposures, the students will have the assurance to communicate with different nationalities living in Japan and when traveling abroad.						
準備学習の内容	Students should always bring the textbook, dictionary and stationery. Read and search vocabulary ahead of time. Be on time wearing a decent outfit and have a sharp focused mentality.						
各回の授業内容	1 Introductions, Syllabus, Rules, Ice Breaker Activities and Games 2 Begin Unit 1: Getting To Know You Homework: Self-study page 3 Finish Unit 1: Breaking the Ice 4 Begin Unit 2: Making a Good Impression Homework: Self-study page 5 Finish Unit 2: On the Phone 6 Begin Unit 3: Food and Cooking Homework: Self-study page 7* Finish Unit 3: Going to Eat 8 Begin Unit 4: Weather Homework: Self-study page 9 Finish Unit 4: Extreme Weather 10 Review / Test: Units: 1, 2, 3, 4 and Expansion 11 Begin Unit 5: Working for a Living Homework: Self-study page 12 Finish Unit 5: Unusual Jobs 13 Begin Unit 6: Leisure Time Homework: Self-study page 14 Finish Unit 6: Hobbies and Interests 15 Begin Unit 7: Sports and Games Homework: Self-study page 16 Finish Unit 7: How About Games? 17 Begin Unit 8: Transportation and Travel Homework: Self-study page 18 Finish Unit 8: Going Places 19 Review / Test: Units: 5, 6, 7, 8 and Expansion 20 Grouping of Students / Create and prepare own ideas or activities 21 Preparation of Presentations using the remaining Units from 9 to 16 22 Continue the preparation, memory and practice 23 Last practice: Rehearsals and Video taking or recording 24 Groups' Presentations 25 Continuation of Groups' Presentations 26 Video 27 Video Analysis and Reaction / Discussion *【教職員間授業公開日：9/30（金）】						
評価方法	Attendance and Conduct (25%), Presentations and Projects (20%), Homework (10%), Tests (15%), Interview (20%), Final Exam (10%)						
テキスト	Leo Jones, *LET'S TALK Book 2 (New Edition)* (Cambridge University Press)						
参考書							
その他特記事項	Students will be engaged in different activities with maximum talking, reveal their hidden talents and be creative with lots of fun and enjoyment. Unique presentations are expected.						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（ライティング）				担当者名	石原 久子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	今までに学んだ文法事項の整理ができ，文章構成の基本を習得できます。読解やコミュニケーションの応用できる英作法が身に付きます。基礎力を強化するので，各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	基本的文法事項の約束事を確認したのち，それらを使った英作文に取り組みます。文章構成の知識を読解にも応用していきます。						
準備学習の内容	毎回の授業の準備として 20 分程度の予習が必要です。						
各回の授業内容	1　イントロダクション 2　現在時の表現（1） 3*　現在時の表現（2） 4　過去時の表現 5　未来時の表現 6　依頼・勧誘の表現 7　提案の表現 8　忠告の表現 9　意図・決意の表現 10　使役の表現 11　命令の表現 12　確認テスト（1） 13　許可・禁止の表現 14　原因・理由の表現 15　目的・結果の表現 16　譲歩の表現 17　様態・範囲・制限の表現 18　推量・可能性の表現 19　感情の表現 20　比較の表現（1） 21　比較の表現（2） 22　仮定の表現（1） 23　確認テスト（2） 24　仮定の表現（2） 25　否定の表現 26　強調・倒置の表現 27　名詞構文・無生物主語構文 *【教職員間授業公開日：4/18（月）】						
評価方法	出席（25%），授業中の取り組み（25%），テスト（50%）						
テキスト	*The First Step toward Reading & Composition*（松柏社） *Basic English Expressions and Short Readings*（朝日出版）						
参考書	『総合英語フォレスト』（桐原書店）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（リーディング）				担当者名	秋庭 大悟	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	様々なジャンルやスタイルの英語文献に慣れる。概要の把握や正確に内容を読み解くための文法と読解技術を習得し，より高度な読解力を身につけるための基礎を固める。						
授業の概要	様々なジャンルやスタイルの英文を用いて，文法や語彙を確認しながらの精読や，初めて読む文献の概要を把握する練習等を通し，基本的な読解技術を習得していく。テキスト以外にも適宜文献を配布する。ブックレポートの課題あり。						
準備学習の内容	授業で扱う文献はあらかじめ読んでくること。						
各回の授業内容	1 ガイダンス 2 Unit 1 Research Assignment (読解技術：Previewing and Predicting) 3 ↓ 4 Unit 2 Citizen Volunteer Program (Skimming) 5 ↓ 6* Unit 3 Crossing Cultures (Scanning) 7 ↓ 8 Review 1 Exchanging Holidays (Review of Units 1-3) 9 Unit 4 Population and the Earth (Topics and Main Ideas) 10 ↓ 11 Unit 5 Catching Up (Guessing Meaning) 12 ↓ 13 Mid-term Exam 14 Unit 6 Making a Speech (Making Inferences) 15 ↓ 16 Review 2 Healthy Living (Review of Units 4-6) 17 Unit 7 The Perfect Job? (Basic Organization Patterns 1) 18 ↓ 19 Unit 8 Technology and Society (Basic Organization Patterns 2) 20 ↓ 21 Unit 9 Traveling Abroad (Summarizing) 22 ↓ 23 Unit 10 Effects of Globalization (Critical Reading) 24 ↓ 25 Review 3 Dating (Review of Units 7-10) 26 ↓ 27 まとめ *【教職員間授業公開日：5/6（金）】						
評価方法	出席・授業参加（30%），課題（30%），期末テスト（40%）						
テキスト	Ron Murphy, Neil Heffernan and Tomohito Hiromori, *Skills That Thrill* (Cengage Learning) その他，授業内で適宜補助教材を配布。						
参考書	Graded readers						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（リーディング）				担当者名	石原 久子	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	文法事項の整理ができ，それらの知識を応用して読解ができるようになります。基礎力を強化するので，各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	読解を中心としますが，文法事項の確認や，T / F クイズ，カッコの穴埋めなどの問題にも取り組みます。						
準備学習の内容	毎回少しずつ宿題を出すので，その準備として 20 分程度の予習が必要です。						
各回の授業内容	1 イントロダクション 2* Water, Please 3 The Magic of Disney 4 Balancing Studies and a Part-Time Job 5 Convenience Stores 6 Japanese Loan Words 7 Cherry Blossoms in Japan 8 Diet and Health 9 Sensory Branding 10 Time to Take a Nap 11 Artificial Intelligence 12 Campus life in the U.S. 13 確認テスト（1） 14 Cosmetic Surgery 15 Great Inventions 16 The Titanic 17 Brain Training 18 The Incas 19 Making Sense of Numbers 20 Pickpockets and Purse Snatchers 21 Panda Facts and Stories 22 Women in Society 23 Why Do We Lie? 24 Earthquakes 25 確認テスト（2） 26 応用問題（1） 27 応用問題（2） *【教職員間授業公開日：9/15（木）】						
評価方法	出席（25%），授業中の取り組み（25%），テスト（50%） （注）受講生が少人数の場合，テストは実施せず，平常点評価とします。						
テキスト	*Get Reading*（金星堂）						
参考書	関山健治著『英語のしくみ』（白水社） 山田敏弘著『日本語の仕組み』（白水社）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（文法・語彙）				担当者名	石原 久子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	英文を読んだり書いたりする上で必要となる，基本的な文法の約束事を習得できます。語彙の強化も図るので，各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	文章問題の Q&A で総合的な理解力を，適語選択や書き換えで語彙や文法の整理を，並べ替えで表現力を養います。						
準備学習の内容	単語テスト準備として，毎日 15 分程度の予習が必要です。						
各回の授業内容	1 イントロダクション 2* A Letter to New Pen Pal 3 Ball Games 4 A Plan for the Summer Vacation 5 BBQ 6 A Letter of Thanks 7 Advertisements 8 June Bride 9 The Birth of Jeans 10 Everything Has Its Origin 11 Soundless Communication 12 確認テスト（1） 13 Mysterious Expression 14 Symbol of History 15 Spicy but Healthy 16 Memory / My True Friend 17 The Maldive Islands 18 Model T / A Sense of Direction 19 How to Study 20 Parent-Child Questioning 21 To Eat Or Not To Eat / Mistaken Deliveries 22 First Aid 23 確認テスト（2） 24 総復習（1） 25 総復習（2） 26 総復習（3） 27 総復習（4） *【教職員間授業公開日：4/18（月）】						
評価方法	出席（20%），授業中の取り組み（20%），単語テスト（20%），確認テスト（40%）						
テキスト	*Step-Up English*（南雲堂） 『クイズで攻略！TOEIC テストボキャブラリー』（南雲堂）						
参考書	『総合英語フォレスト』（桐原書店）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（生活の英語）				担当者名	S. Tandon	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	By taking this course, students will learn to express their ideas and develop their communication skills in a variety of real-life situations.						
授業の概要	This course introduces everyday conversation based on real-life situations related to work, holidays, commuting, hobbies, cooking, expressing opinions, etc.						
準備学習の内容	Students will need to set aside about two hours each week for study and completing assignments at home, and to be prepared in advance for the class.						
各回の授業内容	1 Let's be friends – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 2 Getting to know me better. Reading, Writing 3 Those were the days – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 4 A short but busy weekend. Reading, Writing 5 Interesting lifestyles – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 6 You're only young once. Reading, Writing 7 Beauty is only skin-deep – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 8 A family of interesting characters. Reading, Writing 9* I need a vacation – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 10 A trip to remember. Reading, Writing 11 I'm broke – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 12 A letter from your son. Reading, Writing 13 City life, country life – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 14 Living in Seattle. Reading, Writing 15 Your opinion matters – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 16 School: Balancing Fun and Work. Reading, Writing 17 Cooking for fun – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 18 Variety – The spice of life. Reading, Writing 19 Best times of my life – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 20 A day I'll never forget. Reading, Writing 21 Traveling in Japan – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 22 Don't miss Harajuku. Reading, Writing 23 A look at the future – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 24 Dreams Come True – Sometimes 25 Additional practice and review 26 Additional practice and review 27 Final test *【教職員間授業公開日：10/7（金）】						
評価方法	授業参加（40%），中間テストおよび期末テスト（60%）						
テキスト	Dale Fuller, Chris Fuller, *New Changing Times* (Macmilllan Language House)						
参考書							

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（旅行の英語）				担当者名	服部 通子	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	海外旅行で出会う場面を想定したモデル会話の練習を通し，自信を持って場面に対処できるようになります。また，海外では各自が日本の代表となるので，日本の伝統を学び英語で紹介できるようにします。						
授業の概要	テキストの会話文の聞き取り・役割練習が中心になります。毎週単語テストを行います。日本については，『トラッドジャパン』DVD を鑑賞後，自分の言葉で伝統を説明し，自分の体験を語る練習をします。						
準備学習の内容	復習時に，モデル会話文の音読をしながら 3 回書写し，暗誦すること。常に自国の文化に意識を向けておくこと。						
各回の授業内容	1　授業紹介，クラスメート紹介　「花火」 2　Chapter 1　飛行機内にて　「すし」 3　〃　「広重」 4*　Chapter 2　入国手続き　「友禅」 5　〃　「竹」 6　Chapter 3　ホームステイ　(復習) 7　〃　「城」 8　Chapter 4　日本の文化について　「畳」 9　〃　「抹茶」 10　Chapter 5　交通機関　「弁当」 11　〃　「和菓子」 12　Chapter 6　語学学校　オリエンテーション　(復習) 13　〃　「盆栽」 14　Review Test　「漆」 15　Chapter 7　電話をかける　「西陣織」 16　〃　「五重塔」 17　Chapter 8　病気　「藍染」 18　〃　(復習) 19　Chapter 9　プレゼンテーション　「神輿」 20　〃　「箸」 21　Chapter 10　買い物　「温泉」 22　〃　「庭園」 23　Chapter 11　出国手続き　「神社」 24　〃　「折り紙」 25　Chapter 12　e-メール　「日本酒」 26　〃　「富士山」 27　まとめ *【教職員間授業公開日：9/26（月）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（20%），宿題他提出物（30%），テスト（40%）						
テキスト	辻和成他著『海外語学研修のための英語と知識』（三修社）						
参考書	NHK テレビテキスト及び DVD『トラッドジャパン』2009 年 4 月～ 『英語で折り紙』（講談社バイリンガルブックス）など						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（職場の英語）				担当者名	M. Nepomuceno	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	1. Students will be able to learn world business expressions and culture. 2. Students will act as young business consultants and make presentations. 3. Students will progress and broaden international business orientation language.						
授業の概要	The class course and grammar will be a student centered atmosphere revolving around the textbook topics involving and familiarizing students to class activities, presentations and projects using business terminologies and some international English expressions in advance.						
準備学習の内容	Students should always bring the textbook, dictionary and stationery. Read and search vocabulary ahead of time. Be on time wearing a decent outfit and have a sharp focused mentality.						
各回の授業内容	1 Introductions, Syllabus, Rules, and Warm-Up Business Games & Activities 2 Begin Module 1 Meeting People 3 Finish Module 1 Talking About a Company 4 Begin Module 2 Calling Contacts 5* Finish Module 2 Voicemail Messages 6 Begin Module 3 Talking About Schedules 7 Finish Module 3 Appointments and Rescheduling 8 Begin Module 4 Presenting Figures or Graphs 9 Finish Module 4 Comparing / Presenting Information 10 Review / Test: Modules 1, 2, 3, 4 11 Begin Module 5 Product Features 12 Finish Module 5 Talking About Services / Visiting Clients 13 Begin Module 6 An Industry History 14 Finish Module 6 Franchising 15 Begin Module 7 Receiving a Complaint 16 Finish Module 7 Complaints and Solutions 17 Begin Module 8 Travel Arrangements 18 Finish Module 8 Updates and Future Plans 19 Review / Test: Modules 5, 6, 7, 8 20 Grouping of Students / Create own presentations 21 Preparation of Presentations using the remaining Modules: 9,10,11,12 22 Continue the preparation, memory and practice 23 Groups' Presentations 24 Continuation of the Groups' Presentations 25 TOEIC Practice Test 26 Video 27 Video Analysis and Reaction / Discussion2 *【教職員間授業公開日：4/29（金）】						
評価方法	Attendance and Conduct (35%), Presentations and Projects (20%), Homework (10%), Tests (15%), Interview (10%), Final Exam (10%)						
テキスト	Roger Barnard & Jeff Cady Michael Duckworth Grant Trew *BUSINESS VENTURE 2 with practice for the TOEIC test* (Oxford University Publishing Company)						
参考書							
その他特記事項	Unique presentations are expected in a formal manner wearing business attire. An extra material on TOEIC to expand, develop and increase vocabulary bank.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（職場の英語）				担当者名	J. Hirai	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	Students will have the opportunity to practice English used in offices and other workplaces. Specifically, they will learn how to make appointments, negotiations and presentations, and how to speak confidently in front of an audience.						
授業の概要	Individual, group and pair work activities will focus on improving speaking, listening and discussion skills. Some lessons will include video clips of real business situations.						
準備学習の内容	Students will need to review the previous lesson and do the homework. It will require about 30 minutes of preparation.						
各回の授業内容	1 Orientation 2 Making an appointment for a meeting 3 Making a hotel reservation 4 Meeting a client at the airport 5 Hotel check-in 6 Business lunch 7 Invitation to an opening ceremony 8 Presentation request 9 Introduction at a reception 10 Celebrating a promotion 11 Meeting announcement 12 Sales reports 13 Exhibition proposals 14* Introducing new staff members 15 Ordering office supplies 16 Taking a vacation 17 Request for a catalog 18 Learning presentation skills (1) 19 Learning presentation skills (2) 20 Inquiry regarding a new product 21 Negotiating a discount 22 Placing an order 23 Inquiry about non-delivery 24 Job query 25 Job references 26 Giving presentations (1) 27 Giving presentations (2) *【教職員間授業公開日：10/14（金）】						
評価方法	Attendance (20%), active participation (20%), short tests (30%), final presentation (30%)						
テキスト	Janusz Buda, Akatsuki Toyoda *TRANSACTIONS, Real Business Conversations* (Nan'un-do)						
参考書							
その他特記事項	Students will be required to do some Internet research several times during the semester.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（メディアの英語）				担当者名	J. Hirai	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	Students will improve their knowledge of the English language in key areas of the media. They will learn to think more critically about the issues currently reported in the news.						
授業の概要	We will study using a variety of materials related to the media. Students will also practice presenting news reports and writing short articles.						
準備学習の内容	Students will need to prepare short news stories for every class. This will require about 30 minutes.						
各回の授業内容	1 Introduction to the course 2 Discussing the basics of good journalism 3 Newspapers – analyzing newspaper sections, understanding headlines 4 Practicing interview skills 5 Planning and writing short articles 6 Magazines – discussing the language of magazine covers 7 Designing a magazine cover 8 Reading and discussing true-life stories 9 Television – watching and understanding TV news 10 Watching and discussing a documentary 11 Planning the agenda of a news broadcast, presenting it 12 Radio – understanding the language of radio presenters 13 Introducing radio programmes and discussing the future of the radio 14 New media – practicing technical vocabulary of websites 15 Discussing website designs 16 Planning and writing a blog 17 Watching and discussing YouTube 18 Podcast and Twitter 19 Photography and its role in the news 20 Presenting the latest most impressive photos 21* Advertising and its role in the media 22 Watching and understanding the language of TV commercials 23 Creating TV commercials 24 Presenting TV commercials 25 Japan in the foreign media 26 News about foreign countries in the Japanese media 27 Presenting final projects *【教職員間授業公開日：7/1（金）】						
評価方法	Attendance (20%), active participation (30%), short tests (30%), final presentation (20%)						
テキスト	Peter Weld, *Views on the News – Media Literacy in the 21st Century* (Kinseido)						
参考書							
その他特記事項	Students will be required to do some Internet research.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（文法・語彙）				担当者名	服部 通子	
開講期	春 / 秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	英文法の知識を習得すると，長文も正確に理解できるようになります。英語特有のリズム・発音の特徴を知ることでリスニング力が向上します。英英辞書を使うことで派生語など語彙の増強が図れます。						
授業の概要	各章の文法事項を説明し，練習問題の答合わせをしながら進めます。疑問点は必ずその場で質問すること。毎週授業の初めに単語と例文の確認テストをします。						
準備学習の内容	文法用語・構文など覚える事柄が多いです。必ず予習をして疑問点を質問できるよう準備すること。授業後すぐに例文・単語を音読しながら 3 回書写すること。						
各回の授業内容	1　授業紹介，英英辞書の使い方 2　Unit 1　文の基本要素と品詞 3　英語のリズムに慣れる 4　Unit 2　5 文型 5*　英語のリズムと強形・弱形 6*　Unit 3　時制　（過去・現在・未来） 7　英語のイントネーションに慣れる 8　Unit 4　完了形 9　聞き分けの難しい音　①子音 10　Unit 5　法助動詞 11　聞き分けの難しい音　②母音 12　復習テスト 13　Unit 6　To 不定詞 14　連結 15　Unit 7　分詞 16　同化と脱落 17　Unit 8　関係節 18　地名・数字・アナウンスを聞き取る 19　Unit 9　That 節，Whether 節，Wh 節 20　That 節，Whether 節，形容詞に注意 21　Unit 10　To 不定詞の名詞用法 22　To 不定詞を取る動詞・形容詞に注意 23　Unit 11　動名詞 24　動名詞とその前後の単語との関係に注意 25　Unit 12　従属接続詞 26　Unit 13　仮定法 27　まとめ *【教職員間授業公開日：4/28（木），10/3（月）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（20%），宿題他提出物（20%），テスト（50%）						
テキスト	中郷慶他著『読める英文法・聞ける英音法』（英宝社）						
参考書	綿貫陽・マークピーターセン共著『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社） *Oxford Advanced Learner's Dictionary*（旺文社）						
その他特記事項	上記のリザーブブックを活用して自主的に実力アップを図ってください。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（ライティング）				担当者名	J. Dizon	
開講期	春 / 秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	The aim of this course is to help students become confident and independent writers in English. Students will be taught how to write cohesive paragraphs and organize these paragraphs into clear compositions. In addition, students will learn the importance of brainstorming, drafting and revision.						
授業の概要	In class students will work in pairs or in groups to brainstorm ideas and to give feedback. Students will have the opportunity to write about topics that interest them.						
準備学習の内容	Some classes will be conducted in the computer room, allowing students to gather information from the Internet for their assignments. However, students should be aware that plagiarism will not be tolerated. For the course, each student should have a memory stick to store assignments.						
各回の授業内容	1 Course Outline Common Writing Mistakes 2-3 Specific Information (Write about Yourself) 4 Peer Editing 5-8 Interview / Direct & Indirect Quotations (Write about a Person) 9-10 Language & Structure (Write a Formal Letter) 11-14* Listing Adjectives & Verb Tense Consistency (Telling a Story) 15 Language & Structure (Write a Friendly Letter) 16-19 Paragraphs & Topic Sentences (Write a Tourist Guide) 20-23 Compound Sentences & Summarizing a Story (Write a Movie Review) 24-27 Facts & Information / Expressing Ideas & Opinions (Write a Speech) *【教職員間授業公開日：5/26（木）】						
評価方法	Evaluation will be based on attendance (15%), class participation (15%), assignments (50%), and tests (20%)						
テキスト	David Olsher, *Words in Motion: An Interactive Approach to Writing* (Oxford University Press)						
参考書	Have an *English-English* dictionary and a thesaurus.						
その他特記事項	*Plagiarism* will not be tolerated. *Assignments* must be typed.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（リーディング）				担当者名	服部 通子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	英米短編の各作品の世界や登場人物を理解し，内容について討論することを通して広い視点からものを見ることができるようになります。作品の要約をすることで，重要事項を把握し分かりやすく表現する力が養われます。						
授業の概要	英文法・単語の知識を確認しながら正確に読解し，適切な日本語で和訳していきます。表現解釈についてはグループで討論し，各作品の要約・感想文についてはクラスで読了後，各自が次週に提出します。						
準備学習の内容	予習時に必ず音読し，不明な箇所を質問できるようにしておくこと。復習時は物語の流れの確認と文法事項を意識しながら，2 回音読すること。要約・感想文は文章修行と考えて，1 時間はかけて推敲し清書して提出すること。						
各回の授業内容	1　授業紹介，英英辞書の使い方 2　“The First Day of School” by William Saroyan 3　初めて登校した日の友人との出来事を父親に話して… 4　“The Strawberry Season” by Erskine Caldwell 5　苺摘みの季節労働者たちの楽しみは… 6　〃 7　〃 8*　“Indian Camp” by Ernest Hemingway 9　医師である父と居留地にお産の手伝いに行って… 10　〃 11　“A Dead Secret” by Lafcadio Hearn 12　若くして亡くなった母親が幽霊になって現れ… 13　〃 14　〃 15　“A Love Story” by Herbert E. Bates 16　私が恋に落ちた時クリスティナは 17 歳で… 17　〃 18　〃 19　“Witches’ Loaves” by O. Henry 20　毎日古くなった半額のパンだけ買うお客へのサービスが… 21　“I Spy” by Graham Greene 22　お父さんの秘密を図らずも覗いてしまった息子は… 23　〃 24　“The Happy Man” by Somerset Maugham 25　私の忠告に従って幸福になった人と再会して… 26　〃 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/12（木）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（20%），レポート他提出物（40%），テスト（30%）						
テキスト	安永義夫編, *The Happy Man and Other Stories —British & American Short Stories II—*（金星堂）						
参考書							

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（リーディング）				担当者名	國分 有穂	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	英文を構造で捉え，その論理的展開をつかむという練習を通し，「速読」「精読」のための基本的技術を身につける。英文をチャンクで理解し，出来る限り英語で英語を理解する訓練も同時に行う。また，トピックに関してディスカッションを行い，簡単な表現を用いて英語で自分の意見を言えるようになることも目指す。						
授業の概要	雑誌や新聞からの様々なジャンルの英文を多読し，速読・精読のコツを紹介する。読解能力向上に必要不可欠な語彙力の増強も図る。速読・速聴・発話能力の向上のため，シャドーウィングを用いた訓練も行う。						
準備学習の内容	毎回授業後，再度エッセイを読み返し復習を行うこと。その後，英英辞書を使用し，次回の授業で扱うエッセイ中の分からない単語を調べておくこと。						
各回の授業内容	1 Class Introduction 2 Phrase Reading 3 Scanning 4 Skimming 5 Conclusions / Reasons 6 Analysis 7 Theory / Proof 8 Controversy 9 Comparison / Contrast 10 Topic (1) 11 Classification 12 Topic (2) 13 Instructions 14 Review 15 Chronological Order (History) 16 Topic (3) 17 Cause & Effect 18 Topic (4) 19 Process 20* Topic (5) 21 Explanation (New Product) 22 Topic (6) 23 Explanation (Statistics) 24 Practice 25 Definition 26 Presentation 27 Review *【教職員間授業公開日：6/24（金）】						
評価方法	Attendance (20%), Active Participation in Class Activities (20%), Homework Assignment (15%), Presentation (15%), Final Exam (30%)						
テキスト	Yumiko Ishitani, John Wallis, and Suzanne Embury, *Skills for Better Reading: Structures and Strategies (Revised Edition)* (Nan'un-do)						
参考書	Sandra Heyer, *EASY TRUE STORIES* (Longman) 秋葉利治，その他『英単語・熟語ダイアローグ 1800—対話文で覚える』（旺文社）						
その他特記事項	積極的な授業参加，及び自宅学習，「復習」が必要です。 また，講義中に適切なノートを作成することが大切です。 英英辞書を使用します。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（リーディング）				担当者名	石原 久子	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	読解力が養成されると同時に，イギリスの社会背景や文化背景や歴史背景についての理解が深まります。応用力が身に付くので，各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	注意すべき単語や慣用表現を確認しながら文章を精読し，その後，各種の練習問題に取り組みます。						
準備学習の内容	毎回の授業で 2，3 ページ読むので，その準備として，40 分から 45 分の予習が必要です。						
各回の授業内容	1　イントロダクション 2*　Stonehenge 3　Hadrian's Wall 4　The Arrival of the Anglo-Saxons 5　The Normans and the Domesday Book 6　The English Language 7　The Monarchy in Britain 8　The Government of Britain 9　Religion in Britain 10　確認テスト（1） 11　Festivals in Britain 12　Education in Britain 13　Universities in Britain 14　Newspapers in Britain 15　The British Museum 16　William Shakespeare 17　Sherlock Holmes and the Detective Story 18　The Culture of Children 19　確認テスト（2） 20　Popular Music in Britain 21　The National Trust 22　Stores 23　Britain and the Railways 24　Beer and Pubs 25　Tea and Food in Britain 26　Britain and Sport 27　Britain and the World *【教職員間授業公開日：9/15（木）】						
評価方法	出席（25%），予習状況（25%），テスト（50%）						
テキスト	*On Britain—An Introduction*（開文社）						
参考書	『イギリスを知るための 65 章』（明石書店） 『イギリス文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（パブリックスピーキング）				担当者名	S. Howell	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	Students will gain self-confidence by speaking to their classmates in English several times. They will realize they must provide some advantage to the listeners in the Introduction to each speech.						
授業の概要	We will follow the textbook divisions as they are given in the new edition. The DVD for the students with (too excellent) model speeches will be used, as well as the listening CD that comes for the teacher.						
準備学習の内容	About an hour for every two classes will be needed. Visuals will need to be prepared: either PowerPoint slides or well-drawn A3-sized charts.						
各回の授業内容	1 Class and textbook described. Self-introductions and posture checks start. 2 Self-introductions and posture checks completed. 3 The Physical message section will be covered: the contents include gestures and voice inflection. 4 Gestures and voice inflection continue. Students prepare the first short speech: pairs or trios are welcome. 5 Preparation continues. 6 Presentations of first short speeches 7 Presentations of first short speeches 8 Explanation of second short speech; selections of topics 9 Explanations, checks, and beginning of second presentations 10 Second short speeches continue. 11 Second short speeches conclude; Introduction to Visual Messages 12 Poor and good visuals from the textbook. 13* Preparation and presentation of two visuals: one with words and pictures and one with a mathematical graph. Visibility will be checked. 14 Continue visuals. 15 Finish visuals; start Story topic selection. 16 Introductions 17 Introductions, especially motivation 18 Three or more main points; transitions 19 Body and Conclusions; begin practice presentations. 20 Body and Conclusion; check integration of visuals. 21 Practice of parts, as needed 22-27 Presentations *【教職員間授業公開日：5/31（火）】						
評価方法	Attendance (40%), Preparation for Presentations (30%), Presentations (30%)						
テキスト	David Harrington and Charles LeBeau, *Speaking of Speech New Edition* (MacMillan)						
参考書							

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（ディスカッション）				担当者名	S. Howell	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	Students will learn to give English summaries of discussions of value and policy topics.						
授業の概要	We will follow the textbook. When we finish, we will move to policy-determining discussions, using copies of materials in English.						
準備学習の内容	Some parts of the textbook will be covered during classk and other parts will be assigned as homework, taking perhaps 20-30 minutes.						
各回の授業内容	1 Self-introductions and textbook overview. 2 Unit One: Eating Well; exercises from the textbook 3 Unit One: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 4 Unit Two: Personality types; exercises from the textbook 5 Unit Two: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 6 Unit Three: Sports / Music; exercises from the textbook 7 Unit Three: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 8 Unit Four: Animal rights; exercises from the textbook 9 Unit Four: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 10 Unit Five: Lifestyles; exercises from the textbook 11* Unit Five: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 12 Unit Six: Drinking / Smoking; exercises from the textbook 13 Unit Six: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 14 Unit Ten: Man's Best Friend; exercises from the textbook. 15 Unit Ten: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 16 Unit Thirteen: The Influence of Televison; exercises from the textbook 17 Unit Thirteen: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 18 Unit Fourteen: Summer or Winter?; exercises from the the textbook 19 Unit Fourteen: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 20 Policy Making discussion: Introduction of English explanation materials 21 Policy Making themes chosen; agents are specified 22 Preparation for group presentations / discussions 23 Group discussions, presentations, and feedback 24 Revised group presentations 25-27 Repeat classes 20-23 for another policy. *【教職員間授業公開日：10/14（金）】						
評価方法	Attendance (50%), Participation (40%), Homework (10%)						
テキスト	Paul McLean, *My Opinion, Your Opinion Second Edition* (Macmillan Language House)						
参考書	Some explanation material in English will be provided.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（アカデミックリスニング）				担当者名	G. Freddes	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	In this course students will develop the ability to comprehend academic talks, interviews and lectures on a variety of topics at the intermediate level.						
授業の概要	Students will engage in intensive listening activities in and outside the class. Students will develop the background knowledge and vocabulary necessary for successful listening comprehension by reading, discussing and writing about the topic.□						
準備学習の内容	Students will complete textbook and other writing assignments and visit the class website to listen to the lectures. This will require at least 30 minutes. Additionally, students will be required to do at least one hour of independent listening activities per week and keep a journal.						
各回の授業内容	1 Introduction 2-3 Happiness (Psychology) 4-5 A Time to Learn (Linguistics) 6-7* Sleep (Public Health) 8-9 Negotiating for Success (Business) 10-11 Modern Art (Art History) 12-13 Robots (Technology) 14-15 Video Games (Media Studies) 16-17 Genetically Modified Food (Biology) 18-19 The Search for Extraterrestrial Intelligence (Astronomy) 20-21 Journey to Antarctica (History) 22-23 Ethics (Philosophy) 24-25 Opportunity Cost (Economics) 26 Review and evaluation 27 Evaluation *【教職員間授業公開日：5/6（金）】						
評価方法	Attendance (15%), participation (15%), written assignments (30%), quizzes and a test (40%)□						
テキスト	Helen S. Solorzano and Laurie Frazier, *Contemporary Topics 1 (3rd Edition): Academic Listening and Note-Taking Skills* (Pearson Longman)						
参考書	English Listening Lesson Library Online: www.elllo.org Vocabulary Exercises for the Academic Word List: www.academicvocabularyexercises.com						
その他特記事項	An MP3 Player is highly recommended for listening to podcasts outside class.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（TOEIC 対策）				担当者名	裘 哲求	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	本番の TOEIC と同じ形式の問題を計 2 回解くことで，TOEIC の問題を知り，慣れ親しむ。得点だけの向上ではなく，英語で聞いて考えことができ，また簡単な質問に英語で答えられるようになる。						
授業の概要	スケジュール通りのテキスト問題を解きながら，時間がある限り，当日扱った内容の語彙チェック・dictation 等を行う。授業の中で繰り返して使う教室英語（Classroom English）は英語のままで行う。						
準備学習の内容	次の授業で扱うところの語彙・表現の自主的予習（≒1 時間）， 特に聞き取り（listening comprehension）を伸ばしたい人は，責任をもって自分で CD を繰り返して聞くこと。						
各回の授業内容	1 Course Description, Classroom English, & Introduction to TOEIC 2 Test 1: Qs. 1-20 (Parts 1&2: Listening) 3 : Qs. 21-40 (Part 2: Listening) 4 : Qs. 41-58 (Part 3: Listening) 5* : Qs. 59-76 (Parts 3&4: Listening) 6 : Qs. 77-100 (Part 4: Listening) 7 : Qs. 101-120 (Part 5: Reading) 8 : Qs. 121-140 (Part 5: Reading) 9 : Qs. 141-152 (Part 6: Reading) 10 : Qs. 153-161 (Part 7: Reading) 11 : Qs. 162-171 (Part 7: Reading) 12 : Qs. 172-185 (Part 7: Reading) 13 : Qs. 186-200 (Part 7: Reading) 14 Mid-term exam 15 Test 2: Qs. 1-20 (Parts 1&2: Listening) 16 : Qs. 21-40 (Part 2: Listening) 17 : Qs. 41-58 (Part 3: Listening) 18 : Qs. 59-76 (Parts 3&4: Listening) 19 : Qs. 77-100 (Part 4: Listening) 20 : Qs. 101-120 (Part 5: Reading) 21 : Qs. 121-140 (Part 5: Reading) 22 : Qs. 141-152 (Part 6: Reading) 23 : Qs. 153-161 (Part 7: Reading) 24 : Qs. 162-172 (Part 7: Reading) 25 : Qs. 173-185 (Part 7: Reading) 26 : Qs. 186-200 (Part 7: Reading) 27 REVIEW *【教職員間授業公開日：4/29（金）】						
評価方法	Active attitude toward learning & respect for friends and the teacher (40%), Mid-term exam (30%), Final exam (30%)						
テキスト	Educational Testing Service『TOEIC テスト 新公式問題集 Vol. 4』(TOEIC 運営委員会)						
参考書	阿川敏恵『TOEIC テスト英文法・語彙の押さえドコ』（ティエス企画） 成重寿『TOEIC TEST 英単語スピードマスター』（J リサーチ）						
その他特記事項	大人としての自覚を持って行動すること。Behave like and as an adult. Aim high and try to get the most out of your teacher.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（TOEIC 対策）				担当者名	秋庭 大悟	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	TOEIC スコアの向上を目指し，リーディング，リスニング，文法，語彙の各スキルを総合的に学習する。また，出席者が各自で自己分析を行い自分の苦手分野を把握し，自身で具体的な学習計画を組み立てられるようにする。						
授業の概要	練習問題の解説を行った上で，実践的な問題を解いていく。また，毎回 1 つのパートに焦点をあて，パート別の対策を解説する。定期的な単語の小テストあり。						
準備学習の内容	毎回テキストの練習問題を事前に解いてくること（30 分程度）。また，毎回実施する単語テストに備え，単語の学習を行うこと。						
各回の授業内容	1　ガイダンス，第 1 回実力診断テスト（リスニング：以下 L） 2　第 1 回実力診断テスト（リーディング：以下 R） 3　Unit 1 Business Communication (1), パート解説 Part 1 4　Unit 2 On the Telephone, パート解説 Part 5 5　Unit 3 Preparing Food, パート解説 Part 2 6　Unit 4 In the Work Place, パート解説 Part 6 7　Unit 5 Shopping (1), パート解説 Part 3 8　Unit 6 Using Transportation, パート解説 Part 7 9　Unit 7 Daily Life, パート解説 Part 4 10　Unit 8 Residence (1), パート別対策（R） 11　Unit 9 Making Excuses, パート別対策（L） 12　Unit 10 Business Communication (2), パート別対策（R） 13　第 2 回実力診断テスト（L），パート別対策（L） 14　第 2 回実力診断テスト（R） 15　Unit 11 Travel (1), パート別対策（R） 16　Unit 12 Complaining, パート別対策（L） 17　Unit 13 Personal Affairs, パート別対策（R） 18*　Unit 14 Negotiations, パート別対策（L） 19　Unit 15 Weather, パート別対策（R） 20　Unit 16 Events, パート別対策（L） 21　Unit 17 Residence (2), パート別対策（R） 22　Unit 18 Travel (2), パート別対策（L） 23　Unit 19 Shopping (2) パート別対策（R） 24　Unit 20 Job Hunting, パート別対策（L） 25　第 3 回実力診断テスト（R） 26　第 3 回実力診断デスト（L） 27　まとめ *【教職員間授業公開日：11/15（火）】						
評価方法	出席・授業参加（40%），小テスト（20%），期末テスト（40%）						
テキスト	①大学英語教育改革フォーラム（監修）ヒロ前田他著 『Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST Step 3 Advanced Course』（アルク） ②『TOEIC テスト新公式問題集　Vol. 4』 （国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会）						
参考書							

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（職場の英語）				担当者名	裵 哲求	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	In this advanced Business English course, students will learn common communication styles and essential expressions in specific business situations such as business calls, presentations, and negotiations. Students are expected to manipulate those imperative communication skills without getting help from the text by the end of the semester.						
授業の概要	1. A quick check for basic Qs / expressions in each unit (Language / Skills Checklist) 2. Reading, Listening, Pair work, etc, as shown in the text.						
準備学習の内容	Students are supposed to check the basic meanings of unfamiliar words and expressions before coming to class. (1-1.5 hours → Minimum Requirement)						
各回の授業内容	1 Course Description, Self-intro., & Classroom English 2 Unit 1 Building a relationship 3 Unit 1 Building a relationship & Unit 2 Culture and entertainment 4 Unit 2 Culture and entertainment 5* Unit 3 Could I leave a message? 6 Unit 3 Could I leave a message? & Unit 4 Good to hear from you...! 7 Unit 4 Good to hear from you again! 8 Unit 5 Unfortunately there's a problem… 9 Unit 5 Unfortunately there's… + Introduction to "Presentations" 10 Presentation by the teacher & Planning for Group Presentations 11 Unit 6 Planning and getting started 12 Unit 6 Planning and getting started & Unit 7 Image, impact and... 13 Unit 7 Image, impact and making an impression 14 Unit 8 The middle of the presentation 15 Unit 8 The middle of the presentation & Unit 9 The end is near... 16 Unit 9 The end is near... this is the end 17 Group Presentations 1・2 18 Group Presentations 3・4 19 Unit 10 Making meetings effective 20 Unit 10 Making meetings effective & Unit 11 Sorry to interrupt,... 21 Unit 11 Sorry to interrupt, but... 22 Unit 12 What do you mean by…? 23 Unit 12 What do you mean by…? & Unit 13 Know what you want 24 Unit 13 Know what you want 25 Unit 14 Getting what you can 26 Unit 14 Getting what you can & Unit 15 Not getting what you don't... 27 Unit 15 Not getting what you don't want *【教職員間授業公開日：4/29（金）】						
評価方法	Active attitude toward learning & respect for friends and the teacher (40%), Group presentation (30%), Final exam (30%)						
テキスト	Simon Sweeney, *Communicating in Business Student's Book* (Cambridge University Press)						
参考書	小島加奈子（他）『ビジネス英語シンプル会話表現 400』（Z 会） 勝木 龍（他）『ビジネス英会話フレーズ 2255』（すばる舎）						
その他特記事項	大人としての自覚を持って行動すること。Behave like and as an adult.						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（ライティング）				担当者名	S. Howell	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	Students will make writing mistakes and will learn from their own mistakes and those of their classmates. They will learn many new vocabulary items from the textbook and from the good writing examples of their classmates						
授業の概要	Students will write during each class. Corrections will be made on the spot or before the next class. Everything each student writes will be returned with corrections and suggestions.						
準備学習の内容	Some writing assignments that are not finished by the end of a class will be taken home and completed as homework assignments. Each may take 30-40 minutes.						
各回の授業内容	1 Introduction of class and textbook; writing attitude; subject, purpose 2 Subject, purpose, attitude; reading of examples; audience 3 Write two paragraphs, topic is free 4* Prewriting = Brainstorming 5 Try freewriting, end of chapter one 6 Paragraphs: topic sentence, focus 7 Evaluate and select topic sentences; find supports in sample paragraphs 8 Practice writing supporting sentences 9 Check for unity in paragraphs 10 Organization; transition signals 11 Write practice paragraphs: subjects suggested 12 Revising and editing 13 More revising and editing 14 What is an essay: Introduction, Body, Conclusion 15 Deeper analysis of introduction and thesis statements 16 Finding a focus, following essay prompts 17 Conclusions and transitions 18 Types of Essays introduced; students will select order. 19-25 We will follow the textbook for whatever types of essays the students want to emphasize. 26-27 Writing for applications for transfer / employment *【教職員間授業公開日：4/26（火）】						
評価方法	Attendance (60%), Quality of written work (30%), Mutual cooperation (10%).						
テキスト	Karen Blanchard and Christine Root, *Ready to Write 3 From Paragraph to Essay third edition* (Longman)						
参考書							

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（ディベート）				担当者名	S. Howell	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	All students will suffer by being forced to give reasons for their opinions rather than just 'I like…' or 'I prefer….' Some will learn how to defend these reasons when they are attacked or when contrary opinions are defended.						
授業の概要	I will use the explanations and vocabulary in the textbook. Quizzes will come from the Teacher's Manual. We will find a resolution on which the opinions of the students are evenly divided and use it for tennis debates and earlier evidence location.						
準備学習の内容	Many classes do not require homework. A few textbook pages will function as take-home quizzes. 45 minutes per three classes roughly.						
各回の授業内容	1 Self-introductions; overview of debate in Japan, especially high school debate 2 Unit one of textbook: opinions of value or policy or fact 3 Giving reasons; we will find a class resolution 4 More about giving reasons 5 Introduction and conclusion templates 6 Giving supports 7 Evidence for both sides of the class resolution 8 Model affirmatives for a two-sided resolution 9 Research on both sides of the resolution 10 Patterns of negative cases 11 Evidence selection and evidence attacks 12* Begin tennis debates 13 Tennis debates will continue 14 Tennis debates will continue until each student has tried twice 15 Deepening of explanations about evidence attack and defense 16 Details about high school debate topics and procedures: Kanagawa 17 Flowing debates and judging debates 18 Practice with Cats and Dogs debate in textbook 19 Continue practice (If students desire more tennis debates, these will replace some of lessons 20-27.) 20 Video disk of high school championships 21 Continue video disk; 2011 high school championships 22 View tape of parliamentary debates 23 Continue parliamentary tape 24 Olympic site debate 25 Continue Olympic site debate 26 Analysis of these arguments 27 Overview of textbook and homework *【教職員間授業公開日：10/18（火）】						
評価方法	Attendance (60%), Class Participation (20%), homework and quizzes (20%)						
テキスト	Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington, *Discover Debate* (Language Solutions)						
参考書	Some materials about Japanese high school debating in English						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（学術論文作法）				担当者名	R. Burton	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	This writing course guides students to an academic style and rigor sufficient for writing research papers.						
授業の概要	Class time is mostly devoted to the writing process itself. We work very quickly through many explanations and examples in the textbook. Lectures briefly point out the language choices available for particular rhetorical patterns. Students then put this language to use to ensure that their writing is clear and does not lack integrity.						
準備学習の内容	To make the most of class time, students should read the example essays in the textbook. The essays are more interesting than most writing textbooks and the teacher will give you notes to help your understanding.						
各回の授業内容	1 Course introduction and overview 2 Unit 1 Basic structure of essays 3* Introductions with hooks, thesis statements and topic sentences 4 Bodies and supporting statements 5 Conclusions 6 Syntax review 7 A 7-step writing process 8 Summary writing and using quotations 9 Unit 2 Narrative patterns 10 Narrative connectors for time and enumeration 11 Peer editing 12 Unit 3 Comparison and contrast patterns 13 Connectors for comparison 14 Mechanics of punctuation 15 Unit 4 Cause and effect patterns 16 Connectors for cause and effect 17 Contributory causes, side and knock-on effects 18 Hedging and implication 19 Argumentative essays 20 Common errors to avoid 21 Facts or opinions, and pros or cons for whom, and for how long? 22 Claim plus support 23 Counterargument and refutation 24 Selecting a tone with modals 25 Problem solution evaluation essays 26 More summaries and quotations plus your bibliography 27 Internet searching techniques *【教職員間授業公開日：9/16（金）】						
評価方法	Attendance (10%), Class participation (30%), Homework (30%), Test (30%)						
テキスト	Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, Elena Vestri Solomon, *Great Writing 4 - Great Essays* (Heinle-Cengage Learning)						
参考書							
その他特記事項	The brief lectures are supported by handouts.						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（多読速読）				担当者名	高橋 絹子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	数多くの文章の読解と文章理解に関するエクササイズを通して，多読力・速読力を伸ばすことが目的。授業では多読力・速読力養成のために必要な英文読解の技術の修得を行う。そのような作業を，様々な種類の英文を読むことにより行う。						
授業の概要	毎回の授業は，長文に関する英語での質疑応答が中心となり進められる。その際，センテンス，パラグラフ，パッセージの持つ主要な考えを読み取り，文章の論理的構成と発展を理解し，文章の提示する意見を批判的に考察する訓練を行う。						
準備学習の内容	予習（45 分）予め与えられた課題を読んでくる。 復習（30 分）単語の整理など						
各回の授業内容	1-7 Reading materials: newspaper articles; legal documents; personal letters; a social worker's report. Reading skills: understanding how information is organized; finding the topic of each paragraph; dealing with technical readings; identifying the author's purpose; making inferences; looking for language signals; reading spoken language. 8-13 Reading materials: an encyclopedia article; how-to instructions; a book chapter; movie reviews; an academic article. Reading skills: examining organization; understanding and using subtitles; understanding the format of a text; understanding what words refer to; summarizing; understanding the author's tone; understanding the use of examples; looking for guiding sentences. 14-19 Reading materials: newspaper articles and magazine articles with graphs. Reading skills: understanding and using graphs; understanding different levels of information; analyzing problems and finding a solution. 20-26* Reading materials: academic texts; an interview; magazine articles. Reading skills: learning how to understand complex concepts and arguments. *【教職員間授業公開日：7/8（金）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（30%），テスト（60%）						
テキスト	Anne Ediger & Cheryl Pavlik, *Reading Connections: Skills and Strategies for Purposeful Reading (Intermediate)* (Oxford University Press)						
参考書							

英語科目

科目名	上級英語スキルズ （編入対策）				担当者名	平野 幸治	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	この授業で何が身に付くのか？受講生それぞれが興味を持つ専門分野を端的に表現する専門用語を中心にその keywords を理解すること，対話のスキル及び論述・記述形式の設問に慣れること，適切な解答作成の技術が身に付く，以上。						
授業の概要	授業は，学生の発表，学生によるパネル・ディスカッション，topics・keywords の解説，リアクション・ペーパーの添削と返却，further reading のリストの配布，編入の過去問の解題等を適宜行う。						
準備学習の内容	授業ごとに毎回過去問の答案作成や課題文の要約等学生によって個人差はあるが約 1 時間半から 2 時間を要する事前準備を期待する。						
各回の授業内容	1-6　経済学・法学・国際関係論のトピックスを読む・書く ［2009 年度は，以下の書籍の一部を読んだ］ Partha Dasgupta, *Economics: A Very Short Introduction* (Oxford UP) Kenneth Minogue, *Politics* (Oxford UP) Manfred B. Steger, *Globalization* (Oxford UP) The Inaugral Address of Barack Obama 7-12*　社会学，特に家族・公共性・ジェンダー・（社会学の視点で見た）文化のトピックスを読む・書く Steve Bruce, *Sociology: A Very Short Introduction* (Oxford UP) Anthony Giddens, *Sociology* (Polity Press) パネル・ディスカッションのテーマ：『日本の論点 2007』（文藝春秋社）―皇位継承問題のゆくえ― 13　中間テスト 14-19　哲学・文学・歴史・文化のトピックスを読む・書く Edward Craig, *Philosophy* (Oxford UP) Lewis Copeland, *High School Subjects Self Taught* (Doubleday) John H. Arnold, *History* (Oxford UP) パネル・ディスカッションのテーマ：『日本の論点 2008』（文藝春秋社）―ロハス・ブームは本物か― 20-23　教育・心理学のトピックスを読む・書く Lewis Copeland, *High School Subjects Self Taught* (Doubleday) Robert Wokler, *Rousseau* (Oxford UP) Gillian Butler & Freda McManus, *Psychology* (Oxford UP) 24-27　言語学のトピックスを読む・書く P. H. Matthews, *Linguistics* (Oxford UP) *【教職員間授業公開日：10/7（金）】						
評価方法	授業参画（30%），発表（10%），テスト（60%）						
テキスト	『10 日間完成英検準 1 級一次試験対策』（南雲堂） 適宜，プリントを配布する。						
参考書	『日本の論点 2010』（文藝春秋社） 『朝日キーワード 2010-11』（朝日新聞社）						

教養科目＜必修＞

科目名	人間学Ⅰ / 人間学Ⅱ			担当者名	岩崎 明子，小林 宏子，桝田 絢子，田村 和子，阿部 善彦		
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	1 年
授業の目標	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づく人間観を学び，かかわりの中で人格として生きる人間の尊厳を理解する。他者と共に生き，他者への奉仕を通して，よりよい社会の建設に貢献する女性となる自覚を持つことができる。						
授業の概要	春学期に，人格的主体となる個人としての「人」の生を理解した上で，秋学期は，具体的現実の中で関係性を生きる人間の課題を考察する。刻々と変化する社会環境の中にある諸問題を，絶えず全人的な成長を促す課題と捉え，積極的に応答する人間の尊厳について学ぶ。						
準備学習の内容	各担当教員によって課題の内容は異なるが，毎回，テキスト熟読のための時間を必要とする。						
各回の授業内容	（人間学Ⅰ） 1　生命とのかかわり（生命と進化） 2　生命とのかかわり（人間的行動の特徴） 3　自分とのかかわり（意識の発達） 4　自分とのかかわり（意識の発達） 5　自分とのかかわり（自由） 6　自分とのかかわり（自由） 7　自分とのかかわり（モラル） 8　自分とのかかわり（モラル） 9　他者とのかかわり（対話） 10　他者とのかかわり（対話） 11　他者とのかかわり（成熟とエロス） 12　他者とのかかわり（成熟とエロス） 13　まとめ 【教職員間授業公開日：岩崎 7/6（水），小林 5/18（水），桝田 未定，田村 6/15（水），阿部（1 限・2 限）4/20（水）】 （人間学Ⅱ） 14　自然とのかかわり（東洋と西洋の自然観） 15　他者とのかかわり（人間と家庭） 16　他者とのかかわり（愛における成熟） 17　社会とのかかわり（人間と国家） 18　社会とのかかわり（国際的連帯性） 19　社会とのかかわり（国際的連帯性） 20　深みの次元とのかかわり（生と死） 21　深みの次元とのかかわり（生と死） 22　深みの次元とのかかわり（宗教と宗教心） 23　深みの次元とのかかわり（宗教と宗教心） 24　深みの次元とのかかわり（キリスト教的人間観） 25　深みの次元とのかかわり（キリスト教的人間観） 26　まとめ 【教職員間授業公開日：岩崎 10/5（水），小林 11/9（水），桝田 未定，田村 11/30（水），阿部（1 限・2 限）9/21（水）】						
評価方法	出席（20%），授業参画（発表・リアクションペーパー・小レポートなど）（50%），期末レポートまたはテスト（30%）						
テキスト	ハイメ・カスタニエダ，井上英治編『現代人間学』（春秋社）						
参考書	『叡智を生きる―他者のために，他者とともに』（上智大学出版）						
その他特記事項	担当者ごとに授業展開の順序や時間配分，及び教職員間授業公開日は異なる。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	社会的弱者の側に立つキリスト教ヒューマニズムに基づき授業外や長期休暇期間の国内外のボランティア活動，コミュニティー・サービスの経験を推奨する。				

教養科目

科目名	歴史学			担当者名	森下 園		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	近年の歴史認識をめぐる議論で使われる用語・概念を理解し，受講生がそれを用いて「他者とともに生きる歴史」について各自の見解を論述できるようにする。						
授業の概要	近代に成立した「歴史学」の解体作業を通して，「唯一絶対の歴史」にひそむ西欧中心主義と，近代国家のための「物語」として創出された「他者を排除する歴史」の見直しをはかる。「世界史」の講義ではないので，注意すること。						
準備学習の内容	各回の講義後に，プリント・ノートから要点をまとめておくこと。これを怠ると課題提出に支障をきたすので注意すること。						
各回の授業内容	1　「歴史学」とはどんな学問か 2　歴史学の歴史（1）西洋古代～中世 3　歴史学の歴史（2）啓蒙時代 4　歴史学の歴史（3）中国 5　歴史学の歴史（4）日本 6　歴史学の歴史（5）ランケ史学 7　歴史学の歴史（6）アナール派の登場 8*　史料を読むために（1）古書体学，古書冊学，文書形式学 9　史料を読むために（2）図像解釈学と絵画資料 10　史料を読むために（3）考古学と文化人類学 11　史料を読むために（4）オーラルヒストリー 12　理論（1）構造主義とポスト構造主義 13　理論（2）言語論的転回と歴史学 14　理論（3）比較文学とポストコロニアリズム 15　理論（4）歴史修正主義と社会構築主義　＜課題 1 提出日＞ 16　理論（5）ジェンダーと歴史学 17　歴史とメディア（1）写本からマス・メディアの登場まで 18　歴史とメディア（2）現代メディアの問題点 19　歴史教育（1）国際歴史教科書問題　＜課題 2 提出日＞ 20　歴史教育（2）英国の歴史教育 21　歴史教育（3）日本で今問われていること 22　研究紹介（1）マルク・ブロック『王の奇跡』 23　研究紹介（2）網野善彦『異形の王権』 24　研究紹介（3）ナタリー・Z・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール』 25　研究紹介（4）ミッシェル・フーコー『監獄の歴史』　＜課題 3 提出日＞ 26　研究紹介（5）エドワード・サイード『オリエンタリズム』 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/12（木）】						
評価方法	学期中の課題（ノートのまとめ）が各 10%×3 回＝（30%），プリント・自筆ノート持ち込み可のペン書き論述式の学期末試験を（70%）として評価する。なお，6 回以上の欠席は不可とする（就活などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし，プリント配布						
参考書	J・H・アーノルド『1 冊でわかる歴史学』（岩波書店）						
その他特記事項	板書はしない方針なので，ノートを取る工夫を各自がすること。20 分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

教養科目

科目名	哲学			担当者名	白井 雅人		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	「私」や「自己」についての哲学的な考え方を学ぶことによって，自分自身のアイデンティティに対するしっかりした見解を持つ。その上で，さまざまな問題に関わることができるようになることを目指す。						
授業の概要	「私とは何だろうか」という問題に対して，哲学者たちがどのように考えてきたのかを見ていく。さらに，「私」をめぐる現代的な諸問題，フェミニズムや生命倫理といった問題も考えていきたい。						
準備学習の内容	哲学に関する予備知識がなくても授業に参加できるように，できるだけ分かりやすく説明したい。						
各回の授業内容	1　イントロダクション：私とは何か？ 2　ソクラテス：汝自身を知れ 3　プラトン（1）：本当にあるものとは？ 4　プラトン（2）：洞窟に囚われた私 5　古代ギリシアの幸福論（1）：アリストテレス 6　古代ギリシアの幸福論（2）：ストア派 7　古代ギリシアの幸福論（3）：エピクロス派 8*　デカルト（1）：考える私 9　デカルト（2）：心と体 10　カント（1）：知る私 11　カント（2）：行為する私 12　ヘーゲル（1）：精神の弁証法 13　ヘーゲル（2）：絶対精神への道 14　ニーチェ（1）：遠近法主義 15　ニーチェ（2）：力への意志 16　ハイデガー（1）：自分の可能性を生きる 17　ハイデガー（2）：死に向かう存在 18　ウィトゲンシュタイン（1）：語り得ぬ私 19　ウィトゲンシュタイン（2）：言語ゲーム 20　フェミニズム（1）：ジェンダー・トラブル 21　フェミニズム（2）：女性と他者 22　フェミニズム（3）：クィアな私 23　ケアの倫理：相手を受け止める 24　生命倫理（1）：歴史的状況 25　生命倫理（2）：交流する命 26　生命倫理（3）：他者の命 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/13（金）】						
評価方法	出席（30%），リアクションペーパー（30%），テスト（40%：ノート持ち込み可）						
テキスト	適宜プリントを配布する。						
参考書							

教養科目

科目名	女性と哲学			担当者名	田内 千里		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	女性について，現代思想（第一部）と聖書（第二部）に学ぶことによって，哲学的批判精神を培い，同時に，人間の本質と可能性についての理解を深めることを目標とする。						
授業の概要	第一部・第二部ともにテキストに沿って講義を行うが，第一部ではテキストの著者が前提としている哲学の知識を可能な限り検証しつつ批判的な読解を試み，第二部ではフェミニズムの視点から聖書を読む。						
準備学習の内容	西洋哲学史の本を一冊以上，第二部のテキストは前もって読んでおく。						
各回の授業内容	1　導入 2　第一部：『ジェンダー・トラブル』という書物 3　「ひとは女に生まれない，女になる」（シモーヌ・ド・ボーヴォワール）（1） 4　「ひとは女に生まれない，女になる」（シモーヌ・ド・ボーヴォワール）（2） 5　ジェンダーとアイデンティティ 6　言語と権力 7　構造主義 8　精神分析におけるジェンダー 9　女性を演ずる：「仮装概念」 10　ジュリア・クリステヴァ 11　ミシェル・フーコー 12　モニク・ウィティッグ 13　まとめ 14*　第二部：哲学とキリスト教 15　聖書と父権制 16　フェミニズム神学の目指すもの 17　創造における女性（1） 18　創造における女性（2） 19　出エジプトに関わった女性，ミリアム 20　ルツ 21　マルタとマリア 22　「女のかしらは男である」（I コリント 11.2 以下） 23　家族 24　イエスの母マリア 25　マグダラのマリア 26　解放と癒し（ルカ 13.10-17 腰が曲がったままの女性） 27　まとめ *【教職員授業公開日：10/28（金）】						
評価方法	出席（40%），リアクションペーパー（30%），レポート（30%）						
テキスト	ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』（青土社） 絹川久子『聖書のフェミニズム』（ヨルダン社） ほか，適宜，プリントを配布する						
参考書	なし						
その他特記事項	リアクションペーパーは，第一部，第二部のまとめの回に提出。レポートの題目は，第一部と第二部の両方に関わるものが指定される。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	本講義で得られた哲学的批判精神と人間の本質および可能性に対する洞察は，広い意味での共生について考える指針となるであろう。				

教養科目

科目名	宗教学			担当者名	小林 宏子		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	西洋社会の常識となっているキリスト教起源の用語や概念について，辞書的意味の置き換えでは把握できない聖書的な背景と意味を学ぶ。また，有名な聖書箇所を英語で読み，代表的なキリスト教用語の英語を知ることができる。						
授業の概要	テキストに沿ってキリスト教の基礎的知識を学ぶ。英語聖書を読む機会を持つ。						
準備学習の内容	毎回，予習としてテキスト（対訳英文）を読むための時間を必要とする。						
各回の授業内容	1　オリエンテーション，イエス・キリストとは 2　聖書について　　旧約聖書と新約聖書，福音書，使徒言行録 3　キリスト以前の世界（1）天地創造と人間の創造 4*　キリスト以前の世界（2）アダムとエバ 5　キリスト以前の世界（3）人間の罪と失楽園 6　キリスト以前の世界（4）ノアの箱舟とバベルの塔 7　キリスト以前の世界（5）アブラハムとモーセ 8　キリスト以前の世界（6）出エジプトと十戒 9　キリスト以前の世界（7）ダビデとソロモン 10　キリスト以前の世界（8）預言者たち 11　キリスト以前の世界（9）バビロン捕囚 12　イエスが生きた時代　　メシア待望 13　ユダヤ教との衝突　　律法主義と神の国 14　有名な聖書箇所（1）善きサマリア人 15　有名な聖書箇所（2）放蕩息子 16　有名な聖書箇所（3）山上の説教 17　イエスの受難（1）最後の晩餐 18　イエスの受難（2）ミサについて 19　復活とイエスの死の意味（1） 20　復活とイエスの死の意味（2） 21　キリスト教の伝播 22　カトリックとプロテスタント 23　ローマ・カトリックと聖地 24　キリスト教徒の生活（1） 25　キリスト教徒の生活（2） 26　日本人とキリスト教（1） 27　日本人とキリスト教（2） *【教職員間授業公開日：4/26（火）】						
評価方法	出席（30%），授業参画・リアクションペーパー（30%），期末テスト（40%）						
テキスト	足立恵子著ジョン・ベスター訳『対訳英語で話す「キリスト教」Q&A』（講談社）						
参考書	百瀬文晃著『キリスト教の原点』（教友社） 雨宮慧『旧約聖書』（ナツメ社）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	ボランティア精神の基礎にも通じるキリスト教的隣人愛の原点を学ぶ。				

教養科目

科目名	音楽			担当者名	北村 さおり		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	音楽鑑賞の楽しみを知る。音楽を体験する。						
授業の概要	専門知識を学ぶことを最終目的としない。音楽史を踏まえつつ，オペラ鑑賞を中心に同じ演目を異なる演出で見比べたり，ディスカッションをしながら，音楽への興味を深める。歌唱実技ではクリスマス会での発表を目標に合唱に取り組む。						
準備学習の内容	小説『椿姫』(デュマ・フィス)，映画『アマデウス』をそれぞれ見ておくこと。授業で配布するオペラ解説等のプリントを読んでくること。						
各回の授業内容	1 中世 グレゴリオ聖歌 2 バロック オペラの誕生と隆盛 3-5 古典派 モーツァルト「フィガロの結婚」全幕 鑑賞・ディスカッション 6 前期ロマン派 交響曲，ドイツリート，ピアノ曲の鑑賞 7-9 イタリアオペラ ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」全幕 鑑賞・ディスカッション 10-14 イタリアオペラ ヴェルディ「椿姫」鑑賞・ディスカッション 15-16 イタリアオペラ プッチーニ「ボエーム」鑑賞・ディスカッション 17 後期ロマン派～近現代 近現代の作品の鑑賞と近年のオペラ演出の傾向と受容 18 鑑賞のまとめ 小テスト・小論文の準備 19* 歌唱実技基礎 キレイな姿勢，声，発音，緊張をほぐす呼吸法等 20-24 歌唱実技合唱 クリスマス・ソング等 25-27 バレエ チャイコフスキー「白鳥の湖」全幕 鑑賞・ディスカッション *【教職員間授業公開日：11/24（木)】						
評価方法	出席･授業参画･授業毎のリアクションペーパー(50%)，小テスト(25%)，小論文(25%)						
テキスト	特になし						
参考書	特になし						
その他特記事項	音楽鑑賞は私語厳禁。居眠りも要注意。積極的に実技に参加できる方を望みます。 (ピアニスト大歓迎！)						

教養科目

科目名	社会学			担当者名	鈴木 薫		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	この授業を履修する事により，学生は社会学の基本的な理論や概念について理解を深め，これらの理論や概念を用いてさまざまな社会事象について検討することができるようになる。						
授業の概要	社会学の基本的な理論，概念，方法論的立場について取り上げる。社会と個人をめぐる理論を，古典的研究から近年の研究まで幅広く取り上げ，社会学の理論と具体的な社会事象との関連性についても論じたい。						
準備学習の内容	参考書など，社会学関係の書籍に積極的に親しみ，授業内容に対する関心を育むことを期待する。目安となる時間は 2 時間程度とする。						
各回の授業内容	1　社会学とはどのような学問か（1） 2　社会学とはどのような学問か（2） 3　社会規範について 4　逸脱について（1）アノミー論 5　逸脱について（2）ラベリング論 6　逸脱について（3）スティグマ論 7　自我と社会的性格について（1）無意識 8　自我と社会的性格について（2）権威主義的性格 9　自我と社会的性格について（3）文化と性格構造 10　家族について（1）家族の形態と機能 11　家族について（2）家族規範 12　家族について（3）家族の個人化 13　性差について（1）ジェンダー 14　性差について（2）性別分業 15　組織について（1）官僚制 16　組織について（2）ネットワーク 17　都市について 18　労働について 19*　コミュニティについて 20　エミール・デュルケムの社会学（1）社会学主義 21　エミール・デュルケムの社会学（2）社会分業論 22　マックス・ウェーバーの社会学（1）理解社会学 23　マックス・ウェーバーの社会学（2）支配の諸類型 24　ゲオルグ・ジンメルの社会学（1）形式社会学 25　ゲオルグ・ジンメルの社会学（2）社会分化論 26　社会学の 3 つの方法論的立場について 27　まとめ *【教職員間授業公開日：6/20（月），11/24（木）】						
評価方法	出席（50%），リアクション・ペーパー（30%），レポート（20%）						
テキスト	特になし。プリントを配布して授業を進める。						
参考書	西澤晃彦・渋谷望著　2008『社会学をつかむ』（有斐閣）						

教養科目

科目名	日本国憲法			担当者名	髙野 敏樹		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	国家形成の基本法である日本国憲法において，人権保障，国民主権，権力分立などの立憲主義の諸原則がどのように実現されているかを理解するとともに，個人と社会の現代的課題を分析し，自己の考えを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	日本国憲法の諸原理の意義を憲法の条文構成にしたがって解釈・考察します。その考察に際しては，立憲主義の諸原理を生み出したイギリス，フランス，ドイツ，アメリカ等の憲法状況と比較しながら，比較憲法的手法でアプローチします。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために，各回 2 時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	1　憲法とはなにか―憲法の最高法規性 2　近代立憲主義（constitutionalism）の意味と課題① 3　近代立憲主義（constitutionalism）の意味と課題② 4*　日本国憲法の制定と憲法改正の限界論 5　国民主権論の形成と課題 6　国民主権論と人民主権論―純粋代表制と半代表制 7　人権思想の二つの系譜①―天賦人権論の形成と発展 8　人権思想の二つの系譜②―国民権利論と明治憲法下の「法律の留保」論 9　人権の享有主体―外国人の人権保障 10　法の下の平等①―平等の意味と構造 11　法の下の平等②―平等原則の適用状況 12　法の下の平等③―女性の権利の国際的展開 13　信教の自由と政教分離原則①―信教の自由の意義と課題 14　信教の自由と政教分離原則②―政教分離原則の意義と課題 15　精神的人権①―思想信条の自由 16　精神的人権②―表現の自由の地味と現代的展開 17　精神的自由③―表現の自由・メディアの自由の規制とその限界 18　社会権①―生存権の意味とその権利性 19　社会権②―教育を受ける権利と「こどもの学習権」・学問の自由 20　社会権③―労働基本権と労働者保護法制 21　自己決定権と幸福追求権 22　プライバシーの権利の現代的展開 23　議会制の基本構造 24　二院制のしくみとその課題 25　議院内閣制の基本構造 26　象徴天皇制 27　平和と憲法―憲法 9 条の意義と課題 *【教職員間授業公開日：4/25（月）】						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について，試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。						
参考書	髙野敏樹他『憲法』（不磨書房） 佐藤功『日本国憲法概説』（学陽書房） その他，参考資料として六法を持参することを勧めます。						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに，講義中に適切なノートを作成することが大切です。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	外国人の人権が憲法上どのように保障されているかという視点から，秦野市在住の外国籍市民の市民権と生存権保障の意味と現状を考えます。				

教養科目

科目名	法学			担当者名	髙野 敏樹		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	この講義では私法とよばれる法分野に焦点をあて，私たちが市民生活を送る上でぜひとも知っておきたい身近な法律上の基礎知識を修得し，市民法的課題について自己の考えを形成すると同時に，それを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	この講義では私法の分野のうち，社会の基礎である契約関係や現代の家族関係，企業や取引に関する法律上のしくみと課題を，身近な例をあげて検討します。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために，各回 2 時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	1　法的視点からみた人間像―人間の理性と法 2　個人の権利能力と法的権利―権利を享有する能力 3　個人の行為能力と法律行為―法的判断能力と法律行為 4　契約のしくみとはたらき 5　意思表示の瑕疵と契約の効力 6　契約自由の原則の修正と公共の福祉―公序良俗の原則 7　権利の実現方法とその課題 8　保証債務と保証人の権利義務 9　不法行為責任の理論と実際 10　無過失責任論の理論と実際―環境保護法制の国際的展開 11　現代家族と法の形成―「家」制度の廃止とその意義 12　家族のなかの個人の平等と権利 13　婚姻のしくみと現代的課題 14　親と子の法律関係①―嫡出子の地位と権利 15　親と子の法律関係②―非嫡出子の地位と権利 16*　離婚の法理―離婚における有責主義と破綻主義の国際比較 17　人工生殖と家族法の課題―人工授精，代理母の法的課題 18　相続のしくみとその課題①―相続人の範囲とその権利 19　相続のしくみとその課題②―相続分と遺言の効力 20　相続のしくみとその課題③―遺留分の意味とはたらき 21　ジェンダーと労働法 22　男女雇用機会均等法のしくみとその課題 23　労働基準法のしくみとその課題 24　消費者の権利保障 25　製造物責任と消費者の権利 26　企業社会のしくみとその展開 27　企業の法的責任とその展開 *【教職員間授業公開日：11/14（月）】						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について，試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。その他，参考資料として六法を持参することを勧めます。						
参考書	末川博『法学入門』（有斐閣） 伊藤正巳『法学入門』（有斐閣）						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに，講義中に適切なノートを作成することが大切です。						

教養科目

科目名	教育学			担当者名	神門 しのぶ		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	教育についての根本的な理解を形成することを目標とする。その際，与えられた情報を単につなぎ合わせることによってではなく，自分の立てた問いと格闘することによって，理解に至ることをめざす。						
授業の概要	哲学的，思想的，歴史的，社会学的観点から教育学諸分野の基礎知識を概観し，教育という人間の営みについて考える。講義形式。						
準備学習の内容	〈教える〉と〈学ぶ〉は深く関わっています。教育について真剣に考察すればするほど，学ぶ者としての自己点検を迫られることになるでしょう。						
各回の授業内容	1　オリエンテーション～授業展開の説明とリアクションペーパーの位置づけ 2　人間にはなぜ教育が必要なのか 3　教育の目的とは何か 4　近代日本の教育史（1） 5　近代日本の教育史（2） 6　近代日本の教育史（3） 7　近代日本の教育史（4） 8　日本の教育者たち（1） 9　日本の教育者たち（2） 10　教育の原型としてのソクラテス（1） 11　教育の原型としてのソクラテス（2） 12　西洋教育史にみる子ども・家族・学校（1） 13　西洋教育史にみる子ども・家族・学校（2） 14　教育学の基本思想（1） 15　教育学の基本思想（2） 16　教育学の基本思想（3） 17　教育学の基本思想（4） 18　カリキュラムとは何か（1） 19*　カリキュラムとは何か（2） 20　道徳は誰が教えるのか（1） 21　道徳は誰が教えるのか（2） 22　現代の教育が直面している問題（1）いじめ 23　現代の教育が直面している問題（2）不登校 24　グローバル化時代と教育（1） 25　グローバル化時代と教育（2） 26　価値多元社会における〈教育〉の定義 27　まとめ *【教職員間授業公開日：6/21（火），11/18（金）】						
評価方法	各回の授業内容について，主体的に関わることができたかどうかを評価の対象とする。自分の考えが刺激された経緯を論理的に説明するためのリアクションペーパー（50%），出席（25%），授業参画（25%）。						
テキスト	沼田裕之・増渕幸男編著『教育学 21 の問い』（福村出版）						
参考書							
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	教育の理論的考察を通して，〈教える〉行為の介在する各種実践活動の支えとなりうる教育理解が構築されるように導く。				

教養科目

科目名	経済学			担当者名	白瀬 宗範		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	経済に興味を持てるようになること。さらに，経済学の考え方を応用して社会現象を考えられるようになれば理想的です。そのために必要となる数学も学習します。知識ではなく，経済学の考え方を重視します。						
授業の概要	経済学の基礎知識を学習します。また，経済学の学習において必要な，計算や数学の知識の学習も重視します。						
準備学習の内容	適宜，課題を出すので，新聞，特に経済面に目を通して授業に臨むこと，また計算や数学の学習では特に復習しておくことが望ましい。週に 3 時間程度。						
各回の授業内容	1* 経済学とは（ガイダンス） 2 経済学のための計算・数学 ① 3- 6 ミクロ経済学 市場経済において，モノの価格はどのように決まるのか，それがミクロ経済学です。需要と供給の考え方を紹介し，市場を分析します。 7 小テスト 8 計算小テスト①＆経済学のための計算・数学 ② 9-12 市場と企業 ミクロ経済学で学習した理論を基に，市場での企業の行動を考えます。 13 小テスト 14 計算小テスト②＆経済学のための計算・数学 ③ 15-18 マクロ経済学 様々なモノの価格が決まる市場の集合体としての一国そして世界の経済を考えます。途上国の貧困問題，経済成長なども含みます。 19 小テスト 20 計算小テスト③＆経済学のための計算・数学 ④ 21-24 経済学の課題 ここまで学んだ経済学の考え方を使って，現在，問題となっている現象を取り上げます。 25 小テスト 26 計算小テスト④＆経済学のための計算・数学 ⑤ （受講者数によって，内容や授業方法を変更することがあります。） *【教職員間授業公開日：4/15（金），9/9（金）】						
評価方法	出席（40%），小テスト（30%），期末テスト（30%）で総合的に評価します。						
テキスト	岩田規久男『経済学への招待』（新世社）						
参考書	岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書） 井堀利宏『入門経済学』（新世社）						

教養科目

科目名	社会福祉入門			担当者名	森澤 陽子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	社会福祉の成り立ちの基盤を抑えつつ，事例検討を中心に専門職の仕事としてソーシャルワーク，精神科ソーシャルワークの仕事を知る。社会福祉を専門職業としての視点で捉えることを目的とする。						
授業の概要	講義により社会福祉の基盤と現代におけるニーズを学び，その後各分野の事例から具体的に読み取り，検討する。事例からの疑問を学生自身が調査・発表する。 レジメのプリントを配布する。						
準備学習の内容	発表のための調査，サブテキストの指定個所を読む等。						
各回の授業内容	1　社会福祉の扉の開こう 2　社会の変化と社会福祉の変遷 3　演習　1. 4　福祉を作り上げる仕組み　1. 5　福祉を作り上げる仕組み　2. 6　社会福祉と社会保障 7　福祉のフィールド　1. 8　福祉のフィールド　2. 9　福祉が必要になる時 10　ソーシャルワークとは 11　ソーシャルワーカーの仕事 12　事例検討　1. 13　事例検討　2. 14　事例検討　3. 15　事例検討　4. 16　精神障害者の福祉　1. 17*　精神障害者のソーシャルワーク 18　事例検討　1. 19　事例検討　2. 20　研究 21　研究発表 22　精神障害者の福祉とリハビリテーション 23　ビデオ学習 24　社会福祉とソーシャルワークの理念 25　ソーシャルワークの倫理と価値 26　演習 27　授業のまとめ *【教職員間授業公開日：11/11（金）】						
評価方法	テスト（50%），出席と参加度（50%）						
テキスト	プリントして配布する						
参考書	岩田正美，上野谷加代子，藤村正之著『ウェルビーイング・タウン社会福祉入門』 （有斐閣アルマ）						
その他特記事項	社会福祉の分野と仕事に多少とも興味のある学生がこの授業を取ることを望んでいる。						

教養科目

科目名	マスメディア論			担当者名	戸田 里和		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	マス・コミュニケーション理論，各メディア産業の歴史と現状，現代ジャーナリズムの役割や問題点などの解説を通して，幅広い観点から現代のマスメディアを理解します。体系的・実践的な学びにより理論の理解力を深め，情報社会の中で主体的な態度を身につけるとともに，判断力，コミュニケーション能力を向上させます。						
授業の概要	「マスコミ研究の歴史」ではマスコミの影響力や社会文化へのインパクトについての諸概念を，「マス・メディア産業の現状」では，産業的・歴史的観点から現代メディアを「ジャーナリズムとニュース報道」ではジャーナリズムの役割や意義を解説します。主として授業の前半は講義，後半は提示された課題について検討します。22～26 回目には，メディアリテラシーのワークショップも実施します。						
準備学習の内容	私たちは，メディアから多くの情報を入手し，意思決定や物事の判断を行っています。テレビ，新聞，雑誌，インターネットなどを利用する際には関心を向け，自分自身が巻き込まれている状況について常に考えるようにしてください。受講に際しては，事前に 2 時間程度の準備が必要です。						
各回の授業内容	1　オリエンテーション（メディアと私たちの関係） 2　マス・コミュニケーションの基礎概念 3　コミュニケーションとしてのマス・メディア 4　マスコミ研究の歴史 1（メディア産業の成長と大衆社会論） 5　マスコミ研究の歴史 2（プロパガンダ時代におけるメディア理論の進展） 6　マスコミ研究の歴史 3（マス・コミュニケーションの規範理論） 7　マスコミ研究の歴史 4（限定効果論の登場） 8　マスコミ研究の歴史 5（中範囲理論による限定効果パラダイムの統合） 9　マスコミ研究の歴史 6（支配的なパラダイムへの挑戦 －子ども・システム・効果） 10　マスコミ研究の歴史 7（批判理論と文化理論の出現） 11　マスコミ研究の歴史 8（メディアとオーディエンス） 12　マスコミ研究の歴史 9（メディア，文化，社会に関する理論） 13　マス・メディア産業の現状 1（新聞） 14　マス・メディア産業の現状 2（放送） 15　マス・メディア産業の現状 3（出版） 16*　マス・メディア産業の現状 4（広告） 17　マス・メディア産業の現状 5（映画） 18　マス・メディア産業の現状 6（音楽） 19　マス・メディア産業の現状 7（インターネット） 20　ジャーナリズムとニュース報道 1（ジャーナリズムの特徴） 21　ジャーナリズムとニュース報道 2（表現の自由と責任） 22　メディアリテラシー・ワークショップ 1（活字メディア：新聞報道を事例に議論） 23　メディアリテラシー・ワークショップ 2（活字メディア：出版を事例に議論） 24　メディアリテラシー・ワークショップ 3（映像メディア：ニュースを事例に議論） 25　メディアリテラシー・ワークショップ 4（映像メディア：CM を事例に議論） 26　メディアリテラシー・ワークショップ 5（ネットメディア：SNS,ブログを事例に議論） 27　総括（まとめ） *【教職員間授業公開日：6/13（月）】						
評価方法	出席および授業参加態度（20%），ワークショップでのパフォーマンス（20%）， リアクションペーパーおよび期末テスト（60%）						
テキスト	特に指定しない						
参考書	春原昭彦・武市英雄『「ゼミナール」日本のマス・メディア　第 2 版』（日本評論社） 大石裕『コミュニケーション研究（第 2 版）－社会の中のメディア』（慶応義塾大学出版会）						

教養科目

科目名	マスメディア論			担当者名	石川 旺		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	マスメディアへの接触は現代に生きるすべての人にとって日常体験である。しかし，マスメディアとの接触がわれわれに何をもたらしているかは明確には意識されていない。本講はマスメディアの歴史的な発展を検討し，理論研究の推移をたどり，人々とマスメディアのかかわりがどのように変化してきたのかについて理解を深める。そしてその理解を基盤とし，現代の情報社会の中でメディアに押し流されるのではなく，受け手個々人としての主体性・自律性を確立することを目標とする。						
授業の概要	各回の授業内容は 2 回で 1 セットとなっている。一回目は主として講義を行う。二回目はその講義をもとに提示された課題について，主として討論を行いながら検討を行う。受講生に事前準備を求め，積極的な相互討論への参加を期待する。						
準備学習の内容	テレビ，新聞，雑誌，インターネットなどを利用する際の自身のありようを自らに問いかけ，メディア情報を無批判に受け入れていないかを意識していてください。受講に際しては，事前に 2 時間程度の準備が必要です。						
各回の授業内容	1.1　オリエンテーション（メディアの誕生とその意味） 2.3　メディアの発達と大衆社会　－　理論研究の芽生え 4.5　メディアの影響力に関する理論研究の発展 6.7　メディアのあり方に関する議論　－　自由と責任 8.9　メディアの影響力に関する新たな研究の展開 10.11　ジャーナリズムと公共性に関する議論 11.12　日本におけるメディアの発達と戦争 13.14　戦後日本におけるメディアの民主化 15.16　メディアの巨大化とメディアへの政治介入 17.18　メディアの娯楽化と報道の変容 19.20　メディアへの批判と受け手の課題 21.22　現代の情報環境と受け手の意識 23.24　メディアと世論 25.26　受け手の自主性と自律性 27　総括 *【教職員間授業公開日：未定】						
評価方法	出席（20%），授業内討論への参加の積極性（20%），期末試験（60%）						
テキスト	特に指定しない						
参考書	田崎篤郎・児島和人　1992『マス･コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版） 石川旺　2004『パロティングが招く危機』（リベルタ出版）						
その他特記事項	メディアに関する議論を深めるために，同時進行している時事問題もしばしば授業での検討課題となるので，新聞は常に読んでおいてください。						

教養科目

科目名	情報リテラシー演習			担当者名	加藤 誠		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	「ただ便利に使う」から「知って使う」へのステップアップを目指します。 日進月歩の情報技術の根底にある変わらないもの，今後も通用する基礎知力を身につけ，新しい技術やそれに伴い変化する社会に対応する能力を養います。						
授業の概要	「ハードウェア」「ソフトウェア」「ネットワーク」の 3 つを軸に，それらに関する基礎知識をスライドや実機を用いた説明などを交えて平易に解説します。						
準備学習の内容	授業毎の復習をしっかり行ってください。また，情報関連のニュースや話題を Web サイトなどでチェックし，自ら関心を高め，知識を深めていってください。						
各回の授業内容	1　はじめに／“情報”とは何か 2　基礎知識（1）　コンピュータの発展とその歴史 3　基礎知識（2）　アナログとデジタル 4　基礎知識（3）　2 進法と 10 進法，16 進法 5　基礎知識（4）　文字の符号化，文字コード 6　基礎知識（5）　論理演算 ～0 と 1 だけの世界の計算～ 7　ハードウェア（1）　コンピュータの構成・5 大装置 8　ハードウェア（2）　CPU（中央処理装置）の機能と仕組み 9　ハードウェア（3）　メモリ（主記憶装置）の機能と仕組み 10　ハードウェア（4）　HDD・補助記憶装置の機能と仕組み 11　ハードウェア（5）　入力装置・出力装置の機能と仕組み 12　ハードウェア（6）　仕様を読む／BTO シミュレーション 13　ソフトウェア（1）　“ソフトウェア”とは何か 14　ソフトウェア（2）　OS（オペレーティングシステム）の機能と役割 15　ソフトウェア（3）　ファイルとファイル管理 16　ソフトウェア（4）　ユーザーインターフェイス 17*　ソフトウェア（5）　プログラミング／プログラム言語 18　ソフトウェア（6）　著作権について 19　ネットワーク（1）　コンピュータネットワーク・ LAN 20　ネットワーク（2）　インターネット／IP アドレス 21　ネットワーク（3）　電子メールの仕組み 22　ネットワーク（4）　WWW（World Wide Web）の仕組み 23　ネットワーク（5）　ネットワークセキュリティ／コンピュータウイルス 24　ネットワーク（6）　プライバシー・個人情報とその保護／暗号化技術 25　トラブルシューティング 26　今後の動向・キーワード 27　まとめ／情報と社会 *【教職員間授業公開日：11/11（金）】						
評価方法	授業毎の出席およびリアクション等（25%），レポート 3 回（20＋20＋35%）の合計により評価します。						
テキスト	TAC 情報処理講座 編『ここからはじまるコンピュータの世界・基礎知識編』（TAC 出版）						
参考書	IPA（情報処理推進機構）が実施している IT パスポート試験の参考書						

教養科目

科目名	数学			担当者名	加藤 誠		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	限られた情報から全体の傾向を読み取るための統計的手法を身につけること，そしてその過程を通じて論理的な思考力を養うことを目標とします。数学が私たちの身近なところに応用されていることを実感してもらえたらと思います。						
授業の概要	単純な計算の積み重ねでここまでできる，という統計の基本的な手法を，理論と具体的な手順の両面から解説します。またパソコンによる実習も行います。						
準備学習の内容	各回の授業は，その前回までの内容をふまえて進めますので，復習をしっかり行ってください。						
各回の授業内容	1　はじめに 2-7　統計学の基礎（1） ・統計によってできること ・平均値 ・分散，標準偏差 ・偏差値を求める ・MS-Excel による実習（1） 8-19*　統計学の基礎（2） ・連続量，分布曲線 ・標準正規分布，正規曲線 ・正規分布とその利用 ・統計的推定の考え方 ・t 分布とその利用 ・カイ 2 乗分布とその利用 ・統計的検定の考え方 ・MS-Excel による実習（2） 20-26　統計学の基礎（3） ・2 つのデータの相関を調べる ・回帰分析の考え方 ・重回帰分析の考え方 ・MS-Excel による実習（3） 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/20（金）】						
評価方法	授業毎のリアクションおよび課題（50%），期末レポート（50%） の合計により評価します。						
テキスト	小島寛之『統計学入門』（ダイヤモンド社）						
参考書	向後千春，冨永敦子『統計学がわかる』（技術評論社） 向後千春，冨永敦子『統計学がわかる（回帰分析・因子分析編）』（技術評論社）						
その他特記事項	経済方面への進学や就職を希望する方はもちろん，高校 1 年次の数 I 程度の予備知識があれば十分ですので，数学が苦手な（だった）人も歓迎します。						

教養科目

科目名	心理学			担当者名	林 百合		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	心理学は，関心の高さの一方で，その実際はあまり良く知られていないのが実情です。この授業の履修により，人の心のしくみと働きを科学的に解明していく学問としての心理学の基礎知識や概念，観点などを習得し，人の心の難しさと興味深さを実感できます。						
授業の概要	基本的に講義形式をとりながら，テーマに沿ったディスカッションや，心理学の不思議な世界を体験して戴くこともあります。積極的に感じ，考えることにより，実際的に心理学を学んでいきます。						
準備学習の内容	はじめて出会う専門知識・用語がとても多いので，テキストやプリントによる予習・復習を推奨します。						
各回の授業内容	1　心理学とは（授業のオリエンテーションと，科学としての心理学を概観する） 2　心理学のあゆみ（現代心理学の歴史と発展，心理学の方法） 3　感覚（感覚・知覚とは何か，感覚のしくみと役割） 4　知覚（複雑で適応的な知覚のしくみについて） 5　学習①（心理学が扱ういろいろな学習について） 6　学習②（条件づけ） 7*　記憶①（記憶の構成と過程，情報処理モデル） 8　記憶②（憶える心理と忘れる心理） 9　言語（言語の獲得と機能） 10　思考①（いろいろな「考える」について） 11　思考②（問題解決過程と方法） 12　要求・行動（行動の規定因と，要求，動機づけ） 13　感情・情緒（感情・情緒の役割や理論） 14　性格①（性格の研究，パーソナリティの個人差のとらえ方） 15　性格②（性格構造の形成と発達，性格検査概論, 性格の認知） 16　知能（「頭の良さ」とは。知能尺度について） 17　発達（発達の規定要因, ライフサイクル, 発達障害） 18　社会①（社会心理と対人心理） 19　社会②（社会的態度, 社会的状況が及ぼす人への影響） 20　ストレスとメンタルヘルス①（ストレスとストレッサーについて） 21　ストレスとメンタルヘルス②（こころの病理と自我の防衛機制について） 22　臨床①（臨床心理アセスメントと心理療法） 23　臨床②（心理療法各論） 24　異常（異常心理現象と精神疾患） 25　犯罪（犯罪心理学の研究知見について） 26　脳と心（脳損傷と心の働き） 27　家族（人の発達やこころの健康に及ぼす家族の影響） *【教職員間授業公開日：5/9（月）】						
評価方法	出席状況と受講態度（20%），中間テスト（30%），最終レポートまたはテスト（30%），リアクションペーパー（20%）による総合評価						
テキスト	詫摩武俊編『心理学［改訂版］』（新曜社）						
参考書	長谷川寿一，東條正城，大島尚，丹野義彦著『はじめて出会う心理学　改訂版』（有斐閣アルマ）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	特に，メンタルフレンドボランティアを行っている学生に，支援の実際，体験を通して気づいたこと，教育現場における工夫や問題点について発表してもらい，発達障害や子どもの心の支援のあり方について，ディスカッションを行う。				

教養科目

科目名	体育理論・実技 1			担当者名	木皿 久美子		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来る。 自分の健康を保持増進していく為に運動の意義や必要性を知ることが出来る。 体操の特性や捉え方について理解を深める。						
授業の概要	従来の授業展開とは異なり，実技と理論を融合させて進めます。 身体づくり，動きづくり，健康づくりを中心に，ストレッチ体操，リズム体操，手具体操を取り入れながら，自己の身体を知り，運動の役割を理解します。						
準備学習の内容	授業準備・予習は必要ないが，授業内に行う補強運動を復習し継続して行う。時間は 15 分程度。						
各回の授業内容	1　からだ気づき・からだほぐし・身体づくり 2*　ストレッチ体操・リズム体操（一人・二人で行う体操） 3　ストレッチ体操・リズム体操（小グループで行う体操） 4　手具体操フープ（基本操作） 5　手具体操フープ（二人組・小グループ） 6　手具体操ボール（基本操作） 7　手具体操ボール（二人組・小グループ） 8　手具体操リボン（基本操作） 9　実技テスト 10　グループによる作品作り① 11　グループによる作品作り② 12　作品発表・まとめ 13　合同講演会（予定） *【教職員間授業公開日：4/22（金），9/16（金）】						
評価方法	出席および授業参加（50%），実技テスト（25%），レポート（25%）						
テキスト							
参考書	浅田隆夫編『現代の保健体育』（学術図書出版） 配布プリント　担当者作成資料						

教養科目

科目名	体育理論・実技 2			担当者名	小澤 共子		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	室内種目を通し，スポーツに親しむことの必要性を考えることができます。						
授業の概要	実技と理論を融合させて進めます。 チームゲームを楽しみながら「身体知」を高めます。国際試合にも目を向け大会運営も学びます。また，「からだを動かすことの意味」「運動・健康・食事」「ライフスタイル」についても学習します。						
準備学習の内容	自己管理をしっかりし，授業に臨む。 種目のルールを覚える。						
各回の授業内容	1-4*　からだほぐし・バドミントン・テーブルテニス 5-9　バレーボール・バスケットボール ・チームワークを学びながらゲームを中心に授業展開します。 ・ゲームの記録をつけ競技の特性を学びます。 10　ニュースポーツ ・ニュースポーツへの挑戦―インディアカ・フィットネスボール，エアロビクス・セパタクローFD など ・「運動」・「健康」・「食事」のバランスシートをつけ日常生活へのアプローチをします 11-12　種目選択 ・大会運営を学びます。 13　まとめ ・スポーツの魅力について考えます。理論のみ ※合同講演会（予定） （火曜クラス） *【教職員間授業公開日：5/10（火），9/27（火）】						
評価方法	出席（50%），授業参画（25%），レポート（25%）						
テキスト							
参考書	浅田隆夫編『現代の保健体育』(学術図書出版) 配布プリント　担当者作成資料						
その他特記事項	体育着着用						

教養科目

科目名	体育理論・実技 3			担当者名	小澤 共子		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	野外種目を通し，スポーツに親しむことの必要性を考えることができます。						
授業の概要	実技と理論を融合させて進めます。 テニスは基礎からはじめ「できない」から「できる」への運動メカニズムに挑戦します。 他の種目は，ゲームを楽しみながら「私達にとってスポーツとは何か」「運動・健康・食事」「ライフスタイル」についても学習します。						
準備学習の内容	自己管理をしっかりし，授業に臨む。 種目のルールを覚える。						
各回の授業内容	1　からだほぐし 2-8　テニス 2-4*　・基礎からはじめます。グランドストローク 5　・サーブ＆サーブレシーブ 6　・ボレー 8　・ダブルスゲーム コンビネーション・初歩的ルール・ソフィアルールをつくりゲームを楽しみます。又，大会運営も学びます。 9-10　野外スポーツ ・T－ソフトボール，FD を楽しみます。 ・「運動・健康・食事」バランスシートをつけ日常生活へのアプローチをします。 11-12　テニス ・ゲーム（シングルス・ダブルス）を通しトレーニング方法（テニス・ドリル）を学びます。 13　まとめ ・スポーツの魅力について考えます。理論のみ ※合同講演会（予定） ※天候により変更あり （金曜クラス） *【教職員間授業公開日：4/29（金），9/23（金）】 ※雨天の場合は 5/6（金），9/30（金）						
評価方法	出席（50%），授業参画（25%），レポート（25%）						
テキスト							
参考書	浅田隆夫編『現代の保健体育』（学術図書出版） 配布プリント　担当者作成資料						
その他特記事項	雨天により変更の場合は掲示します。 体育着を着用						

基礎科目（異）

科目名	キリスト教文化入門			担当者名	輪講（小林）		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	西洋社会に影響を与えたキリスト教の貢献を学び，異文化に対する個人的興味を小論文作成と発表の形でまとめ，他者と意見を共有することができるようになる。						
授業の概要	複数講師による輪講形式をとるため，多角的にキリスト教に触れることができる。						
準備学習の内容	毎回の授業のための予習は要求しないが，小論文作成と発表のための準備には，学期当初から積極的に取り組む必要がある。						
各回の授業内容	1　キリスト教と世界 2　旧約聖書　その１ 3　旧約聖書　その２ 4　新約聖書　その１ 5　新約聖書　その２ 6　マリア論 7　キリスト教と美術　その１ 8　フランシスコ・ザビエルと上智の関連 9　キリスト教と美術　その２ 10　イエズス会の教育とイグナチオの霊操 11　キリスト教と経済　その１ 12　キリスト教と音楽　その１ 13　キリスト教と経済　その２ 14　キリスト教と音楽　その２ 15　キリスト教と倫理　その１ 16　キリスト教文化への修道院の貢献 17　キリスト教と倫理　その２ 18　時代の必要に応えた人々　その１　アシジのフランシスコ 19　時代の必要に応えた人々　その２　ジャンヌ・ド・レストナック 20*　時代の必要に応えた人々　その３　マザー・テレサ 21　キリスト教と紛争　その１ 22　キリスト教と紛争　その２ 23　キリスト教と現代社会　その１ 24　キリスト教と現代社会　その２ 25　研究発表　その１ 26　研究発表　その２ 27　研究発表　その３ *【教職員間授業公開日：11/28（月）】						
評価方法	出席（30%），授業参画・リアクションペーパー（40%），研究発表（30%）						
テキスト	毎回　各講師がプリントを配布						
参考書	初回に，各講師が推薦する参考文献を一覧表の形で配布する						
その他特記事項	講師の希望で，授業の順番・内容に変更が生ずる可能性がある						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	「神を愛し，また隣人を自分のように愛する」ことを原点とするキリスト教の社会的展開について学び，ボランティア活動に向かうために欠かせない異文化に対する尊重の態度を学ぶ。				

基礎科目（異），専門科目（言）

科目名	異文化間コミュニケーション			担当者名	C. Oliver		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts and perspectives coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC as a problem in modern societies.						
授業の概要	Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. Students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation. All class work will be in English.						
準備学習の内容	Students should read the assigned pages in the textbook, review their lecture notes, and complete all homework assignments. Reading time will depend on each student, but preparation time will likely take 60-90 minutes per class.						
各回の授業内容	1 Course overview 2 Defining intercultural communication 3 Features of human communication 4 Features of human communication 5 Communication and language 6 Communication and language 7 Non-verbal communication 8 Non-verbal communication 9 Edward T. Hall: the first interculturalist 10 Stereotypes 11 Stereotypes 12 Values 13 Values 14 Culture shock 15 Communication “events” 16 Communication “events” 17 Intercultural training 18 Intercultural training and intercultural simulations 19* Intercultural simulation: do in class 20 Intercultural simulation: follow-up discussion 21 Historical, social, and political contexts of intercultural communication 22 Historical, social, and political contexts of intercultural communication 23 Historical, social, and political contexts of intercultural communication 24 Power and inequality in communication 25 Practical implications of the study of intercultural communication 26 Paths toward better knowledge and understanding of others 27 Review *【教職員間授業公開日：6/20（月）】						
評価方法	Attendance and participation (15%), final exam (40%), all other assignments, quizzes, etc. (45%).						
テキスト	Hidasi Judit, *Intercultural Communication: An Outline*（三元社）						
参考書	古田暁監修『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣）						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	“Intercultural communication” may be an important aspect of some students’ volunteer activities. Students are welcome to reflect upon and use their service-learning experiences in homework assignments.				

基礎科目（文）

科目名	英文学概論			担当者名	飯田 純也		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	英語圏の近代文学を研究する上で重要と思われる作品を取り上げ，人間の心理，社会の思想に注目しながら，討論を通して，理解と分析を深めていく。現実をその複雑さのまま理論化する訓練の場を提供する。						
授業の概要	近代英語文学の古典的作品を取り上げ，作品の解釈を通して，人間，社会，歴史に対する理解を掘り下げる。作品に基づいた DVD を多く観てきてもらう。作品を解釈する際，心理学的，社会学的，歴史学的視点を強調する。						
準備学習の内容	毎週，DVD を指示するので，各自事前に観てくること。話の内容を押さえたら，もう一度メモを取りながら観てほしい。						
各回の授業内容	1 授業紹介 2-6 文学ジャンルと物語論 7-8 パラブル *Romeo and Juliet* / *Tristan and Isolde* 9 作品研究 *Jane Eyre* 10* 作品研究 討論 11 作品研究 *A Passage to India* 12 作品研究 討論 13 作品研究 *Vanity Fair* 14 作品研究 討論 15 作品研究 *Tess of the d'Urbervilles* 16 作品研究 討論 17-19 作家研究 Charles Dickens: *David Copperfield* / *Nicholas Nickleby* / *Oliver Twist* 20-22 作家研究 Jane Austen: *Sense and Sensibility* / *Pride and Prejudice* / *Mansfield Park* 23-25 テーマ研究 *The Scarlet Letter* / *The Great Gatsby* 26-27 予備日あるいは論文指導 授業内容及び日程の変更あり。 *【教職員間授業公開日：10/17（月）】						
評価方法	出席を前提とした上で，評価はリアクションペーパーが（10%），レポートが（90%），あるいは発表がある場合は，発表が（30%），レポートが（60%）とする。						
テキスト	毎回プリントを配布する。						
参考書	E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* (Penguin Books)						

基礎科目（言）

科目名	言語学概論			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	本講を通じて学生は音声，語形成，文構造，文の意味，発話の意味といった基本的な「言語の構造」について学ぶ。また英語の歴史やことばのバリエーション，コミュニケーションと文化の接点や言語習得に関しても，その基本的概念・理論の理解を深めていくことになる。学生は自らの母語である日本語や学習言語である英語が単なる意思疎通のための道具だけではなく，人間にとってより本質的な，そして思考の形成に不可欠な要素であるという言語観に触れることになる。						
授業の概要	普段，何気なく使っている「ことば」を客観的に見て，分析することでその本質を探るのが「言語学」という学問である。授業はテキストとそれをまとめたプリントを中心に講義形式で進められ，理解促進のため単元ごとに練習問題も扱う。						
準備学習の内容	授業に対する準備としてはテキストに関する読みの予習，および既習内容の復習が大きな柱となる。テキストは日本語で書かれているため比較的読みやすいが，単元によっては多くの章が関連してくるため，しっかりと時間をかけて読み，理解する必要がある。また，難解な概念や用語に関しては，講義やテキストの読解に加え，自ら他の言語学の関連本や言語学事典などを参照し，理解を深めていくことが求められる。						
各回の授業内容	1　言語学とは（第 2 章） 2　ことばとは（第 1-2 章） 3　英語の歴史―英語の始まりと発展―（第 3-7 章） 4　英語の歴史―英語の広がり―（第 3-7 章） 5　音声学・音韻論［音の構造］（第 8-9 章） 6　音声学・音韻論［音の構造］（第 8-9 章） 7　音声学・音韻論［音の構造］（第 8-9 章） 8　形態論［語構造・語形成］（第 10 章） 9　形態論［語構造・語形成］（第 10 章） 10*　形態論［語構造・語形成］（第 10 章） 11　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 12　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 13　前半のまとめ・中間試験準備 14　中間試験 15　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 16　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 17　意味論［語の意味・文の意味］（第 13-16 章） 18　意味論［語の意味・文の意味］（第 13-16 章） 19　語用論［談話の構造・意味］（第 17-20 章） 20　語用論［談話の構造・意味］（第 17-20 章） 21　コミュニケーション論（第 21 章） 22　ことばと文化（第 22 章） 23　社会言語学［言語のバリエーション］（第 23-24 章） 24　社会言語学［言語のバリエーション］（第 23-24 章） 25　応用言語学［言語習得］（第 25 章） 26　応用言語学［言語習得］（第 25 章） 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/19（木）】						
評価方法	試験（70％：中間・期末各 35％），ブックレポート（20％）， 出席・授業参加度・提出物（10％）						
テキスト	長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』（研究社）						
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』（講談社現代新書） 大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房）						
その他特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また，言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	言語学概論で扱う一部に関して（語用論，コミュニケーション論，ことばと文化，社会言語学，応用言語学など），日本語教育および英語教育ボランティアを行っている学生が活動体験を通して言語使用に関してどのような「気付き」があったかを他の学生と共有してもらい，授業で扱った項目との関連性を考察する。				

基礎科目（言）

科目名	言語学概論			担当者名	近藤 佐智子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	本講を通じて学生は音声，語形成，文構造，文の意味，発話の意味といった基本的な「言語の構造」について学ぶ。また英語の歴史やことばのバリエーション，コミュニケーションと文化の接点や言語習得に関しても，その基本的概念・理論の理解を深めていくことになる。学生は自らの母語である日本語や学習言語である英語が単なる意思疎通のための道具だけではなく，人間にとってより本質的な，そして思考の形成に不可欠な要素であるという言語観に触れることになる。						
授業の概要	普段，何気なく使っている「ことば」を客観的に見て，分析することでその本質を探るのが「言語学」という学問である。授業はテキストとそれをまとめたプリントを中心に講義形式で進められ，理解促進のため単元ごとに練習問題も扱う。						
準備学習の内容	授業に対する準備としてはテキストに関する読みの予習，および既習内容の復習が大きな柱となる。テキストは日本語で書かれているため比較的読みやすいが，単元によっては多くの章が関連してくるため，しっかりと時間をかけて読み，理解する必要がある。また，難解な概念や用語に関しては，講義やテキストの読解に加え，自ら他の言語学の関連本や言語学事典などを参照し，理解を深めていくことが求められる。						
各回の授業内容	1　言語学とは（第 2 章） 2　ことばとは（第 1-2 章） 3　英語の歴史―英語の始まりと発展―（第 3-7 章） 4　英語の歴史―英語の広がり―（第 3-7 章） 5　音声学・音韻論［音の構造］（第 8-9 章） 6　音声学・音韻論［音の構造］（第 8-9 章） 7　音声学・音韻論［音の構造］（第 8-9 章） 8　形態論［語構造・語形成］（第 10 章） 9　形態論［語構造・語形成］（第 10 章） 10*　形態論［語構造・語形成］（第 10 章） 11　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 12　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 13　前半のまとめ・中間試験準備 14　中間試験 15　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 16　統語論［句構造・文構造］（第 11-12 章） 17　意味論［語の意味・文の意味］（第 13-16 章） 18　意味論［語の意味・文の意味］（第 13-16 章） 19　語用論［談話の構造・意味］（第 17-20 章） 20　語用論［談話の構造・意味］（第 17-20 章） 21　コミュニケーション論（第 21 章） 22　ことばと文化（第 22 章） 23　社会言語学［言語のバリエーション］（第 23-24 章） 24　社会言語学［言語のバリエーション］（第 23-24 章） 25　応用言語学［言語習得］（第 25 章） 26　応用言語学［言語習得］（第 25 章） 27　まとめ *【教職員間授業公開日：10/17（月）】						
評価方法	試験（70％：中間・期末各 35％），ブックレポート（20％）， 出席・授業参加度・提出物（10％）						
テキスト	長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』（研究社）						
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』（講談社現代新書） 大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房）						
その他特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また，言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	言語学概論で扱う一部に関して（語用論，コミュニケーション論，ことばと文化，社会言語学，応用言語学など），日本語教育および英語教育ボランティアを行っている学生が活動体験を通して言語使用に関してどのような「気付き」があったかを他の学生と共有してもらい，授業で扱った項目との関連性を考察する。				

基礎科目（教）

科目名	児童英語教育概論			担当者名	狩野 晶子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	児童英語教師として必要な基礎知識を学ぶ。幅広く幼児から小学生まで英語を教えるために必要な理論的背景を，講義を通して学ぶことにより小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）の認定による「小学校英語指導者」資格の取得を目指す。						
授業の概要	授業は講義を中心として進めるが，随時演習形式で学生の発表なども行う。受講生の積極的な準備，参加が求められる。学期を通して英語力をつけるための文法課題を課し，提出してもらう。それによって通信講座の進捗状況も確認する。						
準備学習の内容	テキストの予習・復習，小課題・アクティビティ発表準備，レッスンプラン作成準備，英文法小テスト・期末テストのための自主学習を一日 1 時間程度。						
各回の授業内容	1　児童英語教師とは 2　子どもと英語 3　子どもの言語習得（1） 4*　子どもの言語習得（2） 5　児童心理学（1） 6　児童心理学（2） 7　認知発達理論（1） 8　認知発達理論（2） 9　バイリンガル教育 10　国際理解教育・異文化理解教育 11　言語習得理論とここまでに学んだ知識のまとめ 12　小学校英語活動（1） 13　小学校英語活動（2） 14　代表的な英語教授法・指導法（1） 15　代表的な英語教授法・指導法（2） 16　語彙力・パラフレーズ力・状況設定力（1） 17　語彙力・パラフレーズ力・状況設定力（2） 18　カリキュラムとレッスンプラン（1） 19　カリキュラムとレッスンプラン（2） 20　さまざまな教材・教具（1） 21　さまざまな教材・教具（2） 22　様々なアクティビティとレッスンプランの流れ 23　レッスンを構成するアクティビティ発表（1） 24　レッスンを構成するアクティビティ発表（2） 25　レッスンを構成するアクティビティ発表（3） 26　レッスンプランの書き方 27　まとめ *【教職員間授業公開日：4/26（火）】						
評価方法	出席・授業参加姿勢（20%），小課題・ノート提出（20%），英文法小テスト（10%），期末課題（50%）：アクティビティ発表，レッスンプラン，期末テスト						
テキスト	『アルク児童英語教師養成コース』（アルク）で使用するテキスト（基礎理論編，レッスンプラン編）及び他のプリント配布物。						
参考書	『英語ノート 1』『英語ノート 2』（教育出版）						
その他特記事項	アルクの通信講座『アルク児童英語教師養成コース』をベースとする授業であり，原則として同講座を受講していることが望ましい。この授業の修了時には TOEIC500 点以上となるよう努力すること。2012 年度春学期の「児童英語教育演習」を受講するためには，この科目の単位修得が必要である。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	児童英語教育に関する基礎を学び，演習科目「児童英語教育演習」と連動した英語教育ボランティア活動のための素地を養う。				

基礎科目（教）

科目名	児童英語教育概論			担当者名	岩崎 明子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	児童英語教師として必要な基礎知識を学ぶ。幅広く幼児から小学生まで英語を教えるために必要な理論的背景を，講義を通して学ぶことにより小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）の認定による「小学校英語指導者」資格の取得を目指す。						
授業の概要	授業は講義を中心として進めるが，随時演習形式で学生の発表なども行う。受講生の積極的な準備，参加が求められる。学期を通して英語力をつけるための文法課題を課し，提出してもらう。それによって通信講座の進捗状況も確認する。						
準備学習の内容	テキストの予習・復習，小課題・アクティビティ発表準備，レッスンプラン作成準備，英文法小テスト・期末テストのための自主学習を一日 1 時間程度。						
各回の授業内容	1　児童英語教師とは 2　子どもと英語 3　子どもの言語習得（1） 4　子どもの言語習得（2） 5　児童心理学（1） 6　児童心理学（2） 7　認知発達理論（1） 8　認知発達理論（2） 9　バイリンガル教育 10　国際理解教育・異文化理解教育 11　言語習得理論とここまでに学んだ知識のまとめ 12　小学校英語活動（1） 13　小学校英語活動（2） 14　代表的な英語教授法・指導法（1） 15　代表的な英語教授法・指導法（2） 16　語彙力・パラフレーズ力・状況設定力（1） 17　語彙力・パラフレーズ力・状況設定力（2） 18　カリキュラムとレッスンプラン（1） 19　カリキュラムとレッスンプラン（2） 20　さまざまな教材・教具（1） 21　さまざまな教材・教具（2） 22　様々なアクティビティとレッスンプランの流れ 23*　レッスンを構成するアクティビティ発表（1） 24　レッスンを構成するアクティビティ発表（2） 25　レッスンを構成するアクティビティ発表（3） 26　レッスンプランの書き方 27　まとめ *【教職員間授業公開日：12/8（木）】						
評価方法	出席・授業参加姿勢（20%），小課題・ノート提出（20%），英文法小テスト（10%），期末課題（50%）：アクティビティ発表，レッスンプラン，期末テスト						
テキスト	『アルク児童英語教師養成コース』（アルク）で使用するテキスト（基礎理論編，レッスンプラン編）及び他のプリント配布物。						
参考書	『英語ノート 1』『英語ノート 2』（教育出版）						
その他特記事項	アルクの通信講座『アルク児童英語教師養成コース』をベースとする授業であり，原則として同講座を受講していることが望ましい。この授業の修了時には TOEIC500 点以上となるよう努力すること。2012 年度春学期の「児童英語教育演習」を受講するためには，この科目の単位修得が必要である。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	児童英語教育に関する基礎を学び，演習科目「児童英語教育演習」と連動した英語教育ボランティア活動のための素地を養う。				

基礎科目（教）

科目名	日本語教育概論			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	外国語としての日本語の教え方について，基本を学ぶことと，学習者の日本語に慣れ相手の日本語に合わせてコミュニケーションが図れるようになる。また，サービスラーニングの日本語支援活動で遭遇する問題を解決できるようになる。						
授業の概要	日本語を教える方法について，教材の選び方，レッスンプランのたてかた等を具体的に学ぶ。学期中，米国の大学で日本語を学ぶ学習者と日本語と英語で E メール交換をする他，学期中に 2 回グループに分かれて模擬授業を行う。						
準備学習の内容	授業の前に教科書に目を通しておく。毎回 40 分程度。模擬授業の準備の際は週に数時間の準備を要する。						
各回の授業内容	1　日本語教育とコースデザイン 2　日本語教育とコースデザイン 3　言語技能の扱い方 4　言語技能の扱い方 5　授業活動 6　授業活動 7　授業活動 8　授業活動 9　教材・教具 10　教材・教具 11　会話・スピーチ教育 12*　会話・スピーチ教育 13　模擬授業 14　模擬授業 15　読解教育 16　読解教育 17　教科書と教科書 18　教科書と教科書 19　教科書と教科書 20　教科書と教科書 21　レッスンプラン作成方法 22　レッスンプラン作成方法 23　レッスンプラン作成方法 24　レッスンプラン作成方法 25　模擬授業 26　模擬授業 27　まとめ *【教職員間授業公開日：10/27（木）】						
評価方法	出席（30%），模擬授業（30%），レポート（40%）						
テキスト	三牧陽子『日本語教授法を理解する本　実践編』（バベルプレス）						
参考書	坂野他『初級日本語　げんき An integrated course in elementary Japanese I』（ジャパンタイムス）						
その他特記事項	日本語教育演習（春）を履修するには，この授業を 1 年秋に履修する必要がある。授業外で全員サービスラーニング活動を行う。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	授業で学んだことがらを日本語支援の場で直接役立てることが可能であると同時に，サービスラーニングでの学びを授業で他の学生と共有する。				

基礎科目

科目名	ドイツ語 I			担当者名	工藤 花野		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	日常のさまざまな場面をモデルにした，聞く・話す・読む・書く技能をバランスよく学ぶことで，学生はドイツ語の読み方・発音方法と基本的な文法的操作を身につけます。						
授業の概要	CD 等でドイツ語の発音を確認した後（聞く），ペアで対話練習をし（話す），テキスト中の練習問題を一緒に解きます（読む）。授業で理解した知識を元に，各自の課題をこなします（書く）。						
準備学習の内容	予習の指示は特にないが，毎回授業の復習を兼ねた宿題（筆記）を出します。 教科書に沿った内容で，所要時間は 10 分～30 分程度です。						
各回の授業内容	1　導入：ドイツ語の発音・アルファベット・基本の挨拶 2-5*　1 課：人と知り合う―挨拶・名前・出身・住まい・言語・専攻・メール （人称代名詞 1・規則動詞の現在人称変化・疑問文・語順 1） 6-9　2 課：自由時間―趣味・年齢・住所・電話番号・綴り・職業 （人称代名詞 2・不規則動詞の現在人称変化） 10-14　3 課：一日の行動―時間表現・日常の行動・週間予定・電話で約束 （分離動詞・語順 2・話法の助動詞） 15　1-3 課のまとめ：筆記試験・会話試験 16-21　4 課：食事―食べ物と飲み物・食習慣・レストランでの注文と支払い （名詞の性と格・定冠詞・不定冠詞・否定冠詞） 22-26　5 課：住まい―家や部屋の様子・場所の表現 （不定冠詞・定冠詞・所有冠詞・名詞の複数形・場所の前置詞） 27　4-5 課のまとめ：筆記試験・会話試験 *【教職員間授業公開日：4/28（木），9/29（木）】						
評価方法	出席・授業参加（20%），宿題・課題（20%），中間・期末試験（60%）						
テキスト	藤原三枝子他『CD 付き　スタート！―コミュニケーション活動で学ぶドイツ語―』（三修社）						
参考書	斉藤佑史著／荒木詳二著『若草のドイツ語文法』（三修社） ［教科書にない文法事項が簡潔にまとまっています。必須ではありません。］						
その他特記事項	ペアワーク・グループワークが多いので，積極的な参加が望ましい。 授業の復習と各自の宿題（提出）は毎回必ずやってくること。						

基礎科目

科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者名	工藤 花野		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	ドイツ語Ⅰに引き続き，日常の様々な場面での表現方法を学びながら，新たな文法的な要素をしっかり押さえ，語彙力を上げることで，学生はドイツ語の基礎力を完成します。						
授業の概要	CD 等でドイツ語の発音を確認した後（聞く），ペアで対話練習をし（話す），テキスト中の練習問題を一緒に解きます（読む）。授業で理解した知識を元に，各自の課題をこなします（書く）。						
準備学習の内容	予習の指示は特にないが，毎回授業の復習を兼ねた宿題（筆記）を出します。 教科書に沿った内容で，所要時間は内容によって 10 分～30 分程度です。						
各回の授業内容	1　導入：ドイツ語Ⅰ（～5 課）の復習 2-7*　6 課：買い物―店や商品の種類・店員との会話・広告の理解・依頼に関するやりとり 1・営業時間の理解 （序数・指示代名詞主格／目的格・命令形・人称代名詞目的格） 8-13　7 課：家族―家族の紹介・前後左右の位置関係・招待に関するやりとり・贈り物についての相談・統計の読み方・指示表現の理解 （所有冠詞 2・人称代名詞主格／目的格／与格・命令形 2） 14　6-7 課のまとめ：筆記試験・会話試験 15-20　8 課：旅行―休暇先と活動についての計画・宿泊リストへの記入・宿泊先の利用案内の理解・依頼に関するやりとり 2・観光局への問い合わせメールの書き方 （場所を表す前置詞・話法の助動詞 dürfen とまとめ） 21-26　9 課：街角で―過去の説明・道を尋ねる・切符の買い方・駅の案内を理解する・旅先からのメール （現在完了・過去分詞） 27　8-9 課のまとめ：筆記試験・会話試験 *【教職員間授業公開日：4/28（木）】						
評価方法	出席・授業参加（20%），宿題・課題（20%），中間・期末試験（60%）						
テキスト	佐藤修子著『Szenen1 場面で学ぶドイツ語　CD＆ワークブック付』（三修社） ［ドイツ語Ⅰで使用した教科書の後半を使います。］						
参考書	斉藤佑史著／荒木詳二著『若草のドイツ語文法』（三修社） ［教科書にない文法事項が簡潔にまとまっています。必須ではありません。］						
その他特記事項	履修はドイツ語Ⅰ既習者かそれに相当する者に限ります。 引き続き，積極的なペアワーク・グループワーク・課題提出を期待します。						

基礎科目

科目名	フランス語 I			担当者名	横田 千晶		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	綴り字と発音の法則を覚えてフランス語を正しく読めるようにします。会話表現を通して文法を理解し，基本的な表現や単語を身につけることを目指します。フランス語で自分について話したり，相手にたずねたりできるようにします。						
授業の概要	綴り字と発音の基礎から学びます。会話表現を通して文法事項を理解・運用します。そのため二人組の対話練習も多く行います。前回の復習を兼ねた小テストで学習を定着させます。折に触れてフランスの文化や社会についてのヴィデオも見ます。						
準備学習の内容	前回の復習と課題（宿題および小テスト勉強）に，毎回 30 分程度の学習が望まれます。						
各回の授業内容	1　アルファベ，発音と綴り字 1，簡単な自己紹介 2　発音と綴り字 2，数字（1～10）と買い物 3　発音と綴り字 3，数字（11～20），挨拶の表現 4　Leçon 1　国籍を言う 5*　職業を言う 6　名前を言う 7　Leçon 2　住んでいるところ 8　話せる言語 9　学んでいること 10　Leçon 3　家族 11　年齢を言う 12　好みを言う 13　Leçon 1～3 のまとめ 14　中間テスト 15　Leçon 4　食べる・飲む，食べ物の名 16　食べない・飲まない 17　～がある 18　たずねる「何？」「いくつ？」 19　Leçon 5　人・物を描写する 20　たずねる「誰？」 21　たずねる「どんな？」 22　物を描写する，物の名 23　Leçon 6　行く，来る，数字 30～60 24　定冠詞の縮約形 25　国名と国名につく前置詞 26　いろいろな疑問文 27　まとめと復習 *【教職員間授業公開日：4/28（木），9/29（木）】						
評価方法	出席＋小テスト（10%），中間テスト（45%），期末テスト（45%）						
テキスト	田辺保子他『やさしいサリュ』（駿河台出版社） 上記教科書とともに授業時に配布するプリントを使用します。						
参考書							
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	フランス語はフランス本国だけでなく，近隣のヨーロッパ諸国やカナダ，北アフリカなどで話されているため，それらの国から来た人たちとフランス語を通してコミュニケーションをとることができます。				

基礎科目

科目名	フランス語Ⅱ			担当者名	横田 千晶		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	フランス語 I で学んだ基本事項を定着させながら，より発展した文法を学び，応用力をつけることが目標です。フランス語で自分の行動や予定を話したり，買い物や食事などの日常的な場面での会話ができるようにします。						
授業の概要	始めはヴィデオ教材を使って既習文法の復習をしつつ，新しい学習事項を学びます。その後は教科書で前学期の続きの課を進めていきます。クラスでは二人組みの対話練習も多くします。前回の復習を兼ねた小テストで学習を定着させます。						
準備学習の内容	前回の復習と課題（宿題および小テスト勉強）に，毎回 30 分程度の学習が望まれます。						
各回の授業内容	1　ヴィデオで学ぶ①　人について語る（前学期の復習） 2　動詞：er 動詞 / être / avoir / faire 3　国籍・職業・年齢，名詞・形容詞の性・数，否定形，数字 20～100 4　ヴィデオで学ぶ②　飲み物についてのインタヴュー 5*　動詞：boire / prendre 6　冠詞，定冠詞の縮約形，国名につく前置詞 7　Leçon 6　行く・来る 8　動詞：aller / venir，前置詞，場所の名 9　いろいろな疑問文 10　Leçon 7　時間と曜日 11　動詞：ir 動詞，疑問形容詞 12　Leçon 8　近い未来・近い過去 13　動詞：vouloir / pouvoir / sortir (partir / dormir) 14　近接未来，近接過去，身体の名称 15　ヴィデオで学ぶ③　買い物をする 16　指示形容詞，直接目的語・間接目的語 17　服飾品の単語，色の名 18　Leçon 9　1 日の行動を言う 19　代名動詞 20　天気の表現 21　Leçon 10 道をたずねる 22　命令形 23　場所を表す前置詞，パリの街について 24　Leçon 11 過去のことを語る 25　複合過去形 26　中性代名詞 en 27　まとめと復習 *【教職員間授業公開日：4/28（木）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（10%），小テスト（80%）						
テキスト	田辺保子他『やさしいサリュ』（駿河台出版社） 上記教科書とともに授業時に配布するプリントを使用します。						
参考書							
その他特記事項	履修はフランス語 I 既修者かそれに相当する者に限ります。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	フランス語はフランス本国だけでなく，近隣のヨーロッパ諸国やカナダ，北アフリカなどで話されているため，それらの国から来た人たちとフランス語を通してコミュニケーションをとることができます。				

基礎科目

科目名	スペイン語 I			担当者名	A. Yáñez		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	学生は正しい発音とイントネーションを学びスペイン語の基礎文法を少しずつ理解できるようになります。簡単な会話やあいさつ，自己紹介などが身につきます。文化や習慣，スペインの各地方の名所や旧跡が学べます。						
授業の概要	授業の始めに小テストをしてから前回の復習をします。テキストとプリントで進め言葉の背景になっているスペインの文化や習慣について歌やビデオを使い理解していきます。						
準備学習の内容	授業の重要なポイントは次回に小テストをします。また復習のためプリントまたは課題を提示します。（約 30 分）						
各回の授業内容	1 アルファベットと自己紹介 2 発音の練習 授業でよく使われる表現 3 発音の練習 あいさつ 4 名詞の性と数 あいさつ（2）数字（1） 5* 名詞の性と数 数字（2） 6 定冠詞，不定冠詞 7 人称代名詞と国名 カフェテリアにおいて 8 “ser”動詞の活用と使い方 国籍 9 “ser”動詞の活用と使い方 出身地 10 疑問文と否定文 職業 11 “estar”動詞の活用と使い方 人，物，場所の紹介 12 “hay”動詞の使い方，疑問詞（1） 人，物，場所の紹介 13 場所表わす前置詞 よく使われる表現 （2） 14 まとめ パソコンでスペイン語を入力 15 形容詞 時間表現（1） 16 疑問詞（2） 時間表現（2） 17 規則動詞の説明，“ar”動詞の活用 職業の紹介 18 前置詞，“ar”動詞 19 所有形容詞 家族の紹介 20 “er”，“ir”動詞活用と使い方 21 指示形容詞 スペイン語で自己紹介（1） 22 練習と質問 スペイン語で自己紹介（2） 23 直接法現在の不規則動詞（1） 色の紹介，日付について 24 直接法現在の不規則動詞（2） 月，季節 25 目的語代名詞 天候 26 不定詞表現 予定について 27 総まとめ *【教職員間授業公開日：4/28（木），9/29（木）】						
評価方法	テスト（70%），提出物（20%），出席（5%），授業の積極性（5%）						
テキスト	『スペイン語でスケッチ』（第三書房）						
参考書							

基礎科目

科目名	スペイン語Ⅱ			担当者名	A. Yáñez		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	引き続き，日常生活で使われる会話力を養うための学習をします。ここではさらに文法や単語が増えていきますが，それを学習することにより，いろいろな場面で上手に自分の言いたいことが表現できるようになります。						
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習をしながら理解度を高めていきます。必要に応じて作文や簡単な会話，練習問題などを行っていきます。						
準備学習の内容	授業の重要なポイントは次回に小テストをします。また復習のためプリントまたは課題を提示します。（約 30 分）						
各回の授業内容	1 スペイン語Ⅰの復習 2 スペイン語Ⅰの復習 3 直接法現在の不規則動詞（1），不定詞表現（1） 何時に始まるのか？ 4 疑問詞 予定について 5* 所有形容詞（後置形） 洋服の買い物 6 直接法現在の不規則動詞（2） 7 不定詞表現（2）「～しなければならない」 8 感嘆文，序数 どこへ行って何をしたい？ 9 間接目的語代名詞 貸し借りの練習 10 “Gustar”動詞 「～が好きです」 11 “Gustar”形の動詞 スポーツ，食べ物 12 “Gustar”形の動詞 スポーツ，食べ物 13 再帰動詞の活用 一日の行動 14 再帰動詞の使い方 一日の行動 15 まとめ 16 比較級，最上級 形容詞との練習 17 比較級，最上級 18 現在完了の活用・過去分詞，頻度の表現 「～したことがある」 19 現在完了 過去の出来事，経験を話す 20 不定語と否定語 過去の出来事，経験を話す 21 直接法点過去の活用 ［～した，～だった。］ 22 直接法点過去不規則動詞 昨日の行動 23 直接法点過去 昨日の行動 24 直接法線過去の活用 「～していた」 25 直接法線過去不規則動詞 小さい時 26 点過去と線過去 小さい時 27 点過去と線過去 習慣 *【教職員間授業公開日：4/28（木）】						
評価方法	テスト（70%），提出物（20%），出席（5%），授業の積極性（5%）						
テキスト	『スペイン語でスケッチ』（第三書房）						
参考書							
その他特記事項	履修はスペイン語Ⅰ既習者かそれに相当する者に限ります。						

基礎科目

科目名	中国語 I			担当者名	廣重 聖佐子		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	この授業では本編の前半入門部分を使用し，中国語学習に不可欠なピンインが読めるようになることと簡単な文法事項の習得を目指す。このため授業中にも音読練習を重視する。						
授業の概要	授業は二回で一課を終了する。一回目の授業で先ず文法と単語の説明，その後に本文の解説と音読練習を行う。次の授業で宿題の練習問題を解説する。 各課ごとに音読のテストを。						
準備学習の内容	各自自宅で本文の音読練習をすること。 各課の文末にある練習問題を宿題とする。						
各回の授業内容	1-5* 第 1 課から第 7 課 発音と基本的な中国についての知識 6-7 第 8 課 動詞“是”，“吗”疑問文の用法 8-9 第 9 課 動詞述語文，副詞“也”と“都”，語気助詞“吧”の用法 10-11 第 10 課 “呢”疑問文，指示代詞（1），“的”の用法 12-13 第 11 課 疑問詞疑問文，助動詞“想”，時点（1）の用法 14-15 第 12 課 形容詞述語文，反復疑問文の用法 16-17 第 13 課 連動文，所有を表す動詞“有”，量子の用法 18 復習と音読テスト 19 中間試験 20-21 第 14 課 “几”と“多少”数字 100 以上の用法 22-23 第 15 課 指示詞（2），方位詞，存在を表す動詞“在”と“有”の用法 24-25 第 16 課 文末の“了”（1），年齢の尋ね方，時点（2）の用法 26-27 第 17 課 前置詞“在”，時点（3）時刻，名詞の修飾の用法 復習 *【教職員間授業公開日：4/14（木），9/12（月）】						
評価方法	テスト（70%），出席と音読テスト（30%）						
テキスト	杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 40 回』（白帝社）						
参考書	守屋宏則『中国語の基礎』（東方書店） 蘇紅『しっかり学ぶ中国語文法　解説と練習問題』（ベレ出版）　自習用参考書						
その他特記事項	私用による遅刻厳禁。 就職活動等で欠席する場合は，事前に連絡すること。 欠席する場合は，事前に連絡すること。						

基礎科目

科目名	中国語Ⅱ			担当者名	廣重 聖佐子		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	この授業では昨年度のテキストを引き続き使用し，初級中国語の基礎的学習事項の完成を目指す。また初級の文型を使って簡単な自己紹介が出来るようにする。						
授業の概要	授業では単語や文法事項の説明の後に，本文の訳を自分たちで試みる。 毎時間の提出物を出席にかえる。						
準備学習の内容	音読テストを必ず受けること。そのために各自自宅で本文の音読練習をすること。						
各回の授業内容	1-3*　第 12 課 　様態補語，（是）・・・的の強調構文，語気助詞“了”の用法 4-6　第 13 課 　可能動詞“会”と“能”，動詞接尾辞“着”の用法 7-9　第 14 課 　助詞“吧”，像・・・一样，助動詞“会”の用法 10　音読テストと復習 11　中間テスト 12-14　第 15 課 　動詞接尾辞“ ―着”，受身の“受”，語気助詞の“呢”の用法 15-17　第 16 課 　方向動詞，助詞“地”（連用修飾）の用法 18-20　第 17 課 　処置文“把”，現存文，方向補語の用法 21-24　第 18 課 　受け身文，难＋動詞，好＋動詞 の用法 25-26　自己紹介文の作成と発表 27　音読テストと復習 *【教職員間授業公開日：4/14（木）】						
評価方法	テスト（70%），出席と音読テスト（30%）						
テキスト	関西大学中国語教材研究会『中国語キャンパス基礎編　改訂版』（朝日出版）						
参考書	守屋宏則『中国語の基礎』（東方書店）						
その他特記事項	私用による遅刻厳禁 就職活動等で欠席する場合は，事前に連絡すること						

基礎科目

科目名	日本語表現法			担当者名	樋口 万喜子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	日本語で事実や状況を正確に伝える方法と，自分の意見を筋道をたてて伝える方法を学ぶ。授業を通して，レポートの書き方，ノートテイキングの仕方，口頭発表に必要なスキル（パワーポイント等）もあわせて身につけることを目標とする。						
授業の概要	プロセス･ライティングの考え方に基づき，自分の興味のあるトピックについて調査し，課題レポートを作成していく。問題を発見し，資料・情報の収集・分類・検討を行い，論理的文章の書き方を学ぶ。最後にパワーポイントで口頭発表する。						
準備学習の内容	テキストを読んでくる。自分の選んだテーマについて情報を収集，分析してくる。 30 分～2 時間						
各回の授業内容	1　授業の目的を知る。課題条件の確認。レポートとは何かを考える。 2　知る：課題レポートの形を知る。根拠の大切さを知る。 3　練る：読み手と目的を考え，テーマを考える。 4　練る：構想マップを作る。 5　調べる：情報のまとめ方（インターネット情報の信頼性，図書館 OPAC 利用） 6　絞る：情報を整理し，問いと答えを切り出す。 7　絞る：目標を仮に規定する。(何について，どんなことを言いたいのか) 8　組み立てる：序論・本論・結論→文章展開を見直し，アウトラインを作る。 9　組み立てる：アウトラインを検討する。 10　組み立てる：アウトラインをもとに文章化してみる。 11*　書く：中心文を書く。一つのパラグラフでは一つの話題に限定する。 12　書く：パラグラフを書く。いろいろなパラグラフを知る。 13　書く：本文を書きこむ。(1) 14　書く：本文を書きこむ。(2) 15　書く：本文を書きこむ。(3) 16　パワーポイントの使い方を実践的に学ぶ。 17　引用：引用の仕方・引用箇所と引用文献をつなぐ 18　引用：参考文献の書き方。 19　中間発表。プレゼンテーション（前半）を行い，相互に評価する。 20　中間発表。プレゼンテーション（後半）を行い，相互に評価する。 21　点検する：ピアの質問・意見を参考に文章を推敲する。　練習問題 22　点検する：正確で客観性のある表現か確認する。 23　発表のレジュメを作る。わかりやすい発表を考える。ペアで発表練習。 24　発表する：発表の意義を考え，プレゼンテーションを行う。(前半) 25　発表する：発表の意義を考え，プレゼンテーションを行う。(後半) 26　振り返る：発表会をレポートに活かす。表紙を作り，形式なども整える。 27　振り返る：学習プロセスを振り返り，自己評価する。 *【教職員間授業公開日：5/23（月）】						
評価方法	出席（26%），宿題（24%），発表（10%），レポート（40%）						
テキスト	大島弥生 他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現　―プロセス重視のレポート作成』(ひつじ書房)						
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)						
その他特記事項	パソコンルーム使用						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	当科目では，レポートのテーマやその他の作文の題材として，サービスラーニングに関する事柄を選ぶことが可能である。				

基礎科目

科目名	日本語表現法			担当者名	河北 祐子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	日本語で事実や状況を正確に伝える方法と，自分の意見を筋道をたてて伝える方法を学ぶ。授業を通して，論文の書き方，ノートテイキング，パワーポイント，レジメの書き方を身につけることを目標とする。						
授業の概要	学期前半は，個人で作業をする他，グループで互いの文を修正し評価し合う。学期の後半は，自分の興味のあるトピックについて調査し論文を書く。論文の書き方を段階別に学び，最後にパワーポイントを使って口頭でプレゼンテーションを行う。						
準備学習の内容	学期前半は授業内での作業が中心になるが，段階的に 1 時間程度の授業準備（毎回の授業冒頭に 3 名によるミニプレゼンをする）を含む課題（与えられた文や自分で選んだ文について分析する，要約する等）対応が必要となる。						
各回の授業内容	1　わかりにくい文とは 1 2　わかりにくい文 2 3　わかりにくい文 3 4　中心文とは何か 5　中心文の書き方 6　パラグラフライティング 7　説明文とは 8　説明文の書き方 9　感想文 10　事実文と意見文 11　事実文と意見文 12　要約の仕方 13　要約の仕方 14　論文トピック探し 15　小論文の書き方 16　先行研究の書き方 17　論点の絞り方 18　論点の書き方 19　アウトライン 20　引用 21　参考文献の書き方 22　パワーポイント 23　プレゼンテーション 24　プレゼンテーション 25*　論文推敲 26　論文推敲 27　ふり返り *【教職員間授業公開日：12/13（火）】						
評価方法	出席（30%），宿題（20%），発表（10%），レポート（40%）						
テキスト	ハンドアウト						
参考書	なし						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	授業後半に各自が論文を書く際に，サービスラーニングに関係のある分野を選んで調査することが可能である。				

基礎科目

科目名	キャリアプランニング			担当者名	輪講（岩崎）		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	本学ソフィア会（同窓会）の支援と同窓生の協力のもとに開講される講座である。目的は，社会で活躍する同窓生の講話を通して，学生が自らの人生を見つめ，より広い視野から各自の将来の可能性を考え，キャリアプランをたてること。						
授業の概要	本講座は進路ガイダンスとは異なり，すぐに役に立つ就職のためのノウハウ伝授ではなく，長期的な視点を養うこと，様々な業界や世界の実態に触れ，多様な世界観を持つことに主眼を置く。また，講師それぞれの話し方や資料提示の方法は異なるが，どのようなタイプの講演に対しても話の要点を的確に聞きとり理解する能力を養う。						
準備学習の内容	期末レポートでは，全体の講義内容を総括して問うような課題となるので，常に講義の内容の要点と感想を記録するノートを作ること。						
各回の授業内容	1　女性のライフサイクルとキャリア 2　大学の英語講師として 3　大学教授として ―科学技術とジェンダー 4　児童英語教材と教育について 5　英会話講師と交換留学生受け入れボランティア 6　ジャーナリストとして 7　教育学と育児 8　銀行員として 9　弁護士として 10　国際交流の仕事 11　ストリート・エデュケーター 12　聖マリア修道会のシスターとして 13　映像コンテンツ事業のプロデューサーとして 14　障害を持つ人々とともに生きる 15　上智学院職員として 16　通訳ガイド・法廷通訳から日本語教師へ 17　社会福祉士として 18　ファッション業界からリフレクソロジストへ 19　輸入車販売プロモーションを担当して 20　短大での教育と歴史研究者として 21　英語のスキルアップと児童英語教育 22　業界翻訳から会社社長へ 23　フリーアナウンサーとして 24　着物とマナー 25*　特別協議：上智短期大学の女子教育について 26　キャリア・プランの作成について 27　まとめ 上記は予定であり，担当者の都合による日程・内容の変更もありうる。 *【教職員間授業公開日：12/15（木）】						
評価方法	毎回提出のリアクション・ペーパーが（50%），中間・期末レポートが（50%）となる。						
テキスト	なし						
参考書	各回のプリントに掲載						
その他特記事項	講師の先生方は，卒業生としての厚意により多忙なスケジュールの中を来校下さり，貴重な人生経験を講義して下さる。ゆえに，受講者には常に礼儀をもって授業参加する態度を心掛けて欲しい。礼儀を欠く振る舞い（授業中の無断退室，私語など）は固く禁じる。						

基礎科目

科目名	留学準備			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	本講は夏期「海外短期語学講座」に参加する学生を対象とした留学準備講座である。学生は現地での勉強・生活をより充実したものにすべく，日々の生活で必要となる英語表現の学習に加え，英語圏（とりわけアメリカ）の人々，文化，習慣，そして大学での生活についてビデオ教材を通して学んでいく。						
授業の概要	ある日本人女性がアメリカで観光・留学をするというストーリー仕立てのビデオ教材を用い，語彙学習，リスニング練習，会話練習，表現学習などを中心に行っていく。また学生は自らの訪れる国に関する様々な事柄について調べ，発表しなければならない。これは毎回の授業時の小課題（Research Assignments），およびグループ・プレゼンテーションの一環として評価される。						
準備学習の内容	本講では日々の授業に必要な予習は特段課せられないが，復習に関しては時間をかけてしっかりと行う必要がある。これは学期中 2 回行われる Oral Test（口答試験）に向けた準備となる。また Research Assignment の作成（学期中 6～7 回を予定）には，あるテーマに沿ってリサーチをし，それを英語でまとめるという作業が関わってくるため，少なくとも 1～2 時間が必要となる。						
各回の授業内容	1 Course overview 2 Introduction: Going abroad 3 Getting information 4 Home stay 5 Asking for directions 6 Offering to help 7 Group presentation <1> 8 Ordering a meal 9* Self-introduction 10 Shopping for clothes 11 Getting advice 12 Mid-term Test (Oral) 13 Mid-term Test (Written) 14 Group presentation <2> 15 Asking for a favor 16 Checking out a book 17 Meeting a friend 18 Sending a package 19 Group presentation <3> 20 Letter writing 21 Inviting a friend 22 Buying medicine 23 Expressing preference 24 Group presentation <4> 25 Saying good-bye 26 Final Test (Oral) 27 Course review: Studying Abroad *【教職員間授業公開日：5/16（月）】						
評価方法	Mid-term and Final Test (Oral and Written) (60%), Vocabulary Quiz (10%), Research Assignments (10%), Group Presentation (10%), Attendance, Class Participation and Others (10%)						
テキスト	Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell, *Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English* (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)						
参考書	J. F. De Freitas, *Survival English* (The Macmillan Press)						
その他特記事項	夏期の「海外短期語学講座」に参加しない学生は原則，本講を履修することが出来ない。						

基礎科目

科目名	留学準備			担当者名	飯田 純也		
開講期	秋	分類	選択	単位	2	年次	1･2 年
授業の目標	春の海外短期語学講座に参加する学生を対象に，留学先で生活を維持するのに困らない程度の基本的語学力の確認と，留学先の政治，経済，社会，文化等の基本的知識の獲得を目標とする。						
授業の概要	状況に応じた実践的トレーニングを繰り返す。また，学期を通して，留学先に関する情報を集め，グループあるいは個人で発表する。						
準備学習の内容	毎回事前に最低 30 分は，留学先の情報を集めたり，発表の準備をしたりしてほしい。						
各回の授業内容	1　授業紹介 2-10　状況に応じた英語力の鍛錬 a. New Neighbors b. Shopping c. Social Time d. Around the Town e. Restaurant f. Errands g. Airport h. Travel i. Health j. Supermarket k. Special Occasions l. Descriptions 11　中間テスト 12-25*　グループ及び個人研究発表 26-27　直前テスト 授業内容の変更あり。 *【教職員間授業公開日：12/1（木）】						
評価方法	出席を前提とした上で，評価は小テストが（20%），発表が（40%），直前テストが（20%），学期テストが（20%）とする。						
テキスト	Karl Nordvall, *Everyday Survival English* (Compass Publishing)（変更あり）						
参考書							

専門科目＜必修＞

科目名	基礎ゼミナール			担当者名	森下 園，永野 良博，宮崎 幸江，杉村 美佳，岩崎 明子，小林 宏子		
開講期	春	分類	必修	単位	2	年次	1年
基礎ゼミの目的	本学の教育理念にふさわしい大学生としての常識を身につけ，多用な情報を整理して把握し，そのうえで自らの見解を論理的かつ能動的に発信する能力を身につける。具体的には，全員が個人発表を行い，発表内容をワードで文書にまとめられるようになる。						
基礎ゼミの概要	大学での自律した学びに必要なアカデミックスキルを身につける。同時期に開講される人間学や専任教員によるミニレクチャーの内容を用いながら，日本語運用能力を向上させる。同時に，将来のキャリア形成のため，大学生活をどのように送るかについても考える。授業は，学生同士のディスカッション，文章作成，プレゼンテーションなどの実践を中心に行う。						
準備学習の内容	課題や発表準備のため，毎回1時間程度の準備を要する。						
各回の授業内容	1　大学で学ぶということ 2　上智短期大学での目標 3　授業の受け方 4　情報リテラシー 5　日本語スキル　―　わかりやすい話し方・わかりやすい文 6　人前で話す（1） 7　人前で話す（2） 8　文章を書く（1） 9　文章を書く（2） 10　文章を書く（3） 11　プレゼンの作法・レジュメの作り方 12　プレゼンテーション 13　プレゼンテーション 【教職員間授業公開日：森下（1限・2限）6/15（水），永野（1限・2限）6/15（水），宮崎（1限・2限）6/22（水），杉村 4/20（水），岩崎 6/22（水），小林 6/8（水）】 基礎ゼミ（再）（秋学期）【教職員間授業公開日：岩崎 11/30（水）】						
評価方法	課題5回×4%＝（20%），出席13回×2%＋ショートレクチャー4回×1%＝（30%），プレゼンテーション（30%），期末課題（20%）						
テキスト	上智大学英語科編『Essentials』を教室にて配布						
参考書	小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）						
その他特記事項	授業時間帯とは別に月曜日2限に全専任教員によるミニレクチャーを4回行うが，全回の出席ととったノートの提出を義務づける。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	髙野 敏樹		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	法律学　比較憲法学　比較政治制度論　国際関係論　EU 法制論						
ゼミのテーマ	社会科学の基礎研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは，法学，政治学，国際関係論など，ひろく社会科学の分野にかかわる諸問題について 2 年生と合同でゼミを実施することを通して，研究方法と発表方法を身に付け，討論の基礎力を涵養します。1 年生は自分のテーマ（将来の研究テーマを見据えた暫定テーマ）を設定し，各自 1 回小発表を行います。						
準備学習の内容	各自設定したテーマについて文献研究や調査をし，それらの内容や意味を充分に考察・理解したうえで，レジュメを作成して研究発表します。発表の準備に相当の時間が必要です。有意義に討論に参加するために 2 時間以上の準備が必要です。						
各回の授業内容	1　オリエンテーション―研究・調査・発表の方法を考える 2　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 3　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 4　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 5　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 6　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 7　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 8*　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 9　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 10　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 11　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 12　テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 13　発表の総括 *【教職員間授業公開日：11/9（水）】						
評価方法	研究発表（参照文献やレジュメは適切か，発表方法は適切か等の評価）（40%）と，ゼミ論文（40%），討論への参加状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	このゼミの性質上，とくに指定しません。						
参考書	研究は文献を選択するところから始まります。各自適切に選択し（積極的に相談にきてください），発表前にゼミ参加者に参考文献の概要を発表してください。						
その他特記事項	まず自分自身の研究テーマを適切に設定することが大切ですので，ゼミ指導教員によく相談することが重要です。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	平野 幸治		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	19世紀英国のヴィクトリア朝および20世紀のモダニズムの文学						
ゼミのテーマ	英語で書かれた文学作品を通して人文学の研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	英語で書かれた文学作品の研究がゼミの主たる目的である。学生の発表やパネル・ディスカッション等によってプレゼンの能力や，学生の発言を聞くことで内省し批評する力を育てる。特にプレゼミでは，学年を超えた交流や同学年でない人たちの前で発言やディスカッションする勇気を養うと同時にグループ活動する能力と体験を養う。ゼミの活動は，ゼミ遠足・軽井沢や秦野のセミナーハウスでの合宿・勉強や卒業後の進路相談等，ゼミ生の日常生活と深く関わる。						
準備学習の内容	学生によって個人差はあるが授業ごとに毎回テキストの要約等約1時間半から2時間を要する事前準備を期待する。						
各回の授業内容	テキスト *The Things That Matter* を中心に，特に以下のトピックスを取り上げてディスカッションをする。 1　オリエンテーションとスケジューリング 2-7*　作品研究や指示された課題の発表 2-4　identity と青年期 5-7　identity と life cycle 8-11　グループでディスカッション 12　グループワークの発表 *【教職員間授業公開日：10/12（水）】						
評価方法	授業参画（30%），発表（30%），レポート（40%）						
テキスト	Edward Mendelson, *The Things That Matter* (Anchor) 佐藤望編『アカデミック・スキルズ』（慶応義塾大学出版界）						
参考書	柴田元幸編著『文学の都市：世界文学・文化の現在10講』（東京大学出版会） Margaret Drabble and Jenny Stringer, *OXFORD CONCISE COMPANION TO ENGLISH LITERATURE* (Oxford University Press)						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	飯田 純也		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	英米文学史，思想史，詩，演劇，小説						
ゼミのテーマ	人文科学の研究方法						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは，広義の文学を対象に，履修者各自が研究テーマを選び，人文科学の研究方法をいろいろ試しながら，研究テーマに対する理解を深めると同時に，哲学的，心理学的，社会学的，歴史学的発想方法を身につけることを目標にする。						
準備学習の内容	自分の研究テーマに関する基準を作り，作品選びを行い，作品毎に解釈や分析を積み重ねた上ではじめて出発点に立つことができると考えてほしい。						
各回の授業内容	1　研究の方法論 2-4　グループ研究 5-7*　個人研究 8-10　個人研究中間発表 11-12　個人研究発表 *【教職員間授業公開日：10/19（水）】						
評価方法	出席を前提とした上で，評価は研究発表が（80%），質疑応答等の積極性が（20%）とする。						
テキスト	個人研究を中心にするゼミなので，共通テキストはありません。						
参考書	随時，授業で紹介する。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	近藤 佐智子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学，語用論，社会言語学，会話分析，第2言語習得，英語教育						
ゼミのテーマ	社会のなかの言語使用に関する研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	私たちは，住んでいる地域，文化，年齢，ジェンダー，職業といった様々な社会的要因によって，異なる話し方をする。また，場面や相手によって巧みに話し方を変えるということも日常的に行っている。このゼミでは，主に英語と日本語について，このような社会と言語のダイナミックな関係について基礎知識を得る。社会言語学の基礎文献を読み，その内容を発表し，ディスカッションをする力をつける。また2年次ゼミ生の研究発表を聞き，分析的な見方をする力をつける。						
準備学習の内容	各授業の前に全員が教科書の指定した章とそれに関連した英語の短いパッセージを読み，要約を書く（3 時間程度）。発表者は担当する章の内容についてレジメを準備する（発表は学期中ひとりにつき一回の予定）。最後に関心を持ったテーマについてレポートを提出するためにいくつかの文献を読む。						
各回の授業内容	1　導入（研究の進め方，発表方法，論文の書き方） 2　基礎文献の講読（社会言語学とは） 3　基礎文献の講読（地域による言語の違い） 4　基礎文献の講読（言語と社会階級） 5　基礎文献の講読（人種・民族による言語差） 6*　基礎文献の講読（言語の性差） 7　基礎文献の講読（言語の状況差・適切さ） 8　基礎文献の講読（言語と文化） 9　2年次生のゼミ論文発表に参加 10　2年次生のゼミ論文発表に参加 11　2年次生のゼミ論文発表に参加 12　2年次生のゼミ論文発表に参加 *【教職員間授業公開日：10/19（水）】						
評価方法	授業参画（30%），発表（20%），レポート（30%），出席（20%）						
テキスト	田中春美，田中幸子（編著）『社会言語学への招待』（ミネルヴァ書房）						
参考書	Bernard Spolsky（著）*Sociolinguistics* (Oxford University Press) 東祥照二（著）『社会言語学入門―生きた言葉のおもしろさにせまる』（研究社）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	日本語教育，英語教育ボランティアを行っている履修生に体験を発表してもらい，言語学習者の言語使用，言語習得，また言語教育方法などについてゼミで議論をする。				

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	森下 園		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	歴史学（歴史理論，英国中世史）						
ゼミのテーマ	他者を理解するための歴史学						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	歴史学の専門書を読み，グループで共同作業を行い，用語や地図をチェックしてレジュメを作成し，要約発表を行えるようにする。また個人報告では任意のトピックについて資料を参照し，レジュメを用いてプレゼンテーションを行えるようにする。						
準備学習の内容	文献の要約発表では要約・レファレンス参照・レジュメ作成に1週間程度，個人発表でも同等の準備時間を要する。						
各回の授業内容	1　テキスト配布と要約のグループわけ 2　レジュメ作成について 3　要約のグループ発表 4　要約のグループ発表 5*　要約のグループ発表 6　要約のグループ発表 7　要約のグループ発表 8　個人報告のトピック選択 9　プレゼンテーション 10　プレゼンテーション 11　プレゼンテーション 12　プレゼンテーション *【教職員間授業公開日：10/12（水）】						
評価方法	出席とゼミへの参加が（50%），要約のグループ発表が（25%），プレゼンテーションが（25%）となる。						
テキスト	上智大学史学科編『歴史家の散歩道』（Sophia University Press） 注意：テキストは初回に教室で渡すので事前購入しないこと。						
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史』（岩波書店）						
その他特記事項	プレゼミは原則として15:30－17:00の時間帯に行う。16:30－17:00は2年次生と合同になる。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	永野 良博		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	アメリカ文学						
ゼミのテーマ	アメリカ小説						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	アメリカ小説の研究に必要な基礎的な知識をつけてゆく。文学作品を読んで，メモを取ることから始め，ノートをまとめ，主題を設定し，さらに詳しいノート作りへと発展させ，論文を形作る過程を追ってゆく。また例となるモデル論文の良い点や問題点等について議論し，文学作品に関する論文を書く技術を学ぶ。						
準備学習の内容	毎回指定された文学作品を事前に読み，メモやノートを取り，作品に関する議論のための意見を用意してくることが求められる。その際，毎回 2－3 時間程の予習が必要となる。さらに口頭発表を担当する時には，資料探し，資料読解，発表原稿作成等で何日もの準備が必要となる。						
各回の授業内容	1-4　アメリカの短編小説を読み，主に登場人物の分析の仕方について学ぶ。その際行う作業は，例えば（1）物語中の出来事を時間軸や出来事が起こった場所に従って整理する，（2）人物の年齢，仕事，階級などを理解する，（3）人物の性質，即ち，誠実さ，欺瞞，他者への思いやり，性癖，内に秘めた衝動，自己理解，倫理観，等を分析する。多角的に人物を見ることにより，より深い人間性の理解に繋げたい。 5-9*　アメリカの短編小説を読み，主に物語が起こる場所や背景の分析の仕方について学ぶ。その際行う作業は，（1）外の世界と繋がるドアや窓の持つ意味を理解し，それらに対する登場人物の態度を検討する，（2）光や闇，暑さや冷たさ，静と動，等の対比的な要素を検討する，（3）壁やついたてが，自己が他者に対して持つ態度とどう繋がるのか分析する。小説家は人物を取り囲む外的な要素をどのように使い，人と世界の関係を描くのか理解してゆく。 10-12　これまでに学んだ人物や人物を取り囲む背景の分析などを踏まえ，より広い視点から大きな主題を扱った論文を書くための学習を行う。善と悪，信仰等の主題を扱う作品を分析し，そのような問題についていかにして考え，文章を書けばよいのか考えてゆく予定である。フォーマルな口頭発表と質疑応答を行い，その際に必要な技術についても学ぶ。（また学期を通して 2 年生との合同ゼミを随時行う。） *【教職員間授業公開日：11/16（水）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（10%），発表と論文（80%）						
テキスト	Timothy G. McAlpine, and Toshiyuki Suzuki, *Academic Writing: Writing Basic Literature Papers*（英潮社）その他のハンドアウト						
参考書							

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	社会言語学，言語コミュニケーション						
ゼミのテーマ	言語使用，言語のバリエーション						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	本ゼミのテーマとなる言語使用とそのバリエーションを理解するため，まずは「言語とは何か」について，英語で書かれた言語学の概説書を輪読しながら学んでいく。同時に個々人の英語力を高める目的からボキャブラリーを含めた英語のスキルに関するトレーニングも取り入れていく。						
準備学習の内容	毎回の授業で英語の Vocabulary Quiz を行うが，学生はそれに備えて対象語句を覚えなければならない。100 を超える語句があるため，1 週間をかけてしっかりと意味を覚えるためには相当の時間を要する。また自らが発表するテキストの章に関しては内容を広く深く理解しておく必要があるため，最低でも準備に 5～6 時間かかるであろう。それに加え，自分の担当の章以外でも毎回 Chapter Summary を提出しなくてはならないが，これも作成に数時間を要すると考えられる。						
各回の授業内容	1 Course overview 2 Why Study English Linguistics 3 How English Has Changed over the Centuries 4 The Sounds of English: Phonetics and Phonology 5* How Words Are Made: Morphology 6 How Words Mean: Semantics 1 7 How English Phrases Are Formed: Syntax 1 8 How Sentences Mean: Semantics 2 9 How to Communicate with Other People: Pragmatics 10 Regional Varieties of English: Sociolinguistics 1 11 English in Society: Sociolinguistics 2 12 Course review *【教職員間授業公開日：10/12（水）】						
評価方法	English skill training (10%), Presentation & Post-presentation discussion (30%), Chapter summary (30%), Term Paper (20%), Attendance and others (10%)						
テキスト	影山太郎，ブレント・デ・シェン，日比谷潤子，*First Steps in English Linguistics*（くろしお出版）						
参考書	石黒昭博『現代の英語学』（金星堂） 長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』（研究社）						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	T. Gould		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	Second Language Acquisition, Conversation Analysis						
ゼミのテーマ	Women's Issues						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	In this Pre-seminar students will build a foundation of knowledge about the basic issues facing modern women. The students will learn through readings, excerpts from books, and contemporary issues. Students will learn and expand their understanding of the issues through individual and collaborative (working together) research mini-projects.						
準備学習の内容	Preparation for this class involves reading articles that will be provided by the instructor. Additionally, students will need to work together to prepare for presentations and discussions.						
各回の授業内容	1-2* What is Gender 3 Gender Socialization 4 Language and Gender 5 Housework, Childcare and Family 6 Domestic Violence 7 Sex Work 8 Beauty and Gender Stereotypes 9 Sexual Freedom and Reproductive Rights 10 Gender and the Environment 11 Case Studies 12 Presentations *【教職員間授業公開日：9/21（水）】						
評価方法	Class participation and attendance (40%), participation and completion of mini-projects (20%), homework (20%), final report and presentation (20%).						
テキスト	Jane Nakagawa, *Gender Issues Today* (Tokyo Shuppan) Additional handouts and readings will be provided.						
参考書	Sumie Kawakami, *Goodbye Madame Butterfly* (Yushin Printing) Duplessis and Snitow, *The Feminist Memoir Project* (Rutgers University Press) Hiratsuka Raichou, *In the Beginning, Woman was the Sun* (Columbia University Press)						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	言語学，日本語教育学						
ゼミのテーマ	「多文化共生社会」における日本語教育						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	「外国につながる子ども」に対する日本語教育について基礎知識を学ぶ。サービスラーニング（日本語支援）を行い，多文化共生社会の現状と課題について考える。1・2年生合同ゼミで，2年生が「年少者日本語教育の課題」について適宜ミニレクチャーを行なう。						
準備学習の内容	毎回，発表者があらかじめ知らせる Study Questions について，答えを記述して授業に臨み授業後提出する。各回の準備は2時間程度。						
各回の授業内容	1　卒業研究とは 2　研究計画のたてかた 3*　年少者日本語教育の問題 4　年少者日本語教育の問題 5　卒業論文中間発表（2年生） 6　卒業論文中間発表（2年生） 7　教科指導・学習支援 8　教科指導・学習支援 9　教科指導・学習支援 10　論文の書き方 11　発表 12　発表 13　発表 *【教職員間授業公開日：9/28（水）】						
評価方法	出席（50%），期末レポート（50%）						
テキスト	授業の中で指示						
参考書	授業の中で指示						
その他特記事項	この授業を履修する学生は，全員学校派遣等のサービスラーニングを行なうことを履修条件とする。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	このゼミのテーマ「多文化共生社会における日本語教育学」は，本学のサービスラーニングの内，日本語支援ボランティアと直接関係がある。グローバル化や，それに伴う人々の移動，移民，言語マイノリティの教育など，このゼミで学ぶ内容は，日本語支援の対象に関係が深いことがらである。					

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	C. Oliver		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	Cultural anthropology（文化人類学）						
ゼミのテーマ	Multiculturalism						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	In the Pre-seminar, you will read about and discuss (in English) a variety of topics related to multiculturalism—such as immigration, ethnicity, discrimination, and cultural identity. As you do so, you will build up your English vocabulary and improve your ability to discuss complex cultural and social issues in English. You will also do a presentation on one of the countries shown below. Together, these activities will help you to become prepared for the more advanced study of multiculturalism in Seminar I and Seminar II.						
準備学習の内容	To prepare for class, you will need to do assigned readings, prepare your presentation content, and do related assignments. Average preparation time for each class will probably be about one hour.						
各回の授業内容	1 Overview of Fall semester 2 Readings & discussion: Canada & Australia 3 Readings & discussion: England & France 4 Readings & discussion: Switzerland & South Africa 5 Readings & discussion: Malaysia & India 6 Tutorial: organizing your ideas 7 Presentations: Australia & England 8 Presentations: South Africa & India 9* Presentations: the U.S. and Japan 10 Presentations (seminar students) 11 Presentations (seminar students) 12 Presentations (seminar students) *【教職員間授業公開日：11/16（水）】						
評価方法	Class preparation and participation (40%), presentation (20%), all other assignments (40%).						
テキスト	None.						
参考書	Michael Walzer, *On Toleration* (Yale University Press) 『多文化共生キーワード事典』（明石書店）						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	杉村 美佳		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	教育学（教育方法史・比較教育史）						
ゼミのテーマ	教育の国際比較研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	比較・国際教育学の基礎的な理論と研究方法を習得することを目的とする。前半は，比較・国際教育学に関する英文原書および和書の講読を進める。後半は，テキストにもとづき，教育の国際比較に関するグループ研究発表を行うとともに，2年生のゼミ論文発表に参加し，論文作成に必要な知識や技法を学ぶ。						
準備学習の内容	テキストの講読およびプレゼンテーションの準備をしてくること。						
各回の授業内容	1　比較・国際教育学の理論と研究方法（1） 2　比較・国際教育学の理論と研究方法（2） 3　*Teachers, Schools, and Society* の講読（1） 4　*Teachers, Schools, and Society* の講読（2） 5　*Teachers, Schools, and Society* の講読（3） 6　*Teachers, Schools, and Society* の講読（4） 7*　グループ研究報告と討論（1） 8　グループ研究報告と討論（2） 9　グループ研究報告と討論（3） 10　グループ研究報告と討論（4） 11　2年生のゼミ論文発表会への参加（1） 12　2年生のゼミ論文発表会への参加（2） *【教職員間授業公開日：10/26（水）】						
評価方法	出席および授業参画（30%），発表（30%），レポート（40%）						
テキスト	石附実編著『比較・国際教育学』（東信堂） David Miller Sadker, *Teachers, Schools, and Society* (McGraw-Hill)						
参考書	新井郁男，二宮皓編著『比較教育制度論』（放送大学教育振興会）						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	岩崎 明子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	TESOL（英語教授法），Learning Strategy，人間学（教育学），幼児教育 研究テーマ / 持続可能な世界とグローバリゼーション，価値教育						
ゼミのテーマ	グローバリゼーションとわたしたち						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	グローバルな社会現象と私たちの生活との関わりを文献や映像を通して知り，私たちは世界の中でどのように生きるべきかを討論や発表を通して考えていく。2年ゼミナールでの個人研究への準備。						
準備学習の内容	授業は英語テキストを使用する。各章の内容は，毎回学生担当者がレジメを作り，内容の発表とディスカッションをリードする。それ以外のメンバーも前もって授業範囲を読み質問項目を用意する。合宿を行うための特別発表課題を準備する。						
各回の授業内容	（秋学期初めにオリエンテーション合宿を行う。事前に必読書を読んでおく事。） 1　新聞記事の発表と話し合い 2　“原書”テキストの講読と発表，2年生の発表から学ぶ 3　“原書”テキストの講読と発表，2年生の発表から学ぶ 4　“原書”テキストの講読と発表 5　“原書”テキストの講読と発表 6　“原書”テキストの講読と発表 7　“原書”テキストの講読と発表 8*　“原書”テキストの講読と発表，2年生研究発表（パワーポイント）の聴講 9　“原書”テキストの講読と発表，2年生研究発表（パワーポイント）の聴講 10　“原書”テキストの講読と発表，2年生研究発表（パワーポイント）の聴講 11　“原書”テキストの講読と発表，2年生研究発表（パワーポイント）の聴講 12　まとめ （授業時間の後半は，2年生との合同授業となる） *【教職員間授業公開日：11/9（水）】						
評価方法	授業参画（20%），発表（30%），レポート・論文（50%）						
テキスト	B. Wheeler (2005), *IT's All Connected* (WA: Facing the Future: People and Planet)						
参考書	（必読）毎日新聞外信部（2003）『世界はいまどう動いているか』（岩波ジュニア新書），アマルティア・セン（2002）『貧困の克服―アジア発展の鍵は何か』（集英社新書） Manfred B. Steger (2003), *Globalization-A Very Short Introduction* (NY: Oxford UP) 松井範惇（2006）『アジアの開発と貧困―可能力，女性のエンパワーメントと QOL』（明石書店） 片岡幸彦・木村宏恒・松本祥志編（2006）『下からのグローバリゼーション―もう一つの地球村は可能だ グローバルネットワーク 21〈人類再生シリーズ〉』（東京：新評論） 藪下史郎（2004）『スティグリッツ早稲田大学講義録 グローバリゼーション再考』（光文社新書） サミュエル・ハンチントン，鈴木主税（2000）『文明の衝突と 21 世紀の日本』（集英社新書）						
その他特記事項	ゼミ仲間として，1・2 年生の交流を大切にし，授業以外にも懇親会や合宿には積極的に参加してほしい。英語力をつけるため，原書購読に努力してほしい。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	小林 宏子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	キリスト教人間学，キリスト教聖書思想						
ゼミのテーマ	キリスト教ヒューマニズムと人間の尊厳						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	フランシスコ・ザビエルやマザー・テレサの生き方を通してキリスト教ヒューマニズムの人間観を学びながら現代社会が抱える「いのち」に関わる問題を考える。ジレンマの中での選択について，多様な意見に耳を傾けながら自分の考え論理立てて主張する姿勢を持つことができる。						
準備学習の内容	授業のリアクションペーパーを小論文の形に仕上げて提出する。						
各回の授業内容	1　フランシスコ・ザビエル（1） 2　フランシスコ・ザビエル（2） 3　マザー・テレサ（1） 4　マザー・テレサ（2） 5　キリスト教ヒューマニズムの命題 6　キリスト教ヒューマニズムの命題 7*　キリスト教ヒューマニズムの命題 8　キリスト教ヒューマニズムの命題 9　キリスト教ヒューマニズムの命題 10　二年次生の研究発表に参加 11　二年次生の研究発表に参加 12　二年次生の研究発表に参加 *【教職員間授業公開日：10/26（水）】						
評価方法	出席（40%），授業参画（30%），発表・提出物（30%）						
テキスト	『叡智を生きる―他者のために，他者とともに―』上智大学出版						
参考書	森一弘著『キリスト教入門 Q&A』（教友社）						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	狩野 晶子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学，外国語としての英語（言語習得と教育の両方の観点から），幼児・児童英語教育，第二言語習得，バイリンガリズム						
ゼミのテーマ	「言葉をならう，言葉をおぼえる，言葉を教えるとは」						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	ゼミのテーマに深く踏み込むための準備として，このプレゼミでは土台づくりとなる「言葉」に関する知識を応用言語学の観点から学び，そこから幅広く発展するさまざまな分野についての知識と関心を深め，2年次のゼミナールへの土台となる力を養う。学生は輪読・発表をもとにディスカッションやグループワークを行い，十分な準備をして臨み，積極的かつ主体的に活発に参加することが求められる。						
準備学習の内容	テキストを読み，理解した内容をアウトラインとしてまとめる。発表者は担当箇所について十分に理解を深め，さらに他の文献・資料にもあたり，それらをもとにレジュメを作成し，発表準備を行う。さらに自分の興味のあるテーマに添って文献を集め，読み進める主体的な学習も併せ，一日1時間以上。						
各回の授業内容	1　ガイダンス：応用言語学とは 2　テキストの読み進め方，発表のやり方の具体的指導 3　テキストをもとに発表・ディスカッション 4　テキストをもとに発表・ディスカッション 5*　テキストをもとに発表・ディスカッション 6　テキストをもとに発表・ディスカッション 7　テキストをもとに発表・ディスカッション 8　テキストをもとに発表・ディスカッション 9　応用言語学とそれに関連する分野の概観 10　次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 11　次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 12　振り返りとまとめ *【教職員間授業公開日：10/12（水）】						
評価方法	発表（40%），ディスカッションへの参加［準備・積極的貢献を含める］（30%），レポート・リアクションペーパー（30%）						
テキスト	1. 白井恭弘『外国語学習に成功する人、しない人』（岩波書店） 2. 白井恭弘『外国語学習の科学』（岩波書店） 3. E. M. Rickerson, Barry Hilton, *The 5 Minute Linguist* (Equinox Publishing)						
参考書							
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	このプレゼミに参加することで英語教育及び日本語教育ボランティア活動のベースとなる知識や関心を深めることができ，実際のボランティア活動を行うに当たっての助けとなるものである。				

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	髙野 敏樹		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	法律学　比較憲法学　比較政治制度論　国際関係論　EU法制論						
ゼミのテーマ	社会科学の基礎研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは，法学，政治学，国際関係論など，ひろく社会科学の分野にかかわる諸問題について，履修者が自分自身の研究テーマを設定し，研究発表（年2回）を行う方式で実施します。このことを通して，より高度の研究方法と発表方法を学び，問題提起，論理構成，自己表現，討論の力を身につけます。						
準備学習の内容	各自のテーマについての文献研究・調査，考察，レジュメ作成，研究発表の一連の準備に相当の時間が必要です。討論参加にも2時間以上の事前学習が必要です。						
各回の授業内容	1　オリエンテーション―研究・調査・発表の方法を考える（以下，ゼミⅠ） 2　個人研究発表（1回め） 3　個人研究発表（1回め） 4　個人研究発表（1回め） 5　個人研究発表（1回め） 6　個人研究発表（1回め） 7　諸研究発表の小活（課題分析） 8*　個人研究発表（1回め） 9　個人研究発表（1回め） 10　個人研究発表（1回め） 11　個人研究発表（1回め） 12　個人研究発表（1回め） 13　発表の小括 14　個人研究発表（2回め）（以下，ゼミⅡ） 15　個人研究発表（2回め） 16　個人研究発表（2回め） 17　個人研究発表（2回め） 18　個人研究発表（2回め） 19　個人研究発表（2回め） 20　個人研究発表（2回め） 21*　個人研究発表（2回め） 22　個人研究発表（2回め） 23　個人研究発表（2回め） 24　個人研究発表（2回め） 25　個人研究発表（2回め） 26　個人研究発表（2回め） 27　個人研究発表の総括（評価と課題） *【教職員間授業公開日：6/8（水），11/9（水）】						
評価方法	研究発表（参照文献やレジュメは適切か，発表方法は適切か等の評価）（40%）と，ゼミ論文（40%），討論への参加状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	このゼミの性質上，とくに指定しません。						
参考書	研究は文献を選択するところから始まります。各自適切に選択し（積極的に相談にきてください），発表前にゼミ参加者に参考文献の概要を発表してください。						
その他特記事項	二年次では，自分の研究テーマの完成と将来的な発展を視野にいれて研究を続ける必要がありますので，この点をゼミ指導教員に相談することが大切です。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ / ゼミナールⅡ			担当者名	K. Williams		
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	2 年
ゼミ担当教員の専門分野	Second Language Learning / Visual Literacy						
ゼミのテーマ	Visual literacy / developing multimedia						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	Students will learn to develop multi-media material through understanding how to develop the visual story in oral presentations.						
準備学習の内容	Students will work on understanding storytelling about four hours a week. Next mind maping about four hours a week, next about six hours laying out their project, finally, seven to ten hours a week will be needed making their project.						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1 Introduction 2 Overview of multimedia 3 Choosing an idea 4 Developing (mind mapping) ideas 5 Work on ideas 6 Understanding visual communications of photos and graphs 7* Understanding visual communications of photos and graphs 8 Understanding visual communications of photos and graphs 9 Basics of storytelling 10 The interactions of “words” pictures and graphs 11 The interactions of “words” pictures and graphs 12 Review （ゼミⅡ） 13 Students make their project 14 Students make their project 15 Students make their project 16 Students make their project 17 Students make their project 18 Students make their project 19* Students make their project 20 Students make their project 21 Present projects 22 Present projects 23 Present projects 24 Group discussion *【教職員間授業公開日：6/8（水），10/26（水）】						
評価方法	Attendance (10%), Participation (15%), Final project (75%)						
テキスト	Provided by Instructor						
参考書							

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	飯田 純也		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	英米文学史，思想史，詩，演劇，小説						
ゼミのテーマ	人文科学の研究方法						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは，広義の文学を対象に，履修者各自が研究テーマを選び，人文科学の研究方法をいろいろ応用しながら，研究テーマに対する理解を深めると同時に，哲学的，心理学的，社会学的，歴史学的発想方法を身につけることを目標にする。						
準備学習の内容	自分の研究テーマに関する基準を作り，作品選びを行い，作品毎に解釈や分析を積み重ねた上ではじめて出発点に立つことができると考えてほしい。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 共通のテーマを扱う複数の映画作品を比較することによって，テーマへの理解を深めると同時に，解釈や理論化の方法論を学ぶ。個人及びグループ発表を中心に進める。ゼミ論を書く上でのきっかけになることを希望している。 1-2　戦争，暴力 *The Deer Hunter*, *Taxi Driver*, *A Bridge Too Far*, *Gandhi*, *The Cold Mountain*, etc. 3-4　愛，家族 *The Hours*, *The Wings of the Dove*, etc. 5-6*　偏見 *Amistad*, *Amazing Grace*, etc. 7-8　善と悪 *The Lord of the Rings*, The Chronicles of Narnia series, Harry Potter series, *The Kingdom of Heaven*, etc. 9-12　研究発表 （ゼミⅡ） 13-16　ゼミ論の中間報告（1） 17-20*　ゼミ論の中間報告（2） 21-24　ゼミ論文の発表 *【教職員間授業公開日：5/25（水），10/19（水）】						
評価方法	出席を前提とした上で，評価は研究発表が（80%），質疑応答等の積極性が（20%）とする。						
テキスト	個人研究を中心にするゼミなので，共通テキストはありません。						
参考書	随時，授業で紹介する。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	近藤 佐智子		
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	2 年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学，語用論，社会言語学，会話分析，第 2 言語習得，英語教育						
ゼミのテーマ	社会のなかの言語使用に関する研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	主に英語と日本語を対象に，社会と言語のダイナミックな関係を社会言語学および語用論の観点から研究する。ゼミⅠでは社会言語学と語用論の分野で構築されてきた理論，研究方法，研究結果について英語で書かれた文献を読み概観する。ゼミⅡでは実際に調査研究を行い，成果を「ゼミ論文」としてまとめ，口頭でも発表する。授業は学生の発表とディスカッション形式で進め，ゼミⅡでは 1 年次生もそれに参加する。						
準備学習の内容	ゼミⅠ：各授業の前に全員が教科書の指定した章（英語で約 20 ページ）を読み，日本語で要約を書き提出する（週 5 時間程度）。選択したテーマについてレポートを書くために文献を収集する。 ゼミⅡ：各自の研究テーマにそってデータを収集し論文にまとめる。口頭発表の準備をする。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　Regional and social dialects 2　Gender and age 3　Ethnicity and social networks 4　Language change 5　Style, context and register 6　Speech functions, politeness and cross-cultural communication 7*　Gender, politeness and stereotypes 8　Language, cognition and culture 9　Analyzing discourse 10　Attitudes and applications 11　研究計画の発表 12　研究計画の発表 （ゼミⅡ） 13　ゼミ論文の中間報告（1） 14　ゼミ論文の中間報告（1） 15　基礎文献の復習（1 年次生と共同） 16　基礎文献の復習（1 年次生と共同） 17　基礎文献の復習（1 年次生と共同） 18*　ゼミ論文の中間報告（2） 19　ゼミ論文の中間報告（2） 20　ゼミ論文の中間報告（2） 21　ゼミ論文の発表（1 年次生と共同） 22　ゼミ論文の発表（1 年次生と共同） 23　ゼミ論文の発表（1 年次生と共同） 24　ゼミ論文の発表（1 年次生と共同） *【教職員間授業公開日：6/8（水），10/19（水）】						
評価方法	ゼミ論文（50%），発表（30%），授業参画（20%）						
テキスト	Janet Holmes, *An Introduction to Sociolinguistics Third Edition* (Longman)						
参考書	飯野公一ほか（著）『新世代の言語学―社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版） 岡本真一郎（著）『ことばのコミュニケーション―対人関係のレトリック』（ナカニシヤ出版）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	日本語教育，英語教育ボランティアを行っている履修生に体験を発表してもらい，言語学習者の言語使用，言語習得，また言語教育方法などについてゼミで議論をする。このような問題をゼミ論文の研究テーマとして扱うこともできる。				

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	森下 園		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	歴史学（歴史理論，英国中世史）						
ゼミのテーマ	他者を理解するための歴史学						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	グローバル化する世界にふさわしい「他者を理解するための歴史」について各自がトピックを選び，グループでのポスターセッション，個人でのレジュメ方式，パワーポイント方式の 3 種類で研究報告を行えるようにする。SJ 祭ではパワーポイントを用いた個人報告を公開で行う。その後，報告内容をアカデミックな書式にのっとりゼミ論にまとめられるようにする。						
準備学習の内容	ゼミⅠ，Ⅱともに研究報告があるので各自準備すること。また，文献・資料講読ではあらかじめ目を通してわからない点はレファレンスで確認しておくこと。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　歴史認識をめぐる問題 2　日本語文献講読とグループ討議 3　日本語文献講読とグループ討議 4　日本語文献講読とグループ討議 5　日本語文献講読とグループ討議 6　グループ報告準備 7　グループ報告準備 8　グループ報告 9*　グループ報告 10　グループ報告 11　グループ報告 12　夏季休暇中の研究計画作成 （ゼミⅡ） 13　パワーポイント資料作成 14　プレゼンの作法について 15　中間発表 16　中間発表 17*　中間発表 18　中間発表 19　ゼミ論作成について 20　文献紹介 21　ゼミ論報告 22　ゼミ論報告 23　ゼミ論報告 24　ゼミ論報告 *【教職員間授業公開日：6/22（水），10/12（水）】						
評価方法	出席とゼミへの参加が（25%），グループ報告が（25%），SJ 祭でのゼミ発表が（25%），ゼミ論が（25%）となる。						
テキスト	プリント配布						
参考書	J・H・アーノルド『1 冊でわかる歴史』（岩波書店）						
その他特記事項	春は 15:30－17:00 に，秋は原則として 16:30－18:00 の時間帯に行う。秋のみ 16:30－17:00 の時間帯は 1 年次生と合同になる。なお，夏期休暇中のゼミ合宿でも研究報告を行う。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	永野 良博		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	アメリカ文学						
ゼミのテーマ	現代アメリカの小説家 Raymond Carver の作品を論じる						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	Raymond Carver の作品 *Cathedral* を読む。登場人物達が直面する夫婦及び家族関係の問題や，労働，失業，階級，共同体，依存症といった問題を分析し，人間性と社会についてより深い理解を得る。精読により英文解釈能力を向上させ，同時に作品に関する創造的な口頭発表，質疑応答，ディスカッション，論文作成を通して，独自の人間観，世界観を創り上げてゆく。						
準備学習の内容	毎回指定された文学作品を事前に読み，メモやノートを取り，作品に関する議論のための意見を用意してくることが求められる。その際，毎回 2－3 時間程の予習が必要となる。さらに口頭発表を担当する時には，資料探し，資料読解，発表原稿作成等で何日もの準備が必要となる。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1-6　Carver の短編を幾つか選び精読し，彼の作品の解読においてはどのような問題が重要となるのか学んでゆく。中心となるのは，作品 “Chef’s House”である。同時にその作品に関する論文を読み，他の Carver 作品にも共通する主題を論じてゆく。重要な主題の発見の仕方，扱い方，発展のさせ方について学ぶ導入部である。 7-12*　Carver 作品に関する批評論文について口頭発表を行ってもらう。一度の授業で三人程の学生が発表を行う。学生一人が一つの論文を担当する。全体で，様々な観点から，様々な主題を扱った 20 程の論文が紹介されることとなる。発表を通して，資料の理解，資料のまとめ方，質疑応答の仕方を学んでもらう。 （ゼミⅡ） 13-18　Carver の短編を選び精読してゆく。中心となる作品は “A Small Good Thing” である。扱う主題は子供の死という出来事であり，それをめぐる両親の心理を論じてゆく。悲劇的，絶望的な状況への対処，他の登場人物との関係のねじれ，人間関係の修復等が問題となる。 19-24*　今までに学んできた主題，議論の方法などを使い，学生独自の Carver 論を口頭発表してもらう。特に春学期の後半の発表によって紹介された批評家による論文の内容をよく検討し，そのような先行研究を基に，自らの議論を組み立て発表する。学期後半では，発表原稿を発展させゼミ論文へと仕上げる。 *【教職員間授業公開日：6/15（水），11/16（水）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（10%），発表と論文（80%）						
テキスト	Raymond Carver, *Cathedral* (Random House)						
参考書	Harold Bloom, ed., *Raymond Carver* (Chelsea House) 平石貴樹他編著『レイ、僕らと話そう』（南雲堂）						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	社会言語学，言語コミュニケーション						
ゼミのテーマ	言語使用，言語のバリエーション						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	当ゼミでは専門書を英語で読む，自分の研究発表をする，ある事象についてディスカッションをする，論文を作成するなどのアカデミック・スキルズ修練のための「活動」を，社会言語学という専門分野の内容を題材に行っていく。春学期の前半は社会言語学に関するテキストを輪読しながら言語使用とそのバリエーションについて学んでいく。後半は社会言語学の分野から各自がテーマを選択し，そのテーマに沿って文献を調べ，まとめ，そしてその発表を行う。秋学期は各自が設定したテーマに沿ってゼミ論文の作成を進めていく。ゼミナールⅡの授業は中間報告も含め，学生のゼミ論文発表の場として使用する。						
準備学習の内容	授業の進行は原則，学生の発表とその後のディスカッションというかたちをとる。よって発表者はテキストの中で自らが担当する章においても（春学期前半），また自らが選択した社会言語学のテーマに関しても（春学期後半），しっかりと発表ができる程度まで内容の理解とその伝達ができなければ成らない。その準備に最低でも5〜6時間はかかると考えられる。さらに毎回のChapter Summary（春学期前半のみ）も提出を求められるため，発表日以外の授業へも相当の準備をして臨まなければならない。秋学期のゼミ論文作成に関しては，各自が計画的にそして確実に必要な作業を進めていくことが求められる。先行研究のチェック，論文構成の確認，データ収集，実際の執筆作業など論文完成までの道のりには何十時間という時間が必要になる。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1 The social study of language 2 The ethnography of speaking and the structure of conversation 3 Locating variation in Speech 4* Styles, gender, and social class 5 Bilinguals and bilingualism 6 Societal multilingualism 7 Applied sociolinguistics 8 Students' presentation 9 Students' presentation 10 Students' presentation 11 Students' presentation 12 Students' presentation （ゼミⅡ） 13 Course overview 14 The first round of presentation 15 The first round of presentation 16 The first round of presentation 17* The first round of presentation 18 The first round of presentation 19 The second round of presentation 20 The second round of presentation 21 The second round of presentation 22 The second round of presentation 23 The second round of presentation 24 The final round of presentation *【教職員間授業公開日：5/11（水），10/12（水）】						
評価方法	ゼミナールⅠ（春学期）: Presentations (40%), Post-presentation discussion (20%), Term paper (30%), Others (10%), ゼミナールⅡ（秋学期）: ゼミ論文 (60%), Presentations (20%), Post-presentation discussion (10%), Others (10%)						
テキスト	Bernard Spolsky, *Sociolinguistics* (Oxford U.P.) for ゼミナールⅠ（春学期）						
参考書	東照二『社会言語学入門』（研究社） 浜田麻里，平尾得子，由比紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	T. Gould		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	Second Language Acquisition, Conversation Analysis						
ゼミのテーマ	Women's Issues						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	Women's Issues: In this seminar students will learn through researching and discussing important issues that effect women in Japan and all over the world. Students will learn about how common stereotypes about women can and are being perpetuated through politics, education, on-line communication, and many other areas of daily life. In our discussions, students will explore and try to think critically about women's issues that are usually taken for granted in daily life.						
準備学習の内容	Preparation for this class involves reading articles that will be provided by the instructor. Additionally, students will need to work together to prepare for presentations and discussions.						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1-12* The first part of our seminar will be a basic overview about women's issues. I will provide some of the topics for discussion and give you an idea of what 'Women's Issues' is all about. A lot of our focus will be on exploring the current situation for women in Japan. This will include Japanese women and women working / living in Japan. In our discussions, we will usually be talking about articles, papers, and chapters that I ask you to read. Towards the end of the first semester, you will start looking for your own topic, which you will present as a final report. As a class project, we will also produce a newsletter. （ゼミⅡ） 13-24* In the second part of our seminar, we will expand our scope to look at women's issues around the world. Sample questions we will talk about include: What is the situation for women like in poorer countries? How about other 'industrialized', or 'developed' countries? What causes the differences in how different cultures treat women? You will have a chance to present what you learn in a final project, and we will also produce a newsletter. *【教職員間授業公開日：4/20（水），9/21（水）】						
評価方法	Class participation and attendance (40%), participation and completion of class project (20%), homework (20%), final report and presentation (20%).						
テキスト	Handouts, readings, and articles will be provided by the instructor.						
参考書	Sumie Kawakami, *Goodbye Madame Butterfly* (Yushin Printing) Duplessis and Snitow, *The Feminist Memoir Project* (Rutgers University Press) Hiratsuka Raichou, *In the Beginning, Woman was the Sun* (Columbia University Press)						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	言語学，日本語教育学						
ゼミのテーマ	「多文化共生社会」における日本語教育						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	ゼミⅠでは，他国の多文化政策と日本における多文化共生の教育問題を中心にまなぶ。ゼミⅡでは，「年少者」の日本語習得に関する問題と支援方法について学び。地域の外国につながる子どもに対するサービスラーニング（学校派遣など）を通して，自ら選んだテーマで調査研究を行う。						
準備学習の内容	毎回，発表者があらかじめ知らせる Study Questions について，答えを記述して授業に臨み授業後提出する。各回の準備は 2 時間程度。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　多文化共生社会とは 2　外国人登録者数の推移 3　世界の多文化主義国家 4*　世界の多文化主義国家 5　日本の教育制度 6　日本の言語政策 7　年少者日本語教育 8　バイリンガル教育 9　継承語教育 10-12　発表 （ゼミⅡ） 13　研究計画 14　卒業研究＋ミニレクチャー 15　卒業研究＋ミニレクチャー 16　卒業研究＋ミニレクチャー 17*　卒業研究＋ミニレクチャー 18　卒業研究中間発表 19　論文アウトライン 20　論文アウトライン 21　卒論＋ミニレクチャー 22　卒論＋ミニレクチャー 23-24　発表 *【教職員間授業公開日：5/11（水），10/12（水）】						
評価方法	出席（30%），発表（20%），レポート（50%）						
テキスト	河原俊昭他『日本語ができないお友達を迎えて』（くろしお出版）						
参考書	バトラー後藤裕子 2003『多言語社会の言語文化教育』（くろしお出版）						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	当ゼミナールのテーマは「多文化共生社会における日本語教育」の方法なので，ゼミ生はサービスラーニングを通して，自ら外国につながる子どもの言語発達に関する問題を発見し研究する				

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	C. Oliver		
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	2 年
ゼミ担当教員の専門分野	Cultural anthropology（文化人類学）						
ゼミのテーマ	Multiculturalism						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	In this seminar, we will consider issues that arise when people of different cultural backgrounds, religions, ethnicities, or languages live together in the same society. Students will develop a comparative understanding of "multiculturalism" in various parts of the world, including North America, Western Europe, Southeast Asia, and the Middle East. Students will also improve their presentation and research skills by doing several presentations during the year and an independent research project. All class work will be in English.						
準備学習の内容	Students will need to prepare presentation content, complete their research project independently, and do related assignments. About one hour of preparation time will probably be needed each week, on average.						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1 Orientation: perspectives on multiculturalism 2 Watch movie 3 Discuss movie 4 Reading and discussion 5 Discuss independent research 6 Presentations & discussion: Canada 7 Presentations & discussion: France 8 Presentations & discussion: Switzerland 9 Presentations & discussion: Malaysia 10 Presentations & discussion: Turkey 11* Presentations & discussion: Israel 12 Discuss independent research & plan for Fall semester （ゼミⅡ） 13 Overview of Fall semester 14 Presentation #1: your independent research topic 15 Presentation #1: your independent research topic 16 Presentation #1: your independent research topic 17 Presentation #1: your independent research topic 18 Tutorial: organizing your ideas 19 Presentation #2: describing & analyzing "data" 20 Presentation #2: describing & analyzing "data" 21* Presentation #2: describing & analyzing "data" 22 Presentation #3: your research findings 23 Presentation #3: your research findings 24 Presentation #3: your research findings *【教職員間授業公開日：7/6（水），11/16（水）】						
評価方法	Class preparation and participation (50%), presentations, reports, and all other assignments (50%).						
テキスト	None.						
参考書	Michael Walzer, *On Toleration* (Yale University Press) 『多文化共生キーワード事典』（明石書店）						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	杉村 美佳		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	教育学（教育方法史・比較教育史）						
ゼミのテーマ	教育の国際比較研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	プレ・ゼミナールで習得した比較・国際教育学の基礎的な理論と研究手法を用いて実際に研究を行う。前半は，途上国における女子教育支援に関する英文原書の講読とSJ祭での発表に向けたグループ研究を行う。後半でゼミ論文を作成する。						
準備学習の内容	テキストの講読および研究発表の準備をしてくること。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　日本の教育（1）――歴史と展開―― 2　日本の教育（2）――現状と課題―― 3　*Women's Education in Developing Countries* の講読（1） 4　*Women's Education in Developing Countries* の講読（2） 5　*Women's Education in Developing Countries* の講読（3） 6　グループ研究報告と討論（1） 7*　グループ研究報告と討論（2） 8　グループ研究報告と討論（3） 9　グループ研究報告と討論（4） 10　ゼミ論文作成の方法 11　ゼミ論文構想発表（1） 12　ゼミ論文構想発表（2） 夏季休暇中にゼミ合宿を予定している。 （ゼミⅡ） 13　グループ研究報告と討論（5） 14　グループ研究報告と討論（6） 15　グループ研究報告と討論（7） 16*　グループ研究報告と討論（8） 17　ゼミ論文中間発表と討論（1） 18　ゼミ論文中間発表と討論（2） 19　ゼミ論文中間発表と討論（3） 20　ゼミ論文中間発表と討論（4） 21　ゼミ論文個人指導（1） 22　ゼミ論文個人指導（2） 23　ゼミ論文発表（1） 24　ゼミ論文発表（2） *【教職員間授業公開日：6/8（水），10/5（水）】						
評価方法	出席および授業参画（30%），発表（30%），ゼミ論文（40%）						
テキスト	石附実編著『比較・国際教育学』（東信堂） King, Elizabeth M., *Women's Education in Developing Countries* (World Bank)						
参考書	小川啓一他編著『途上国における基礎教育支援〈上〉』（明石書店） 田中治彦『国際協力と開発教育―「援助」の近未来を探る―』（明石書店）						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	岩崎 明子		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	TESOL（英語教授法），Learning Strategy，人間学 研究テーマ/持続可能な世界とグローバリゼーション，価値教育						
ゼミのテーマ	グローバリゼーションと持続可能な世界						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	グローバルな社会現象と私たちの生活との関わりを文献や映像を通して知り，私たちは世界の中でどのように生きるべきかを討論や発表を通して考えていく。ゼミⅠでは，英語原書読解を中心にする。ゼミⅡでは，SJ 祭でのゼミ論中間発表と自分の研究テーマでゼミ論を仕上げることが中心となる。						
準備学習の内容	授業は英語テキストを使用する。各章の内容は，毎回学生担当者がレジメを作り，内容の発表とディスカッションをリードする。それ以外のメンバーも前もって授業範囲を読み質問項目を用意する。合宿を行うための特別発表課題を準備する。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　オリエンテーション 2　“原書”テキストの講読，課題発表（1） 3　“原書”テキストの講読，課題発表（2） 4　“原書”テキストの講読，課題発表（3） 5　“原書”テキストの講読，課題発表（4） 6　“原書”テキストの講読，課題発表（5） 7*　“先行研究論文”の講読，要旨発表（1） 8　“先行研究論文”の講読，要旨発表（2） 9　“先行研究論文”の講読，要旨発表（3） 10　“先行研究論文”の講読，要旨発表（4） 11　ゼミ論文の書き方，ゼミ論文主題・構想発表（1） 12　ゼミ論文主題・構想発表（2） 夏期休暇中にゼミ合宿の予定 （ゼミⅡ） 13　“先行研究論文 2”の要旨発表（1）1年生同席 14　“先行研究論文 2”の要旨発表（2）　同上 15　“先行研究論文 2”の要旨発表（3）　同上 16　“先行研究論文 2”の要旨発表（4）　同上 17　ゼミ論中間報告会準備 18　ゼミ論中間報告会準備 19　研究発表（パワーポイント）1年生同席 20*　研究発表（パワーポイント）　同上 21　研究発表（パワーポイント）　同上 22　研究発表（パワーポイント）　同上 23　論文仕上げ 24　論文仕上げ *【教職員間授業公開日：6/8（水），11/9（水）】						
評価方法	授業参画（20%），発表（30%　夏季合宿（課題発表）），レポート・論文（50%）						
テキスト	B. Wheeler (2005), *IT's All Connected* (WA: Facing the Future: People and Planet) 開発教育関係の書籍，新聞記事その他メディア，Cinii 論文サイトの研究論文						
参考書	プレゼミと同様 Bigelow, Bill & Bob Peterson (ed.) (2002), *Rethinking Globalization-Teaching for Justice in an Unjust World* (Wisconsin: Rethinking Schools Press)						
その他特記事項	2年生は，就職・編入準備で忙しくなるが，課外活動や合宿，懇親会を通じてより仲間との絆を強めてほしい。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	小林 宏子		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	キリスト教人間学，キリスト教聖書思想						
ゼミのテーマ	キリスト教ヒューマニズムと人間の尊厳						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	ユダヤ・キリスト教やギリシア・ローマ文化を背景として発展してきた西洋思想の一端を考察すると共に，様々な思考の根底にある人間観の違いを学ぶ。表面的な違いだけでなくその根底にある思想を踏まえて考察する力をつける。						
準備学習の内容	毎回，テキストの予習（春学期）や個人研究（秋学期）に1～2時間を充てる必要がある。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　キリスト教的ヒューマニズムの源泉 2　テキスト講読（1） 3　テキスト講読（2） 4*　テキスト講読（3） 5　テキスト講読（4） 6　テキスト講読（5） 7　テキスト講読（6） 8　テキスト講読（7） 9　テキスト講読（8） 10　テキスト講読（9） 11　ゼミ論文の書き方・構想作り 12　ゼミ論文執筆の計画書作り（夏期休暇中の課題確認） （ゼミⅡ） 13　フランシスコ・ザビエル（1） 14　フランシスコ・ザビエル（2） 15　マザー・テレサ（1） 16　マザー・テレサ（2） 17　キリスト教ヒューマニズムの命題＋個人研究 18　キリスト教ヒューマニズムの命題＋個人研究 19*　キリスト教ヒューマニズムの命題＋個人研究 20　キリスト教ヒューマニズムの命題＋個人研究 21　キリスト教ヒューマニズムの命題＋個人研究 22　個人研究発表（一年次生と共同） 23　個人研究発表（一年次生と共同） 24　個人研究発表（一年次生と共同） *【教職員間授業公開日：5/11（水），10/26（水）】						
評価方法	出席（30%），授業参画（20%），個人研究（30%），発表（20%）						
テキスト	カール・ベッカー『英米人の思考―比較文化的考察―』（英宝社） 『叡智を生きる―他者のために、他者とともに―』（上智大学出版）						
参考書	光延一郎『神学的人間論入門』（教友社）						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	狩野 晶子		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学，外国語としての英語（言語習得と教育の両方の観点から），幼児・児童英語教育，第二言語習得，バイリンガリズム						
ゼミのテーマ	「言葉をならう，言葉をおぼえる，言葉を教えるとは」						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	プレゼミの内容をもとに，各自が興味関心を持ったテーマにさらに深く研究し，中間発表のプレゼンテーションを行い，ゼミ論文としてまとめる。研究内容を学術論文にふさわしい内容とスタイルでまとめる方法と効果的なプレゼンテーションのスキルを併せて学ぶ。学生はプレゼンテーション，ディスカッション，グループワークを通して主体的に活発に参加する姿勢も養う。						
準備学習の内容	テキストを読み，理解し，発表者は担当箇所について十分に理解を深め，さらに他の文献・資料にもあたりレジュメを作成，発表準備を行う。さらに自分のゼミ論文のテーマに添って文献を集め，読み進め，中間発表の準備を行う。最終目標であるゼミ論文の作成のための主体的な学習も併せ，一日1時間以上。						
各回の授業内容	（ゼミⅠ） 1　プレゼミ概観：各自のテーマを考える 2　テーマについて調べ，深める 3*　プレゼンテーションスキルの具体的指導 4　学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（1） 5　学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（2） 6　学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（3） 7　学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（4） 8　学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（5） 9　各自のテーマとプレゼンテーションの反省 10　各自のテーマを深め，調べる 11　調べた内容についてディスカッション 12　ゼミⅠの総括とゼミⅡでの論文作成に向けての具体的目標設定 （ゼミⅡ） 13　進捗状況報告とディスカッションによる課題点の洗い出し 14　論文作成・指導（1） 15　論文作成・指導（2） 16　中間報告とディスカッションによる相互評価 17*　最終プレゼンテーション（論文報告）　準備（1） 18　最終プレゼンテーション（論文報告）　準備（2） 19　学生による最終プレゼンテーション（1） 20　学生による最終プレゼンテーション（2） 21　学生による最終プレゼンテーション（3） 22　学生による最終プレゼンテーション（4） 23　学生による最終プレゼンテーション（5） 24　振り返りとまとめ *【教職員間授業公開日：4/27（水），10/12（水）】						
評価方法	中間発表プレゼンテーション（40%），ディスカッションへの参加・リアクションペーパー（20%），ゼミ論文（40%）						
テキスト	（1）白井恭弘『外国語学習の科学』（岩波書店） （2）E. M. Rickerson, Barry Hilton, *The 5 Minute Linguist* (Equinox Publishing)						
参考書							
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	このゼミでは英語教育及び日本語教育ボランティア活動のベースとなる知識や関心を深め，プレゼンテーション能力の充実を図る。これらは実際のボランティア活動を行うに当たって助けとなるものである。				

専門科目（異）

科目名	東洋研究 A			担当者名	田畑 幸嗣		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	History of Southeast Asia will be discussed in both English and Japanese. Students will develop an understanding and knowledge of Southeast Asia in specific Southeast Asian cultural and historical contexts.						
授業の概要	In this course, a historical framework of Southeast Asia will be examined and discussed from various perspectives.						
準備学習の内容	Students are required to read a textbook as an assaingment and to make a presentation in class.						
各回の授業内容	1 Course orientation 2 What is Southeast Asia? 3 What is Southeast Asia? 4 The 'Classical' Background to Modern Southeast Asian History 5* The 'Classical' Background to Modern Southeast Asian History 6 Courts, Kings and Peasants: Southeast Asia Before the European Impact 7 Courts, Kings and Peasants: Southeast Asia Before the European Impact 8 Minorites and Slaves: The Outsiders in Traditional Southeast Asia 9 Minorites and Slaves: The Outsiders in Traditional Southeast Asia 10 The European Advance and Challenge 11 The European Advance and Challenge 12 Economic Transformation 13 Economic Transformation 14 The Asian Immigrants in Southeast Asia 15 The Asian Immigrants in Southeast Asia 16 The Years of Illusion: Southeast Asia Between the Wars, 1918-1941 17 The Years of Illusion: Southeast Asia Between the Wars, 1918-1941 18 The Second World War in Southeast Asia 19 The Second World War in Southeast Asia 20 Revolution and Revolt: Indonesia, Vietnam, Malaya and the Philippines 21 Revolution and Revolt: Indonesia, Vietnam, Malaya and the Philippines 22 Other Paths to Independence 23 Other Paths to Independence 24 An End of Post-colonial Settlements, and Beyond: Vietnam and Cambodia 25 An End of Post-colonial Settlements, and Beyond: Vietnam and Cambodia 26 The Challenges of Independence in Southeast Asia 27 The Challenges of Independence in Southeast Asia *【教職員間授業公開日：4/28（木）】						
評価方法	Term paper (60%) + Presentation (20%) + Attendance (20%)						
テキスト	Handouts will be distributed.						
参考書	Milton Osborne 2010, *Southeast Asia: An Introductory History. Tenth edition* (Allen&Unwin)						

専門科目（異）

科目名	東洋研究 B			担当者名	田畑 幸嗣		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	Art History of Southeast Asia will be discussed in both English and Japanese. This course is designed to help students to develop an understanding of historical and cultural contexts of architecture, sculpture, and craftwork in Southeast Asia.						
授業の概要	In this course, art in Cambodia, Vietnam, Thailand, and Java will be examined and discussed from various perspectives.						
準備学習の内容	Students are required to read a textbook as an assaingment and to make a presentation in class.						
各回の授業内容	1 Course orientation. 2 Historical Background of Southeast Asia (prehistory – early states). 3 Historical Background of Southeast Asia (6th -14th century). 4 Historical Background of Southeast Asia (15th-18th century). 5 Prehistoric arts in Southeast Asia (Paleolithc, Neolithic). 6 Prehistoric arts in Southeast Asia (Paleolithc, Neolithic). 7 Prehistoric arts in Southeast Asia (Dong Son, Sa Huynh). 8 Prehistoric arts in Southeast Asia (Dong Son, Sa Huynh). 9 Early Angkor 10 Early Angkor 11 Early Angkor 12* The Classical Age of Angkor 13 The Classical Age of Angkor 14 The Classical Age of Angkor 15 The Classical Age of Angkor 16 Champa 17 Champa 18 Champa 19 Siam 20 Siam 21 Laos 22 Laos 23 Burma 24 Burma 25 Java and Bali 26 Java and Bali 27 *【教職員間授業公開日：10/27（木）】						
評価方法	Term paper (60%) + Presentation (20%) + Attendance (20%)						
テキスト	Handouts will be distributed.						
参考書	Philip S. Rawson 1990, *The Art of Southeast Asia: Cambodia Vietnam Thailand Laos Burma Java Bali* (Thames & Hudson)						

専門科目（異）

科目名	日本文化			担当者名	森下 園		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	国際人として日本の文化・歴史を問われた時にある程度専門的なレベルで答えられるようにすることが目標である。そのために日本語でわかりやすく説明をまとめ，それを英語で書けるようにする。						
授業の概要	日本史の流れにそって最近の研究動向も紹介しながら講義を行う。江戸時代以降の近現代に重点を置く。なお，英語での説明のために利用できる西欧の事件についても適宜扱う。						
準備学習の内容	高校レベルの日本史の知識を前提とする。次回のトピックと関連する英語の資料プリントを 1 枚配布するので予習しておくこと。						
各回の授業内容	1　遺跡捏造事件　―　先史時代をめぐるイメージ 2　摂関政治と源氏物語 3　院政と武士の台頭 4*　中世の芸能　―　琵琶法師 5　鎌倉幕府と将軍 6　異形の王権 7　神仏習合 8　戦国大名と城 9　キリスト教の伝来とキリシタン 10　江戸開府と日光東照宮 11　朝鮮通信使 12　大名の所領経営と武士の家計簿 13　江戸文化 14　将軍の婚姻 15　庶民の離婚　―　三くだり半の研究 16　明治維新と家族像の変化 17　幕末・明治の留学生 18　小泉八雲と夏目漱石 19　海外に報道される日本 20　大正デモクラシー 21　日本の植民地政策 22　世界大戦 23　米ソ冷戦と高度経済成長 24　冷戦終結後の社会 25　「クール・ジャパン」　＜課題提出＞ 26　日本の課題 27　まとめ *【教職員間授業公開日：9/26（月）】						
評価方法	偶数回の講義では最後の 15 分で日本語の要点をまとめて提出する。13 回×3 点＝(39%)，プリント・自筆ノート・辞書持ち込み可のペン書き論述式（日本語・英語）の学期末試験を（61%）として評価する。なお，6 回以上の欠席は不可とする（就職活動などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし，プリント配布						
参考書	網野善彦他編『日本の歴史（全 25 巻）』（講談社）						
その他特記事項	板書はしない方針なので，ノートを取る工夫を各自がすること。20 分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

専門科目（異）

科目名	英米史			担当者名	森下 園		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	英語を学ぶ上で必要な英国・米国の歴史と文化的背景を学び，用語・概念を使いこなしてその内容を日本語のまとまった文章として書けるようにする。						
授業の概要	英国・米国の歴史と文化的背景についてトピック別に見ていく。歴史の長さから，英国史が 2／3 を占めることとなる。						
準備学習の内容	高校レベルの世界史の知識を前提とする。次回で扱うトピックの英語の資料プリントを 1 枚配布するので予習しておくこと。						
各回の授業内容	1　はじめに　―　UK と USA 2　ケルトとローマン・ブリテン 3　アングロ＝サクソン時代と北海帝国 4　島嶼彩色写本と工芸品 5　ノルマン・コンクェストとアンジュー帝国 6　アーサー王と円卓の騎士のロマンス 7　英仏百年戦争と言語 8　バラ戦争とジェントリ階層の台頭 9　ヘンリ 7 世とヘンリ 8 世の対外政策 10　エリザベス女王と海軍の神話化 11　中世演劇の世界 12　内乱と名誉革命 13　イングランド銀行と内閣 14　アメリカ植民 15　アメリカ独立戦争 16　アメリカ南北戦争と奴隷制 17　アメリカの人種隔離政策 18　アメリカの開拓時代とその終焉 19　産業革命と万国博覧会 20　大英帝国とインド 21*　「国外」で活躍する女性たち―ナイティンゲールとシーコル 22　大英帝国から英連邦へ 23　アメリカの繁栄と政策　　＜レポート提出日＞ 24　世界大戦と経済 25　アメリカとソビエト連邦の冷戦時代 26　アイルランド問題 27　現代 *【教職員間授業公開日：12/1（木）】						
評価方法	学期中のレポートが（40%），学期末試験が（60%）となる。試験はペン書きの論述式であるが，プリント・ノートなどの持ち込みは認めない。これまでと試験方法が異なり難易度があがるので注意すること。なお，6 回以上の欠席は不可とする（就職活動などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし，プリント配布						
参考書	川北稔編『イギリス史』（山川出版社） 紀平英作編『アメリカ史』（山川出版社）						
その他特記事項	板書はしない方針なので，ノートを取る工夫を各自がすること。20 分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

専門科目（異）

科目名	ヨーロッパ社会史			担当者名	鍋谷 郁太郎		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	現代社会の枠組みを作り上げたヨーロッパの理解する為の前提を与えることを目指しています。						
授業の概要	12 世紀から 18 世紀までの西ヨーロッパの歴史を，考察していきます。その際，社会史の成果をとり込みながら，ヨーロッパ史像の構築を試みます。						
準備学習の内容	準備は別段必要ないですが，講義は休まずに毎回しっかり聞き続けることが大事です。						
各回の授業内容	1　ガイダンス 2　12 世紀ルネサンスと「ヨーロッパ」の誕生 3　同 4　同 5　12 世紀におけるヨーロッパ人の心性・感性の変化 6　同 7　同 8　中世農村の成立・発展・権力構造 9　同 10　中世都市の成立・発展・権力構造 11　同 12　中世における貧困観―「富」と「貧」は何を意味したのか？― 13　中間試験 14　ユダヤ人の差別と迫害―ヨーロッパ文化の恥部であり本質であるもの― 15　同 16　魔女と魔女裁判―「中世」の終焉か― 17　同 18　同 19　18 世紀ヨーロッパ社会の特質―「近代」への転換か― 20　同 21　同 22　同 23　絶対主義国家とは，いったい何だったのか？ 24*　フランス革命とその意味するもの―19 世紀への飛翔か― 25　同 26　同 27　同 *【教職員間授業公開日：7/7（木）】						
評価方法	中間試験（50%）と期末試験（50%）の総合点で評価します。						
テキスト	魚住昌良『世界歴史の旅　ドイツ』（山川出版社）						
参考書	佐藤彰一，池上俊一『西ヨーロッパ世界の成立』（中央公論新社） 長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論新社）						

専門科目（異）

科目名	ヨーロッパ現代史			担当者名	鍋谷 郁太郎		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	19・20 世紀の具体的なイメージを受講者がもってもらい，激動の 21 世紀を生き抜く糧になることを目指します。						
授業の概要	19～20 世紀までの 200 年に亘るヨーロッパ社会の構造と変動を，ドイツとフランスを軸に考察していきます。						
準備学習の内容	準備は別段必要ないですが，講義は休まないで聞き続けることが大事です。						
各回の授業内容	1　ガイダンス 2-7　「19 世紀前半のヨーロッパ」：ヨーロッパ全体を揺るがした 48 年革命が起こるまでの，西ヨーロッパ社会の近代化な道のりと問題点を考察していきます。自由主義，国民主義，社会主義の原型が現れてくる時期です。 8-11　「48 年革命」：フランス・ドイツ・オーストリアを取り上げて，48 年革命の原因・構造・意義を考えていきます。 12　中間試験 13-18　「19 世紀後半のヨーロッパ社会」：48 年革命以降の西ヨーロッパ社会がどのように変化して，「現代システム」を準備していくのかを，第一次世界大戦前夜まで考察していきます。自由主義，国民主義，社会主義が発展・強化されていく時代です。 19-21*　「第一次世界大戦とヨーロッパの変貌」：人類史上初めての「総力戦」となった第一次世界大戦は，「現代」への転換点と言われています。第一次世界大戦がヨーロッパの国家･社会構造そして個人意識を如何に変えていったのかを考えていきます。 22-27　「大戦間期と第二次世界大戦」：激動の 1920～40 年代を，国際関係とナチスを生み出したドイツを軸にみていきます。その際，イギリスやフランスは言うに及ばず，さらにアメリカやソ連そして日本の動向等にも可能な限り言及していくつもりです。 *【教職員間授業公開日：11/24（木）】						
評価方法	中間試験（50%）と期末試験（50%）の総合点で評価します。						
テキスト	石田勇治『図説　ドイツの歴史』（河出書房出版社）						
参考書	谷川稔他『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社） 木村靖二他『世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論新社）						

専門科目（異）

科目名	比較社会史			担当者名	森下 園		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	各受講生が社会構築主義に基づく分析に必要な用語・概念を理解し，現代社会の問題をその観点から考察して論述できるようにようにする。						
授業の概要	社会階層，ジェンダー，家族，他者排除の問題，心性史，ナショナリズムとグローバリゼーションなどのトピック別に，様々な地域・時代の社会構造について考察を行う。						
準備学習の内容	高校レベルの世界史の知識を前提とする。毎回，次の回のプリントを配布するので予習をしておくこと。						
各回の授業内容	1　社会史と社会構築主義 2　近代の学的知（1）歴史学 3　近代の学的知（2）文学 4　近代の学的知（3）自然人類学 5　近代の学的知（4）文化人類学 6　近代の学的知（5）19 世紀の「科学」 7　王権（1）西欧の「王」 8　王権（2）日本の「王」 9　身分階層（1）イングランドの「ジェントリ」 10　身分階層（2）インドの「カースト制度」 11　子どもと若者 12　教育と学校 13*　ジェンダー・スタディーズ 14　スティグマを付与されたもの（1） 15　スティグマを付与されたもの（2） 16　死者との交流（1）西欧の幽霊 17　死者との交流（2）日本の幽霊 18　言語（1）クレオール 19　言語（2）「標準語」の問題 20　家族と社会 21　法と秩序 22　無縁とアジール 23　宗教　＜レポート提出日＞ 24　記憶 25　民族と国家と帝国 26　現代思想：デリダ，フーコー，スピヴァク 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/30（月）】						
評価方法	学期中提出のレポートが（40%），学期末試験が（60%）となる。試験はペン書きの論述式であるが，プリント・ノートなどの持ち込みは認めない。これまでと試験方法が異なり難易度があがるので注意すること。なお，6 回以上の欠席は不可とする（就職活動などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし，プリント配布						
参考書	樺山紘一『世界を俯瞰する眼』（新書館）						
その他特記事項	板書はしない方針なので，ノートを取る工夫を各自がすること。20 分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

専門科目（異）

科目名	国際関係論			担当者名	髙野 敏樹		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	現代国際関係は国家関係から脱国家のトランス・ナショナルな関係に広がりつつあります。この講義では，国際関係の諸要因を理解すると同時に，国際社会の現状と課題について自己の考えを形成し，それを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	国際関係における国家の主権や，国際法の構成原理を実際に動かす政治的，社会的，文化的，民族的な諸要因の相互作用を理解し，国際関係の将来を考えます。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために，各回 2 時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	1　国際関係論へのアプローチ―国家の主権と国際社会 2　国際関係構築の視点①―realism, neo-realism, neo-conservatism の課題 3　国際関係構築の視点②―neo-liberal institutionalism の意義とその展開 4　国際社会とグローバル・ガバナンス①―hard type governance 5　国際社会とグローバル・ガバナンス②―soft type governance 6　国際社会とナショナリズム①―nation building nationalism の意味と課題 7　国際社会とナショナリズム②―völkisch Nationalisms の意味と課題 8　東西冷戦の終焉と国際社会の新秩序形成の課題 9　難民問題と UNHCR の新保護政策―mandate refugee から帰還政策へ 10　日本における難民受入れ政策，秦野地域の外国籍市民支援の現況 11　南北問題と貧困・開発①―mono culture と絶対的貧困 12　南北問題と貧困・開発②―human security 思想の展開と課題 13　発展途上国の国際的支援①―IMF・世界銀行の conditionality 融資 14　発展途上国の国際的支援②―IMF・世界銀行の新包括的開発フレームワーク 15　発展途上国の国際的支援③―ODA（政府開発援助）の意義と課題 16　発展途上国の国際的支援④―開発教育の意義 17　地球環境保護と国際法の展開①―環境権と環境訴訟の展開 18*　地球環境保護と国際法の展開①―precautionary principle 19　人権保障の国際的展開①―人種・性による差別禁止の国際的取組み 20　人権保障の国際的展開②―こどもの権利，こども兵の禁止 21　人権保障の国際的展開③―先住民・少数民族の文化的権利の保障 22　人権保障の国際的展開④―基本的人権としての「言語権」の保障 23　国際経済体制の展開①―ブレトンウッズ体制の成立，崩壊，新秩序の形成 24　国際経済体制の展開②―自由貿易と国際資本投資 25　ヨーロッパ統合と EU①―EU の形成と構造 26　ヨーロッパ統合と EU①―EU 憲法と EU 法体系の今後 27　国際社会の統合と自律をめざして *【教職員間授業公開日：6/16（木）】						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について，試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。						
参考書	初瀬龍平他『国際関係キーワード』（有斐閣） 百瀬宏『国際関係論』（有斐閣）						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに，講義中に適切なノートを作成することが大切です。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	難民条約・外国籍市民受入れに関するわが国と国際社会の法的・政治的課題を考えるとともに，秦野地域の現状を分析し，多文化共生時代の課題を考えます。				

専門科目（異）

科目名	文化人類学			担当者名	C. Oliver		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	This course provides an introduction to cultural anthropology. By taking this course, students will understand more deeply the many ways that “culture” influences how people live in society. Students will also learn to do a qualitative, interview research project on a cultural topic.						
授業の概要	Regular class sessions will consist of lectures, watching scenes from films, and discussions among students. Examples will come from many parts of the world, including Iran, Mexico, Indonesia, Papua New Guinea, and sub-Saharan Africa. Each student will do an interview project (with a written report) and discuss the findings in class. All assignments will be in English.						
準備学習の内容	Students should read the assigned pages in the textbook, review their lecture notes, do homework assignments, and complete the interview project on schedule. Depending on each student’s reading speed, preparation time may take 60-90 minutes per class.						
各回の授業内容	1 What is anthropology? 2 Culture: definitions and examples 3 Anthropological research: fieldwork 4 Anthropological research: fieldwork 5 Watch film: *Children of Heaven* 6 Discuss *Children of Heaven* 7 Discuss interview project (planning) 8 Ritual and religion: “witchcraft” in Africa 9 Ritual and religion: rites of passage 10 Ritual and religion: rites of passage 11 Marriage, family, and kinship 12 Marriage, family, and kinship 13 Gift-giving and exchange 14 Gift-giving and exchange: *potlatch* 15* Gift-giving and exchange: *kula* 16 Culture and person / self 17 Culture and health / illness 18 Culture and health / illness 19 Caste, class, tribe, and nation 20 Caste, class, tribe, and nation 21 Identity and ideology 22 Identity and ideology 23 Imagining Others 24 Discuss interview project (findings) 25 Globalization and transnationalism 26 Globalization and transnationalism 27 Review *【教職員間授業公開日：11/10（木）】						
評価方法	Attendance and participation (20%), interview project / report (30%), final exam (30%), all other assignments, tests, etc. (20%).						
テキスト	John Monaghan and Peter Just, *Social and Cultural Anthropology: A Very Short Introduction* (Oxford University Press)						
参考書	Roger M. Keesing and Andrew J. Strathern, *Cultural Anthropology: A Contemporary Perspective* (Wadsworth Publishing)						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	A major focus of the class is how to understand people (their ways of thinking, living, etc.) who are significantly different from ourselves. Students involved in volunteering may find this focus relevant to their volunteer activities.				

専門科目（異）

科目名	現代美術			担当者名	G. Freddes		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	Students will acquire a fundamental knowledge of major artists and art movements from the 19th century to the present. Students will learn the vocabulary of art and various ways of looking at art by considering formal characteristics, materials, and techniques. They will become able to assess works of art in their historical and cultural contexts. Additionally, the course aims to support students in developing insight into how the rapidly changing modern world has affected individual artists and how those artists, in turn, have influenced and shaped the world in which we live.						
授業の概要	Each class will begin with a lecture and / or video on an artist, period or style. This will be followed by readings pertaining to the lecture and discussion in small groups. Class will conclude with students writing comments on the content of the lecture. Additionally, there may be three or four art-making activities. Students will be required to conduct research in an area of personal interest, visit two museum exhibitions, and submit two written reports.						
準備学習の内容	Students will prepare for each class by reading from the text and viewing art works on the class website. This will require at least 30-45 minutes.						
各回の授業内容	1 What is Modern Art? 2 Introduction to the textbook, online resources, and art vocabulary. 3-4 The 19th Century: Europe / Japan 5 Architecture / Art Nouveau 6* Birth of Photography 7-8 Impressionism 9-10 Post-Impressionism 11-12 Early Expressionism: Matisse 13-14 Abstraction: Picasso 15-16 Modernism Outside France 17 Modernist Architecture 18-19 Dada and Surrealism 20-21 Figural and Abstract Expressionism 22-24 Pop, Minimal and Conceptual Art 25 Neo-Expressionism 26 Post-Modernism: Diversity 27 Current Trends *【教職員間授業公開日：9/27（火）】						
評価方法	Attendance, Participation and Written Comments (30%), Research and Museum Reports #1 (30%), Research and Museum Reports #2 (40%)						
テキスト	Carol Strickland, Ph.D., *The Annotated Mona Lisa* (Andrews and McMeel)						
参考書	The Letters of Vincent Van Gogh The Museum of Modern Art Online Collection: www.moma.org The Orsay Museum: www.musee-orsay.fr/en/home.html						
その他特記事項	As mentioned above, students will be required to visit two exhibitions at museums.						

専門科目（異）

科目名	ビジュアル・レトリック			担当者名	K. Williams		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	Students will learn to evaluate various aspects of culture at a macro (wide level) and a micro (personal level) through the visual images presented in pictures and movies.						
授業の概要	We will look at pictures and movies. Each will present different parts of culture. Before each class students will read some of the book or a portion of the movies script. We will discuss interaction between people and cultural implications. We will look at pictures and watch a portion of the movie and students may then ask any questions they have.						
準備学習の内容	Students will need to look at and evaluate movies' visual communication. This will take about four hours a week.						
各回の授業内容	Pictures and Movie One 1 Introduction about culture at a group and personal level. The first movie will be watched. 2 We will finish watching the first movie and discuss the cultural aspects it represents. Students will write a paragraph or more about their personal views on these particular parts of culture. Students will be given a paper to fill out each week on the vocabulary they do not know. Quizzes will be given at random. 3-7 Basically the same as above along with a final discussion of the movie and culture presented. 8 A test about the cultural aspect in the movie we focused on, along with the macro and micro aspects presented. Movie Two 9-17 * Basically the same as above with a different movie. 18 A test about the cultural aspect in the movie we focused on, along with the macro and micro aspects presented. Movie Three 19-25 The same pattern as previously done with the final movie. 26 A review of the information presented during the semester. 27 Final test on the cultural aspects we have talked about. *【教職員間授業公開日：6/10（金）】						
評価方法	Attendance (10%), Participation (15%), Weekly Vocabulary Reports (15%), Quizzes (30%), Film Exam (30%)						
テキスト							
参考書							

専門科目（異，教）

科目名	比較・国際教育学			担当者名	杉村 美佳		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	本講義では，日本と諸外国の教育制度や教育問題，教育改革等について，歴史，経済，政治，文化等と関連付けて比較検討を行う。最終的には，国際的視野から日本と諸外国の教育問題の解決方法を探る能力の育成を目指す。						
授業の概要	前半では，比較・国際教育学の定義を理解した上で，先進国と途上国との教育の比較検討を行い，開発教育や国際教育協力のあり方を考察する。後半では，各自が関心のある国の教育についてプレゼンテーションを行う。						
準備学習の内容	後半で各自関心のある国の教育について調査し，プレゼンテーションの準備をしてくること。						
各回の授業内容	1　比較・国際教育学の歴史的展開と課題 2　現代世界と教育問題 3*　教育制度の国際比較 4　教育文化の国際比較 5　世界の自由教育 6　先進国における学校化社会と学歴 7　発展途上国における識字教育 8　先進国における国民統合と学校教育 9　発展途上国における国民統合と学校教育 10　開発と教育（1）―開発教育― 11　開発と教育（2）―国際教育協力― 12　開発と教育（3）―JICA による国際教育協力の実態― 13　日本の教育 14-16　アジアの教育 17-19　ヨーロッパの教育 20-21　中東の教育 22　アフリカの教育 23-24　アメリカの教育 25　カナダの教育 26　オセアニアの教育 27　まとめ *【教職員間授業公開日：9/16（金）】						
評価方法	出席および授業参加（30%），発表（30%），試験（40%）						
テキスト	プリントを配布する。						
参考書	豊田俊雄『発展途上国の教育と学校』（明石書店） 二宮皓編著『世界の学校』（学事出版）						
その他特記事項	JICA からゲストスピーカを招き，国際教育協力の実態について講義を行う。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	本講義では，諸外国の文化や歴史と教育とを関連づけて講義を行うため，特に日本語学習支援を行っている学生は，外国籍児童・生徒との関わりに必要な知識を得ることができる。				

専門科目（異，言）

科目名	言語とリテラシー教育			担当者名	M. Andrade		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	By observing and analyzing videos of actual classes, students will gain an understanding of language arts instruction as practiced in the USA.						
授業の概要	The course introduces the principles of reading and writing instruction and then analyzes videos of classroom teaching to understand how these principles are applied in kindergarten though high school in the USA.						
準備学習の内容	Weekly homework: An essay and about one hour of video watching.						
各回の授業内容	1 Introduction (4/15 F) 2 Teaching reading and writing in grades K-2 (4/19 Tu) 3 cont'd (4/22 F) 4 cont'd (4/26 Tu) 5 cont'd (4/29 F) 6 cont'd (5/6 F) 7 cont'd (5/10 Tu) 8 cont'd (5/13 F) 9 Teaching reading and writing in grades 3-5 (5/17 Tu) 10 cont'd (5/20 F) 11 cont'd (5/24 Tu) 12 cont'd (5/27 F) 13 cont'd (5/31 Tu) 14 cont'd (6/3 F) 15* cont'd (6/7 Tu) 16 Teaching reading and writing in grades 6-8 (6/10 F) 17 cont'd (6/14 Tu) 18 cont'd (6/17 F) 19 cont'd (6/21 Tu) 20 cont'd (6/24 F) 21 cont'd (6/28 Tu) 22 Teaching reading and writing in grades 9-12 (7/1 F) 23 cont'd (7/5 Tu) 24 cont'd (7/8 F) 25 cont'd (7/12 Tu) 26 cont'd (7/15 F) 27 Review (7/19 Tu) *【教職員間授業公開日： 6/7（火）】						
評価方法	Class participation and written homework (50%), Final examination (50%)						
テキスト	Annenberg Learner. Literature and Language Arts. http://www.learner.org.						
参考書	Elizabeth Pang, *Teaching Reading* (UNESCO: International Bureau of Education) Online.						
その他特記事項	Students should have high-level English listening ability. A total TOEIC score of 600 or more is highly recommended.						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	Students can use the knowledge gained in this course to improve their skills as language tutors of English or Japanese.				

専門科目（異）

科目名	比較政治制度論			担当者名	髙野 敏樹		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	現代政治システムの原型である近代立憲主義の諸原理を形成したイギリス，フランス，ドイツ，アメリカ等の政治，社会システムを理解し，同時に現代日本政治の構造と実際を批判的に分析する力と，それを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	現代政治のシステムと動態を理解するために，主権，統治権力，民主政の意義，人権と政治の関わり，政治と文化・国民性等の諸要素を比較政治的手法で取扱います。 to 政治状況を比較的，歴史的手法で分析します。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために，各回 2 時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	1　比較の基準としての「近代立憲主義」の諸原理 2　イギリス―その「漸進的改革」と「連続性」 3　イギリスの政治機構①―王権と国民主権 4　イギリスの政治構造②―議会制民主主義，二院制と議院内閣制 5　イギリスの政治機構③―二大政党制 6　現代イギリスと EU①―遅れてきたイギリスと EU 7　現代イギリスと EU②―EU の優位によるイギリス法と政治伝統の変容 8*　フランス―革命と「未完の革命」 9　フランス政治における「政治の振り子」 10　フランスの憲法と政治構造①―半代表制，国民投票 11　フランスの憲法と政治構造②―大統領内閣制の知恵，官僚制 12　現代フランスと EU（EU の政治的リーダーとしてのフランス） 13　ドイツ―その「後進性」と「先進性」 14　ドイツ―遅れた国家統一，上からの近代化，プロイセンの優越と中央集権 15　ドイツの憲法と政治構造①―ワイマールの光と影，民主化の徹底と崩壊 16　ドイツの憲法と政治構造②―戦後ドイツの「たたかう民主主義」 17　現代ドイツと EU（再統一，EU の経済的リーダーとしてのドイツ） 18　アメリカ合衆国―成立の理念と国家構造（自由と平等，自然権，社会契約） 19　アメリカの憲法と政治構造①―「連邦制」と「権力分立」 20　アメリカの憲法と政治構造②―大統領制と行政府違憲立法審査権の役割） 21　アメリカの憲法と政治構造③―二大政党制と政治 22　アメリカの憲法と政治構造④―アメリカの外交政策の変遷 23　アメリカの憲法と政治構造⑤―最高裁と違憲立法審査権の機能 24　社会主義諸国の過去と現在―旧ソビエト圏，中国 25　市場原理に立脚した社会主義体制 26　国際政治の制度と現状―国連の意義と課題 27　国際政治の制度と現状―global governance の新たな展開とその課題 *【教職員間授業公開日：10/10（月）】						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について，試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。						
参考書	河合秀和著『比較政治・入門』（有斐閣） 加藤秀治郎他『政治学の基礎』（一芸社）						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに，講義中に適切なノートを作成することが大切です。						

専門科目（文）

科目名	演劇研究			担当者名	飯田 純也		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	コミュニケーションと言えば，言語表現能力を連想するだろう。演劇は言語表現も身体表現の一部に過ぎないことを再確認させてくれる。学生は哲学，倫理学，心理学の基盤にある身体論を実践的に学び，学問を総合的に見直す機会を得る。						
授業の概要	古代演劇と近代演劇，悲劇と喜劇をソフォクレスとシェイクスピアを通して探求する。授業で取り上げた作品を実際に上演してもらい，評価する。						
準備学習の内容	授業で取り上げる作品を事前に読み，人物の心理に斬り込んでもらう。また，人物を演じる役者及び演出家の眼で作品を再構築する上で，演出家 Peter Brook の *The Empty Space* を並行して読んでもらう。						
各回の授業内容	1 授業紹介 2 演劇論 古代ギリシャ悲劇 3-4 Sophocles, *Oedipus Tyrannus* 5-6* Sophocles, *Antigone* 古代ギリシャ喜劇 7-8 Aristophanes, *Lysistrata* 9 復習 古代ローマ悲劇 10-11 Seneca, *Oedipus* 近代悲劇 12-13 Shakespeare, *Macbeth* 14-15 Shakespeare, *King Lear* 16-17 Shakespeare, *Hamlet* 近代喜劇 18-19 Shakespeare, *Twelfth Night* 20-21 Shakespeare, *A Midsummer Night's Dream* 22-23 Shakespeare, *Much Ado About Nothing* 24-27 学期末公演の準備 授業内容の変更あり。 *【教職員間授業公開日：4/28（木）】						
評価方法	出席を前提とした上で，評価はリアクションペーパーが（10%），レポートが（90%），あるいは学期末公演がある場合は，レポートが（30%），学期末公演が（60%）とする。						
テキスト	毎回プリントを配布する。						
参考書	Peter Brook. *The Empty Space* (Penguin Books)						

専門科目（文）

科目名	アメリカ文学史			担当者名	永野 良博		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	アメリカ文学史の入門書を読み，様々な文学作品からの抜粋を英文で読んで，英文理解力を伸ばすと同時に，異なる作家たちの感性，価値観，思想，文体について知識を広げてゆく。またアメリカにおける歴史，地域性，宗教，人種，ジェンダー等の文化的主題についても広い知識を得る。						
授業の概要	毎回の授業で 2－3 人の作家について背景的な理解を得て，さらに彼らの書いた作品の抜粋を英文で読む。抜粋された英文は長くはないが，各作品における中心的な主題を扱った文章であり，その理解を出発点として，作品全体の内容について講義内容を広げて行く。						
準備学習の内容	毎回の授業で，アメリカ史や作家の紹介に関する文章，作品からの英文の抜粋を読んでくることが求められる。その際，2 時間程の予習が必要である。また定期的に小テストを行うので，その際には 3－4 時間の準備時間が必要である。						
各回の授業内容	1-4　植民地時代の文学（1607－1800 年）。 ピューリタン達が，信仰の自由を求めて旧世界ヨーロッパからアメリカへと渡り，そこで造り上げた共同体で書いた主に宗教的な作品を扱う。 5-8　アメリカ文学の独立期（1800－1830 年）。イギリスからの政治的独立以後の作品を扱う。当時のフロンティア（辺境）を舞台とした作品や，ゴシック小説，ロマン主義的な自然詩が中心となる。 9-12　アメリカ文学の開花（1830－1865 年）。アメリカン・ルネッサンスと呼ばれる，多くの優れた作家が輩出した時代を検証してゆく。アメリカの学問的・文化的独立，森での生活における自然と人間の本質の探究，世界が人間に対して持つ悪意の問題を扱った作品等を読む。 13-16*　リアリズムと自然主義の文学（1865－1917 年）。フロンティアが消滅し始め，都市化が進んだ時代の文学を読む。文明とフロンティア，奴隷制，ビジネスの成功による出世，南北戦争，女性の自立への目覚め，フロンティアでの女性の生活を扱った作品等を読む。 17-20　アメリカ文学の成熟（1917－1940 年）。第一次世界大戦後の繁栄の 20 年代，それに続く大恐慌の時代の作品を読む。経済的繁栄とアメリカの夢，戦争への幻滅が生み出した失われた世代，南部の神話的過去，不況の時代の悲劇の問題を扱った作品，さらにモダニズムの詩等を読む。 21-27　第二次大戦後の文学（1940－）。第二次世界大戦，冷戦期のアメリカ，実存主義的主題，公民権運動を扱った作品等を読み，最終的にはポストモダニズムと呼ばれる実験的な作品群に到達したい。 *【教職員間授業公開日：11/14（月）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（10%），テスト（80%）						
テキスト	板橋好枝，高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房）						
参考書	別府恵子，渡辺和子編著『新版アメリカ文学史—コロニアルからポストコロニアルまで』（ミネルヴァ書房）						

専門科目（文）

科目名	翻訳演習			担当者名	永野 良博		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	現代英米小説からの抜粋を読み，英文の和訳・翻訳の技術を高めてゆく。学期前半では単語や構文理解等のレベルから学習し始めて和訳の基礎を固め，その後は少しずつ日本語らしい文章で翻訳を行うための努力をする。また多くの文学作品に触れ，文学への理解を深めることが出来るようにする。						
授業の概要	様々な文体で書かれた英語の小説を読み，それに相応しい文章で日本語訳してゆく。哲学的な瞑想，戦争の記述，口語的な文章，心理描写等多様な文章を検討してゆく。毎回の授業で，個々の学生が作る訳文，教員の訳文，翻訳家の訳文を比較，検討する。						
準備学習の内容	毎回の授業でより良い和訳・翻訳に向けた作業を行うため，各自が事前に単語や文法事項を調べ，訳文を作ることが求められる。その際，2 時間程の予習が必要である。また毎回 2－3 人の学生が代表として訳文のハンドアウトを作成し，配布するので，その際には 3－4 時間の準備時間が必要である。						
各回の授業内容	1-8　Paul Auster の作品 *Ghosts* を読む。探偵小説の形式をとり，自己同一性や分身の問題を探求する物語。この作品の訳文作成のために重要な事柄を，例として幾つか以下に挙げる。（語順と時制に忠実であること/直訳と翻訳の違い/主語，動詞，補語の理解/使役動詞/分詞構文/関係代名詞/完了形/the＋比較級/so-that 構文/仮定法/強調構文/文章の背後にある考えを理解し訳すこと） 9-16　Tim O'Brien の作品 *The Things They Carried* を読む。戦争を物語ることにおける真実とは何かを追求する作品である。訳文作成のために扱う事柄は（moral の訳と戦争小説における道徳性の問題/一般的な人を指す you の訳し方/自由な訳と忠実な訳/比喩的な表現の理解と訳/戦争小説における surreal seemingness / 生と死，善と悪を表す表現/高潔，正義，礼節，和合等の価値観を表す表現） 17-27* 様々な小説から短い抜粋を読んでゆく。例えば，J.D. Salinger, *The Catcher in the Rye* とティーンエイジャーの英語/ Kurt Vonnegut, *Slaughterhouse-Five* と戦争の記述/ Raymond Carver, "Why Don't You Dance?"と家具や電化製品を指す英単語/ John Irving, *The Hotel New Hampshire* と生き生きとした俗語/ Margaret Atwood, *The Handmaid's Tale* とスポーツ，ダンスの描写/ Kazuo Ishiguro, *The Remains of the Day* とイギリス貴族，召使の描写） *【教職員間授業公開日：6/16（木）】						
評価方法	出席（10%），授業参画（20%），テスト（70%）						
テキスト	上岡伸夫『現代英米小説で英語を学ぼう *Read and Translate*』（研究社）						
参考書	ポール・オースター『幽霊たち』（新潮文庫） ティム・オブライエン『本当の戦争の話をしよう』（文春文庫）						

専門科目（言）

科目名	社会言語学			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	本講を通し，学生は人が社会の中でどのように言葉を選択し，それを使用するかについて学ぶ。対象となる言語社会は自らの母語である日本語および様々な英語圏の国・地域で使用される英語が中心となるが，ヨーロッパやアジアにおける言語状況などについても概観する。学生は授業内で触れる言語使用に関する様々な概念や考え方，理論を学びながら，自らも日々の生活の中でどのように言葉を使い生活しているのかについて再発見，再認識をする。						
授業の概要	各単元の学習項目は言語選択やポライトネス理論といった社会言語学の中でも中核を成す内容を中心に構成される。授業は主に講義形式で進むが，授業開始直後に行う前回授業内容の復習セッションでは，理解度チェックも兼ねて学生に既習内容の説明を求める。						
準備学習の内容	・学生はテキストやプリントの指定箇所を読み，予習をして授業に臨むことが求められる。テキストは日本語であるが，プリントは英語で書かれているものも含まれるため，長いものであればしっかりと読んで理解するのに数時間を要する。 ・単元によっては言語学概論で学んだ内容が直接関係してくる箇所もあるため，言語学の復習も必要となる。						
各回の授業内容	1 Course overview 2 What is Linguistics? 言語学の全体像を概観 3 What is Sociolinguistics? 社会言語学という分野がどのように誕生したか 4 Multilingual society 様々な国・地域における多言語使用の状況を見る 5 Diglossia & Domain 人々が複数の言語の中からどのように言語選択をするか 6 Code-switching 1 コード・スイッチを Why と How の観点から分析 7* Code-switching 2 コード・スイッチを Why と How の観点から分析 8 Language death 1 消滅の危機に瀕している言語を取り上げる 9 Pidgin & Creole 1 ピジン語・クレオール語とはどのような言語か 10 Pidgin & Creole 2 ピジン語・クレオール語とはどのような言語か 11 World Englishes 世界に存在する様々な英語のバリエーションを見る 12 Regional variation 地域方言―地域差による言語使用 13 Social variation 1 社会方言―社会階級による言語使用 14 Review of the first half 15 Mid-term test 16 Social variation 2 社会方言―民族グループ（米黒人）による言語使用 17 Social variation 3 社会方言―性差・年代差による言語使用 18 Audience design 言語使用上のスタイルの変化 19 Speech accommodation 言語使用上のスタイルの変化 20 Politeness 1 ポライトネス研究を概観する 21 Politeness 2 Brown & Levinson のポライトネス理論を取り上げる 22 Sexist language 性差別的言語使用を英語と日本語の例から解説 23 Cross-cultural communication 1 異文化間コミュニケーション 24 Cross-cultural communication 2 異文化間コミュニケーション 25 Pragmatics 1 語用論―意味論との違い，Deixis 直示 26 Pragmatics 2 語用論―会話の含意，協調の原理，発話行為論 27 Course review *【教職員間授業公開日：10/6（木）】						
評価方法	中間・期末テスト（70%），Summary Report（20%），出席・授業参加度・提出物（10%）						
テキスト	東照二『社会言語学入門』（研究社出版）						
参考書	飯野公一，恩村由香子，杉田洋，森吉直子『新世代の言語学：社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版）						
その他特記事項	本講の履修には「言語学概論」の単位が取得済みか，あるいは同時に履修していくことが望ましい。未修者は履修登録前に担当教員と話をしなければならない。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	様々なサービスラーニング活動を通し学生たちが経験したこと・気づいたことを本講の学習内容（例．コードスイッチング，アコモデーション，異文化コミュニケーションなど）と関連付けてグループ・ワークの際などに共有する。				

専門科目（言，教）

科目名	音声学			担当者名	高橋 絹子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	この授業では，主に英語の音声に関する理論や知識を習得することを目的とする。さらに，習得したことを実際の英語の発音に反映できるようにする。また音声学を通じて，言語やコミュニケーションに関する興味や関心の幅を広げる。						
授業の概要	音声学と音韻論の基礎的な理論を説明しながら，言語音声の重要性を学ぶ。授業は，講義形式を主体として進めるが DVD やカセットなどの視聴覚教材も取り入れ，実践的訓練も行なう。						
準備学習の内容	授業中の理解を深めるためには，次の授業のテキストを予習し，簡単なメモを作成することが望ましい。発音の実践に関しては，指定された教材に合わせて自宅で各自，毎日5～10 分程度の訓練を行うと効果的である。						
各回の授業内容	1　授業紹介 2　音声と音声学 3　音声器官Ⅰ 4　音声器官Ⅱ・音声記号 5　音声の発動 6　子音・子音の分類 7　子音の種類 8*　英語の子音と日本語の子音 9　二次調音・気息 10　母音・母音の分類 11　母音の種類 12　基本母音 13　英語の母音と日本語の母音 14　音節ともーらⅠ 15　音節ともーらⅡ 16　アクセント 17　アクセントの分類 18　英語のストレスと日本語のアクセントⅠ 19　英語のストレスと日本語のアクセントⅡ 20　イントネーションⅠ 21　イントネーションⅡ 22　リズムⅠ 23　リズムⅡ 24　声の高さ 25　音素と音韻論Ⅰ 26　音素と音韻論Ⅱ 27　質疑応答・総括 *【教職員間授業公開日：5/13（金）】						
評価方法	出席と授業参加（30%），期末試験（70%）						
テキスト	斉藤純男『日本語音声学入門（改訂版）』（三省堂）						
参考書	牧野武彦『日本人のための英語音声学レッスン』（大修館書店） Mike Davenport & S.J.Hannahs, *Introducing Phonetics & Phonology* (Arnold)						

専門科目（言，教）

科目名	日本語学			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	日本語を一つの言語として捉える目を養う。将来，言語学，国語学，英語教育や日本語教育などの言語関連の分野に進みたい人に最低限必要な日本語に関する基礎知識を重点的に学べる。						
授業の概要	日本語の音声・音韻論，形態論，統語論の基礎を学ぶ。「言語学概論」と共通する内容を，日本語の構造を例に学ぶ。						
準備学習の内容	その日にやる箇所を 1 時間程度予習してくることが前提。						
各回の授業内容	1　言語学の一分野としての日本語学 2　音声・音韻 1 3　音声・音韻 2 4　音声・音韻 3 5　小テスト 1 6　形態論 1 7　形態論 2 8　形態論 3 9　格 10　文の構造と文法カテゴリー 11　主題と主語 12　復習 13　小テスト 2 14　ボイス 15*　受身 1 16　受身 2 17　やりもらい 1 18　やりもらい 2 19　小テスト 3 20　使役 21　敬語 1 22　敬語 2 23　ら抜きことば 24　バリエーション 25　「は」と「が」 26　小テスト 4 27　まとめ *【教職員間授業公開日：6/6（月）】						
評価方法	出席（20%），小テスト（30%），期末テスト（50%）						
テキスト	庵功雄『新しい日本語学入門―ことばのしくみを考える』（スリーエーネットワーク）						
参考書	庵功雄他『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	サービスラーニングで日本語支援（カレッジフレンド等）に参加する学生にとって，当科目は日本語の構造を学べる基礎的な科目である。				

専門科目（言）

科目名	語用論			担当者名	近藤 佐智子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	私たちが実際に会話を行う際の相互理解のプロセスについて理解を深める。また異文化間語用論の知識を得ることによって英語でのコミュニケーション能力を高めることができる。最終的には映画などのせりふなどを使用し語用論的な分析を行うことができるようになる。						
授業の概要	まず会話の仕組みに関する語用論の理論を概観した上で，日本人が英語で「断り」や「依頼」などの発話行為をする場合，どのような誤解が起こりうるのか，異文化間コミュニケーションや外国語の学習という視点から考察する。授業は講義と練習問題によって進め，最後に語用論的見方を通して実際に会話を分析し，小規模な研究プロジェクトを行う。						
準備学習の内容	毎回の授業の前に予習としてテキストの指定の箇所を読んでおき，練習問題に取り組む（各 1 時間程度）。学期の最後に各自が分析する会話（映画など）を選び，分析した結果をレポートにまとめ口頭発表をする。						
各回の授業内容	1　語用論とは 2　コミュニケーション能力とは 3　発話行為 4　発話行為 5　発話行為 6　発話行為 7　会話による含意 8　会話による含意 9　会話による含意 10　会話による含意 11　ポライトネス 12　ポライトネス 13　ポライトネス 14　異文化間コミュニケーションと語用論 15　異文化間コミュニケーションと語用論 16　Compliments and Responses to Compliments（誉め言葉と応答） 17　Requests（依頼） 18　Refusals（断り） 19　Complaints（不満表明） 20*　Apologies（謝罪） 21　会話分析―会話の構造 22　会話分析―会話の構造 23　会話分析―会話の構造 24　総括―語用論的視点からの談話分析 25　総括―語用論的視点からの談話分析―発表 26　総括―語用論的視点からの談話分析―発表 27　総括―語用論的視点からの談話分析―発表 *【教職員間授業公開日：11/28（月）】						
評価方法	授業参画（20%），レポートと発表（30%），試験（50%）						
テキスト	田中典子（著）『プラグマティクス・ワークショップ―身のまわりの言葉を語用論的に見る』（春風社）						
参考書	岡本真一郎（編）『ことばのコミュニケーション』（ナカニシヤ出版） ヘレン・スペンサー＝オーティー（編著）『異文化理解の語用論』（研究社）						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	日本語教育および英語教育ボランティア経験者に「語用論的気づき」について話してもらい，授業で扱った項目との関連をクラスでディスカッションしてもらう。				

専門科目（言，文）

科目名	英語史			担当者名	平野 幸治		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	現象としての英語と英語史の基本的な知識が身に付く。同時にインド・ヨーロッパ語族よりゲルマン語を経て，古英語（OE），中英語（ME）にいたる経緯を概観し，近代英語（Mod E）へと成立していく過程が理解できる。						
授業の概要	授業の目標のほかに，特に近代英語では辞書の成立と英文法の形成と変遷に触れ，英語の歴史的側面に焦点を当てることで，現代英語の現象面では理解できない問題の解明に繋がる事項を講義する。併せて英単語の語源についても触れる。テキストを中心に文学作品や歴史資料及び BBC のビデオ等を用いて講義する。						
準備学習の内容	授業ごとに毎回 Youtube で BBC のビデオの視聴やテキストの要約等学生によって個人差はあるが約 1 時間半から 2 時間を要する事前準備を期待する。						
各回の授業内容	1　philology と linguistics 2　言語学とアーリア人 3　ケルト人（the Celts）について 4　アングロ・サクソン人（the Anglo-Saxos）と英語の形成 5*　アングロ・サクソン人（the Anglo-Saxos）と英語の形成 6　ヴァイキングの侵入 7　『ベオウルフ（*Beowulf*）』の成立 8　ノルマン人の侵入 9　ノルマン人の侵入 10　大母音推移（Great Vowel Shift）について 11　『カンタベリー物語』（Chaucer's *Prologue to the Canterbury Tales*）について 12　『カンタベリー物語』（Chaucer's *Prologue to the Canterbury Tales*）について 13　テスト 14　キャクストン（William Caxton）と正字法（orthography） 15　エイヴォンの詩人シェイクスピア（William Shakespeare, the Bard of Avon） 16　エイヴォンの詩人シェイクスピア 17　エイヴォンの詩人シェイクスピア 18　欽定訳聖書（The Authorized Version） 19　宗教改革以前の英国 20　ジョンソン博士の辞書（Dr Samuel Johnson's Dictionary）について 21　アメリカ英語（Americanism）について 22　アメリカ英語（Americanism）について 23-24　ウェブスターの辞書（Noah Webster's Dictionary）について 25　English languages: Pidgin English, Creole, Cockney 26　English languages: Pidgin English, Creole, Cockney 27　英語の現在 *【教職員間授業公開日：9/23（金）】						
評価方法	リアクションペーパー（30%），テスト（70%）						
テキスト	寺澤盾著『英語の歴史』（中公新書） 本名信行著『世界の英語を歩く』（集英社新書）						
参考書	R.McCrum, W.Cran, R.MacNeil, *The Story of English* (Macmillan) A.C.Baugh & T.Cable, *A History of the English Language* (RKP)						

専門科目（言，教）

科目名	バイリンガル教育			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	授業を受講することで，自分の英語力の弱点や英語学習の方法がわかるようになる。また，コミュニティフレンドなどで日本語支援を行っている学生は，学習者の言語発達とその問題点が理解できるようになる。						
授業の概要	バイリンガル（2 言語話者）であるということはどういうことか，またいかにして人はバイリンガルになるのかを学び，どうすればバイリンガルを育てることができるのかを，日本語・英語のバイリンガリズムの観点から学ぶ。						
準備学習の内容	授業は，グループディスカッションを含む講義形式で行なうので，予習を前提に進める。各章終了ごとに小テストを行う。毎回 1 時間程度の予習が望ましい。						
各回の授業内容	1　第 1 章　バイリンガルとは 2　第 1 章　バイリンガルとは 3　第 2 章　子どもの母語の発達と年齢 4　第 2 章　子どもの母語の発達と年齢 5　第 3 章　バイリンガル教育の理論 6　第 3 章　バイリンガル教育の理論 7　第 3 章　バイリンガル教育の理論 8　第 3 章　バイリンガル教育の理論 9　第 3 章　バイリンガル教育の理論 10　第 4 章　家庭で育てるバイリンガル 11　第 4 章　家庭で育てるバイリンガル 12　第 4 章　家庭で育てるバイリンガル 13　第 4 章　家庭で育てるバイリンガル 14　第 5 章　イマージョン教育方式のバイリンガル教育 15　第 5 章　イマージョン教育方式のバイリンガル教育 16　第 5 章　イマージョン教育方式のバイリンガル教育 17　第 6 章　アメリカのバイリンガル教育 18　第 6 章　アメリカのバイリンガル教育 19　第 7 章　海外子女とバイリンガル教育 20　第 7 章　海外子女とバイリンガル教育 21　第 8 章　日系子女とバイリンガル教育 22　第 8 章　日系子女とバイリンガル教育 23　第 8 章　日系子女とバイリンガル教育 24*　第 9 章　バイリンガルと文化の習得 25　第 9 章　バイリンガルと文化の習得 26　第 10 章 バイリンガル教育への疑問 27　第 10 章 バイリンガル教育への疑問 *【教職員間授業公開日：12/12（月）】						
評価方法	出席（30%），小テスト（30%），期末テストレポート（40%）						
テキスト	中島和子 2001『バイリンガル教育の方法　増補改訂版』（アルク）						
参考書	なし						
その他特記事項	自分自身が多言語・多文化環境（国際結婚家庭，海外生活等）を持つ学生には特に履修を勧める。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	この授業を履修する学生は，サービスラーニングで英語教育活動や日本語支援活動を行なう際に，授業で学んだことがらを直接役立てることが可能である。				

専門科目（教）

科目名	初等教育			担当者名	杉村 美佳		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	本講義は，小学生期の子どもの発達の特徴について理解を深め，初等教育の現状や課題，授業実践の方法を考察することを目的とする。本講義を通して，学習者を主体とした授業の理論と実践の基礎を習得することができる。						
授業の概要	前半では，児童期の発達の段階と筋道を，主に発達教育学の視点から学ぶ。後半では，初等教育の歴史と現状，課題について探求する。授業実践について理解を深めるため小学校の授業を見学し，その上で指導案の作成と模擬授業を行う。						
準備学習の内容	テキスト『教育の段階』の「学童期」1～4 をあらかじめ読み，考察と質問をまとめてくること。						
各回の授業内容	1　本講義の目的と意義 2*　小学生の時代的変化 3　児童期の発達の諸側面 4　児童期における家族と友人関係 5　児童期における問題行動の意味 6-9　『教育の段階』を読む 10　小学校教師とは 11　初等教育の内容と教育課程 12　総合的な学習の時間の原理と方法 13　特別支援教育の現状と課題 14　小学校見学の準備 15　小学校見学 16　小学校見学のまとめ 17　指導案とは 18-19　指導案の作成 20　近代日本初等教育史（1） 21　近代日本初等教育史（2） 22　現代における授業改革 23　諸外国の初等教育（1） 24　諸外国の初等教育（2） 25　模擬授業（1） 26　模擬授業（2） 27　模擬授業（3） *【教職員間授業公開日：4/19（火）】						
評価方法	出席および授業参加（30%），レポート（30%），期末テスト（40%）						
テキスト	モーリス・ドベス（堀尾輝久・斉藤佐和訳）『教育の段階』（岩波書店） （テキストは絶版のため，必要なページを印刷して配布する。）						
参考書	近藤邦夫他編『児童期の課題と支援』（新曜社）						
その他特記事項	秦野市教育委員会からゲストスピーカーを招き，授業実践に関する講義を行う。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	本講義では，児童に学習支援を行う際に必要な児童期の発達と教育に関する知識を得ることができる。また，指導案の作成や模擬授業は，児童英語教育ボランティアなど，小学校で授業を行うボランティア活動の参考になる。				

専門科目（教）

科目名	児童心理学			担当者名	林 百合		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	児童期の発達，児童特有の心理，社会や家庭環境との関係などについての基本的知識やこころの問題について学び，児童だけでなく自分自身のこころへの視点，理解が深まります。						
授業の概要	基本的に講義形式をとりますが，講義テーマに対する皆さんのリアクションに応じて，ディスカッションや体験的ワークなどをとり入れ，内容をより実際的に深めていきます。						
準備学習の内容	テキストやプリントに目を通し，自分なりの考えや想いを用意してください。						
各回の授業内容	1　児童心理学を学ぶ意義（児童心理学とは） 2　児童期とは（定義，特徴，発達） 3　子どもをどうとらえるのか 4*　こころの発達段階各論（エリクソン，フロイト，マーラーなど） 5　いまどきの子どもと子どもをとりまく環境の変化 6　現代における子どものからだと運動（特徴） 7　ことばの取得と，認知的・社会的発達 8　知性（知能，思考，創造性と学力について） 9　認知のプロセスと思考，問題解決方略について 10　やる気―動機づけのメカニズムと学習への動機づけ，無気力について 11　自己概念とパーソナリティ（概説） 12　パーソナリティ形成とパーソナリティの測定方法 13　対人関係の発達（愛着形成，仲間関係の発達，ソーシャルサポート） 14　社会性―向社会的行動の発達と関連要因について 15　性―性同一性と性役割の発達，性同一性障害について 16　子どものこころ（心身の発達と深層心理―総括） 17　子どもの心理臨床（子どもの心理療法の特徴と各論） 18　子どもの心理臨床（子どもの心理療法の特徴と実際） 19　子どものこころを理解し支援するために，大切なこと 20　子どものこころの障害―不登校 21　子どものこころの障害―非行 22　子どものこころの障害―いじめ 23　児童虐待―概説，最近の特徴，対応 24　外傷後ストレス障害（PTSD）―概説，こころのケア 25　さまざまな発達障害―それぞれの基本的な特徴 26　さまざまな発達障害―専門的な発達支援について 27　子どものこころ（総まとめ） *【教職員間授業公開日：9/26（月）】						
評価方法	出席状況と受講態度（20%），小レポート（20%），テスト（20%），最終レポート（20%），リアクションペーパー（20%）による総合評価						
テキスト	桜井茂男，濱口佳和，向井隆代著『子どものこころ：児童心理学入門』（有斐閣アルマ）						
参考書							
その他特記事項	「心理学」を受講していることが望ましいです。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	特に，メンタルフレンドボランティアを行っている学生に，支援の実際，体験を通して気づいたこと，教育現場における工夫や問題点について発表してもらい，発達障害や子どもの心の支援のあり方について，ディスカッションを行う。				

専門科目（教，言）

科目名	第二言語習得			担当者名	T. Gould		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	We are all learning a second language, but what exactly is happening to us as we do it? In this course students will learn about and explore how the field of Second Language Acquisition (SLA) tries to answer this question. While investigating its history and the current state of affairs, students will also have a chance to use what they learn and see SLA in action. Students will learn how to do basic research by transcribing and analyzing some original data.						
授業の概要	This class will include lectures of about 40 minutes, which will often be followed by small group discussions about the material. We will also do some pair work and practice talking about readings from the textbook. Additionally, we will look at our own second language acquisition to see how it relates to what we are learning about from the textbook and through lectures.						
準備学習の内容	Preparation for this class involves reading in advance of the lecture. Additionally, students are required to transcribe SLA video tapes, which takes about 2 -3 hours per week.						
各回の授業内容	1 Course Introduction and Overview 2-3* The Nature of Learner Language: Variability and Developmental Patterns 4-5 Behaviourist vs Mentalist, Computational model of L2, Interlanguage 6-7 Social Apects of SLA, Acculturation, Social Identity 8-9 Individual Differences 10-11 Putting Language Knowledge to Use 12-13 The Lexicon 14-15 Discourse Aspects of Interlanguage 16-17 Interlanguage: Social Context and Linguistic Context 18-19 Bilingualism: Borrowing, Interference, Code-switching 20-21 SLA and Identity 22-23 The Critical Period Hypothesis, Access to Universal Grammar 24 SLA and Instruction 25-26 Project Reports 17 27 Conclusion: Multiple Perspectives on SLA, Complete Reports *【教職員間授業公開日：9/13（火）】						
評価方法	Attendance and class participation (15%), homework (15%), test (30%), two independent projects (each 20%).						
テキスト	R. Ellis, *Second Language Acquisition* (Oxford University Press)						
参考書							
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	Knowledge about in Second Language Acquisition can be helpful for students who participate in Service Learning activities. Understanding how people learn a second language can help you better understand some of the problems or troubles that learners have adjusting to new language environments.				

専門科目（教）

科目名	児童英語教材論			担当者名	狩野 晶子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1･2 年
授業の目標	児童英語教育を教材面から多角的に考察し，「教材がどのようなねらいや目的を持って作られているのか」「その理論的裏付けとは」「学習者と教師にとって使いやすい教材とは」「それぞれの教材をどう活用していけばよいのか」などを学び，考える。教材を活用して児童に英語を教える為の基礎的な知識と実践経験を身につける。						
授業の概要	児童英語の分野の様々な教材についてその背景にある理論やスキル，文化的背景などを学ぶ。多様な教材の比較，検証を行い，それぞれの教材についてねらいや特色，利点，弱点などを考察する。さらに個別の教材を取り上げ，実際に使用する場合の実践例などより有効な活用方法を学ぶ。						
準備学習の内容	テキストの予習復習，レポート作成，発表のための準備，など一日 30～40 分程度。						
各回の授業内容	1　児童英語教育について――概観 2　児童英語教育の意義と目的 3　児童英語教育を指導するために学ぶべきこと 4　コミュニケーション能力とは 5　コミュニケーションのための言語材料 6　教材研究――実際の教材を見てみよう 7*　教材研究――実際の教材と学んだことを照らし合わせる 8　教材とその指導法（1） 9　教材とその指導法（2） 10　教材とその指導法（3） 11　教材研究――教材とその指導法の検証（1） 12　教材研究――教材とその指導法の検証（2） 13　指導法とその理論的背景（1） 14　指導法とその理論的背景（2） 15　指導法とその理論的背景（3） 16　教材研究――教材とその指導法の検証（3） 17　教材研究――教材とその指導法の検証（4） 18　教材とその文化的背景 19　教材と発達・認知・教育心理などとの関連づけ 20　教材研究――教室における活用の観点から（1） 21　教材研究――教室における活用の観点から（2） 22　インターネットや多様なメディアを活用した教材 23　教材研究――実際の教材の活用例（1） 24　教材研究――実際の教材の活用例（2） 25　教材研究――実際の教材を自分ならどう使うか（1） 26　教材研究――実際の教材を自分ならどう使うか（2） 27　まとめ *【教職員間授業公開日：9/30（金）】						
評価方法	授業参加・話し合いへの貢献（20%），発表（30%），リアクションペーパー（20%），レポート（30%）						
テキスト	中山兼芳（編）『児童英語教育を学ぶ人のために』（世界思想社）						
参考書							
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	児童英語の分野の様々な教材についてその背景にある理論とスキルを考察し，それらの教材をどのように実際の指導に反映させてゆくか実践を通して学ぶ。この授業で得た知識と経験は学生が英語教育及び日本語教育ボランティアを行う際に大いに助けになるものである。				

専門科目（教）

科目名	児童英語教育演習			担当者名	T. Gould		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	2 年
授業の目標	In this class students will learn about teaching English to elementary school students in Japan. In addition to readings and independent research about our topic, you will learn the fundamental skills necessary to develop and plan a series of English lessons for elementary aged children. You will have a chance to use these lesson plans as you teach English to local elementary school students.						
授業の概要	Class will often include a short lecture followed by discussion. We will develop lesson plans and practice them with classmates.						
準備学習の内容	Preparation for this class will involve working in groups and sometimes individually to design and practice the lesson plans we will use when visiting schools. This happens during the 2nd Period service learning block.						
各回の授業内容	1 Children learning a foreign language 2* Taking a learning-centered perspective 3 Background (brief history of child development) 4 Piaget, Vygotsky 5 From learning to language learning 6 Advantages to starting young with foreign languages 7 The foreign language 8 Learning language through tasks and activities 9 The task as an environment for learning 10 Task demands 11 Task support 12 Balancing demands and support 13 The importance of language learning goals 14 Defining 'task' for young learner classrooms 15 Stages in a classroom task 16 Task-as-plan and task-in-action 17 Learning the spoken language 18 Discourse and discourse events 19 Meaning first 20 Analysis of a task-in-action 21 Discourse skills development in childhood 22 Vocabulary development in children's language learning 23-27 Projects and presentations *【教職員間授業公開日：4/18（月）】						
評価方法	Class participation and attendance (40%), participation and completion of class project (20%), homework (20%), final report and presentation (20%).						
テキスト	Handouts and resources will be provided.						
参考書	L. Cameron, *Teaching Languages to Young Learners* (Cambridge University Press)						
その他特記事項	This is a service learning class, so students will be required to participate in volunteer activites. These activities will support the content material of the class.						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	In this class we will be teaching English at local Elementary schools as a volunteer activity. The service learning component is thus the main focus of this class. In preparation for their volunteer visits, students will be taught methodology and have a chance to practice teaching here on the SJC Campus. A guiding theme during the class will focus on the value added to society by this type of service activity. Students will reflect on how service learning improves the lives of those who receive the service and also enlightens and enhances those who provide the volunteer service.					

専門科目（教）

科目名	日本語教育演習			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	2 年
授業の目標	1 年次秋より続けてきたサービスラーニングで，学習者の状況をよりよく理解し日本語支援の質を上げることができる。また，初等教育のカリキュラム等についても知識を得ることができる。						
授業の概要	日本で生活する外国につながる「年少者」の日本語及び教科支援の方法を学ぶ。日本語教育学概論では，成人に対する初級レベルの日本語の教え方を中心に学んだが，演習では「年少者」と「成人」の第二言語習得の違いと支援の具体的な方法について学び,						
準備学習の内容	事前に教科書を読んでくる。レッスンプランを作成するなど。1 時間程度						
各回の授業内容	1　年少者日本語教育とは 2　子どもの言語発達 1 3　子どもの言語発達 2 4　バイリンガル児の言語能力 5　バイリンガル児の言語能力 6　国際教室の役割 7*　在籍学級の役割 8　JSL カリキュラム 9　JSL カリキュラム 10　JSL カリキュラム 11-12　JSL カリキュラム 13-14　JSL カリキュラム 15-16　模擬授業 17-18　模擬授業 19-20　模擬授業 21-22　JSL カリキュラム 23-24　JSL カリキュラム 25-26　JSL カリキュラム 27　まとめ *【教職員間授業公開日：5/9（月）】						
評価方法	出席（30%），発表（20%），レポート（50%）						
テキスト	河原俊昭他『日本語ができないお友達を迎えて』（くろしお出版）						
参考書	編集委員会（編）『外国につながる子どもたちの物語』 『クラスメートは外国人―多文化共生 20 の物語』（明石書店）						
その他特記事項	授業外で，サービスラーニング時間枠（月木 2 限）に，小中学校で外国籍児童･生徒への日本語支援を行なう。2009 年度秋学期に日本語教授法履修済みであることが条件。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	この授業を履修する学生は，全員学校派遣等のサービスラーニングで日本語支援活動を行なっているため，授業で学んだことがらを日本語支援の場で直接役立てることができる。				

上智短期大学の必修英語

1. 目標 Goals

- 「他者のために，他者と共に」という本学の精神を持つ責任ある地球市民となるために必要な様々な問題について理解を深める
- 複眼的かつ分析的に物事を考える力をつける
- 他者の考えを理解し，自分の考えを効果的に表現する英語力をつける
- 自律した英語学習者となるための知識とスキルを身につける

2. 内容 Contents

◆英語Ⅰ　他者と共に生きる：人とのつながりと人生の意味を探究する

English I. Living with others: exploring relationships and life values

英語Ⅰでは自分自身，身近な他者との関係，人生設計などに関する内容を扱います。

◆英語Ⅱ　異文化との遭遇：他者を理解し尊重する

English Ⅱ. Crossing cultures: understanding and respecting others

英語Ⅱでは世界の様々な国の多様な文化について扱います。

◆英語Ⅲ　日本における社会問題：より良いコミュニティーを目指して

English Ⅲ. Social issues in Japan: toward a better community

英語Ⅲでは地域社会や日本全体にかかわる問題を扱います。それらの問題は必ずしも日本特有のものではないかもしれませんが，日本でどのように問題が顕在化し捉えられているかに焦点を当てます。

◆英語Ⅳ　日本と世界：国際社会で生きる

English Ⅳ. Japan and the world: living in an international community

英語Ⅳでは世界が直面している重要な問題について扱います。必ずしも全ての問題が日本と大きな関係があるとは限りませんが，世界の重要な問題について日本と日本人がどのような役割を果たすことができるのかについて考えます。

7．学則

１．上智短期大学学則

第１章　総則

（設立）

第１条　上智短期大学（以下「本学」という。）は，イエズス会の設立にかかり，その法的設置者は学校法人上智学院である。

（目的）

第２条　本学は，カトリシズムの精神にのっとり，深く専門の学芸を教授研究し，全人間形成につとめ，職業又は実際生活に必要な能力を養成し，もって有能な社会の形成者を育成することを目的とする。

２　英語科は，国際語である英語の高度な運用能力を身につけ，それを基盤として幅広い教養と柔軟かつ複眼的な判断力と思考力を持ち，異文化を理解し，多様化した現代社会において責任ある地球市民として活躍できる社会人基礎力を具えた人材を育成すると共に，自律した学習者を育て，高度な専門分野の基盤を築くことを目的とする。

第２章　学科，学生定員，修業年限等

（学科，及び学生定員）

第３条　本学に次の学科をおく。

英語科

第４条　本学の学生定員は，次のとおりとする。

学　科　名	入　学　定　員	総　定　員
英　語　科	250	500

（修業年限及び在学年限等）

第５条　本学の修業年限は，２年とする。

２　学生は，４年を超えて在学することはできない。ただし，休学期間は含まない。

第３章　学年，学期及び休業日

（学年）

第６条　本学の学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

（学期）

第７条　学期は，学年を分けて，春学期及び秋学期とし，それぞれ次の期間とする。

春学期　４月１日から９月30日まで

秋学期　10月１日から翌年３月31日まで

２　前項にかかわらず，秋学期に属する授業科目は夏期休業日終了の翌日から始める。

（休業日）

第８条　授業休業日は，次のとおりとする。

（１）土　曜　日

（２）日　曜　日

（３）国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

（４）創立記念日　11月１日

（５）ザビエル祭　12月３日

（６）春期休業日

（７）夏期休業日

（８）冬期休業日

２　前項第６号から第８号までに定める授業休業日の始期及び終期は，年度により別に定める。

３　学長は必要に応じ，第１項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

４　学長は必要に応じ，第１項各号に定める授業休業日を，授業日（補講日及び集中講義期間を含む）とすることができる。

第４章　入学，休学，退学等

（入学の時期）

第９条　本学の入学時期は，原則として学年のはじめとする。

（入学資格）
第10条　本学は，次の各号の一に該当するものにつき，選考の上入学を許可する。
（１）高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
（２）通常の課程による12年の学校教育を修了した者
（３）外国において学校教育における12年の課程を終了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者
（４）文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５）文部大臣の指定した者
（６）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者
（７）その他本学において，相当の年齢に達し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
２　入学の許可は，教授会の議を経て，学長が，これを決定する。
（入学の出願）
第11条　本学に入学しようとする者は，入学願書，出身高等学校の調査書又は検定試験合格証明書その他必要書類に，入学検定料を添えて提出しなければならない。
（入学手続）
第12条　入学を許可された者は，所定の様式による次の書類に入学納付金を添えて，所定の期日までに提出しなければならない。
（１）保証人連署の誓約書
（２）住民票記載事項証明書（外国人の場合は登録原票記載事項証明書）
（３）出身高等学校の卒業証明書
（４）その他必要書類
（保証人）
第13条　保証人は，日本国内に居住し，一家計を立てる成年者で，入学者の学費と一身上に関する一切の責任を負うことができる者で，原則として父母とする。
（編入転入，再入学）
第14条　本学に編転入学を希望する者があるときは，欠員のある場合に限り選考の上許可することがある。
第15条　編転入学を許可された者の入学の手続は，第12条及び第13条の規定に準じ，かつ，前学校において修得した単位修得証明書を提出しなければならない。
第16条　本学を中途退学し，再び入学しようとする者については，別に定める。
（休学）
第17条　病気その他のやむを得ない事由で休学しようとする者は，その事由を詳記した所定の様式による休学願を提出し，学長の許可を受けなければならない。病気のために休学する者は，医師の診断書を添えなければならない。
２　休学の期間は，１学期又は１学年を区分とし，１年を超えることができない。ただし，特別の事由がある場合は，引き続き更に１年まで延長することができる。
３　休学の期間は，通算して２年を超えることができない。
第18条　休学中における授業料は，これを減額する。その基準については，別に定める。
（復学）
第19条　許可された休学期間が満了した場合は，復学となる。ただし，病気によって休学の許可を受けた者は，医師の診断書を添えた所定の復学届を提出しなければならない。
２　休学期間中に休学の事由がやみ，復学しようとする者は，所定の様式による復学願を提出し，学長の許可を得て復学することができる。
（退学）
第20条　やむを得ない事由で退学しようとする者は，所定の様式による退学願を学生証とともに提出し，学長の許可を受けなければならない。
２　退学を願い出る者は，その時期までの授業料等を完納しなければならない。
第21条　連続する２か年（ただし，休学期間を除く。）において修得した単位数が，24単位に満たない者は，退学させる。
（除籍）
第22条　次の各号の一に該当する者は，教授会の議を経て学長が除籍する。
（１）第５条に定める在学年限を超えた者

（２）許可された休学の期間を超えて，なお修学できない者
（３）授業料等の納付を怠り，督促しても，なお納付しない者
（４）長期間にわたり行方不明の者

第５章　授業科目，履修方法等

（授業科目及び単位数）

第23条　授業科目は，英語科目，教養科目，基礎科目，専門科目とする。

２　その他自由科目を開設することもある。ただし，卒業要件単位には算入されない。

第24条　前条の科目は，学科の定めるところにより，必修科目と選択科目とにわける。

第25条　授業科目を履修する場合，その授業に出席し，かつ試験に合格した者には，その授業科目所定の単位を与える。

２　本学において開設する授業科目の単位数は，別表第１のとおりとする。

（単位の計算方法）

第26条　授業科目の単位数は，１単位履修に45時間の学修を要することを標準とし，次の基準によって授業時間に対応した単位数を計算する。

（１）講義及び演習については，15時間から30時間の授業をもって１単位とする。
（２）実験，実習及び実技については，30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

２　１年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。

（履修方法）

第27条　英語科目については，学科の定めるところにしたがい14単位以上を履修しなければならない。

第28条　教養科目については，学科の定めるところにしたがい16単位以上を履修しなければならない。

第29条　基礎科目と専門科目については，学科の定めるところにしたがい合わせて36単位以上を履修しなければならない。

第30条　削除

第31条　削除

第32条　履修しようとする科目は，毎学期所定の期間に登録しなければならない。

（試験）

第33条　試験は，定期試験及び臨時試験とし，定期試験は学期末に行う。

第34条　いずれの科目でも授業時数の３分の１以上欠席した者は，その科目の受験資格を失う。

第35条　授業料等未納者は，試験を受けることができない。

（追試験）

第36条　病気その他やむを得ない事由で，試験を受けることができなかった者は，別に定める手続により追試験料を納付の上，追試験を受けることができる。

（学習の評価）

第37条　授業科目の成績評価は，上位よりＡ（100～90点），Ｂ（89～80点），Ｃ（79～70点），Ｄ（69～60点），Ｆ（59点以下）の標語をもって表示し，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄを合格，Ｆを不合格とする。

２　前項にかかわらず履修中止科目をW，認定科目をＮと表示する。

３　第１項の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として，総合平均点（Grade Point Average に相当するもの。以下「GPA」という。）を用いる。

４　前項に定めるGPAは，成績評価のうち，Ａにつき4.0，Ｂにつき3.0，Ｃにつき2.0，Ｄにつき1.0，Ｆにつき0をそれぞれ評価点として与え，各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を，登録科目（W，Ｎで表示された科目を除く）の総単位数で除して算出する。

（再履修）

第38条　各年次に配分された必修科目につき不合格となった者は，翌年次において，これを再履修しなければならない。

（他の短期大学又は大学等における授業科目の履修等）

第39条　本学が教育上有益と認めるときは，在学中に他の短期大学又は大学（外国の短期大学又は大学を含む）において履修した授業科目について修得した単位を，15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができる。

２　本学が教育上有益と認めるときは，本学に入学前に他の短期大学又は大学（外国の短期大学又は大学を含む）において履修した授業科目について修得した単位を，15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができる。

３　前２項において，上智社会福祉専門学校において修得した単位を，本学において修得したものと認定

することができる。
４　他の短期大学及び大学並びに上智社会福祉専門学校での履修及び修得した単位の認定については別に定める。

第６章　卒業及び学位

（卒業の要件）
第40条　本学を卒業するためには，学生は２年以上在学し，第27条から第29条までに定めるところにしたがい66単位以上を修得しなければならない。
（卒業）
第41条　本学に２年以上在学し，卒業に必要な所定の単位を修得した者については，教授会の議を経て学長が卒業を認定する。
（学位）
第42条　前条の規定により卒業したものには，本学学位規程の定めるところにより，短期大学士の学位を授与する。

第７章　検定料，授業料，その他の費用

（授業料）
第43条　本学学生は，毎学年所定の納付金を所定の期日までに全納しなければならない。ただし，所定の手続によって分納することができる。
（検定料等の金額）
第44条　本学の検定料，入学金，授業料等の金額は，別表第２のとおりとする。
第45条　入学後２か年を超えて在学する者の授業料等は，その在学する学年の標準年次の者と同額とする。
（納付した授業料等）
第46条　既納の諸納付金は，返還しない。
（学資金）
第47条　本学は，学資金を給与又は貸与し，若しくは授業料の一部を免除することがある。
２　奨学制度に関する事項は，別に定める。

第８章　教職員組織

第48条　本学に学長をおく。
２　学長は，本学を統督する。
第49条　本学の学科に科長をおく。
２　科長は，学長を補佐し，当該学科の学務を処理する。
第50条　本学に教授，准教授，講師，助教，及びその他の職員をおく。
２　教職員に関する規定は，別にこれを定める。

第９章　教授会

第51条　本学の学科に教授会をおく。
第52条　教授会は，教授，准教授，専任講師，及び助教をもって組織する。
２　教授会は，次の各号に掲げる事項に関し審議する。
（１）教育研究及び授業に関する事項
（２）教育課程に関する事項
（３）学則その他の規定の制定，改廃に関する事項
（４）教員の採用，昇任等人事に関する事項
（５）学生の入学，退学，転学，休学，留学及び卒業に関する事項
（６）試験及び合否に関する事項
（７）学生の指導，賞罰に関する事項
（８）本学の行事に関する事項
（９）その他学長から諮問された事項
第53条　本章に定めるもののほか，教授会に関し，必要な事項は別に定める。

第10章　科目等履修生及び聴講生

第54条　本学は，本学に在学する者以外で，１科目又は数科目を履修する者（以下「科目等履修生」とい

う。）の受け入れを許可し，単位を与えることができる。
２　科目等履修生の受入許可及び単位の授与については，別に定める。
第55条　本学に在学する者以外で，本学の科目中１科目又は数科目の聴講を願い出る者があるときは，欠員があり，かつ，授業に支障がないと認められた場合に限り，選考の上これを許可することがある。
２　聴講生となる者は，聴講しようとする科目を履修するに足る学力を有しなければならない。

第11章　賞罰

（表彰）
第56条　本学学生にして人物及び学業成績優秀と認められた者には学長が表彰する。
（罰則）
第57条　本学学生にしてその本分にもとる行為があったと認められるときは，その軽重にしたがい譴責，停学又は退学処分とする。
第58条　次の各号のいずれかに該当する者は，退学させる。
（１）性行不良で改善の見込みがないと認められた者
（２）第22条の規定にかかわりなく学業成績不良又は身体虚弱で成業の見込みがないと認められた者
（３）正当な理由がなく出席状況の極めて悪い者
（４）教育，研究及びこれに附帯する機関等の１部又は全部につき，その業務遂行を妨害した者
（５）その他本学に在学させることが不適当と認められた者

第12章　附置施設及び附属機関

（諸機関の設置）
第59条　本学は，学生の個人及び集団の生活指導と課程外の教育とを重視し，そのための諸機関を設けることができる。
（図書館）
第60条　本学に図書館を設ける。
２　本学に設置する学科の規模に応じて，教育研究上必要な図書，学術雑誌，視聴覚資料等を，前項の図書館を中心に系統的に備え，学術情報の提供に努める。
３　図書館に関して必要な事項は別に定める。
（健康管理）
第61条　本学は，学生の健康管理のために，健康管理室を設ける。
第62条　本学学生は，学年毎に健康診断を受けなければならない。
（学生寮）
第63条　本学に学生寮を置く。

第13章　公開講座等

（公開講座等）
第64条　本学は，地域の文化向上，成人教育その他の研究のため公開講座及び講習会を開設することがある。

第14章　自己評価等

（自己評価等）
第65条　本学は，教育研究水準の向上を図り，第２条に掲げる目的及び社会的使命を達成するため，本学における教育研究活動の状況について，自己点検及び評価を行う。
２　前項の実施並びに方法については，別に定める。
（認証評価）
第66条　本学は，前条の措置に加え，学校教育法の定めるところにより，本学の教育研究等の総合的な状況について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第15章　ファカルティ・ディベロップメント

（ファカルティ・ディベロップメント）
第67条　本学は，教授法や授業運営などの改善や教育活動にかかる知識・技能・能力の獲得又は向上を組織的に支援するためにファカルティ・ディベロップメント活動を実施するものとする。
２　ファカルティ・ディベロップメント活動の実施体制並びに方法については，別に定める。

第16章　雑則

第68条　本学則実施にあたり，必要ある場合には，別に細則を定めることができる。

附則

本学則は，昭和48年４月１日から施行する。

（省略）

附則

本学則は，2011年（平成23年）４月１日から改正，施行する。

＜別表第１＞

１．英語科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
英語Ⅰ	2		
英語Ⅱ	2		
英語Ⅲ	2		
英語Ⅳ	2		
基礎英語スキルズ（生活の英語）		2	
基礎英語スキルズ（ライティング）		2	
基礎英語スキルズ（リーディング）		2	
基礎英語スキルズ（文法・語彙）		2	
標準英語スキルズ（生活の英語）		2	
標準英語スキルズ（旅行の英語）		2	
標準英語スキルズ（職場の英語）		2	
標準英語スキルズ（メディアの英語）		2	
標準英語スキルズ（文法・語彙）		2	
標準英語スキルズ（ライティング）		2	
標準英語スキルズ（リーディング）		2	
標準英語スキルズ（パブリックスピーキング）		2	
標準英語スキルズ（ディスカッション）		2	
標準英語スキルズ（アカデミックリスニング）		2	
標準英語スキルズ（TOEIC対策）		2	
上級英語スキルズ（職場の英語）		2	
上級英語スキルズ（ライティング）		2	
上級英語スキルズ（学術論文作法）		2	
上級英語スキルズ（多読速読）		2	
上級英語スキルズ（ディベート）		2	
上級英語スキルズ（編入対策）		2	

２．教養科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
人間学Ⅰ	2		
人間学Ⅱ	2		
歴史学			4
哲学			4
女性と哲学			4
宗教学			4
音楽			4
女性学			4

２．教養科目（続き）

社会学			4
日本国憲法			4
法学			4
教育学			4
政治学			4
経済学			4
社会福祉入門			4
マスメディア論			4
情報リテラシー演習			4
自然科学入門			4
数学			4
心理学			4
体育理論・実技　1			2
体育理論・実技　2			2
体育理論・実技　3			2

３．基礎科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
異文化理解コース基礎科目			
キリスト教文化入門			4
異文化間コミュニケーション			4
英米文学研究コース基礎科目			
英文学概論			4
言語研究コース基礎科目			
言語学概論			4
言語教育コース基礎科目			
児童英語教育概論			4
日本語教育概論			4
ドイツ語Ⅰ			2
ドイツ語Ⅱ			2
フランス語Ⅰ			2
フランス語Ⅱ			2
スペイン語Ⅰ			2
スペイン語Ⅱ			2
中国語Ⅰ			2
中国語Ⅱ			2
日本語表現法			4
キャリア・プランニング			4
留学準備			2

４．専門科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
基礎ゼミナール	2		
基礎ゼミナール（再）	2		
プレ・ゼミナール	2		
ゼミナール　Ⅰ	2		
ゼミナール　Ⅱ	2		

４．専門科目（続き）

異文化理解コース関連科目			
東洋研究Ａ			4
東洋研究Ｂ			4
西洋研究			4
日本文化			4
英米史			4
ヨーロッパ社会史			4
ヨーロッパ現代史			4
比較社会史			4
国際関係論			4
文化人類学			4
現代美術			4
ビジュアル・レトリック			4
比較・国際教育学			4
社会正義のグローバルリテラシー			4
言語とリテラシー教育			4
個人と人権			4
比較政治制度論			4
英米文学研究コース関連科目			
英語英米文学入門			4
アメリカ短編小説研究			4
英詩研究			4
演劇研究			4
小説研究			4
アメリカ文学史			4
映画と文学			4
翻訳演習			4
言語研究コース関連科目			
社会言語学			4
音声学			4
日本語学			4
語用論			4
英語史			4
通訳演習			4
言語教育コース関連科目			
バイリンガル教育			4
初等教育			4
児童心理学			4
第二言語習得			4
児童英語教材論			4
児童英語教育演習			4
日本語教育演習			4
インデペンデント・スタディ			2
海外短期語学講座			2

＜別表第２＞　　（単位：円）

	新入生	在学生	備　　考
検定料	35,000		
入学金	270,000	－	入学の際のみ
授業料	692,000	692,000	年額
オリエンテーション費	17,400	－	入学の際のみ
施設設備費	180,000	170,000	年額
実験実習費	8,800	8,800	年額
連絡通信費（消費税込）	2,650	2,650	年額
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	－	保険期間２年　（注1）
同窓会積立金	－	10,000	（注2）
英語力診断テスト受験料	5,455	2,465	年額　（注3）

注1　学生教育研究災害傷害保険料については，当初納入した金額に対応する保険期間を過ぎて在学する場合，１年毎に徴収する。保険期間１年間　800円。

注2　同窓会積立金については，２年次に徴収する。

注3　英語力診断テストは，TOEIC-IPを１年次生年２回，２年次生以降は年１回受験する。